

日本水泳連盟  
機関誌

# 水泳

第 161・2・3 号

昭和 40 年 12 月

オリンピック特集号

# 水



No. 161・2・3 "SUIEI"

Dec. 1965

NIPPON SUIEI RENMEI

(Amateur Swimming Federation of Japan)

第18回オリンピック

オリンピック東京大会水泳競技日程

(オリンピックプール：1965)

第 1 日 10月11日 (日)			第 5 日 10月15日 (木)		
09:30	1 女子	飛板飛込 予選	09:30	31 女子	高飛込 予選
11:50	2 男子	100m自由形 //	13:00	32 女子	400m個人メドレー //
13:20	3 女子	200m平泳 //	13:50	33 男子	400mメドレーリレー //
16:30	4 女子	飛板飛込 予選	17:00	34 女子	高飛込 決勝
19:45	5 男子	100m自由形 準決勝	18:35	35 女子	100mバタフライ 準決勝
20:15	6 男子	200m背泳 予選	19:20	36 水球	準決勝リーグ No. 8
			20:35	37 男子	400m自由形 決勝
			20:55	38 男子	200m平泳 //
			21:15	39 女子	400mリレー //
第 2 日 10月12日 (月)			第 6 日 10月16日 (金)		
10:00	7 女子	飛板飛込 決勝	10:00	40 男子	高飛込 予選
11:10	8 女子	100m自由形 予選	12:25	41 男子	200mバタフライ //
12:10	9 男子	400m個人メドレー //	13:15	42 女子	400mメドレーリレー //
17:30	10 男子	飛板飛込 予選	17:30	43 男子	1500m自由形 予選
19:40	11 男子	200m背泳 準決勝	19:35	44 女子	100mバタフライ 決勝
20:00	12 女子	100m自由形 //	19:55	45 男子	400mメドレートロー //
20:20	13 女子	200m平泳 決勝			
20:40	14 男子	100m自由形 //			
第 3 日 10月13日 (火)			第 7 日 10月17日 (土)		
09:30	15 男子	飛板飛込 予選	09:30	46 男子	高飛込 予選
11:40	16 男子	400mリレー //	11:55	47 女子	400m自由形 //
12:10	17 女子	100m背泳 //	12:55	48 男子	800mリレー //
16:00	18 男子	飛板飛込 予選	16:00	49 男子	高飛込 予選
19:10	19 男子	200m平泳 //	19:30	50 水球	決勝リーグ No. 2
20:00	20 女子	100m自由形 決勝	20:45	51 男子	200mバタフライ 準決勝
20:00	21 男子	200m背泳 //	21:05	52 男子	1500m自由形 決勝
			21:35	53 女子	400m個人メドレー //
第 4 日 10月14日 (水)			第 8 日 10月18日 (日)		
10:00	22 水球	準決勝リーグ No. 8	10:00	54 男子	高飛込 決勝
11:20	23 女子	100mバタフライ 予選	11:10	55 女子	400m自由形 //
12:10	24 男子	400m自由形 //	11:35	56 男子	200mバタフライ //
13:35	25 女子	400mリレー //	16:00	57 水球	決勝リーグ No. 4
14:05	26 男子	200m平泳 準決勝	17:40	58 女子	400mメドレーリレー 決勝
14:30	近代五種 (水泳)		18:05	59 男子	800mリレー //
18:30	27 男子	飛板飛込 決勝			
19:55	28 男子	400mリレー //			
20:20	29 女子	100m背泳 //			
20:40	30 男子	400m個人メドレー //			

水球競技日程

(東京都体育館屋内水泳場)

第 1 日 10月11日 (日)		第 5 日 10月15日 (木)	
10:00~14:30	予選リーグ No. 1・2・3・4	13:00~16:30	準決勝リーグ No. 4・5・6
16:30~21:00	// No. 5・6・7・8		
第 2 日 10月12日 (月)		第 6 日 10月16日 (金)	
10:00~14:30	予選リーグ No. 9・10・11・12	競技ナシ	
16:30~21:00	// No. 13・14・15・16		
第 3 日 10月13日 (火)		第 7 日 10月17日 (土)	
10:00~14:30	予選リーグ No. 17・18・19・20	13:00~16:30	決勝リーグ No. 1
16:30~21:00	// No. 21・22・23・24		順位決定リーグ No. 1・2
第 4 日 10月14日 (水)		第 8 日 10月18日 (日)	
13:00~16:30	準決勝リーグ No. 1・2・3	13:00~16:30	決勝リーグ No. 3
			順位決定リーグ No. 3・4

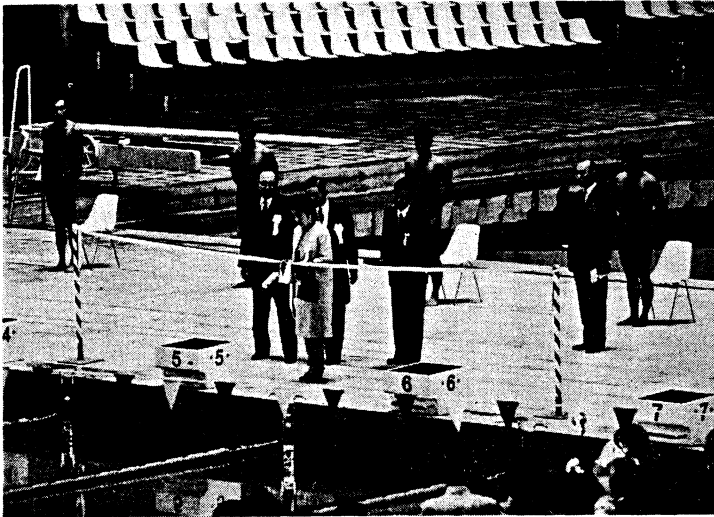
# 世界にその偉容を誇るオリンピックプール



空から見た全景



斬新な設計による釣橋式屋根



開場式にテープを切られる秩父宮妃殿下（10月5日）

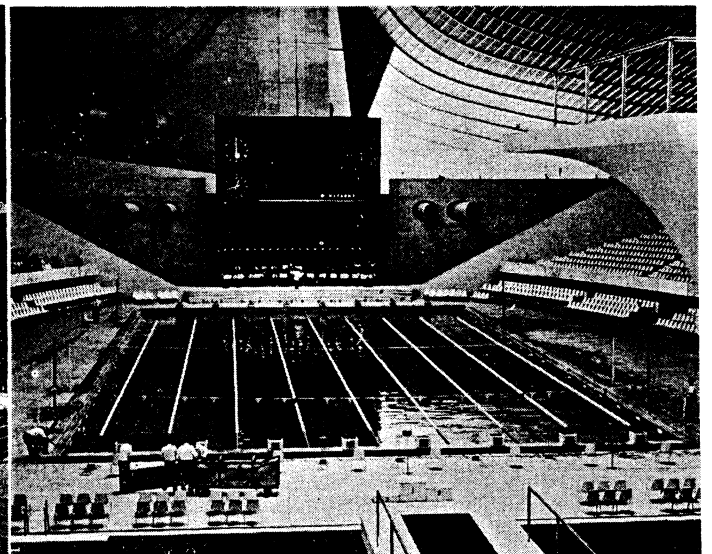
## 国立屋内競技場本館

設計 丹下 健三氏  
施工 清水建設株式会社  
総工費 約30億円（別館共）  
工期 昭和33年2月～39年9月

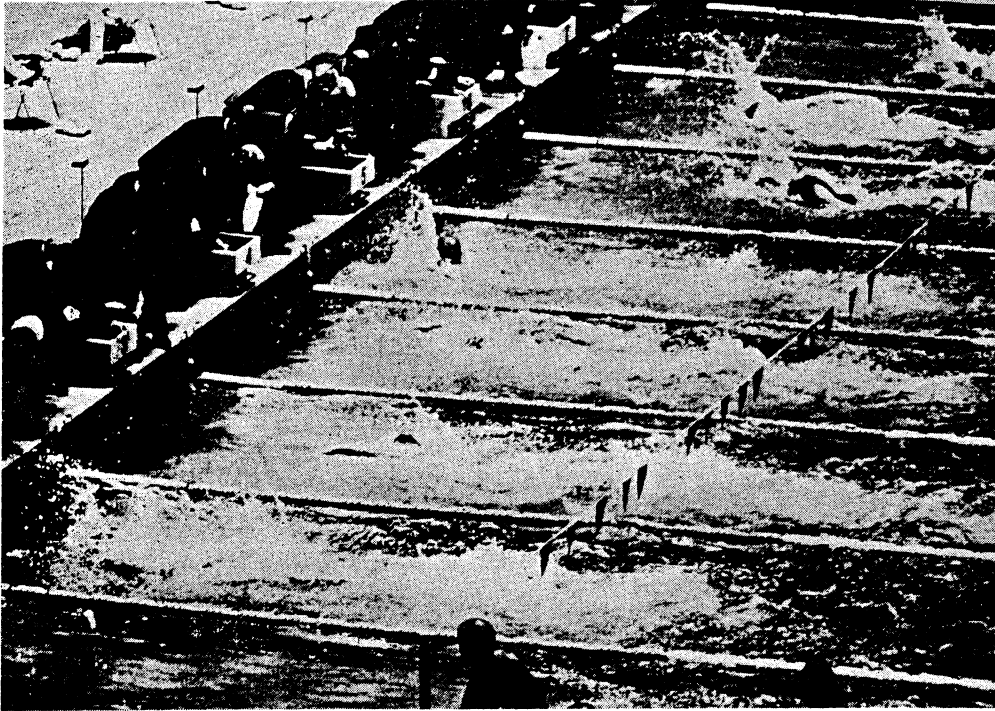
北側観覧席より見た内部（観覧席約1万）



飛込台側より見た競泳プールおよび電光掲示板



〔男子 100m 自由形〕



決勝のゴール、5コースは優勝したショルダー（米）、2コースが2位マクレガー（英）、3位は4コースのクライン（独）



100m自由形の表彰式

表彰台中央は優勝者ショルダー（米）、その左は2位マクレガー（英）とブランデーJIOC会長。



↑  
100m自由形 } 優勝者  
400m自由形 }

D. ショルダー（米）

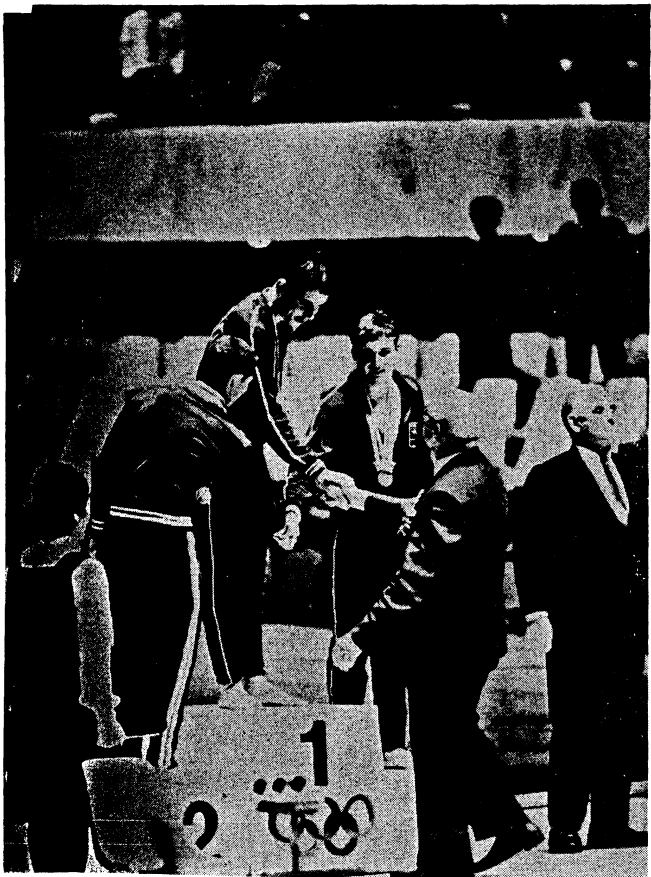
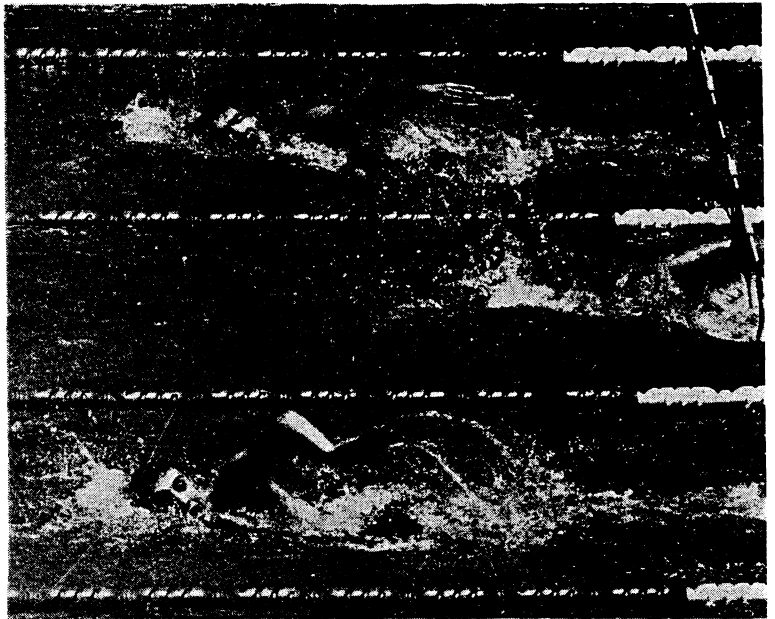


〔400m 自由形〕



決勝のゴール  
 優勝者はショランダー (米)  
 4コース  
 その手前の3コースは2位  
 のヴィーガント (ドイツ),  
 5コースは3位ウッド (豪)

400m自由形にオリンピック  
 3回連続入賞をねらう山中  
 選手の力泳。



〔1500m 自由形〕



1500m自由形優勝者 R. ウィンドル (豪)



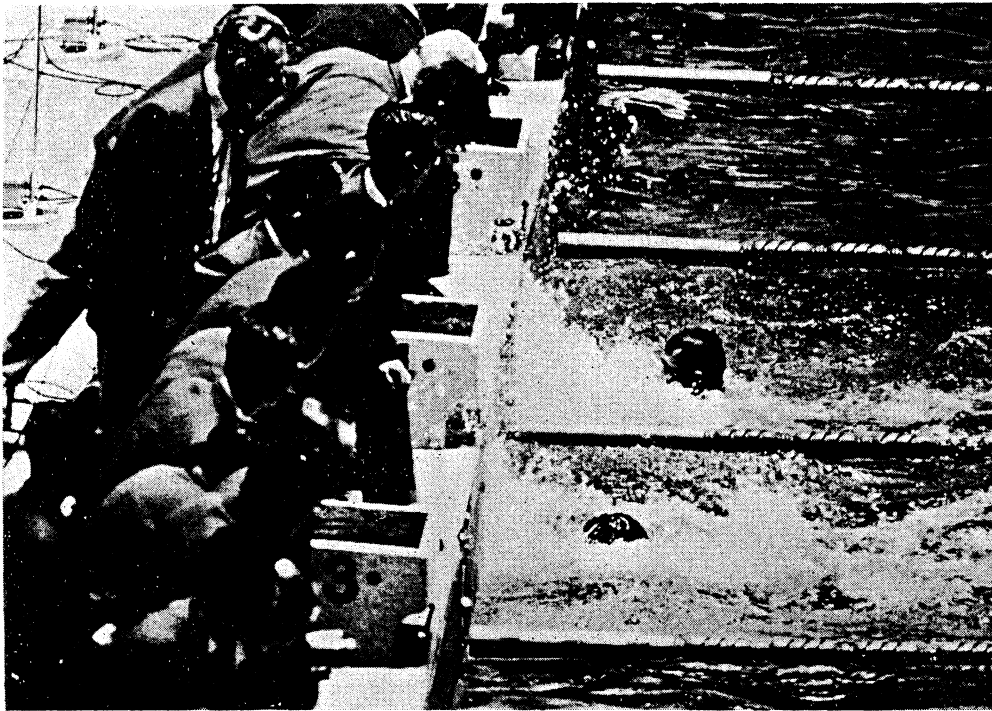
1500m自由形表彰式

- 中央 R.ウィンドル (豪)
- 2位 J.ネルソン (米)
- 3位 R.ウ ッ ド (豪)

200 BREAST FINAL				
1	OBRIEN	AUS	2.27.8	NW
2	PROKOPENKO	URS	2.28.2	
3	JASTREMSKI	USA	2.29.6	
4	TUTAKAEV	URS	2.31.0	
5	HENNINGER	GER	2.31.1	
6	TSURUMINE	JPN	2.33.6	
7	ANDERSON	USA	2.35.0	
8	KOSINSKY	URS	2.38.1	

〔200m 平 泳〕

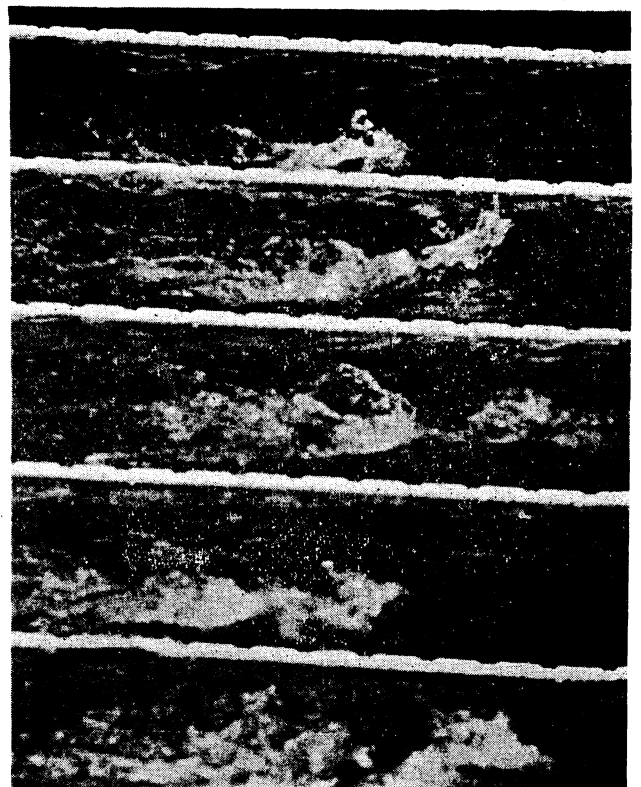
電光掲示板に発表された結果。



I. オブライエンはついにプロコペンコを抜いて優勝した、ゴールインの瞬間。

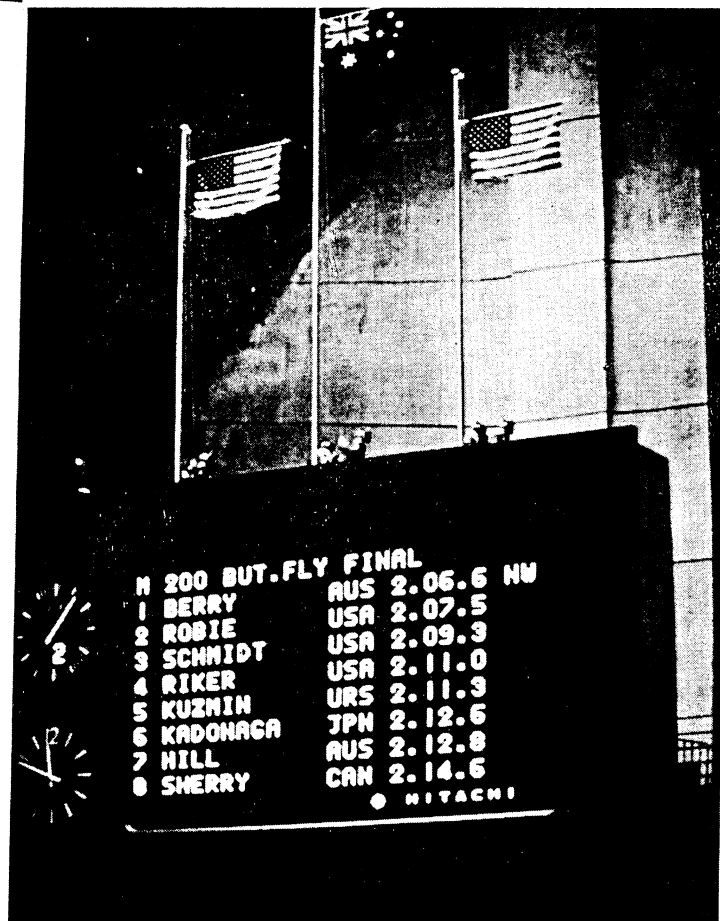


平泳ぎの表彰式 中央はオブライエン (豪), その左はプロコペンコ (ソ連), 右はジャストレムスキー (米)。



→ 途中のセリ合い  
向う側鶴峯選手。

[200m バタフライ]



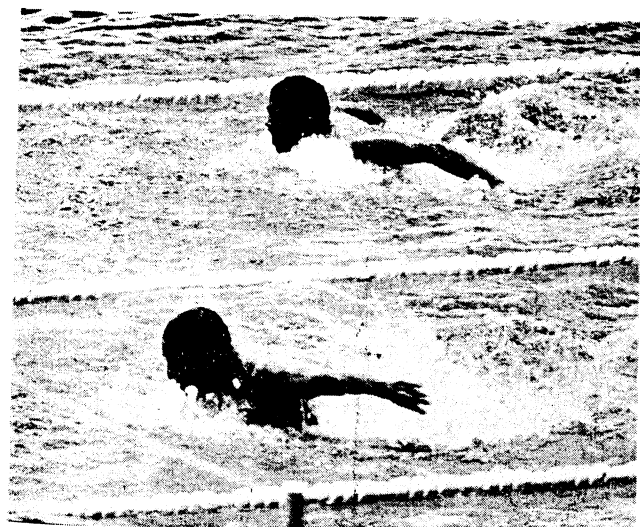
↑ 表 彰 式

- 1 位 K. ベリー (豪)
- 2 位 C. ロビー (米)
- 3 位 F. シュミット (米)



↖ ゴールイン直後の門永選手。

✓ 門永選手の健闘。



200m背泳決勝に力泳する福島選手。 →

[200m 背 泳]



〔200m 背 泳〕



		M 200 BACK FINL	
1	GRAEF	USA	2.10.3 NW
2	DILLEY	USA	2.10.5
3	BENNETT	USA	2.13.1
4	FUKUSHIMA	JPN	2.13.2
5	KUPPERS	GER	2.15.7
6	MAZANOV	URS	2.15.9
7	HUTTON	CAN	2.15.9
8	REYNOLDS	AUS	2.16.6

● HITACHI

← 3本の星条旗をあげた米背泳トリオ。  
1位グラーフ、2位ディリー、3位ベネット。

		M 400 IND. MEDLEY FINAL	
1	ROTH	USA	4.45.4 NW
2	SAARI	USA	4.47.1
3	HETZ	GER	4.51.0
4	ROBIE	USA	4.51.4
5	GILCHRIST	CAN	4.57.6
6	JISKOOT	NLD	5.01.9
7	KOSTOLACI	HUN	5.01.9
8	BUCK	AUS	5.03.0

● HITACHI

〔400m 個人メドレー〕

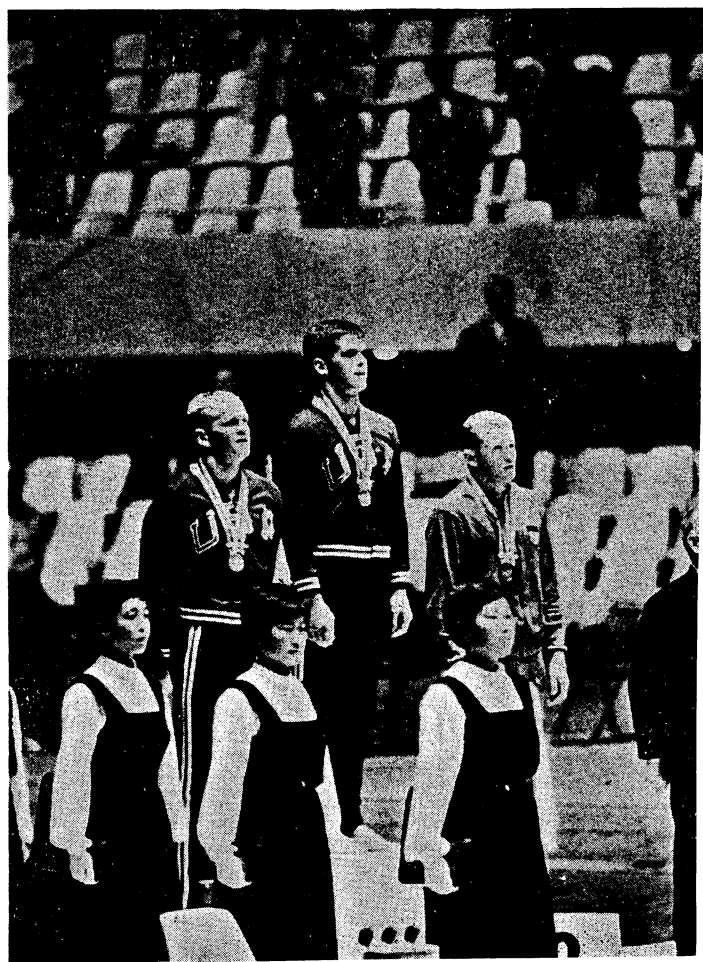
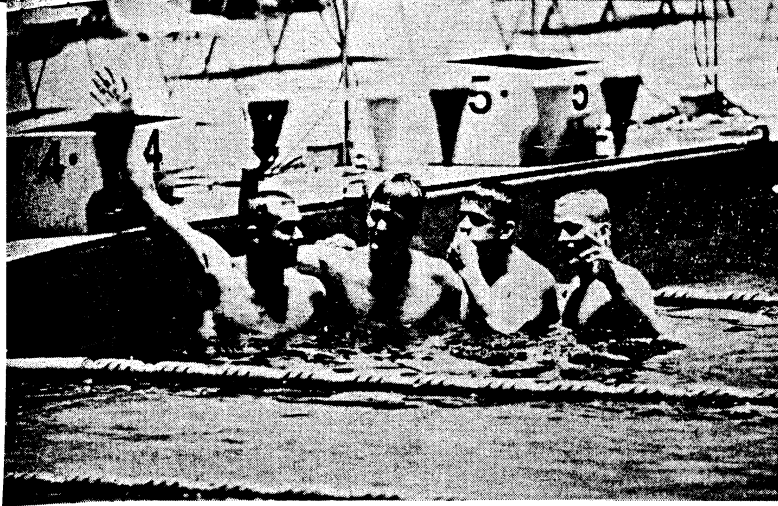


表 彰 式

- 1 位 R. ロ ス (米)  
2 位 R. サ ア リ (〃)  
3 位 G. ヘ ッ ツ (独)

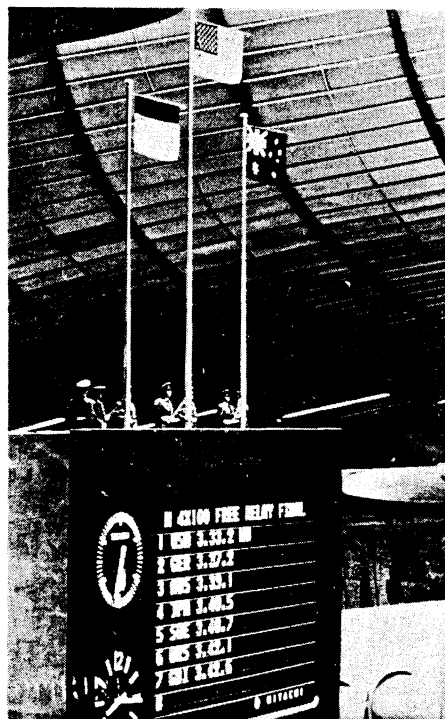






↗ 優勝の米国チーム

左からオースティン、クラーク、イルマン、ショランダー。



→  
メインポールに星条旗。

〔400m リレー〕

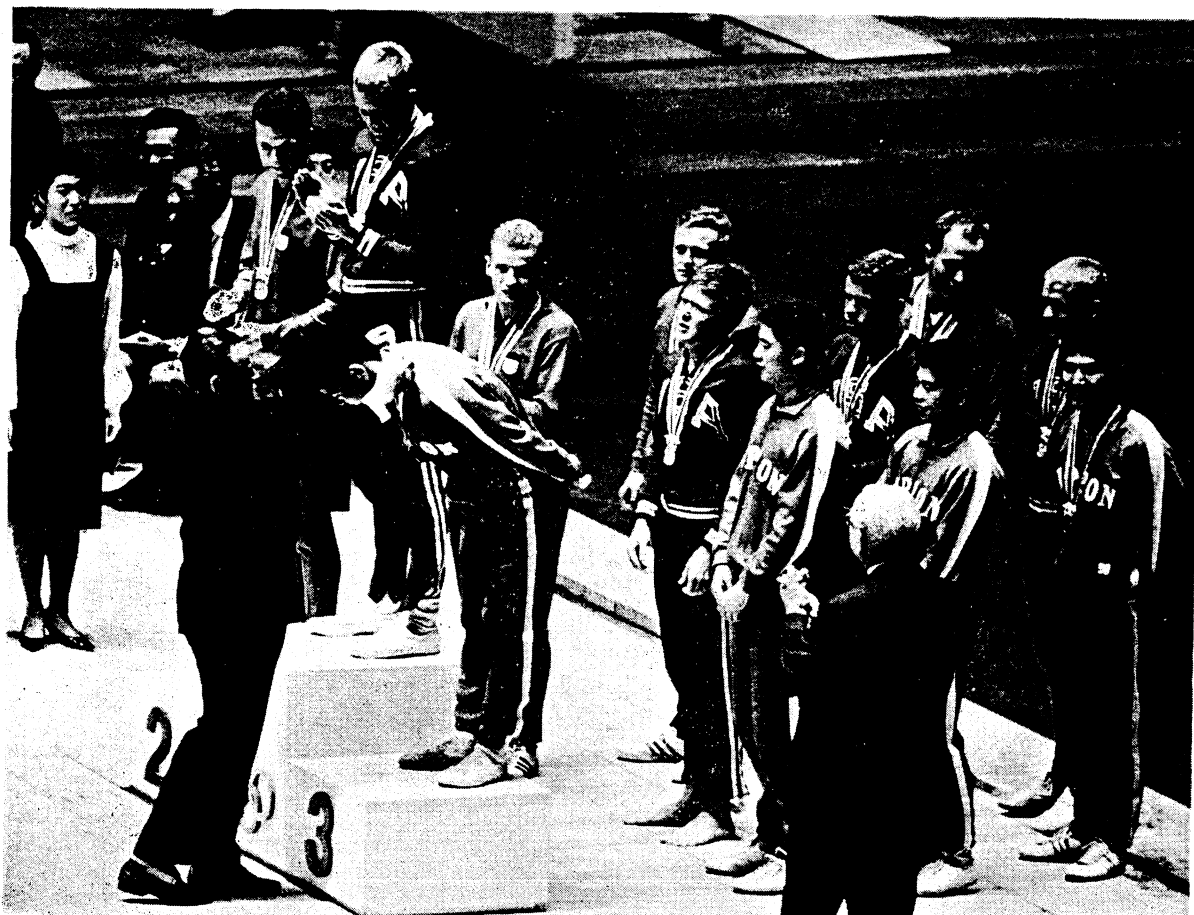


↑ 表彰式 1位 米国チーム  
2位 独乙チーム  
3位 豪州チーム

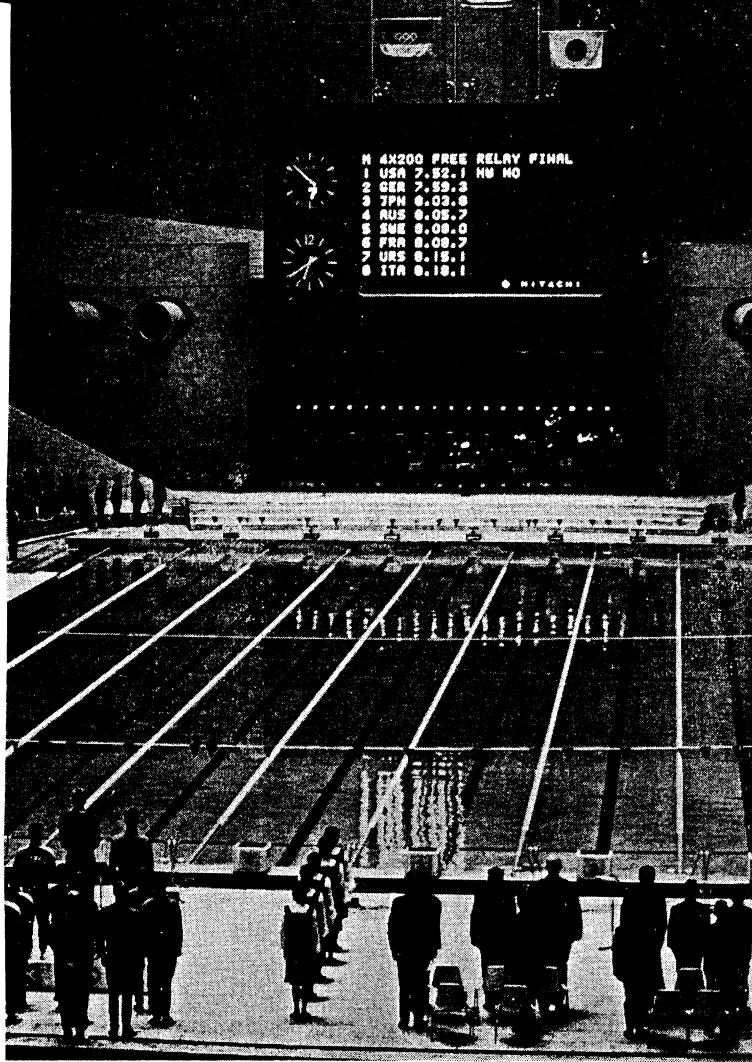
↓ 米国チームの引継ぎ。



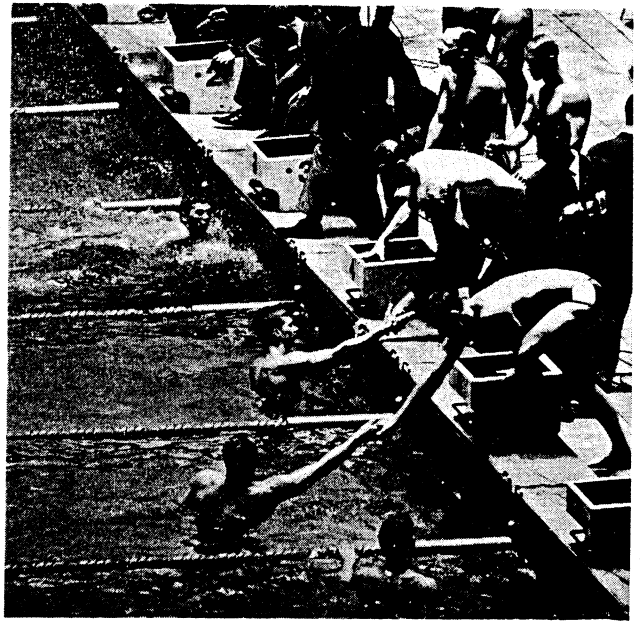
〔800m リレー〕



←  
800 mリレーに3位入賞の日本チームの表彰



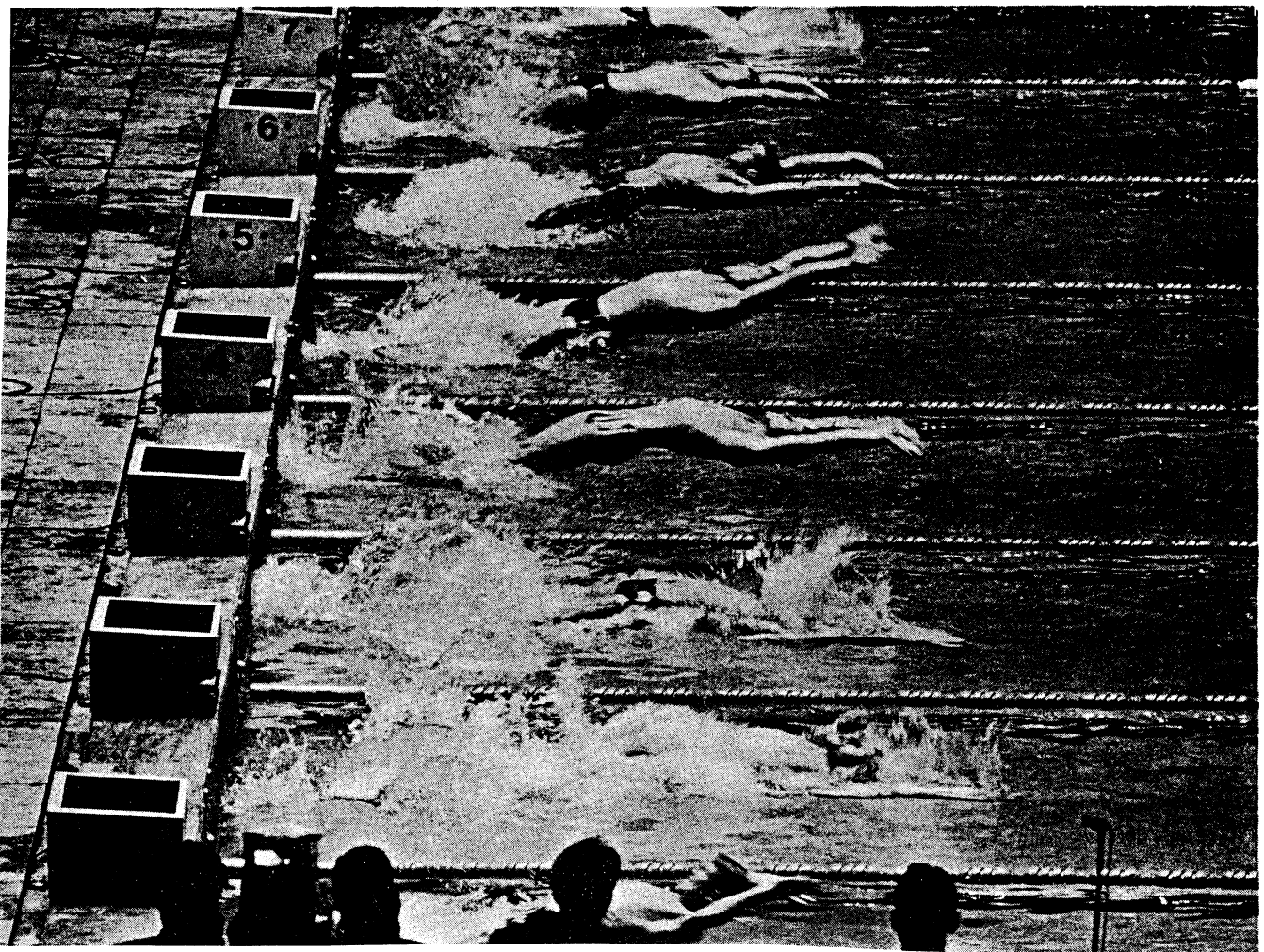
[800m リレー]



↑ 日本チーム岡部ゴールイン。

↖ 待望の日章旗挙る。

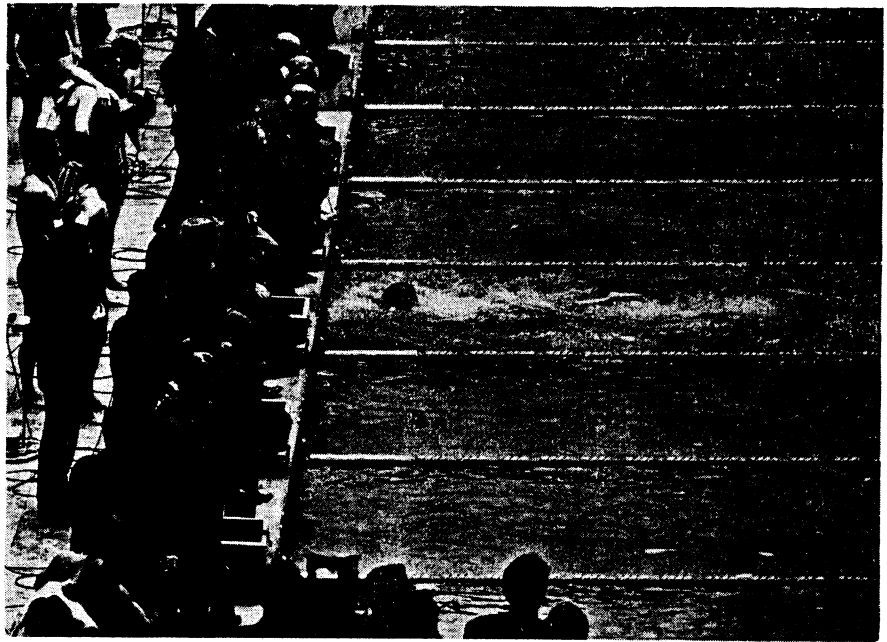
[400mメドレー・リレー]



[400mメドレー・リレー]

ゴールイン →

← スタート



結果発表



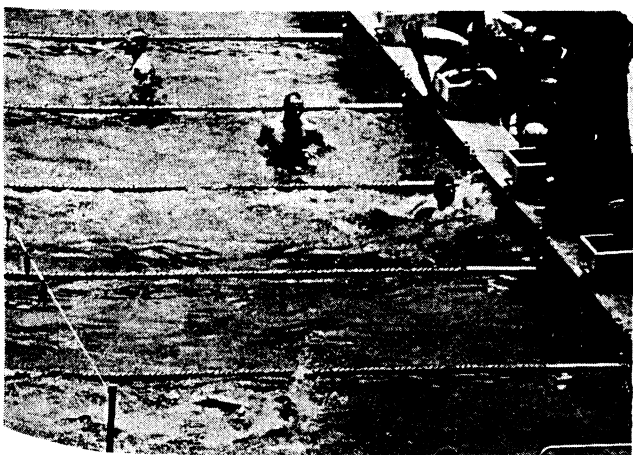
M 4X100 MEDLEY FINAL			
1	USA	3.58.4	NW NO
2	GER	4.01.6	
3	AUS	4.02.3	
4	URS	4.04.2	
5	JPN	4.06.6	
6	HUN	4.08.5	
7	ITA	4.10.3	
8	GBI	4.11.4	

© HITAC

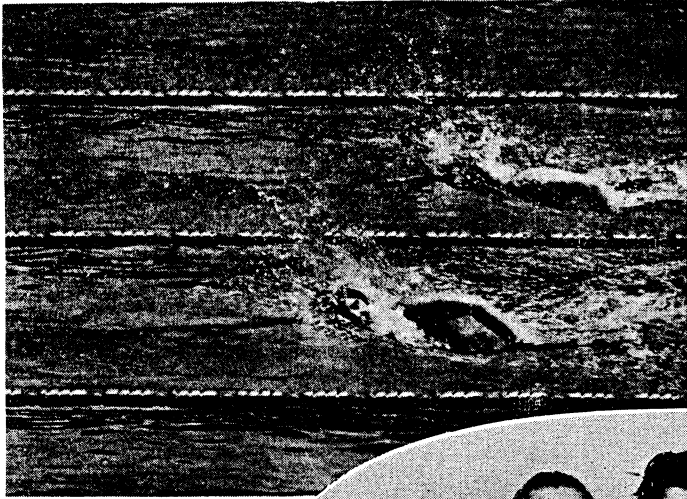


世界新記録を樹立，喜ぶ米国チーム。

← 日本チームゴールイン。



〔女子 100m 自由形〕



W 100 FREE FINAL			
1	FRASER	AUS	0.59.5 NO
2	STOUDER	USA	0.59.9
3	ELLIS	USA	1.00.8
4	TERPSTRA	NLD	1.01.8
5	LAY	CAN	1.02.2
6	MADARASZ	HUN	1.02.4
7	HAGBERG	SWE	1.02.5
8	BELL	AUS	1.02.7

● HITACHI



↑  
 フレイザー (豪)  
 スタウダー (米)  
 ゴール前の  
 接戦。

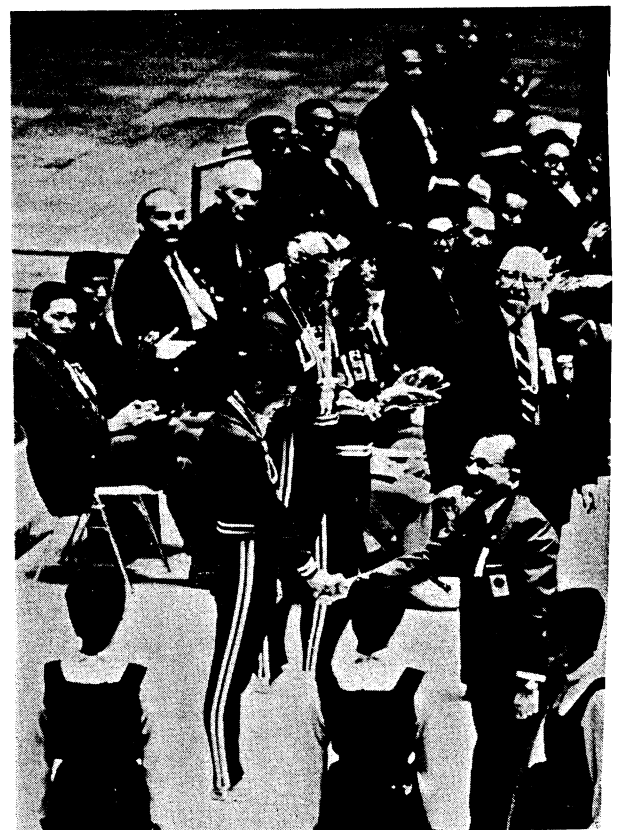
入賞者、左より2位スタウダー (米), 優勝フレイザー (豪), 3位エリス (米) の各選手。

〔400m 自由形〕



400m 自由形入賞者  
 左から3位スティックルス (米), 優勝デュンケル  
 (米), 2位ラメノフスキー (米)。

3本の星条旗をあげた米国トリオ, 表彰者東竜太郎  
 IOC委員。





メインホールに  
ソ連国旗初めて  
挙る。 →

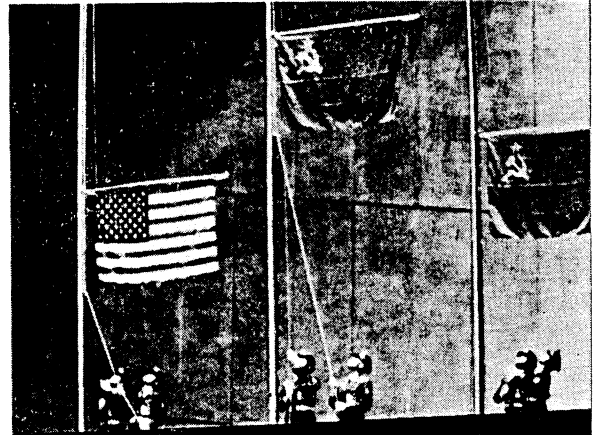
優勝者

G. プロズメンシコワ (ソ連)



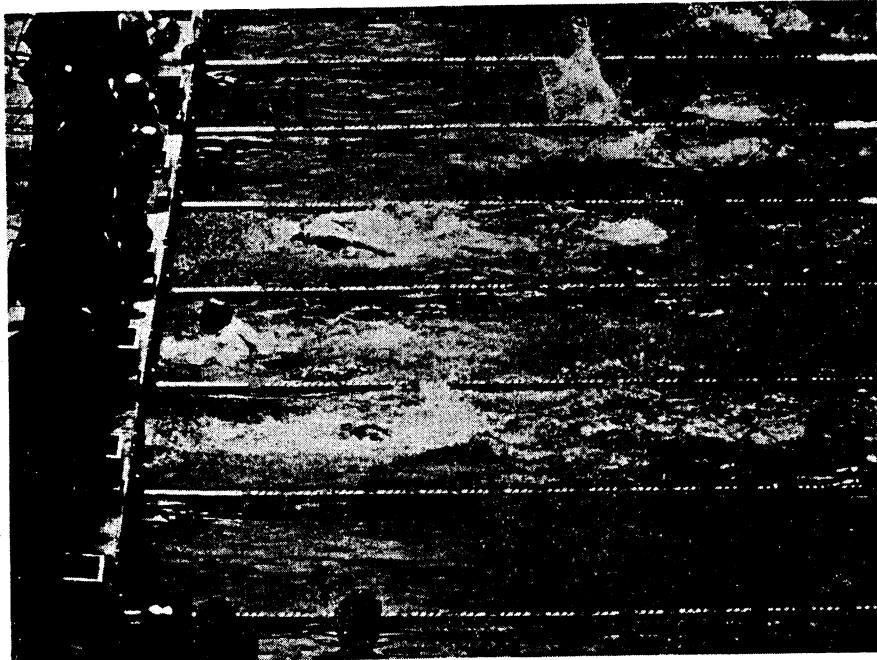
平泳入賞者  
中央は1位プロズメンシコ  
ワ (ソ連), その手前は2  
位コルブ (米)。

[200m 平 泳]



W 200 BREAST FINAL

1	PROZUMENSC	URS	2.46.4	NO
2	KOLB	USA	2.47.6	
3	BABANINA	URS	2.48.6	
4	MITCHELL	GBI	2.49.0	
5	SLATTERY	GBI	2.49.6	
6	GRIMMER	GER	2.51.0	
7	BIMOLT	NLD	2.51.3	

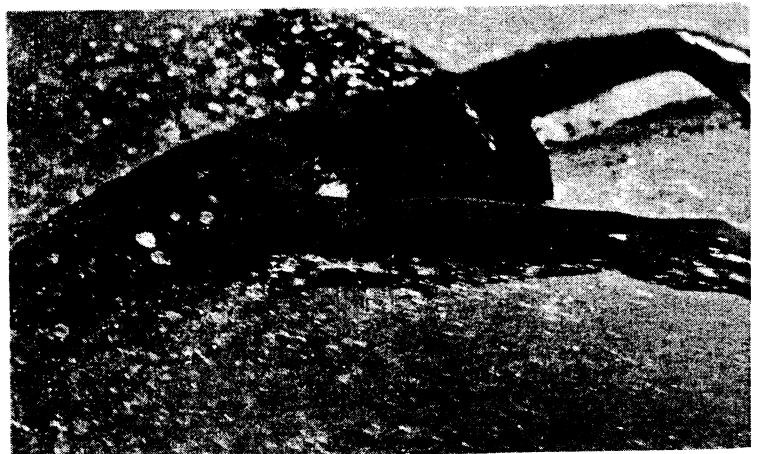


[100m バタフライ]

← 決勝ゴールインの瞬間。

- 1 位 S.スタウダー (米) (中央)
- 2 位 A.コック (和) (右)
- 3 位 K.エリス (米) (左)

↓ 頑張る高橋栄子選手。





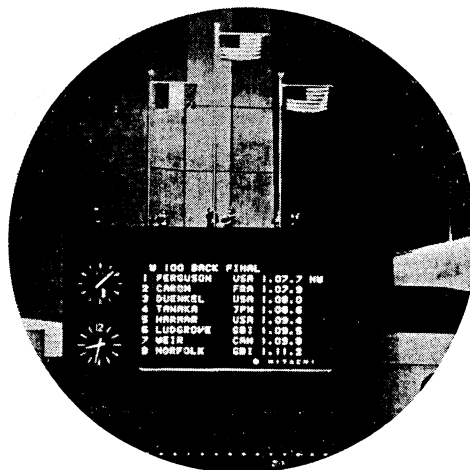
〔100m 背 泳〕

ゴール直前の競り合い

上方 2コース  
田中選手。



左から3位デュンケル (米), 1位ファーガソン (米), 2位キャロン (仏)。



右  
中 結果発表  
左 表彰式



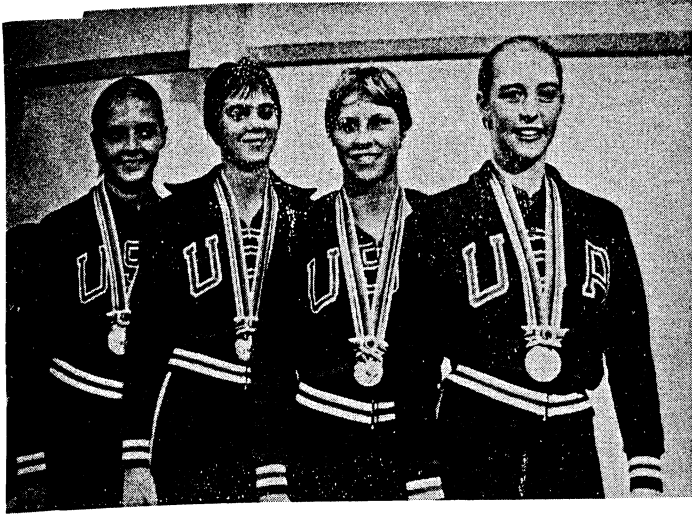
400 IND. MEDLEY FINAL		
1	DE VARONA	USA 5.18.7
2	FINNERAN	USA 5.24.1
3	RANDALL	USA 5.24.2
4	HOLLETZ	GER 5.25.6
5	MCGILL	AUS 5.28.4
6	HEUKELS	NLD 5.30.3
7	LONSBROUGH	GBR 5.30.5
8	EGERVARI	HUN 5.38.4

HITACHI

〔400m 個人メドレー〕

← 結果発表。

[400m リレー]

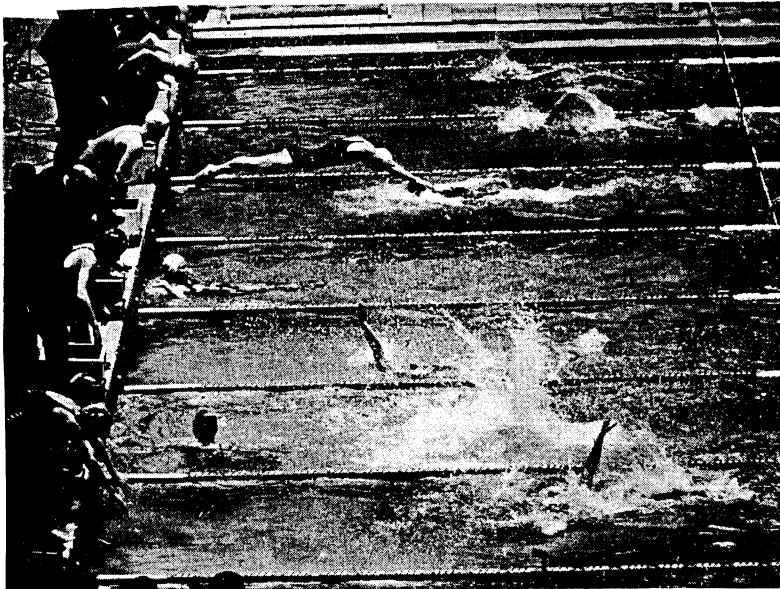


優勝した米国チーム  
左からエリス、ワトソン、デ・パロナ、スタウダー。



表彰式 ①米, ②豪, ③オランダ

[400m メドレー・リレー]

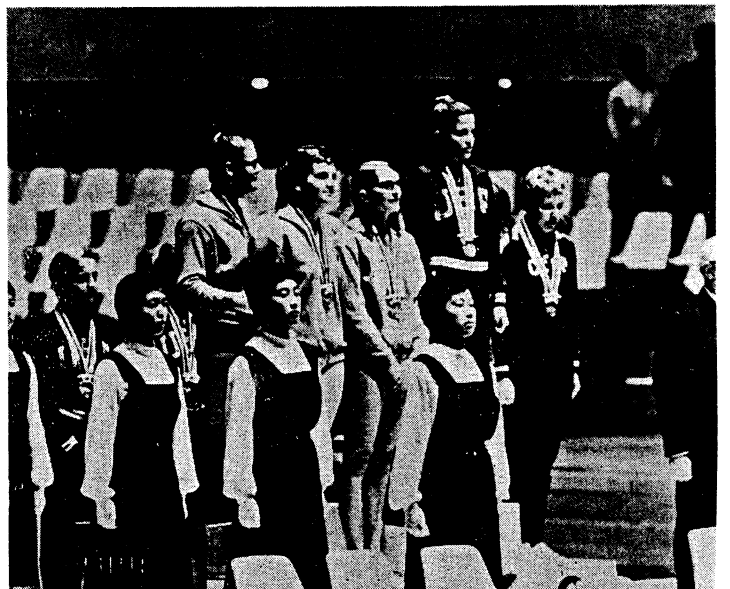
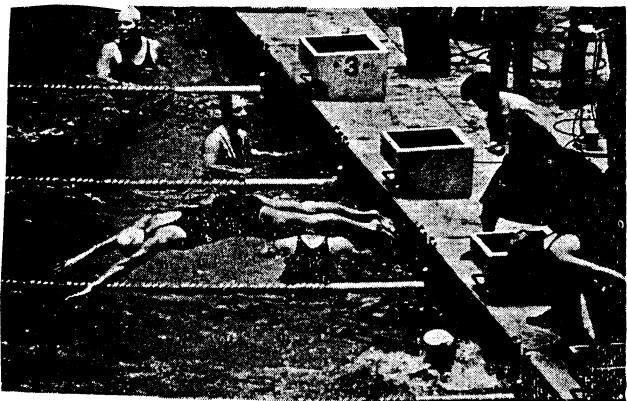


← 引継ぎ

米国チーム。

✓ 日本チーム。

↓ 表彰式 ①米, ②オランダ, ③ソ連





女子高飛び込みに優勝のブッシュ(米)。



男子高飛び込みに優勝のウエプスター(米)。  
ローマ大会に引続き二連勝。

〔飛 込〕



健闘空しく高飛込決勝8位の大坪選手。



女子飛板飛び込みに優勝のエンゲル・クラマー(独)。  
ローマ大会に引続き二連勝。

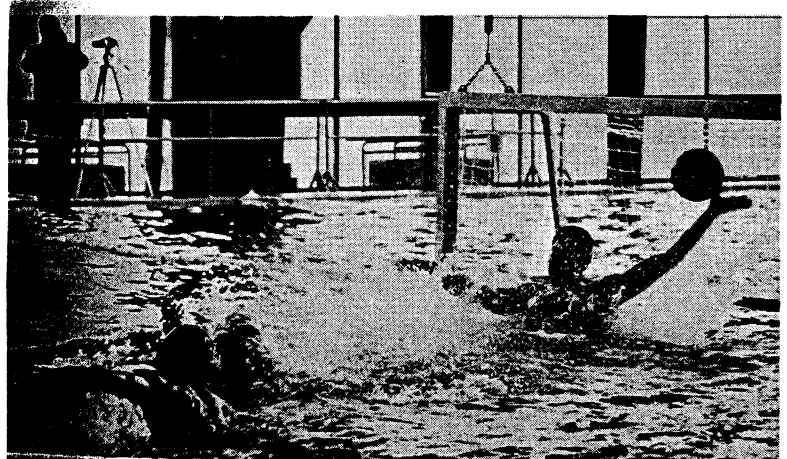
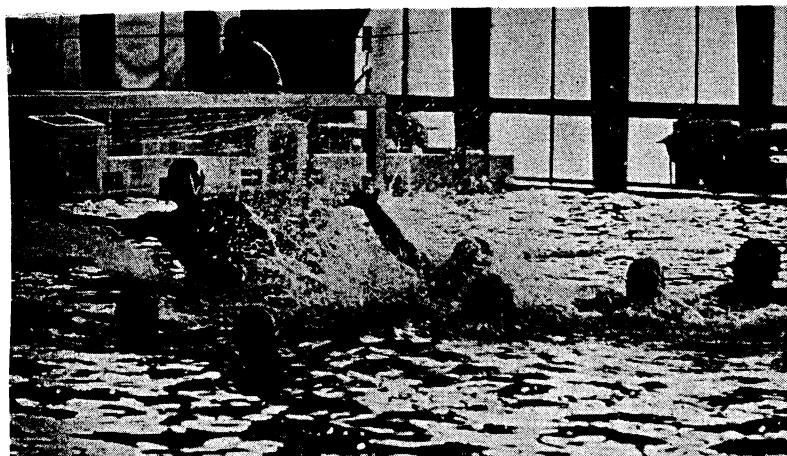


男子飛板飛び込みに優勝のシツパーガー(米)。



〔水 球〕

善戦する日本チーム。



鴉田監督





オリンピック・プール開場式に於ける石井体協会長の挨拶。



入場行進練習中の日本チーム。



優勝に喜ぶショランダー選手。



日本選手団役員の左根上，右古橋の両氏。



1500mインタビュー。



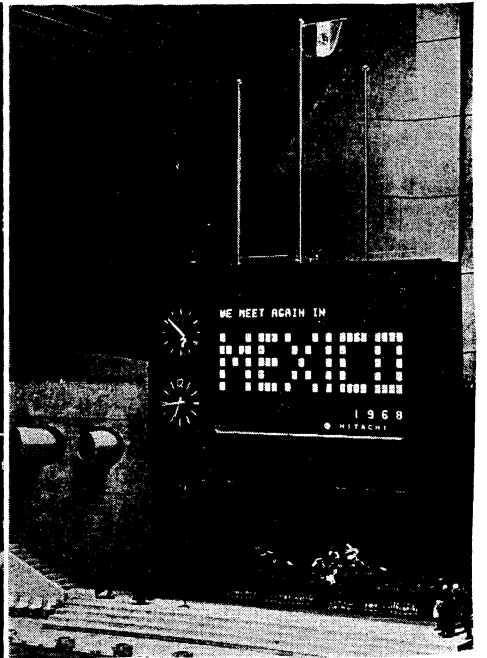
練習の木原，田中両選手と指導する黒佐コーチ（うしろ向）

報導員として来日したローズ氏。



練習を見まもる村上ヘッドコーチ。右は背泳の福島選手。

サヨナラ・メキシコで逢いましょう。





オリンピック東京大会水泳日本代表選手団

日本水泳連盟  
機関誌

# 水 泳

第 161・2・3 号  
昭和 40 年 12 月

## 目 次

### オリンピック特集号

オリンピック東京大会水泳日本代表選手団	( 2 )
東京オリンピック選手強化報告書	( 2 )
競 泳	高石勝男・田口正治 ( 3 )
飛 込 み	柴原恒雄 ( 10 )
水 球	鴉田武 ( 13 )
オリンピック日本選手団報告書	( 16 )
競 泳	田口正治 ( 16 )
飛び込み競技	小柳富男 ( 33 )
水 球	鴉田武 ( 36 )
座談会オリンピック大会運営の反省	( 42 )
メキシコオリンピック決勝進出の水準	小山賢之助 ( 59 )
アメリカオリンピックコーチの報告	スイミングワールドより ( 62 )
オリンピック東京大会水泳競技公式記録	( 67 )

# オリンピック東京大会 水泳日本代表選手団

役名・種目	氏名	年齢	勤務先	役名・種目	氏名	年齢	勤務先
<b>役員 (6名)</b>							
総監督	高石勝男	57	近畿産業社長	自由形	早川一枝	17	吉原市商工
競泳ヘッドコーチ	田口正治	48	KK大丸	"	東美代子	18	ロート製菓
男子競泳コーチ	村上勝芳	46	日大助教授	"	浦上涼子	16	筑紫女高2
女子"	岡田正一	51	佐伯鶴城高教	"	菊谷多鶴子	17	五条高3年
飛込コーチ	小柳富男	47	近畿産業	平泳	山本憲子	19	八幡製鉄
水球"	鴉田武	39	鴉田工業社長	"	森実芳子	15	筑紫女高1
<b>選手</b>							
<b>男子競泳 (22名)</b>							
自由形	岡部幸明	24	蝶里KK	自由形	早川一枝	17	吉原市商工
"	後藤忠治	22	KK大丸	"	東美代子	18	ロート製菓
"	石原勝記	25	BSタイヤ	"	浦上涼子	16	筑紫女高2
"	山中毅	25	大洋漁業	"	菊谷多鶴子	17	五条高3年
"	山影武士	19	明大2年	平泳	山本憲子	19	八幡製鉄
"	吉無田春男	24	八幡製鉄	"	森実芳子	15	筑紫女高1
"	佐々木末昭	21	中大4年	バタフライ	高橋栄子	18	別府大1
"	中野悟	17	桜宮高校3	"	佐藤公子	18	日本楽器
"	岩本和行	17	柳井商工3	"	斎藤弘子	19	中京大1
"	藤本達夫	24	松下電器	背泳	田中聡子	22	八幡製鉄
"	福井誠	24	八幡製鉄	"	木原美智子	16	山陽女高1
"	庄司敏夫	23	BSタイヤ	個人メドレー	松田奈津子	18	五条高2
"	岩崎邦宏	19	早大2年	"	江坂君子	20	中京大1
"	藤島祥三	19	早大2年	<b>男子飛込 (5名)</b>			
平泳	松本健次郎	20	早大3年	"	土佐忠雄	21	早大4年
"	鶴峰治	22	海上自衛隊	"	金戸俊介	24	リッカーミシン
"	敷石義秋	22	松下電器	"	山野外嗣夫	26	北陸経金
"	石川健二	18	日大1年	"	有光洋右	20	日大2年
バタフライ	佐藤好助	21	八幡製鉄	"	大坪敏郎	21	日体大4
"	門永吉典	17	柳井商工3	<b>女子飛込 (4名)</b>			
"	大林敦	21	中大2年	"	馬淵かの子	26	倉敷レーヨン
"	中島功	23	BSタイヤ	"	渡辺久美子	27	リッカーミシン
背泳	福島滋雄	21	日大4年	"	大崎恵子	21	日体大4
"	大隅潔	22	明大4年	"	河合初子	27	関西飛ク
"	伊藤圭祐	20	早大3年	<b>水球 (11名)</b>			
<b>女子競泳 (14名)</b>							
自由形	木村トヨ子	18	八幡製鉄		加藤峰男	30	横河電機
					飯田矩偉	25	安田生命
					荒川八郎	30	東京テアトル
					横山隆	23	日興証券
					竹内和也	22	早大4年
					高木弘毅	27	東京美装
					藤本重信	24	BSタイヤ
					清水洋二	23	東急不動産
					青山礼三	24	川島繊維KK
					皐月啓左	22	金沢産業KK
					桑原重治	23	丸和鉱油KK

# 東京オリンピック選手強化報告書

強化本部長	高石勝男
競泳強化委員長	田口正治
飛込強化委員長	柴原恒雄
水球強化委員長	鷗田武

## 競 泳

### 1. 総 括

日本水泳連盟がオリンピック東京大会をめざして積極的に選手強化活動を開始したのは1961年4月であった。第18回オリンピック大会の東京開催が決定してからすでに2カ年が経過しており、この2シーズン、対策らしい対策も立てずに貴重な年月を空費したことは大きな損失であった。したがって、残る4カ年（実質は3年間）を有効に使うべく冬を活用して2シーズン制を採用し、6年分の活動をすることにした。しかし、冬の鍛練に必要な温水プールの設備が不十分なため、やむなく冬期は主に陸上トレーニングによる筋力強化を図ることにした。

当時、わが国選手の実力はアメリカ、オーストラリアなど世界の一流国にさほど劣ってはいなかった。1961年度の世界ベスト30を見ると、男子では全種目に日本選手の名が見られ、しかもその数においては世界最高であった。だが、その大部分はベストの下位にあり、オリンピックの決勝に残る上位8位にしぼると、男女合わせてわずかに40名にすぎなかった。しかもその40名の大半はすでに水泳適齢を超えていた。これは、日本水泳連盟が過去に中高生対策を怠ったために生じた穴であり、この大切な時期にみずから生んだ穴によってわれわれは窮地に追い込まれる結果となった。

こうした諸点を克服するために、強化計画は慎重に検討して立てられたことはいうまでもない。その計画の主な柱は次の3つであった。

- A. オリンピック時に主力となるベテラン選手の温存とその強化方法の研究
- B. 全国的な中高校選手指導強化による速やかな新進選手の発見とその強化育成
- C. 外国選手に比べて体力的にいちぢるしく劣る女子選手の体質改善と筋力強化

そこでまず、全国から優秀なコーチを集めて競泳強化委員会を組織し、主としてベテラン選手の指導に当たらせ、一方、全国を7地区に分け、それぞれ地区強化委員会を設けて中高校選手の指導を受けもってもらうこととした。幸い水泳競技の年齢的殊特性が認められ、この年から全国中学生水泳大会の開催が許されて新進選手の育成に道がひらけた。また、女子選手のみならず全選手の筋力強化を行なうため、水連独自のスポーツ科学研究委員会を設けて専門的研究と鍛練の実施を行なわせることとした。こうして一応強化の方針が立ち、思い切った準備を積み重ねることができたと確信している。

われわれが特に留意した点は、いかにして筋力を増強するかということであった。基礎体力の劣性は重々知りながらも、それを強化改善する時間的余裕がなく、したがって、せめて水泳に必要な専門的筋力だけでも強化したいと考えたのである。筋力強化は、4年間のトレーニングの積み重ねによって最終年度には十分目標レベルまで達成できると確信していた。しかしながら、わが国には、「水泳選手の練習は泳ぐことにあり」という古い観念が選手にもコーチにも強く残っており、そのために最初の2年間はわれわれの指導方針が受け入れられず、ほとんど実行されなくて、われわれの計画は根本的にくずれてしまった。そこで最後の冬である3年目は各家庭において自主的にトレーニングさせる従来の方針を改め、候補選手全員を長期合宿させ、徹底的に陸上トレーニングを遂行させた。この方法はきわめて有効であり、各選手の筋力はいちぢるしく増強された。この思い切った筋力強化策が、800mリレーにおいて予想外の好記録を生み、入賞をもたらしたものと確信している。それについても、最初のふた冬に十分陸上トレーニングが行なえなかった失敗が惜しまれてならない。

こうしてわれわれは、4年間の準備期間中、いまから思えば反省すべき点多々あったが、一応やりたいと思うことはすべてやり、基本的には計画通りに実施できたのである。この点に関しては少しも悔いがない。振り返

ってみて、強く胸を打たれることは、コーチ、選手がよく互いに信頼し、一致団結してわれわれの指導方針に従って進み、課せられた苦しい鍛練によく耐えて精進してくれたことである。心から敬意を表したいと思う。

オリンピックにおける成績は、選手の努力にもかかわらず、欧米の選手にやや圧倒される結果に終わってしまったが、これは、われわれの指導に欠けるところがあったからであって、せっかくの努力がむくわれなかった選手たちに対しては、はなはだ心苦しい次第である。

コーチ陣と選手たちが、もっている力を最大限に發揮して、多くの者が自己の最高の力で世界の選手たちと立派に戦ったことに心から満足している。〔高石勝男〕

## 2. 強化の記録

### 【1】 強化目標

#### (1) 年度別強化活動とそのねらい

オリンピック東京大会において、十分な成果をあげるべく、われわれは次のような強化活動を実施してきた。

##### ① 1961年度

まず組織的には強化本部が組織され、その下部組織として、かつて国際競技に参加した経験ある優秀な競技経歴者と、優秀な大学、高校の指導者をもって競技強化委員会が組織され、主としてこれらがオリンピック選手の指導育成にあたることになった。また地方を九州、四国、中国、近畿、中部、関東、東北の7ブロックに区分し、ブロック長を任命し、ブロック長の統轄のもとに各府県ごとに強化委員会を組織させ、広く強化活動の徹底、大同団結を図ることとした。

まず初年度は、オリンピックに向かった強化活動の意義を周知させると同時に、数回にわたるコーチ会議を開いて、泳法と練習法の研究を重ねてその基本的なものを打ち出し、指導方針の確立を図り、これをパンフレットにして全国の関係者に配布し、その指導方法の正確と指針を的確にした。またピラミッドの底辺を大きくすることと逸材の発見に留意し、競泳強化委員を地方の指導者並びに選手を指導対象として、春夏秋冬にわたり各地の巡回指導にあたらせた。いうなれば、一般強化の段階を取ったわけである。

一方スポーツ科学研究委員会の協力を得て、選手カード並びに体力測定表等の作成に着手し、有望選手の生活環境、身体調整の詳細な調査資料を作ることとした。

なお、若いエネルギーを絶対に必要とする水泳競技という特質から考えて、選手の若返りを図ることが1つの大きな要素であることを考え中学生の水泳への関心を高

めるべく、それぞれの機関に交渉を開始する等、多岐にわたり活動を開始した。

われわれは、戦後欧米のそれに比してひどく立ち遅れていた日本の水泳界を、東京大会までにはなんとか水泳日本の昔に戻すべくその第一歩を踏み出したわけである。

##### ② 1962年度

1961年度で一応強化の基礎ができたので、同年度の記録と選手の素質を考慮し、男女合わせて175名のオリンピック候補選手を選考し、これを強化の対象として準英才教育の段階にはいると同時にオリンピックへの強化目標記録を定めた。

冬期には、日本選手が欧米の選手に比べて体力、特に筋力において非常に劣っていることが体力の分析により明確になったので、スポーツ科学研究委員会の協力を得て、泳ぐ時に実際に使われている筋肉とその力の大きさを筋電図により分析し、その結果、水泳に必要な筋肉群の強化のための水泳独自の陸上トレーニング法を考え(別項)、これを冬期シーズンに実施することにした。そして12月の合宿時と3月の合宿時に測定し、比較したところ、大部分の選手が強化されてはいたが、まだ欧米の選手に比べて十分とはいえないので、1963年度には徹底的に陸上トレーニングによって体力、筋力の強化を図る必要を痛感した。

##### ③ 1963年度

いよいよ東京大会を1年後に控え、われわれは候補選手をさらに男子70名、女子54名、計124名にしぼり、英才教育にはいったわけで、過去2年の間研究した科学的な資料と、陸上トレーニングによって強化向上した体力、筋力と泳法技術の協働を図り、選手の素質の向上と選手層の厚味とレベル・アップに重点をおいて強化にあたることとした。

なお準候補を設け、この強化はもっぱら各ブロックの強化委員があたり、候補選手はできるだけ、中央の強化コーチが強化にあたることとした。

なお1963年度は春の日豪対抗を皮切りに、日米対抗、東京国際スポーツ大会と国際交流試合も多く、各選手は一流外国選手と戦う経験も豊富にもつことができたわけであるが、その反面幾分疲労気味であったことも否定できない。特に、10月に行なわれた東京国際スポーツ大会は、例年ならシーズン・オフにあたるが、オリンピック大会がこの時期に行なわれるという点で、誠に貴重な経験を得たわけであり、われわれも10月というシーズンオフに選手の調子をもっていく上において、またとない経験を得たのである。

##### ④ 1964年度

オリンピック・イヤーを迎え、われわれは精鋭主義をモットーとして重点的英才教育を施すべく、1963年秋に選考された79名の候補選手をさらに男子33名、女子29名計62名にしぼり、冬期鍛練期には基礎体力、特に筋力の強化を図るべく、陸上トレーニングを主体とした長期合宿を行なった（方法と目的は別項）。またこの間、泳法についても、水中における人体抵抗、泳ぎの体位、筋力と泳速、各選手の習性よりくるところの長所、短所等を科学的に分析してコーチの観察結果と総合し、各人のカルテを作成、矯正すべきは矯正し、伸ばすべきは伸ばして合理化を図ってきた。

コーチ会議もすべて、東京大会にいかにしてベスト・コンディションでのぞむかをテーマとし、何回となく強化計画、練習法等の反省、立案をくり返し、戦術会議を重ねて東京大会の強化計画を完全なものとするに努力した。

この年において特にわれわれが目標としたことは、夏期鍛練期にあって不調気味な自由形陣の強化を一段と増すことであった。日本選手権の結果においては、強化の目標は、7、8分通りは達成されたが、残された数カ月の間には世界の選手に伍して十分に戦えるようになるものと確信していた。また女子陣も漸次強化の成果を上げてきており、曙光を見いだすことができた。

## (2) 年度別強化対象選手並びに施策

### ① 1961年度の施策

#### A. コーチ制度

国際競技に出場した経験のある優秀な経験者、並びに大学（シード校）の監督、中学、高校指導者よりなる強化競泳委員36名を中央指導委員として結成、地方各府県にもそれぞれ強化指導員を設けた。

#### B. 対象強化選手

広く全国を巡回指導し、泳法の基礎と練習法の基本を全国の水泳選手と指導者に指導した。

#### C. コーチ会議

全国を巡回指導するに際し、その地区の指導者を一同に集め、強化の意義、組織、方法を協議した。

#### D. 強化の目標

一般強化の段階にあっては、広く強化活動をゆきわたらせ、泳法と練習法を一貫させて指導し、また素材の発見に努力した。

### ② 1962年度の施策

#### A. コーチ制度

36名の中央の強化委員と地方の各強化委員が協力して、強化指導にあたった。

#### B. 強化対象選手

春期強化合宿には男女合わせて225名の強化選手を対象としていたが、夏期合宿に入ってから、1961年度の競技成績並びに素質により選考された175名のオリンピック候補選手を対象とし強化した。

#### C. コーチ会議

2月18、19の両日、第1回全国指導者会議を東京で開催、約200名の中学、高校、実業団、大学の指導者を対象として、次のような内容をもった指導者会議を行なった。

- 陸上トレーニングの理論と実技指導
- 泳法と練習法の基本について
- 筋力測定の理論を発表
- 水中における人体抵抗について
- オーストラリアおよびアメリカの強化の実態

#### D. 強化合宿

##### a. 第1次強化合宿（4/1～10）

参加者：男子112名、女子87名、計199名、指導者43名

目的：種目別に別府ほか5会場に合宿させて泳法矯正を主として行なった。

##### b. ブロック別合宿（4月下旬～5月上旬）

ブロック別に泳力強化を目的として合宿した。

##### c. ブロック合宿（7月中旬～7月下旬）

日本選手権のための調整を目的として合宿した。

##### d. ブロック合宿（9月上旬～9月中旬）

国体のための調整を目的として合宿した。

##### e. 第2次強化合宿（11/3～11）

参加者：1963年度のオリンピック候補選手138名（男86、女52）を対象として男女別、種目別に合宿した。

目的：陸上トレーニングにより、体力、筋力の強化を図るとともに泳法の矯正を図った。

##### f. 第3次強化合宿（12/18～27）

参加者：選手 男子86、女子53、指導者32

目的：第2次に引きつづき陸上トレーニングを主体とした合宿であるが、泳力強化のための水中トレーニングも2次合宿に比してより多く行なった。

なお、以上の合宿計画のほか、土、日曜を合同練習とし、地方の各強化委員が適時これの指導にあたることとした。

#### E. 国際交流関係

##### a. オーストラリアにコーチ2名派遣（約2カ月、12月～2月）

目的：オーストラリア選手権前の調整状況を視察

##### b. アメリカにコーチ2名派遣（約2カ月、2月～3

月)

目的：室内選手権の調整状況を視察し、オーストラリアのそれと比較検討することにした。

- c. オーストラリア遠征——選手10名、役員1名(2月)

目的：強化1年後の日本選手の力を見る

- d. 南アフリカ連邦招待遠征——選手5名、役員1名(3月)

- e. 室内選手権にアメリカ選手5名招待

以上の国際交流を計画実施し、現在世界の第一人者であるアメリカ、オーストラリアの選手強化の実態、あるいはその泳法、泳力を目のあたりに見ることができた。われわれは、この交流により練習法や泳法に多くのものを学んだが、何よりも体力、筋力が劣っていることを痛感し、スポーツ科学研究委員会と協議して、筋力の強化について鋭意研究することにした。

#### F. 強化の目標

男子97名、女子78名、計175名のオリンピック候補選手を強化の対象として、準英才教育の方策を取ってきた。1962年度は泳法、体力において科学的に種々分析し、強化の合理化を図ったが、特に筋力強化の必要性を考慮し、冬期には水中トレーニングよりも陸上トレーニングを重視してきた。

#### ③ 1963年度

##### A. コーチ制度

強化コーチの制度が拡大され、われわれは特に強化に熱心で優秀なコーチを全国より選考し、31名を登録し、これらの強化コーチによってオリンピック候補選手を一元的に指導強化することにした。

なお、競泳強化委員会を全国的なものとするため、中央委員と地方委員よりなる36名で構成することにした。

##### B. 強化対象選手

1962年度の選手の記録により男子75名、女子54名、計129名の候補選手を選考、これを強化の対象とする一方、水泳の特質よりして、素質、記録等を勘案して男子53名、女子25名、計78名の準候補選手をも選考、これは主として地方在住の強化コーチが強化指導にあたることにした。

##### C. コーチ会議

- a. 第2回全国指導者会議(4月20, 21日、参加170名)

目的：強化指導の徹底と研究

要旨：1963年度の強化活動の説明と研究

1962年度の強化活動の反省

陸上トレーニングによる筋力強化と泳力強化

泳法の解明(水中撮影フィルムで説明)

#### D. 強化合宿

- a. 冬期合宿(1/8~17)

目的：自由形陣の強化と若返りをねらう。中、高校自由形選手18名を対象として行なう。

- b. 第4次強化合宿(3/11~4/7)

目的：一般男子を、種目別に泳法の矯正と泳力強化を目的として実施した。なお女子と中、高生は学業の都合もあり、この期間、ブロック別にそれぞれ実施した。

- c. 第1次強化合宿(5月下旬より約2週間)

目的：泳力強化を目的として、それぞれブロック別に実施した。

- d. 第2次強化合宿(7/10~30)

目的：日本選手権を控え、男子のみ種目別に泳力強化とスピードを目的として実施し、女子はブロック別にそれぞれ実施した。

- e. ブロック別合宿(9月下旬より約2週間)

目的：国体を控え、スピードとペースの向上を図り、ブロック別に実施した。

- f. 第3次強化合宿(12/1~23)

目的：1964年度の候補選手79名を対象として冬期長期合宿に入り、陸上トレーニングによる体力、筋力の最終強化に入る。

- g. 国際交流関係強化合宿

日豪対抗選手合宿(4/10~21)

調整、男子候補選手75名

日米対抗選抜合宿(8/6~16)

調整、男子候補選手25名

東京国際スポーツ大会選抜合宿(9/15~10/14)

調整、1964年度候補選手男女計79名

オーストラリア遠征選抜選手強化合宿(1/10~2/26出発まで)

高校男子12名、一般女子10名

泳力、特にペースの向上を図る。

アメリカ派遣選抜選手強化合宿(2月下旬~3月20日出発まで)

中学男女10名、泳力強化を図る。

#### E. 国際交流関係

- a. アメリカ派遣(3月下旬~4月上旬)

選手の若返りをはかり、中学男女10名、役員4名を派遣した。

- b. オーストラリア派遣(2月上旬~3月中旬)

高校男12名、女10名、役員4名をオーストラリア選手権に派遣した。

- c. 日豪対抗(4/20, 21)

オーストラリア男子チームを招き、室内選手権後



日豪対抗を開催し、日本チームの大勝のうちに、1964年度水泳の幕を開けた。

d. 日米対抗 (8/17, 18, 19)

アメリカ男子チームを招き日米対抗を開催、日本チームは冬期合宿以来の疲れが重なり惨敗したが、これを機会に役員選手一同大いに発奮すると同時に、1964年度の強化計画をいっそう研究することとなった。

e. 東京国際スポーツ大会 (10/12, 13, 14)

1964年度候補選手が出場し、期待通りの成果をあげた。

f. ユニバーシアード大会参加 (8月末)

選手6名、役員1名参加

F. 強化の目標

男子75名、女子54名、計129名のオリンピック候補選手と、男女78名の準候補選手を強化の対象にしぼり、いわゆる英才教育体制を取り、選手のレベル・アップとトップ・クラスの選手層の厚みを増すことに目的をおいた。

なお、科学的には筋電図による筋力の測定、水中撮影による泳法の分析、陸上トレーニング法の確立等多面にわたって研究し、練習法の合理化を図るとともに、候補選手の個々にわたる分析を行ない、最後の仕上げに対処することにした。

④ 1964年度の施策

A. コーチ制度

1963年度の強化コーチ31名を2名増員し、33名の強化コーチに加えて、従前通り各地方の強化委員の協力を得、東京大会への最後の仕上げにのぞむことにした。

B. 強化対象選手

冬期強化合宿期間には、男子48名、女子31名、計79名の候補選手を対象とし、そのほか男女86名の準候補選手をもっていたが、4月の室内選手権の結果により、計62名の候補選手にしぼり、7月の日本選手権まで英才教育の段階を取って強化してきた。

C. コーチ会議

6月13, 14日、第3回全国指導者会議を、優秀な中、高校の指導者並びに候補選手、準候補選手を出しているチームの指導者約150名を招集して行なった。その目的をオリンピック・インのための強化指導におき、ディスカッションするとともに今後全国的な指導者組織を結成するための手段としたわけである。

なお、このほか各次合宿の時にコーチ団による作戦会議をその都度行ない、最後の総仕上げに万全を期することとした。

D. 強化合宿

a. 冬期強化期間 第4次強化合同練習 (1/13~3月末)

第1期 (男子1/13~26, 女子1/13~31)

第2期 (男子2/3~16, 女子2/5~20)

第3期 (男子2/20~3/10, 女子2/25~3/15)

第4期 (男子3/14~31, 女子3/19~31)

陸上トレーニングにより基礎体力、特に腕、脚、背、腹筋力の強化を図るとともに内臓機能の強化を合わせ行なった。なお、水中トレーニングにより、筋力を高めるとともに泳法の矯正も行ない、水、陸トレーニングのウエイトは第1期にあっては陸上、7、水中3の割合でトレーニングをし、第2~4期に至るに従って漸次そのウエイトを水中に移行し、第4期には陸上3、水中7とそのウエイトを変えて行なった。

b. 室内選手権強化合宿 (4/2~13)

室内選手権のための調整

c. 第1次強化合宿 (5/4~23)

基礎練習期間とし冬期につけた筋力の効果を図り泳法を矯正した。

d. 第2次強化合宿 (5/29~6/18)

鍛練期間として泳力、特に持久力を図るためインターバル練習を基礎とした。

e. 第3次強化合宿 (6/26~7/15)

前半を鍛練期とし、後半を日本選手権のための調整を目的とし、スピード、ペースの配分の向上を主体とした練習を行なった。

f. 第1次オリンピック選手強化合宿 (8/10~29)

前半を基礎練習期間として、日本選手権後3週間の休養期間中の泳法、体調等の調整を行ない、後半を鍛練期としてインターバル練習を主体として泳力の強化を図る。

g. 第2次オリンピック選手強化合宿 (9/4~17)

第2期鍛練期として行なった。

h. 第3次オリンピック選手強化合宿 (9/21~10/2)

第3期鍛練期として行なった。

(10/3~10)

オリンピック調整に入る。

E. 国際交流関係

a. オーストラリア選手権視察 (2/22~3/15 コーチ1名)

b. 全米室内選手権 (3/23~4/7 役員1名、選手2名)

c. アメリカ・オリンピック選手選考競技会視察 (8月末 コーチ1名)

視察はオリンピックの作戦のためアメリカ、オー

オーストラリアの戦力を見て、特にレース運び、ペースの配分等を視察する。

#### F. 強化の目標

今年度の強化計画を大きく冬期、夏期、オリンピック強化期と3期に分け、冬期においては陸上トレーニングによる筋力強化を第一義とし、12月より3月末まで5日の休養期間を置き、2～3週間に分けて連続的に長期合宿練習により鍛えた。その効果は十分にあった。

夏期にあつては冬期に鍛えた筋力を泳速に活用すべく泳法の合理化を図り、逐次泳力の強化、スピードの強化に移行して行なった。オリンピック強化期間の2カ月は、もちろん最後の総仕上げを行なうべく総力を結集して、その策を練った。

#### (3) 目標記録とその達成 (第1表)

### 3. 反省と将来の問題

1961年、東京大会に備えて水泳連盟に強化組織が敷かれてから4年間、各強化コーチは地方の指導者と一丸になって東京大会という目標に向かって強化にすべてを投げ打ってきたのである。その結果は、ほとんどの選手が自己のもつ最高の力で戦い、男子800mリレーを初め10種目に入賞し、6種目に日本新記録を樹立したのであ

る。しかし世界記録のラッシュに終始した東京大会ではこの成績はややもすると忘れ去られがちとなり、また1個の金メダルも取り得なかったということはなんと言つても十分な満足を得られず、多くの期待を裏切る結果となった。ただただ彼我の力の差の大きさを如実に見せつけられたわけである。

結果を振り返って反省してみると、その大きな原因は次のような点にあったと思われる。

(1) 戦後、事情は幾多あったにせよ、ややもすると水泳日本という伝統にあぐらをかいて若い層への強化に対する働きかけがやや不足していたのではないか。その結果とばかりは言えないが、確かにわれわれのチームはアメリカ・チームに比較して非常に層が薄く、加えて若さの力に欠けていたことを痛感した。

しかし与えられた4年の短期間に薄い層を厚くし、選手年令を若返らすことはなかなか容易なことではなく、この点には十分に意をもちながら勢い現有の勢力に依存し、これを温存し、この力をより高めるといふ方向に走ったことはいなめない事実であった。その結果としてアメリカ・チームの17～18才の若い力と厚い選手層に押しまかれることとなった。

この点については、政治的にも、社会的にも種々壁は

第 1 表

種 目	ローマ 大会記録	東京大会		見 込 み		東京大会 前の達成 記 録	東京大会の成績		
		目標記録	順 位	記 録	順 位		記 録	順 位	
＜男 子＞									
100m 自由形	55.2	54.0	4	54.3	3	55.2	55.8	準決勝	
400m 自由形	4:18.3	4:10.0	3, 6	4:14.5	3	4:20.2	4:19.1	6	
1500m 自由形	17:19.6	17:05.0	3, 5, 6	17:15.0	3	17:22.4	17:25.3	6	
200m 平 泳	2:37.2	2:29.0	1, 2, 3	2:29.5	1～3	2:33.5	2:33.6	6	
200m バタフライ	2:12.8	2:10.0	2, 5	2:10.8	3	2:11.6	2:12.6	6	
200m 背 泳	新種目	2:11.9	1, 6	2:11.0	1, 6	2:11.9	2:13.0	4	
400m 個人メドレー	新種目	4:50.0	1	4:50.0	1	4:54.6		不参加	
400m リレー	新種目	—	2	3:39.2	2	3:45.0	3:40.5	4	
800m リレー	8:40.2	—	2	8:04.2	2	8:09.8	8:03.8	3	
400m メドレー・リレー	4:05.4	—	2	4:03.8	2	4:07.5	4:06.6	5	
＜女 子＞									
100m 自由形	1:01.2	1:01.0	—	1:02.5		1:03.8	1:06.4	予選落	
400m 自由形	4:50.6	4:50.0	—	4:48.0	5	4:51.9	4:56.5	予選落	
200m 平 泳	2:49.5	2:49.0	4, 6	2:53.5		2:53.6	2:59.9	予選落	
100m バタフライ	1:09.5	—	3	1:08.8	3	1:09.6	1:09.1	7	
100m 背 泳	1:09.3	1:09.0	1, 5	1:08.7	1, 4	1:09.5	1:08.6	4	
400m 個人メドレー	—	—	—	5:38.5	4	5:42.0	5:51.5	予選落	
400m リレー	4:08.9	—	—	4:05.1	3	4:06.5	4:19.2	予選落	
400m メドレー・リレー	4:41.0	—	3	4:38.5	2	4:46.7	4:42.0	4	

あろうが、これをなんとか押し切って、長期を覚悟して広くエージ・グループの育成強化にあたらなければ、日本の水泳をかつてのように世界のトップに置くことはむずかしいのではないかと思う。

(2) 次に基礎体力の劣勢ということ、この点についてもわれわれは強化にあたった当初より感じたことなので、筋力、心肺機能の強化向上にも力を注いできたが、インスタントにつくった体力はオリンピックというあの雰囲気には十分に役立たなかったのである。

体力づくりという点については、いままでのように水泳はプールで泳ぐことのみで足りるといった観念はさっぱりと捨てて、やはり陸上トレーニングによって常に泳ぐ力よりもより強い筋力を養うことに特に注意しなければ、高度に進んだ現在の世界の水泳の水準にはついていけないであろう。

(3) 根性というか、精神的な強さ、すなわち困苦欠乏に耐え、なおかつ立ち向かう精神力がややもの足りなかった。現代の社会事情、経済成長のもとで育った青少年一般に通ずる弱さであろうが、唯物的に走りがちであり、勝負に対するくだらない判断力が先行する選手が多く見受けられた。この面の育成もこれまた一朝にしてなるものでなく、むずかしい問題ではあるが、特に指導者は、常にこの点を意識しながら、苦しい練習に耐えるよう励ましながら指導していかなければ、強い選手は生まれないのであって、これが長期再建にあたっての1つの大きな課題といえよう。

(4) 最後に泳法、練習法等技術的な面については、欧米のそれに少しも劣るとは思わなかった。それは常に日進月歩をしている技術のことであり、考え方であり、見習うべき点、取り入れるべき点は幾多あるが、4年間いろいろと研究を重ねてきた結果をも今後十分に生かさなければならぬし、今日までの多くの科学的資料の上に立って、より研究が進められなければならないものが多々あるはずである。

それらは重要なことではあるが、それらが十分に消化されるか否かは、それらを各人がいかに意欲的に、自主的にやるかということにあると思う。

このように東京大会を戦ってみて思うことは、何よりもこれらを実施し、運営していくための組織をつくり、みんながよく強化を理解し合って、一致協力のできる体制を1日も早くつくらなければならないということである。

### 3. トレーニング法と技術の研究

筋電図による筋力測定、水中における人体抵抗と体位、ストロークと泳速、水中撮影、カロリーと運動量等

の研究については、スポーツ科学研究委員が発表することになっているので、ここでは重複を避け、研究の結果による水泳独自の陸上トレーニング法を報告する。なお練習法(水中トレーニング)においては、選手個々の体調、運動の種別等によって異なり、多岐にわたるので、別に報告することにする。

#### 冬期鍛練期に実施した陸上トレーニングの内容

—主なトレーニング科目—

- A. 最大筋力トレーニング  
(腕・脚・腹・背筋) 10秒間, 1日1回
- B. 筋持久力トレーニング  
水泳に使う筋力を8種目の運動にまとめ、サーキット形式にして1日2~3セット行なった。
- C. 筋持久力(腕筋力)  
(短・特種目) 1~2分を5~10セット  
(長距離) 2~4分を5~10セット  
最大筋力の1/3の抵抗をゴムの収縮力によりかけて実施し、インターバルを1分おいて行なった。
- D. 中間休止(腕筋力) ゴム引きトレーニング最大筋力の1/2の抵抗をかけて実施した。
- E. キャッチポイント(手首) ゴムプッシュ  
最大筋力の1/2の抵抗をかけて1分間の運動を1~2回実施した。
- F. 心肺機能久走  
400m×10 } インターバル10分  
1000m×5 }
- G. 瞬発力トレーニング  
神経系の協調運動(ジャンプ等) 10分
- H. 全力疾走トレーニング  
50m疾走4~6回, 最大酸素量の増加が目的  
このほか各選手の弱筋力群を個々に指示し、トレーニング内容の中に入れ、補強トレーニングとして実施した(腕, 脚, 腹, 背筋力, 手首, 心臓機能等)。さらに主運動の前後の準備運動, 終末運動の重要性を指摘し, 習慣づけるように実施し, 筋の柔軟性の確保に努力した。

冬期陸上トレーニングによって強化された筋力の1例  
(単位: kg)

	測定日	背筋力	腕筋力		脚筋力	
			右	左	右	左
A 選手(男)	12/2	164	20	20	50	53
自由形	3/31	198	25.5	25.5	81	77
B 選手(男)	12/2	166	19.5	19	55	59
バタフライ	3/31	184	24	22.5	70.5	67
A 選手(女)	12/1	130	13.5	12	43.5	49
自由形	3/30	164	17.5	18	68	67
B 選手(女)	12/1	100	12.5	11.5	51.5	46
平泳	3/30	138	16	16.5	57	56

[田口正治]

# 飛 込 み

## 1. 総 括

### A. 東京大会の目標

東京大会の目標としては、具体的にいて、

- 男子飛板飛込み 5位
- 男子高飛込み 3位以内
- 女子飛板飛込み 4位
- 女子高飛込み 3位以内

におき、特に男女とも高飛込みにおいての上位入賞は、ローマ大会の経過からみて十分に可能な目標であったと思う。この目標達成に向かっての強化も、飛板飛込みより高飛込みに重点をおいて実施されたことはいうまでもない。強化の具体的な方法については後記することとし、成果についていえば、7名のコーチが各々の代表選手を受けもって行なった4カ年の成果は十分に上がったものと確信する。

### B. 強化活動開始当時のレベル

強化活動の第1年目はローマ大会の翌年、1961年であり、この時点における日本の水準は、男子の飛込み全体としてはアメリカ、ソビエト、メキシコなどに次いでドイツと肩を並べる高さであり、個人の順位としては、飛板飛込みが7位、高飛込みが5～6位程度とみられたが、これはあくまで推定であって、実成績となるとなかなかむずかしい。女子においては6位入賞の可能性は十分にあったという見方ができた。

### C. 4カ年の強化策の概要

さて、上記東京大会の目標達成への4カ年の強化策はまず第1年目においては、全国を東京、大阪、金沢、名古屋の4地区に大別し、これら各ブロックにおいて新人の開発を主体として各ブロックにおのおの指導者を指名し、既成選手の強化と併行して若い選手の開発に当てた。

第2年目は第1年目と同様な方法で強化を進めた。

第3年目は男女計22名のオリンピック候補選手を選出し、これを強化の対象として指導した。強化の内容は、特に基礎体力の増強に重点をおいて実施した。

第4年目は、前半4月までは第3年目に引きつづいて基礎体力の増強に主眼をおき、後半は競技の場で絶対に失敗しないことをねらいとした練習で1回1回の試技がそのまま本大会での競技につながっているという精神面での強化を主体として進めた。

### D. 東京大会の成績

上記の目標をめざして各種目に全力をそそぎ、万全の

体制をととえて大会にのぞんだが、結果は下表のような不満足な成績に終わってしまった。特に女子高飛込みに於いて15位というみじめな成績にとどまったことは、地元での競技会だけになんとしても残念な次第であった。

### E. メキシコ大会をめざして

目標を達成できず不満足な成績にとどまったことについてはいろいろ原因があるが、これらを十分に反省して次のメキシコへの目標を立てたいと思う。

種 目	順位	氏 名	得 点
男子飛板飛込み	11	土佐 忠雄	89.10
	21	山野外嗣夫	81.74
女子飛板飛込み	7	馬淵かの子	125.28
	9	渡辺久美子	120.34
男子高飛込み	8	大坪 敏郎	142.05
	11	金戸 俊介	91.31
女子高飛込み	14	有光 洋右	90.56
	15	大崎 恵子	45.20
	16	河合 初子	45.00
	18	渡辺久美子	43.50

## 2. 強化の記録

### 【1】 強化目標

#### (1) 年度別強化計画のねらい

##### ① 1961年度

#### A. 基礎体力強化

- a. 国立競技場室内体育館を使用し、体操による身体機能を飛込みにむすびつけるねらいで基礎体力強化を図る。
- b. トランポリンを採用し、特に捻りの基本にとり組むことを主眼にした練習を行なう。この時期にはツイスティング・ベルトがなく、効果は不十分であった。トランポリン指導は日本体育大学小田敏彰先生、吉本幸孝先生による。

#### B. 室内選手権

- a. 参加出場者の中から新人を発見することにつとめる。この時期から東京大会を考えた時には、新人を鍛えてという考えより、現役中から選手が生まれるだろうことは誰も考えたところと思う。
- b. わずかに男子においては、坂手昭治、有光洋右、女子においては大崎恵子選手等将来に期待を抱かせる素材を見いだしたにとどまる。

##### ② 1962年度

#### A. 基礎体力増強（前年度に同じ）

- a. 助走および跳躍力の練習

- b. トランポリンによるタイミング体得および捻りの基本練習
- c. 新人として未知数ながら男子の大坪敏郎選手がこの年の室内選手権にデビューした。

③ 1963年度

- A. 外国情勢の検討
- B. 国内目標を設定
- C. 候補選手の設定
- D. コーチ別グループ別指導強化方針を決定、実施

④ 1964年度

- A. 6月下旬～7月上旬に国内目標到達をめざす。  
そのままの力量を7月中旬の日本選手権において発揮させる。
- B. 選手選考、チームの結成
- C. 実戦的練習体制をしく
- D. コーチ別グループ別体制は前年度に引き続き本大会まで継続する。

(2) 年度別種目別到達目標記録

① 1961年度

- A. 国内全体の選手層の観察期間として競技会を見る。
- B. 日本選手権優勝者ないしは2位くらいまでがローマ大会6位程度の力量を示すにとどまる。
  - a. 男子飛板飛込みについては土佐忠雄
  - b. 男子高飛込みについては金戸俊介
  - c. 女子飛込みについては馬淵かの子、渡辺久美子選手
  - d. 女子高飛込みについては渡辺久美子

② 1962年度

- A. 強化対象男女22名全員が、ローマ大会6位程度の力量を備えることを目標とした。
- B. 多数の選手を一堂に集合させてのトレーニングに無理があつて、この目標に達することができなかった。

③ 1963年度

- A. コーチ、選手の連けいに選手強化の実をかける。
- B. コーチ別、グループ別、地域ブロック別制度をとる。
  - a. 早大グループ コーチ：馬場豊，選手：土佐忠雄 坂手昭治，谷口博
  - b. 日大グループ コーチ：坂本章八，小山俊治，選手：有光洋右，伊藤勝，金戸俊介，長東悦朗，田原和夫，堂久八
  - c. 日体大グループ コーチ：毛利元英，選手：渡辺久美子，大崎恵子，葛目千鶴子，大坪敏郎
  - d. 関西グループ コーチ：小柳富男，馬淵良，杉本又二，選手：馬淵かの子，河合初子，友江嘉代子 石黒のぶ代

C. 目標

- a. 男子飛板飛込み 140点
- b. 男子高飛込み 140点
- c. 女子飛板飛込み 125点
- d. 女子高飛込み 95点
- e. 個人的に個々の種目別について次のように目標をかかげた。

出場全員6位入賞を目標とする

男子飛板飛込み 6位～5位

男子高飛込み 6位～3位

女子飛板飛込み 6位～4位

女子高飛込み 6位～4位

④ 1964年度

- A. コーチ別、グループ別により強化を実施する。
- B. 日本選手権当時における目標と結果は下表の通り。

目 標	結 果
男 板 140	土佐 160.14 金戸 154.32 山野 149.30 長東 134.81
男 高 140	金戸 154.20 有光 153.21 大坪 149.45 土佐 148.58
女 板 130	馬淵 140.54 渡辺 134.41 大崎 125.02 葛目 123.23
女 高 95	渡辺 99.52 大崎 96.49 河合 93.55 友江 92.91

C. 選手決定

- a. 男子飛板飛込み：土佐忠雄，金戸俊介，山野外嗣夫  
男子高飛込み：金戸俊介，有光洋右，大坪敏郎
- b. 女子飛板飛込み：渡辺久美子，馬淵かの子  
女子高飛込み：渡辺久美子，大崎恵子，河合初子

c. 結果

決勝進出 女子：馬淵かの子，渡辺久美子

男子：大坪敏郎

(3) 年度別強化対象選手数，コーチ数

年 度	選 手 数	コ ー チ 数
1961	22	10
1962	22	10
1963	17	8
1964	17	8

【2】強化の施策

(1) 国際交流

① 選手の派遣

A. 1962年度

- a. 全米屋外選手権（および日独米3国対抗）  
 コーチ：馬場豊，毛利元英  
 選手：土佐忠雄，金戸俊介，山野外嗣夫，馬淵かの子，渡辺久美子

B. 1963年度

- a. 全米室内選手権  
 土佐忠雄，金戸俊介  
 b. ソビエト飛込み選手権  
 コーチ：小柳富男  
 選手：土佐忠雄（飛板優勝），馬淵かの子

C. 1964年度

- a. 全米室内選手権  
 コーチ：川島正之  
 選手：土佐忠雄，金戸俊介

② コーチの招へい

1963年度 6月20日より90日間，ドン・ハーパー氏を招いて指導をうけた。

3. 反省と将来の問題

【1】 反 省

(1) 強化5カ年の総括的反省

目標の入賞ラインに1名も到達できなかったことは誠に残念な結果である。各種目にかかげた目標に対して，第一線選手の土佐，金戸，馬淵，渡辺あたりのベテラン選手は，入賞どころか競技のなりゆきではさらに良い結果をも勝ち得られる力を備えていたので期待は大きかったが，大会時の各選手は不調になやんでいた。調子づくりについては，小柳監督を中心に幾度か検討，議論もし，これが最上だという方向づけは最後まで失なわなかったにもかかわらず，結果が悪かった原因は何であったろうか。

7月初旬の公式記録会では全選手が好調で，それまでの練習成果が現われた時を境に，以後日本選手権，東京国際スポーツ大会と調子下降がわずかながら続き，調子上昇気運になかなか乗りにくくなっていた状態のままオリンピック村入りをした。以後発熱選手が多かったこと，どれもこれも悪材料のみであった。要はコーチとして心理の指導の面で不十分な点があったと思うほかはない。競技が近くなり，選手が神経質になってきている時の心理把握の不足もあったと思う。

技術的に成長をみせてきていて，次に要求されるべき確実さ，強さの面でさらに1歩の踏み込みが不足だったと思う。技術の面でなく，エキサイトした競技の場で冷静に自己を打ち出す真の強さこそ，今後要求される大きな問題とみられる。

個人的には，技術面，基礎の解釈をもっと掘り下げる必要があるのではないか。力とスピードを正確にプレーに反映させる点はどうか。捻り種目の遅れを早急に解決しないと今後世界のトップ・レベルからはますます差がつくように考える。この点どう処理するか。また，入水技術についてもさらに研究を要すると思う。

メキシコ大会をねらう選手層については，特に以上のような反省事項を確実に解決消化することが大切である。

海外交流コーチについても，一貫した考えのもとにその成果が上がるよう配慮されたかどうかは，成績結果のみでは判断はできない。結果はコーチの責任だとうたわれた強化コーチなら，その選定にもさらに慎重でなければならぬともいえるであろう。

A級，B級というコーチの制度の問題にも疑問点はある。

反省といい疑問といい，今後改善されねばならない問題である。要するコーチもいっそうの勉強が必要であり長い忍苦の努力を傾むけない限り再び前者のテツをふむおそれもある。

【2】 将来の問題

(1) 反省に基づく将来の強化策

- ① 各選手の基礎体力の強化を早期年度において徹底的につくり上げることが，目下次回大会に対する急務であり，これなくしてメキシコ大会の目標は立て得ない。  
 ② ①に平行してエージ・グループの開発をどのような方法で実施すべきか，何年くらい先に最高目標点をおくべきかは今後十分検討を要し，その上で結論を出すべきである。  
 (柴原恒雄)

水 球

1. 総 括

ローマ大会では，アラブ連合3—3日本，ルーマニア4—1日本，イタリア8—1日本で2敗1引分となり予選で失格した（3試合で得点5，失点15）。得点率から予選落ちした8チームの順位を割り出すと13位となる。この結果からもわかるように日本チームは攻撃力の弱いチームであり，イタリア，ルーマニア等の強豪に対しては各々1点しかあげられなかった。

ローマ大会の体験をもとに東京大会への強化対策を検討した結果，①泳力，スタミナの強化，②パス・ワーク

の訓練，③シュート力の強化，④オールラウンド・システムの確立，⑤国際交流によるゲーム・センスの育成，⑥大型選手の強化育成の6点を基本方針として打ち出し，この方針に従って強化訓練を実施してきた。その結果，泳力，スタミナ，パス・ワーク，シュート力，いずれもローマ大会当時とは比較にならぬ向上を示し，さらにオールラウンド・システムも身につけて，東京大会でのチーム編成もゴール・キーパーを除いてフォワード7名，バックス2名という攻撃重点で，チャンスがあればどこからでも得点できる体制をとることができた。またゲーム・センスも外国コーチの招へい，国際交流により着実にあがったが，大型選手の強化育成だけはわずか4年間では短かすぎてどうにもならなかった（ローマ大会1m74，東京大会1m73）。

東京大会では6位入賞の目標は達成できず予選失格に終わったが，実力はローマ大会当時より向上した。すなわち東京大会では，イタリア5-3日本，ルーマニア9-4日本，得点7，失点14であった。また得点率から割り出してもアメリカに次いで第10位である。4年間の強化で6位入賞こそできなかったが，ローマ大会当時と比べて力がついたことは確かである。

一方，世界の水球界をみると，依然としてハンガリーを筆頭にユーゴ，ソビエト，イタリアの4強豪が接近した力を示し，メキシコ大会でもこの4カ国で優勝が争われるであろう。今大会の特色の1つは，欧州勢の充実に対するアメリカの弱体化である。技術的には，ローマ大会以後交替制が採用されたために全体の動きがはげしくなったことと，オールラウンド・システムがさらに強く求められるようになってきていることである。極言すれば，全員フォワードとさえいえるチーム編成をしている。

世界の水球界の動向も大きなルールの改正がない限りオールラウンド・システムが当分つづけられ，機動性が大きく勝敗を左右すると思われる。

今大会で目立った悪い面は，トリック・プレーがさかんに行なわれ，レフリーの公正な判断をまどわすようなプレーが従来よりも多く見られるようになったことと，格闘競技の様相を示す場面がしばしば見受けられたことである。

これを今後正道に引きもどすように努力しないと，やがては水球競技の行きづまりを見ることになるのではないかと心配される。

[鴉田 武]

## 2. 強化の記録

### 【1】強化目標

#### (1) 年度別強化計画のねらい

##### ① 1960年

ローマ大会の結果，次のことに重点をおき，強化委員会を発足させた。

- A. 東京オリンピック6位入賞
- B. 1962年アジア大会優勝
- G. プレーの強化，スピード化
- D. ローマ大会出場者の選手生活の継続
- E. 高校を含めた幅広い大型新人プレーヤーの発掘

##### ② 1961年

- A. 外国コーチによる基礎技術の習得
- B. 大型ゴール・キーパーの養成
- C. 海外試合および海外合宿（ブダペスト）

##### ③ 1962年

- A. 候補選手の準英才教育
- B. 冬期における体力強化
- C. 海外へのコーチ派遣
- D. 外国よりコーチ招へい（2回，4名）
- E. アジア大会出場（優勝）

##### ④ 1963年

- A. 候補選手を英才教育にきりかえる
- B. オリンピック・チームの母体づくり
- C. 海外交流による技術のスピード化
- D. 攻撃および防御のシステム確立

##### ⑤ 1964年

- A. スピードと耐久力をマッチさせ日本オリンピック・チームの最終強化
- B. 最終調整のための海外合宿

#### (2) 年度別到達目標と実績

年度	達成率	目標	摘要
1960	80%	アジア大会優勝 オリンピック6位入賞	ユニバーシアード7位 アジア大会優勝 国際スポーツ大会対ハンガリー1勝2敗
1961	80%		
1962	90%		
1963	90%		
1964			

#### (3) 年度別強化対象選手数，コーチ

年度	強化選手数	コーチ数	計
1960	40	3	43
1961	32	5	37
1962	27	5	32
1963	22	8	30
1964	17	8	25

【2】強化の施策

(1) コーチ制度

① 選定の基準

日本水泳連盟水球強化委員からの選出による。

② 組織と起用法

ヘッドコーチ..... 1名  
 EW, BW, GKのコーチ.....各1名  
 その他..... 1名  
 候補選手の母体チームの監督.....若干名

③ 名簿

1960年	1961年	1962年	1963年	1964年
鷗田 武	"	"	"	"
神田 明善	"	"	"	"
村瀬友三郎	"	"	"	"
	飯田俊太郎	"	"	"
	岩田 隆雄	"	"	"
			近藤 静夫	"
			佐藤 孝尚	"
			菅原 平	"

(2) コーチ会議

① コーチ会議の年度別回数と主なテーマ、参加コー

(4) 国際交流

① 年度別コーチ交流の実施と評価

年度	人名	行先	主な目的	期間	評価
1961	村瀬友三郎	ハンガリー 東ドイツ	技術習得, ヨーロッパ選手権視察	7月~8月	ヨーロッパ各国の作戦を研究
1961	R. プーチェチック	ユーゴ	基礎技術	60年10月~ 61年2月	基礎テクニックを習得する
1962	V. ライキ	ハンガリー	フォーメーション	61年2月~ 4月	泳ぐ水球を指導される
1963	E. ビルッドシテイン H. シェパーズ F. オッセルマン	西ドイツ	実戦指導	63年2月~ 3月	ローマ大会出場の若手コーチ, ゲームをともし行なう

② 選手の交流 (監督, コーチを含む)

年度	主な目的	主な成績	期間	年度	主な目的	主な成績	期間
1961	ユニバーシアード ブルガリア(12名) 海外合宿 (ハンガリー)	84チーム参加中 7位	61年 8月~ 9月	1963	ヨーロッパ遠征 14名	対南ア 0勝1敗 対ハンガリー 1勝3敗 対西ドイツ 2勝2敗1分 対オランダ 1勝1敗	63年 8月 ~ 9月
					ユニバーシアード 11名 アメリカ親善試合 ブラジル親善試合	54チーム参加中 4位 2勝 2勝	63年 8月 ~ 9月
1962	アジア大会 11名 (イスドネシア)	優勝	62年 8月	1964	海外合宿 ハンガリー 10名		64年 7月

チ数

年度	主なテーマ	参加コーチ数	場所
1961	基礎技術について	25	東京
1962	基礎体力について 海外報告など	20 34	"
1963	作戦などにつき 技術につき	11 29	新潟 東京
1964	テクニクにつき 作戦などにつき	16 30	東京 長野

② その他の研究会

A. 基礎技術および体力について

ユーゴのコーチと懇談 (1962年, 66名)

B. ヨーロッパにおける水球の方向等について

ハンガリーのコーチと懇談 (1962年, 34名)

C. 実戦におけるテクニクおよび各国水球の戦法など

についてドイツのコーチと懇談 (1963年, 50名)

D. 作戦会議 (週1回, 200名)

(3) 強化合宿

年度	開催場所	回数	参加人員(延)	
			選手	コーチ
1960	東京(5) 長野(2)	7	2,350	438
1961	東京(7) 長野(2)	9	2,128	363
1962	東京(5) 長野(2)	7	2,400	480
1963	東京(5) 長野(2)	7	2,200	440
1964	東京(4) 長野(2) 新潟(1)	7	1,484	470
計		37	11,562	2,191



## オリンピック水泳代表強化コーチ

氏名	年齢	勤務先	田中正一	吉原市商高
競 泳			裏辻賢子	筑紫女高
古賀学	29	東京トヨペット	飛 込	
橋爪四郎	35	東京スタジアム	毛利元英	48 日体大講師
藤垣亮太郎	40	電 通	坂本章八	31 ミツワ送風機
長沢二郎	32	ゼネラル物産	小山俊治	28 第一自動車
倉橋範彦	30	吾 婦 製 鋼	馬淵良	31 長野電鉄
鈴木茂二郎	34	法政二高	馬場豊	国土計画
末広力		柳井商工	杉本又二	大阪教委
佐藤幸男	32	中央大学	水 球	
黒佐年明	40	八幡製鉄	神田明善	自 営 (食堂)
平山綽保	31	勝村建設	村瀬友三郎	三井精機
青木行義	29	B S タイヤ	飯田俊太郎	ラジオ東京
北村康雄	31	東邦レーヨン	岩田隆雄	法政大学

### 3. 反省と将来の問題

#### 【1】強化5カ年計画の総括的反省

- (1) 強化合宿が長期にわたったために新鮮味にかけ、マンネリズムにおちいりやすい状態になったことがあったので、この点環境の変化等を十分配慮する必要がある。
- (2) あまりにトップ・グループに力を入れすぎたために、選手に悪影響をおよぼした。つまり国内の大会に出場する場合に常に選抜チームでやったため、どんな悪い状態になってもどの試合にも勝つことができた。そのために選手に安易感をいだかせる結果となり、本大会で1点を争う接戦の場で気力負けを喫するような結果になったが、今後はあまり長期にわたって選手を把握せず、適時所属チームに帰して母体チームの強化も考えて両面の強化を行ない、選手自体にきびしさを植えつけねばならない。
- (3) 外国コーチの招へいに関して一貫性がなかったこと、これには予算面等の関係もあったが、初めに招へいしたユーゴのレナトー・コーチに再度コーチをしてもらい、前回で教え切れなかったことを次の機会に指導してもらい、1本の線で押し進めるべきであったと思う。今後このような機会があれば、2度とこのような失敗のないように心がけねばならない。
- (4) 5カ年計画では、完全に体質改善された強力なものができ上がらなかった。換言すれば、われわれが目標

とするチームを作るにはやはり時間が足らず、未完成のままに本大会にのぞむことになったので、今後はやはり10年計画のような長期計画をたて、高校の1年生くらいから本格的な訓練が実施できるような体制にし、簡易ルールを作成して小、中学生に水球の初歩を教えるようにしていかなければならない。

#### 【2】将来の強化策構想

- (1) 競技人口の拡充と指導者の養成
- (2) 高校、大学の質、量の向上
- (3) 指導理論の一本化および指導方法の確立
- (4) 競技会回数を増してゲーム・センスの育成を図ること
- (5) 大型選手の発掘および育成
- (6) 国際交流により技術の向上を図ること

### 4. トレーニング法と技術の研究

- (1) 攻撃におけるスプリン・プレーの研究
- (2) ゴール・ディフェンスに対する攻撃の研究 (ヨーロッパにおける3:3のシステムを4:2に変形)
- (3) ゴール・キーパーの守備に関する研究 (16mmフィルム使用)
- (4) 泳力に附加重することによる泳耐力の研究
- (5) 水中格技に合気道を応用する研究

(鴉田 武)

# オリンピック日本選手団報告書

役員選手団総監督	高	石	勝	男
ヘッド・コーチ	田	口	正	治
男子競泳コーチ	村	上	勝	芳
女子競泳コーチ	岡	田	正	一
飛込コーチ	小	柳	富	男
水球コーチ	鷲	田		武

## 競 泳

### 1. 選手団編成の経緯

#### (A) 選手選考の経緯

J.O.C. において決定された競泳、飛び込み、合わせて48名の選手の選考に当り、次のような諸点が配慮された。

##### (1) 選手決定の時期

オリンピック水泳競技が行なわれる10月11日～18日は平常年度のいわゆるオフシーズン中である。わが国のみならず世界各国においても水泳競技のシーズンは6月初旬から8月を中心として計画され、9月初旬おそくも中旬を以て終了するのが従来の慣習であって、選手はそれ以後休養の時期にはいり、アメリカのように2シーズン制をひいている国々の選手は、12月から再び冬期の水泳シーズンにはいる。いずれにしてもその休養の時期である10月の中旬にオリンピック大会が開始されるので、本年に限り水泳競技のシーズンが1か月も延長されることになる。しかも選手のトップ・コンディションを10月中旬にもって来る必要があった。しかるに選手について考えれば先ず代表選手の資格を獲得することが最重要なので、そのほとんどが選手選考を兼ねて行なわれる日本選手権水泳大会に最高の体調を以て当たることが予想された。比較的短期間である水泳シーズン中に選手がコンディションのピークを二つ持つことは極めて困難である。日本水泳連盟は慎重に考慮の結果、日本選手権大会の開催期日を例年より1か月繰り上げて、7月9日より12日にわたる4日間に行なうことを決定した。その理由はさきに述べたように一度ピークに達した選手の疲労を回復さすに必要な休養期間、及び練習再開後ピークをとりもどすに必要と思われる日数の合計を凡そ60日と考え、オリンピック競技の開始される日から逆算して出た答が

上期の日程となったのである。代表選手を決定したあと水泳競技の最盛期である7月中旬から8月初旬にかけてオリンピックという大きな目標にはりきっている選手を休養のため完全に水から離すことはある意味ではむしろ過酷であったが、これらを厳重に行なわない限りオリンピック時に次のピークを作ることは困難であるとの見界のもとに完全な休養を採らせることとした。

##### (2) 選手選考の人数の区分

選手選考のための日本選手権大会を前述のような理由で比較的是やい時期に繰り上げたため日本水泳連盟が行なう主な行事のほとんどが以後の2か月間に行なわれることになった。水泳競技の特徴として中学、高校の選手など比較若い選手は急激な伸びを示すものであるの、その後に行なう国民体育大会（新潟地震のため中止となった）、全国中学校、全国高校、全国勤労者等の大会も選手選考の競技会と見なし、特によい成績を出した者を代表選手に追加選考することとした。

#### (B) 日本選手権大会兼オリンピック選手選考会の成績

オリンピック代表選手選考会を兼ねて行なった日本選手権水泳競技大会の種目別成績は次の通りである。

(1) 男子の部 (○印は代表に選ばれたもの、候は候補、準は準候補選手であった)

##### 100m 自由形

					本大会中の 最高記録
(1)	○	岡部 幸明	候	55秒4	55秒2
(2)	○	後藤 忠治	"	55秒5	55秒3
(3)	○	石原 勝記	"	55秒7	
(4)	○	藤本 達夫	"	55秒8	55秒3
(5)	○	福井 誠	"	55秒9	
(6)	○	庄司 敏夫	"	56秒1	55秒9
(7)	○	岩崎 邦宏	"	56秒5	56秒0

## 200m 自由形

(1)	○	藤本 達夫	候	2分02秒8	
(2)	○	山中 毅	"	2分02秒9	
(3)	○	岡部 幸明	"	2分02秒9	
(4)	○	吉無田春男	"	2分02秒9	2分02秒8
(5)	○	福井 誠	"	2分02秒9	
(6)	○	山影 武士	"	2分03秒3	

## 400m 自由形

(1)	○	山中 毅	候	4分20秒2	
(2)	○	山影 武士	"	4分23秒3	
(3)	○	吉無田春男	"	4分26秒2	
(4)		中野 悟	"	4分26秒3	
(5)		佐々木末昭	"	4分26秒7	
(6)		岩本 和行	"	4分27分2	

## 1500m 自由形

(1)	○	佐々木末昭	候	17分22秒4	日本新
(2)	○	中野 悟	"	17分43秒5	
(3)	○	岩本 和行	"	17分51秒6	17分40秒4
(4)		山田 忠信	"	17分53秒0	
(5)		靱山 稔	"	17分53秒3	
(6)		渡辺 恒夫	準	18分10秒2	

## 200m 平 泳

(1)	○	松本健次郎	候	2分33秒0	
(2)	○	鶴峰 治	"	2分33秒1	
(3)	○	敷石 義秋	"	2分33秒9	
(4)		吉田 正昭	"	2分34秒2	
(5)	○	石川 健二	"	2分34秒2	(100m 平泳 1位)
(6)		山南 宏一	"	2分35秒6	

## 200m 背 泳

(1)	○	福島 滋雄	候	2分16秒2	
(2)	○	大隈 潔	"	2分17秒7	
(3)	○	伊藤 圭祐	"	2分18秒8	
(4)		五十嵐武清	"	2分19秒2	
(5)		田中 広征	"	2分20秒2	
(6)		林 祐士郎	準	2分20秒2	

## 200m バタフライ

(1)	○	佐藤 好助	候	2分11秒9	
(2)	○	中島 功	"	2分14秒5	
(3)	○	門永 吉典	準	2分14秒5	
(4)	○	大林 敦	候	2分15秒8	(100m バタフライ 1位)
(5)		杉本 紘一	準	2分16秒1	
(6)		山野内伸二	候	2分16秒4	

## 400m 個人メドレー

(1)		田井 次郎	準	5分09秒2	
(2)		藤丸 靖久	"	5分09秒6	
(3)		片岡 輝男	"	5分20秒6	

## (2) 女子の部

## 100m 自由形

(1)	○	木原美知子	候	1分03秒8	日本新
(2)	○	木村トヨ子	"	1分04秒7	
(3)	○	東 美代子	"	1分05秒4	
(4)	○	浦上 涼子	"	1分05秒4	
(5)	○	菊谷多鶴子	"	1分05秒7	

## 400m 自由形

(1)	○	早川 一枝	候	4分51秒9	日本新
(2)		簾 千枝子	準	5分10秒4	
(3)		内田 久江	"	5分10秒9	

## 200m 平 泳

(1)	○	山本 憲子	候	2分54秒7	
(2)	○	森実 芳子	"	2分57秒0	
(3)		松田奈津子	"	2分59秒1	

## 100m 背 泳

(1)	○	田中 聰子	候	1分09秒5	
(2)	○	木原美知子	"	1分10秒5	
(3)		松永 涼子	準	1分14秒6	

## 100m バタフライ

(1)	○	高橋 栄子	候	1分10秒4	
(2)	○	佐藤 公子	"	1分10秒7	
(3)	○	斎藤 弘子	"	1分10秒7	
(4)		石井 雅子	"	1分10秒9	

## 400m 個人メドレー

(1)	○	松田奈津子	候	5分46秒7	
(2)	○	江坂 君子	"	5分47秒8	
(3)		村松美智子	準	5分52秒6	

## (C) 代表選手決定の経過

日本水泳連盟は選考委員会を開き37名の選手をオリンピック代表に選んだ。なお選考事情は次の通りである。

## (1) 男子の部

競技成績の中、オリンピックと同じ種目の上位3名を代表選手に選ぶことを原則的に決定した。ただし400m

個人メドレーだけは国際水準と比較してオリンピック時における予選通過の希望も薄いので全員選考からはずした。

自由形短距離はオリンピック種目中に 100m 自由形、400m リレー、800m リレー、400m メドレー・リレー等、短距離泳者を多数必要とするので、100m 自由形の上位7名を選考することにした。また、400m メドレー・リレー要員として 100m 平泳および 100m バタフライの優勝者を代表に加えた。

## (2) 女子の部

オリンピック時において予選通過の可能な範囲で選手を厳選する方針をとり、先ず 400m リレー要員として 100m 自由形の入賞者4名を代表に選び、中距離は早川一枝1名を採り2位以下は選考からはずした。400m 個人メドレー、平泳及び背泳は各上位2名にしぼり、比較的好記録のそろったバタフライのみ3名を選考することとした。

当日選考された代表選手は次の通りである。

### (1) 男子選手

#### 自由形短距離

岡部 幸明 (蝶理株式会社)	23才	
後藤 忠治 (大丸百貨店)	23才	
石原 勝記 (B.S. タイヤ)	25才	
藤本 達夫 (松下電器)	24才	
福井 誠 (八幡製鉄)	24才	
庄司 敏夫 (B.S. タイヤ)	24才	
岩崎 邦宏 (早大)	20才	以上7名

#### 自由形中距離

山中 毅 (大洋漁業)	25才	
吉無田春男 (八幡製鉄)	24才	
山影 武士 (明大)	19才	以上3名

#### 自由形長距離

佐々木末昭 (中大)	21才	
中野 悟 (桜宮高校)	17才	
岩本 和行 (柳井商工高校)	16才	以上3名
		自由形 計13名

#### 平 泳

松本健次郎 (早大)	21才	
鶴峰 治 (海上自衛隊)	23才	
敷石 義秋 (松下電器)	23才	
石川 健二 (日大)	18才	以上4名

#### 背 泳

福島 滋雄 (日大)	21才	
大隈 潔 (明大)	22才	
伊藤 圭祐 (早大)	20才	以上3名

#### バタフライ

佐藤 好助 (八幡製鉄)	22才	
大林 敦 (中大)	21才	
門永 吉典 (柳井商工高校)	17才	
中島 功 (B.S. タイヤ)	23才	以上4名
		男子選手 合計24名

### (2) 女子選手

#### 自由形短距離

木原美知子 (山陽学園)	16才	
木村トヨ子 (八幡製鉄)	18才	
東 美代子 (ロート製薬)	19才	
浦上 涼子 (筑紫女学園)	17才	以上4名

#### 自由形中距離

早川 一枝 (吉原商高校)	17才	
平 泳		
山本 憲子 (八幡製鉄)	20才	
森実 芳子 (筑紫女学園)	16才	以上2名

#### 背 泳

田中 聰子 (八幡製鉄)	22才	
木原美知子 (前掲)(山陽学園)	16才	以上2名

#### バタフライ

高橋 栄子 (別府大)	19才	
佐藤 公子 (日本楽器)	18才	
斎藤 弘子 (中京大)	19才	以上3名

#### 個人メドレー

松田奈津子 (五条高校)	17才	
江坂君子 (中京大)	20才	以上2名
		女子選手 合計13名

なお残余3名の選手についてはその後に行なわれた競技会の成績を対象にして9月1日選考委員会を開き、次の2名を競泳選手に追加し、残りの1名は飛び込み選手の追加に振り当てた。

#### 男子長距離

藤島 祥三 (早大)	19才	
------------	-----	--

#### 女子短距離

菊谷多鶴子 (五条高校)	17才	
--------------	-----	--

藤島は8月30日岐阜市で行なった公式記録会の1500mを17分34秒5(日本選手権大会の1位に次ぐ好記録)で優勝したので追加した。菊谷は日本高校大会の100m、200m自由形に優秀な記録で優勝したので400mリレーの要員および中距離選手として代表に加えた。以上で男女合計39名の全選手が決定した。

### (D) 監督、コーチ等役員の選考

日本水泳連盟は競泳選手の選考と同時にオリンピック競技までの2か月間の強化合宿練習から、最後はオリンピック競技終了迄一切の指導に当る諸役員の選考を次の

通り行なった。

水泳選手団々長	高石 勝男
“ マネジャー	北村 康雄
競泳選手団総監督	田口 正治
“ マネジャー	佐藤 幸男
“ トレーナー	鈴木茂二郎
男子競泳ヘッド・コーチ	村上 勝芳
男子競泳自由形短距離コーチ	古賀 学
“ “ 中距離 “	橋爪 四郎
“ “ 長 “	末広 力
“ 平泳コーチ	藤垣亮太郎
“ 背泳コーチ	倉橋 範彦
“ バタフライ・コーチ	長沢 二郎
女子競泳ヘッド・コーチ	岡田 正一
“ 自由形短距離	青木 行義
“ “ 中	田中 正一
“ 平泳コーチ	平山 綽保
“ 背泳コーチ	黒佐 年明
“ バタフライ・コーチ	岡田 正一
“ シャペロン	裏辻 賢子
調査コーチ	浦井 保弘
“	井上 隆

上記役員は日本水泳連盟が昭和36年以来3年余にわたり東京オリンピックに備えて行なった選手の強化活動にコーチとして長期間献身的な努力を続けた者ばかりで、

- ① コーチ間の団結
- ② コーチと選手の緊密なつながり
- ③ 選手各々の練習に必要な個性の理解

等の諸点から最適の人選であったと考える。

なお、J.O.C. が日本選手団結成後は役員人数の制限のため、下記4名が選手団役員となり、他は全員J.O.C. コーチ団に編入された。総監督高石勝男、ヘッド・コーチ田口正治、男子コーチ村上勝芳、女子コーチ岡田正一。

## 2. 選手決定後の活動

7月12日代表選手決定後いよいよオリンピックに直結する最終の合宿練習にはいる段階に立ち到ったが、当初の計画に基づき日本選手権まで合宿に次ぐ合宿で疲労のはげしい選手に先ず休養を与えるため全員帰郷させることとした。7月20日日本水泳連盟では強化本部会を開催し、オリンピック競技の開始までの強化計画を確認し次の通りの方針を決めた。オリンピック水泳競技が開始される10月11日に最高の調子を整えるのに適当な鍛練期間をほぼ2ヵ月と推定して選手決定後初の合宿開始期日を8月10日と決定した。従って高校選手を除く他の選手は全員8月9日まで完全な休養をとらせることとした。

ただし選手はその間従食休養するのではなく腕、あるいは脚など選手個々の弱点を矯正するための陸上トレーニングは日課として与えた。8月5日から4日間はそれぞれの種目別に集団休養合宿を行ない、10日からはじまる合宿に備えて体力の調整を行なった。8月10日以後10月10日に至る60日間を3期に分け合宿練習を次の通り行なうこととした。

第1次合宿 8月10日～29日

男子 長野県下諏訪町、女子 長野県中野市

第2次合宿 9月4日～19日

男子 別府室内プール

女子 北九州市八幡室内プール

第3次合宿 9月23日～10月5日

男女とも第2次に同じ場所で行う。

第1次合宿の目標は本格的な練習にはいるための予備として、前半は体調を整えるための陸上トレーニングを併用し、長い距離を十分に泳ぎ込むことを主眼とした練習を行なった。この期間は暑中なので体力の消耗を避けるため比較的涼しい場所を選び、男女とも長野県に適当な合宿地を求めた。幸い下諏訪町および中野市の中学校に50mプールが新設され、両市町の好意によってオリンピック選手の練習に自由に使用が許されたので十分合宿練習の目的を達することができた。第2次合宿は競技会に備えて終始スピードを主眼とした練習を行なった。ただし、この合宿期間は急に気温水温がさがり、雨天の日などでは練習に支障する程温度が下るので万全を期して室内プールを使用することに決定した。また、オリンピック・プールの完成の日時は明らかでなく、恐らくオリンピックぎりぎりまで遅延し十分に使用は出来ないものと考えて別府および北九州市（八幡）の両50m室内プールで合宿練習をすることに決めた。第3次合宿は2次合宿ですでに完成した泳力に引き続きスピードを主眼としたインターバル・トレーニングに加えて、レイスコースをひきながら選手の体調整備に専念した。ただしこの合宿のはじまる頃にはオリンピック・プールも完成し、自由に使用することが出来る筈であるが、25、6日頃から来日する外国選手の練習に多くの時間を割り当てるため、いつのオリンピックでも練習プールを得るのに困った前例から、オリンピック・プールで大切な競技会前の練習が十分に行なえないこともあり得ると考え、地の利を活かして第3次合宿も日本選手だけが専用出来る別府と八幡の両プールを引き続き使用することに決定した。10月1日に行なわれる日本選手団の結団式にも競泳選手は参加せず、それぞれの種目がはじまる5日前に九州を離れ、オリンピック村に入村させる方針を決定した。

前述の通り9月1日の追加選手の決定により全選手

(競泳, 飛び込み, 水球)が確定するので, 日本水泳連盟は9月2日水泳選手団の結団式を東京において行なった。長野県での第1次合宿を終えて第2次合宿地の九州への途次, 男女競泳チームが東京に集結する機会を利用して, 未だ最後の仕上げ工事中のオリンピック・プール(9月5日にプール開きの儀式が行われたが, その後も細部の仕上げ工事に追われていた)で試泳を行なって, 一応新設プールを経験した上で九州に出発させることを考え, 関係先の御了解を得て9月2日から5日までオリンピック・プールで泳ぐ経験が出来たのは幸いであった。

### 3. 競泳競技の経過

水泳競技は開会式に引き続き, その翌日の10月11日から開始され全日程8日間18日に終了した。競技は午前午後の2部に分けて行なわれ, 午前の部は9時30分に始まり, 午後1時半ないし2時頃に終わった。そのあと観衆の入れ替えのため観覧席その他場内の清掃整理を行なう時間を十分に置いて, 午後の部は午後5時30分から9時30分ないし10時の間に行なわれた。決勝レースはほとんど午後の後部に行なわれたため, 競技終了後夕食をとり, 入浴など済ませると12時近くになる日が多かった。スタンド収容能力の2倍の観衆を収容し, 入場収入も2倍に増加するけれど, 現在の人間がもつ最高の力を試すオリンピック競技では選手やコーチがそうしたことでコンディショニングに悩まされては本末転倒なのではなかろうかと考えさせられた。各競技の経過は次の通りである。

#### 男子の部

##### 100m 自由形

参加選手数 66名 (34か国)

予選の組数 9組

日本選手 岡部幸明, 藤本達夫, 後藤忠治

100m自由形予選は競泳競技のトップを切って初日の午前9時40分から行なわれた。予選9組の選手中から上位24名が準決勝に進み, 準決勝の上位8名が決勝という方法がとられた。後藤選手は予選の第3組に出場, 55秒8でその組の2着, 岡部選手は55秒4で第5組の2着, 藤本選手は55秒8で第7組の1着となり, 揃って準決勝進出の資格を得た。岡部選手の55秒4は準決勝に進んだ24名中の10位後藤選手, 藤本選手はそれぞれ18位と19位であった。引き続きその日の午後7時45分から24名を3組に分けて準決勝が行なわれた。岡部選手は55秒2の日本タイ記録で第1組の3着, 後藤選手は55秒6で同じ第1組の5着, 藤本選手は55秒8で第3組の6着となった。

選手名	記録	順位	昨年度の最高記録と世界ランキング順位
岡部	55秒2	11位	15位(55秒4)
後藤	55秒6	13位	18位(55秒5)
藤本	55秒8	16位	72位(56秒8)

以上の成績で全員準決勝で落選失格した。決勝に勝ち進んだベスト・エイトの記録はイルマン選手(アメリカ)の53秒9を頂点としてヤコブセン(ドイツ)ドバイ(ハンガリー)の54秒8までであった。岡部選手は後半よくスパートして前2者に迫りながら10mを残すあたりで大きくローブに腕をとられ失速したため, 54秒台の日本新記録を作るチャンスと僅差で決勝進出の希望を果せなかったのが悔やまれた。さすがに優勝候補のショランダー(米), クライン(独)などは準決勝でさえ余裕を残しながら泳いでいるのが印象に残った。決勝は第2日目の最後に行なわれて予想通りショランダーが初の金メダルを獲得した。100m自由形は距離が短かいだけに思わぬ結果が出るのがままあるレースなのだが, 今回は2位のマグレガー(英), 3位のクライン(独), 4位のイルマン(米), 5位のゴットバル(仏)など一応定評のある選手が入賞しいわば波乱のない結果であった。

##### (2) 400m 自由形

参加選手数 49名 (26か国)

予選の組数 7組

日本選手 山中毅, 吉無田春男, 山影武士

400m自由形予選は第4日目の午前の部12時10分から開始された。吉無田選手は第1組に出場, 4分28秒8でウインドル(豪)についで2着となり, 山中選手は第4組に出場, 4分21秒1で1着であった。山影選手は第5組に出場, 4分27秒8で3着となった。

予選の成績は次の通りである。

選手名	記録	順位	昨年度の最高記録と世界ランキング順位
山中毅	4分21秒1	8位	3位(4分19秒7)
山影武士	4分27秒8	16位	30位(4分27秒6)
吉無田春男	4分28秒8	17位	12位(4分25秒6)

かくて山中選手がベスト・エイトの最下位の8位で決勝に進み他の2選手は16位及び17位となり予選で失格した。なお1組で1着のウインドル(豪)も4分21秒6の記録で全体の9位となり落選した。2組に出場したサアリ(米)もウインドル同様力をセーブして泳ぎ4分20秒0でうやうや第2組で1着にはなったが, 全体の第7位であぶなく入選はしたものの, 一時はこれも失格かとあわてていたようだった。昨年度の世界ランキングに山中選手が4分19秒7で3位であったのが示すように, 4分

20秒前後で泳げば必ずベスト・エイトに残れると油断したのも一応うなずけるが、優勝を目指し、はげしいトレーニングを続けた世界中の精鋭が集まって特殊なふん囲気の中で行なわれるオリンピック競技ではかくれた新鋭、ダークホースが現われる可能性が極めて多く、しかもすべてタイムレースである以上予選といえども油断は絶対に許されない。ウィンドルの失格はまことによい教訓であった。事実、このレースで決勝に進出した独のウェイガン、ソ連の新人ベリックなどはその伏兵の部類に属する存在であった。400m自由形の決勝は5日目の午後8時30分から行なわれた。山中選手は300mまで最下位であったが、最後によく力泳して2人を抜き6位に入賞してよく彼の面目を保ったのは賞すべきであると思う。彼の過去の経歴からすればもちろん満足すべき成績でないにしても、最盛期を過ぎた彼が、ラストの100mにふりしぼった力の根源は彼の根性以外の何ものでもなく、むしろ悲壮でさえあった。彼に続く若い力をつくり出せなかった日本水泳連盟の責任を痛感させられた決勝レースであった。

なお、決勝の結果は次の通りである。

- ① ショランダー (米) 4分12秒2  
(世界新, オリンピック新)
- ② ウェイガンド (独) 4分14秒9
- ③ ウッド (豪) 4分15秒1
- ④ サアリ (米) 4分16秒7
- ⑤ ネルソン (米) 4分16秒9
- ⑥ 山中 (日) 4分19秒1
- ⑦ ヘーガン (豪) 3分20秒2
- ⑧ ベリッツ (ソ) 4分21秒4

(3) 1500m 自由形

参加選手数 38名 (22か国)

予選組数 5組

日本選手 佐々木末昭, 中野悟, 岩本和行

短距離の100mで始まった競泳競技は長距離の1500mを最後の方にとスケジュールが組まれて、このレースの予選は第6日目(10月16日)の午後5時30分に開始された。まず第1組に岩本選手が出場し、17分52秒7で3着となり、佐々木選手は第2組に出場17分28秒8の記録で米のサアリと接戦したが1秒8の差で2着となった。中野選手は第5組に出場17分40秒4で2着であった。

予選におけるわが選手の成績は次の通りである。

選手名	記録	順位	昨年度の最高記録と世界ランキング順位
佐々木末昭	17分28秒8	5位	3位(14分27秒6)
中野悟	17分40秒4	11位	24位(17分57秒4)
岩本和行	17分52秒7	13位	20位(17分51秒6)

決勝に残るのは8位までなので、佐々木選手は5位で決勝に進んだが、若い伸び盛りの高校選手が揃って期待に反し落選してしまった。特にスプリットもあり、体力に恵まれている中野選手は練習中の好調から考えて少なからぬ期待を持っていたが、完敗に終わったのが、やや意外であった。決勝は第7日目の午後9時5分から開始された。出場した選手は米豪が各3名のほかにわが佐々木選手とハンガリーのカトナの8名であった。豪のウィンドル、ウッドが猛烈なスピードで飛び出し、500mでは第二線をひくサアリ、ネルソン、ファーレイの米のトリオを約6m離して先行した。100mごとのラップタイムは1分7秒前後の速いスピードで、このまま続けば16分50秒前後の大記録が出るのではないかとさえ思われた。佐々木選手もよく頑張って1分9秒程度のラップで泳ぎ続け、よく6位を堅持した。1200mを過ぎて、フェーガン(豪)が佐々木選手とならび、1300mではフェーガン、佐々木、サアリの順でターンをしたが、フェーガンと佐々木は0.4秒の差、佐々木とサアリも0.4秒の差というほとんど3人が並行した。最後には若いフェーガンが佐々木を2秒9抜いて5位となったが、佐々木もよく頑張って、1400mでも、そのままを保ち続け、最後にはサアリを3秒9、約5m抜いて6位に入賞した。1位から4位までは豪のウィンドル、ウッド、米のネルソン、ファーレイの間で争われた。豪州の2人は最初から飛び出し戦法をとったのに反し、若い米の人は、オリンピック直前に16分58秒7の初めて17分を割る大記録を作ったサアリを徹底的にマークして、サアリについて泳ぐ作戦をとったと思われる。ところがそのサアリが不調で豪州勢から遅れるばかり、1000mでは豪州の2人が10分7秒2と7秒9で先頭を争っているのに、米のネルソンは14秒5と10m以上の差がついた。その差は1300mまで続いた。サアリに見切りをつけたネルソンの力泳はすばらしく、1450mではついに2位のウッドをとらえ、ぐんぐん1位のウィンドルに迫ったが、ラスト・スパートに移った時既に遅く、ウィンドルには追いつけず、決勝点でなお4m余りの差があった。いつまでもサアリにこだわったのが失敗であったと思われるが、16歳の新人であり、優勝候補と見なされていたサアリさえ抜けば優勝出来ると考えたのも一応理解出来ることであった。それにしても豪州のウィンドル、ウッドの思い切った飛び出し作戦は立派であった。ともに自己の最高記録で金銅メダルを勝ち取った勝因は、乾坤一てきこれにかけた斗魂と根性であった。積極果敢に泳いだ豪、消極的だった米、極めて対象的であった。先んずれば人を制するよい好例である。1500m自由形決勝の100mごとの着順は次の通りである。ウィンドルがこのような思い切った挙に出た原因

選 手 名	100 m	200 m	300 m	400 m	500 m	600 m	700 m	800 m	900 m	1000 m	1100 m	1200 m	1300 m	1400 m	1500 m
ウ イ ン ド ル (オーストラリア)	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ネ ル ソ ン (ア メ リ カ)	4	4	4	4	4	5	3	3	3	3	3	3	3	3	2
ウ ッ ド (オーストラリア)	5	3	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	3
フ ァ ー レ イ (ア メ リ カ)	1	2	3	3	3	3	5	5	5	5	4	4	4	4	4
フ ェ ン ガ ン (オーストラリア)	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	5	5
佐 々 木 (日 本)	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
サ ア リ (ア メ リ カ)	3	5	5	5	5	4	4	4	4	4	5	5	5	7	7
カ ト ナ (ハ ン ガ リ ー)	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8

は 400m の予選で失格するという思わぬ失敗による奮起であろうが、徒らに自己の安全なペースを守って進歩は得られないし、栄光にも恵まれない好個の範例であろう。

#### (4) 200m 平泳

参加選手数 35名 (19か国)

予選の組数 5組

日本選手 松本健次郎, 鶴峰治, 敷石義秋

200m 平泳予選は大会3日目午後から開始された。鶴峰選手が第3組に出場、2分34秒1で2着、続いて松本選手が2分33秒8で第4組の1着となった。敷石選手は世界記録保持者である米のジャストレムスキーとともに第5組に出場、2分32秒3の日本新記録で2着となり、全員揃って上14位名の中にはいり準決勝に進んだ。

予選全組の総合順位は次の通りである。

選 手 名	記 録	順位	昨年度の最高記録と 世界ランキング順位
松本健次郎	2分33秒8	8位	3位(2分32秒6)
鶴峰 治	2分34秒1	9位	28位(2分38秒9)
敷石 義秋	2分32秒3	6位	8位(2分34秒4)

準決勝は4日目の午前の部の最後に予選を通過した16名を2組にわけて行なわれた。

鶴峰選手は1組に出場、2分33秒3で4着、松本、敷石両選手は2組に出場、2分34秒3、2分34秒5でともに予選の時より悪く5着、6着となった。総合的には

鶴峰 治	7位
松本健次郎	9位
敷石 義秋	10位

となり、鶴峰選手だけが決勝に残った。決勝は午後8時5分から、この種目に優勝の望みをかけているソ連の3名、米の2名、豪、日、独の各1名の8選手で行なわれた。各選手とも予選準決勝のときとは比較にならぬほど急ペースで泳ぎ進み、100mのターンでは鶴峰は先頭の集団とは3m遅れてしまった。然し後半よく頑張り2人を抜き、2分33秒6の記録で6位に入賞した。平泳ぎでは比較的世界の水準に近い選手を豊富に持っている

ものの、2分30秒を割る選手がいないので上位入賞は望めないまでも、少なくとも2名が決勝に残ることを期待していた。松本選手が意外に振わず、新進の鶴峰選手ひとりが決勝に残ったところに不運があった。鶴峰選手は少なくとも2分30秒に近い力を出せたのではなかったかと思う。結局全部の責任が鶴峰選手ひとりにかかったので、レースの直前でもひどくエキサイトしている様子であった。前半に思い切って飛び出そうとしても、ただあせるだけで手足が空回して水に乗れなかったと鶴峰自身も悔んでいたが、前半について行けなかった精神的なあせりが返って彼の手足の動作を鈍らせたに違いない。松本、敷石両選手の何れかがこれを援護出来れば幾分好転していたかと思われ、しかもこの2人にはその役割を果たせる力は十分持っていただけに不運であったと思う。平泳ぎにも米のジャストレムスキーによって新しく生まれたピッチ泳法と脚のケリを十分活かして大きく泳ぐ、いわゆるオーソドックスの泳ぎとの二つ泳法が出来た。豪のオブライエン、米のジャストレムスキーはピッチ泳法をとり、プロコペンコを主軸とするソ連の選手、独のヘニンガーはいわゆるオーソドックス型で鶴峰選手はその中間的な泳法をとっている。平泳の決勝はピッチ泳法とオーソドックスの対決であるところに非常に興味深いものがあつた。完全なオーソドックスを代表するソ連のプロコペンコと、豪のオブライエンの火の出るようなせり合では、金メダルの争いより泳法の優劣を争うといえるかにさえ見えた。結局は豪のオブライエンが猛烈なピッチでプロコペンコを追いあげて優勝し、ピッチ泳法にがい歌があがった。

#### (5) 200m 背泳

参加選手数 35名 (21か国)

予選の組数 5組

日本選手 福島滋雄, 大隈潔, 伊藤圭祐

200m 背泳予選は水泳競技初日の10月11日の夜8時15分から開始された。大隈選手は第1組に出場、米のベネット選手に次いで2分17秒3で2着、福島選手は第2組に出場2分14秒7のオリンピック新記録で1着、伊藤選



手は第3組に出場2分16秒7で2着であった。予選の総合順位は米のディリーが2分14秒2でトップ、福島選手は3位、伊藤選手は7位、大隈選手は9位と3選手とも比較的上位で準決勝に進んだ。準決勝は第2日目の午後7時40分から行なわれた。わが3選手は全員揃って1組であった。福島選手は米のディリーに半身長遅れ、2分14秒1で2着、大隈選手は2分17秒0で5着、伊藤選手は予選の時よりも1秒近く悪く2分17秒6で7着となった。

準決勝の総合成績は次の通りである。

選手名	記録	準決勝順位	昨年度の最高記録と世界ランキング順位
福島 滋雄	2分14秒1	3位	1位(2分11秒9)
大隈 潔	2分17秒0	10位	10位(2分17秒2)
伊藤 圭祐	2分17秒6	12位	13位(2分17秒9)
”	予選記録 2分16秒7		

なお、1位はグループ(米)の2分13秒7(オリンピック新)でベスト・エイトの8位はベネット(米)の2分16秒3であった。以上の結果、大隈、伊藤両選手は準決勝で失格となり、福島選手だけが決勝に残った。決勝レースは大会3日目の最終に行なわれた。米の3選手グループ、ディリー、ベネットと日、独、ソ連、カナダ豪から各1名ずつの8名によって金メダルが争われた。米のトリオは好調に飛び出して前半の100mでは福島との差はほとんど3分2の身長と開いていた。福島はラップタイムはグループよりほぼ1秒遅れて1分4秒2、決してよいラップではなく好調時なら、グループと並んでなければならなかった。それでも後半に強い福島が米の3選手を追い込むであろうと待期したが、ようやくあと5m辺でベネットだけには並行し、決勝点では頭一つ先んずることが出来た。審判員のほとんどが3着、福島と判定したようだったが、機械審判器はきわめて正確に水中でのタッチによるタイムを明示した。それによると両者の差は人間の目では判定不可能に近い僅差だったが、ベネットの方が一瞬早かった。(100分2の秒程度だったと記憶する)身体では勝っているが福島選手のタッチがうまく合わず、幾分遅れたのが不運で銅メダルを逸したのだった。昨年まで世界1位にランクされ200m背泳で不敗の実力を持っていた福島選手は、冬のトレーニングで基礎体力が出来たためか、今春はきわめて好調なすべり出しで本人もますます自信を高めたように見受けられた。ところが夏のはじめ6月ごろから腸をわずらい、6キロ余り体重が減ったためにスタミナがなくなり、7月の日本選手権でも優勝はしたけれど2分16秒2という好調時より5秒悪い成績であった。まず腸を根治し、体重

の回復をはかって静養させるとともに治療に手をつくしたが一向に快方に向かず、そのうちだんだんオリンピックも近づくので、やむなく十分に警戒しながら烈しい練習を続けねばならなかった。したがって競技に臨んでもいままでのように自信に溢れた心境ではなかったと思う。最悪の体調で最後まで全力を尽した福島選手をたえるとともに、かけ代えのない選手を最も大切な時期に健康をを損ねさせた監督者としての責を痛感している。アメリカはこの種目で完全優勝したのだが、1位グループ、2位のディリーはともに2分10秒3、10秒5の世界新記録で泳いだ。したがって福島選手が最好調であっても、この両者を凌ぐことはきわめて困難であったかと思う。

#### (6) 200m バタフライ

200m バタフライ予選は19か国より35名の選手が出場し、大会6日目(10月16日)午前の部0時25分から行なわれた。

予選の組数 5組

日本選手 佐藤好助、大林敦、門永吉典

まずこの予選で準決勝に出場する上位16名が選ばれるのであるが、第1組に大林選手が出場、2分15秒1で米のロビーに次いで2着となった。第2組に佐藤選手が出場し2分12秒4で同じく2着、門永選手が第5組に出場して2分14秒5で3着であった。3人とも予選は通過してそれぞれ準決勝に進むことが出来た。なお予選を通過した上位16名中にしめるわが選手の順位は次の通りである。

佐 藤	3位
門 永	8位
大 林	10位

その翌日大会第7日目の午後8時45分から予選を通過した16名(2組)により準決勝が行なわれた。佐藤選手は第1組に出場したが意外に振わず、2分13秒4で4着となった。第2組には門永、大林両選手が出場、門永選手は2分12秒3、大林選手は2分14秒1とともに自己の最高記録で泳ぎ、門永選手は3着、大林選手は5着になった。

準決勝における総合成績は下表の通りである。

選手名	記録	順位	昨年度の最高記録と世界ランキング順位
佐藤 好助	2分13秒4	9位	5位(2分11秒6)
門永 吉典	2分12秒3	7位	50位(2分19秒9)
大林 敦	2分14秒1	12位	19位(2分15秒5)

以上の通りで当然決勝進出を期待していた佐藤選手が予選のときより1秒遅れわずかの差で9位となり失格してしまった。その代りに日本チームで最年少の門永選手

がよく頑張り自己の最高記録を大幅に縮めて7位となりひとり決勝に進んだ。大会最終日の午前11時35分から決勝が行なわれた。この種目で世界の最高位を争い続けて来た豪のベリーと、米のロビーがスタートの直後から猛烈にせり合って前半のラップタイムはともに1分0秒4であった。最後にベリーがロビーを押え、2分6秒6の世界新記録で金メダルを獲得した。門永選手は後半によくピッチをあげて2人を抜き6位に入賞したのは立派であった。まだ伸び盛りの選手なので、前半のペースを速めて後半にくずれる心配はないと考えて、最初から幾分飛び出し気味で泳ぐよう指示はしたけれど、何といってもこんな大会は初めての経験であり、やはり自分ひとりであるという責任感から無意識のうちに後半のために力をセーブして、慎重なペースで泳ぐ結果をまねいたものとする。この種目でとくに期待した佐藤選手の失格について考えねばならない点は、出場選手中独得の彼の泳法、つまり脚のけりを主軸とし、ストロークごとに水中深く潜って伸びを利用する合理的な泳法で、わが国の選手の中に多く採用されているこの泳法の失敗であったと考える。

身体の大きい外国選手が猛烈に競り合って泳ぐときの水面の波動は想像以上に大きくて、ことに半身長ほど遅れるとその波の影響をまともに受けることになる。日本選手の中でも身体の小さい佐藤選手は水の中を潜るごとに身体が目に見えて動揺し安定度を失ってしまっていた。佐藤選手失敗の原因はここにあったと思う。どんなに合理的な泳法でもピッチのあがらない泳法ではもう世界の進歩についてゆけないことと併わせて多くの外国選手に囲まれた中で泳がねばならないときの対策として、この泳法はきわめて不利であって採るべきでないと思う。

#### (7) 400m 個人メドレー

この種目は古くからアメリカでは盛んに行なわれてきたが、アメリカ以外の国では全然採りあげられなかったものである。この大会にはじめてオリンピック種目に加えられたので各国もようやく3、4年前から選手づくりをはじめたのが実状である。それでも12か国から22選手の参加があった。わが国でも昨夏福島選手が4分53秒7の日本記録をつくり、昨年度世界の4位にランクされた。この記録は決勝で5位になったカナダのギリクリストの記録4分57秒6より4秒という大幅な開きをもつもので福島選手が出場していれば少なくとも5位入賞の可能性はあったと思う。しかし同選手の体調に不安があるのでこの種目の出場を諦め、200m 背泳に専念させることにした。以上の理由で、この種目にはわが選手は誰も出場しなかった。さすがにアメリカの選手が揃って強く、オ

リンピック直前に世界新記録を作ったロスとこのレースに非常な野心をもってサアリが猛烈に争った。最初の100m バタフライでは、バタフライ専門のロビー(米)が他を引き離したが、続く100m 背泳でサアリが、ロス、ロビーに3秒の差をつけたのでサアリの優勝がほぼ確定したかに見えた。次の平泳でロスがサア리를追いあげて、最後のクロールに移ったときはわずか半身長まで差を縮めた。サアリも慣れない平泳ぎに力を費いはしたのか、得意のクロールでロスに逆に1身長差をつけられ2位になり、ロスが自己の持つ世界記録をさらに上回る4分45秒4の世界新記録で優勝した。昨秋東京で行なわれた国際スポーツ大会ではこの種目に世界新記録で優勝したヘッツ選手(独)は有力な優勝候補であった。彼がアメリカのトリオにどのように対抗するかはこのレースの焦点があった。ヘッツ選手も出だしが悪く、前半の200m で先頭のサアリに10m の差をつけられては優勝の望みからは遠ざかってしまった。それでも後半によくもりかえしロビーをタッチの差で抜き3位に入賞し、アメリカ・トリオの一角をくずしたのは立派であった。

#### (8) 400m リレー

この種目もこの大会から初めて水泳競技種目に加えられたものである。13か国、13チームで優勝が争われた。大会3日目の午前11時40分から予選(2組)が行なわれた。日本チームが予選でベストエイトに残るのにはまず不安がないので、100m に出場した3選手の中、比較的体調に不安のある藤本選手は決勝に備えて休養させ、岡部、後藤両選手と新手的石原、岩崎両選手で予選のメンバーを編成した。なお石原、岩崎両選手のうち好調の方を決勝にも出場させることにした。わがチームは第1組に出場し、豪、仏について3着であった。

- |      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| ① 岡部 | 55秒4 | ② 岩崎 | 55秒3 |
| ③ 石原 | 56秒3 | ④ 後藤 | 55秒3 |

3分42秒3で全体の7位で決勝に出場の資格を得た。決勝は大会4日目の午後7時55分に開始された。予選で好調だった岩崎選手を第1泳者に据え、後藤、藤本と続き堅実な岡部選手をアンカーとした。

100m の決勝で、1、3、5位に入賞した3選手とこれらに劣らない実力を持つリレー専門要員であるクラークを配したアメリカの優勝はほとんど確定的であった。クラークがスタートに立ち52秒9の世界対記録で2位のドイツに1身長近く差をつけ、漸時差を広げ、最後のショランダーにひきついだときは、2位と7m 程度の差があった。独のクラインが猛烈にショランダーを追ったが、ほとんどひびかなかった。それにしてもクラインの記録は52秒4という驚異的なもので、少なくともクラークのスピードに匹敵するものである。わが選手は全員よく力

泳し4位に入賞した。

国名	決勝順位	予選通過順位
アメリカ	1位	1位
ドイツ	2位	3位
オーストラリア	3位	2位
日本	4位	7位
スウェーデン	5位	4位
ソビエト	6位	5位
イギリス	7位	8位
フランス	8位	6位

以上の表はわがチーム全員が全力をつくして強敵にいどみ、予選通過の順位をはね返し、3分40秒5の日本新記録で4位に入賞した努力のあとを示すものであろう。個々のラップタイムは次の通りである。

- ① 岩崎 55秒8      ② 後藤 55秒2  
 ③ 藤本 54秒9      ④ 岡部 54秒6

100mで振わなかったわがチームが、比較的よい成績を収めたのは、リレー専門の短距離泳者を選手団に加えたためであったが、かなりの実力を持つものを4名揃えられる反面に、傑出した選手がいないのが3位以内に入賞出来ないウィーク・ポイントであった。

#### (9) 400mメドレー・リレー

400mメドレー・リレー予選は、14か国のチームが出場し大会5日目の午後1時50分から開始された。わがチームは背泳に福島選手、平泳に石川選手、バタフライには中島選手、ラストのクロールは岡部選手と、ベスト・メンバーを揃えて出場させた。石川、中島両選手はスプリントのある短距離に強いので、とくにこのリレー要員として、わが代表に選考された選手である。わがチームは予選の第1組に出場し、独チームに次いで2着となった。タイムは4分07秒3、米、独に続くベストスリーで予選を通過し決勝に進んだ。ラップタイムは次の通りであった。

- ① 福島(背泳) 1分03秒2  
 ② 石川(平泳) 1分10秒1  
 ③ 中島(バタフライ) 58秒9  
 ④ 岡部(自由形) 55秒1

決勝はその翌日大会6日目の最終レースとして午後7時55分から行なわれた。アメリカのトップ泳者マン100mは背泳に59秒6の世界新記録をつくり、はやくもアメリカ優勝のきっかけをつくった。第2泳者のクレイグがややブレーキとなり、独のヘニンガーに追いつかれ、ほとんど同時に第3泳者に引きついだが、勝負のやまはここままで、バタフライのシュミット、クロールのクラーク、ともに単独で泳げば当然世界新記録となる驚異的な

速さで他を大きく引き離し、ゆうゆう米チームが3分58秒4の世界新記録で優勝した。独、豪、ソ連は終始大接戦を演じ、第3泳者の終わったときは、ソ連2が位、それに10分の1秒遅れて豪州が3位、さらに5分の2秒遅れて独の順序であった。勝負は最後のクロールで決し、独のクラインが52秒7で泳ぎ2位にはいり、続いて豪、ソ連の順位であった。わがチームはトップ泳者福島選手が不調のため全員の意気があがらず、このグループにはいれないまま5位であった。日本チームのタイムは4分06秒6の日本新記録であった。

#### (10) 800mリレー

15か国のチームが参加して、大会7日目の12時55分から予選2組の競技が開始された。予選に通過することは、比較的容易なので、岡部選手をはじめすでに何回か出場している者は休養させて、この種目を待機していた福井、庄司の両選手に若手の岩崎選手、アンカーに山中選手を配し、この4名を予選に出場させた。わがチームは予選第1組に出場し、8分10秒4で独チームについて2着となった。大会もほとんど終りに近く、あと1日を残すのみとなって、選手がかなり疲労しているためか、各国とも予選にはベスト・メンバーを出場させず、第2陣をくり出したりしたために記録は低調で、わがチームのタイムは4位であったが、決勝になればかなり大きな変化が起こるものと予想された。

- ① 福井 2分02秒6      ② 岩崎 2分02秒7  
 ③ 庄司 2分01秒9      ④ 山中 2分03秒2

予選の結果は山中選手が最も悪く、かつこれ以上を望めないと考えて、勝勝には山中選手をはずし、代りに岡部選手をアンカーにすえて、ベスト・メンバーを組むことに決めた。

予選を泳いだ庄司、岩崎両選手ともに自己の最高をマークして好調を示してくれたので、決勝ではかなりよい結果が得られるのではないかと希望が持てるようになった。決勝は水泳競技の最終日のしかも最後のレースとして、午後6時05分から開始された。スタートするや福井選手は自分のしっかりしたペースで100mを泳ぎ後半よく頑張って2分0秒5の自己の最高記録で泳ぎ、先頭をゆく1位のアメリカのクラークに僅かタッチの差で岩崎選手に引きついだ。岩崎選手も2分01秒1のこれまた自己の最高で泳ぎ、2位を堅持して第3泳者の庄司選手に引きつぐ責任をはたした。庄司選手もよく力泳したが独のウィガンに抜かれ3位に落ちた。この時のウィガンのタイムは1分57秒6というこのレースに出場した8チーム、32名の選手中、米のショランダーに次ぐ2番目の好記録だったので、抜かれてもやむを得なかった。庄司選手も、自分の責任を十分に果して2分01秒7

の自己最高で泳ぎ岡部選手に引きついで。4位豪州との差は約5mであった。岡部選手も最後まで着実なペースで泳ぎ、これまた2分0秒5の自己最高で追いつがる豪のウィンドルを押えて3位を確保した。優勝した米、2位の独ともにオリンピック直前に米チームがつくった世界新記録を大幅に破る世界新記録であった。日本チームの記録8分03秒8は、世界記録には僅かに及ばなかったが日本新記録であった。かくて全競技の終る瞬間によりやくにして貴重な1個の銅メダルを手にすることが出来た。4人の選手の斗魂の結晶であるが、また同時にこの銅メダル1個に刻みきれないほど長期にわたる多くの犠牲と努力の姿がかくされている筈である。はじめて見る日章旗を拝む気持ちで見上げた時の感慨は終生忘れられないであろう。それにしても、全員揃って自己の最高で泳ぎきった原動力は、トップ泳者福井選手がアメリカと大接戦のすえ、堂々2位にははいた気概が、続く3人に極めて大きな精神的影響を与えたものと思う。福井選手は競泳チームの主将として、かつまた日本チーム全体の旗手としての責任をはたし得て本懐であったであろう。もう一つの勝因は予選の結果から思い切って、山中選手を引っ込めたことにあったと思う。ながく日本チームの主軸であった習慣から、山中選手を実力以上に信頼する気持があり、予選にもアンカーとして泳がせたのだが、予選終了後決勝チームからははずすことをコーチ全員が一致即決した。ここにも3位入賞の幸運があったと思う。

## 女子の部

### (1) 100m 自由形

22か国より44名の参加があり、これを6組に分けて大会第2日目の午前11時10分から予選競技が開始された。

出場選手は次の3名である。

浦上涼子、木村トヨ子、東美代子

浦上選手は第1組に出場、ほとんど自己の最高のペースで力泳したが、1分04秒5で5着であった。次いで木村選手が第5組に出場、1分04秒8で3着、最後に東選手が第6組に出場したが期待に反し1分06秒4という悪い成績で6着に終わってしまった。

予選におけるわが選手の成績は次の通りであった。

浦上 涼子	1分04秒5	24位	失格
木村トヨ子	1分04秒8	26位	"
東 美代子	1分06秒4	34位	"

以上の結果、全員予選で失格となった。なお、準決勝に進んだベスト16は豪のフレーザーの1分0秒6（オリンピック対記録）を最高にスウェーデンのジャパートの1分03秒8までであった。決勝は大会第3日目の午後7

時55分に開始された。メルボルン、ローマの両オリンピックで連続優勝している豪のフレーザーは3回連続優勝を目指してはいるものの、すでに27才という水泳選手としては最盛期を過ぎて、やや下降期にある。この東京大会に参加した男女競泳選手の中で、独のペイファーの28才につぐのがフレーザーであった。殊に男子と比べて平均年齢の低い女子選手の中では特異の存在といえる。このフレーザーにいとむ、米のスタウダーは15才エリスは17才である。年は若いながら、7才頃からエイジ・グループで鍛えられた経験の豊かな選手である。フレーザーの強味は男にもまさる立派な体力を活かしたスプリントである。このスプリントにものをいわせて、飛び出し逃ぎきる策戦をとったが、スタウダーが若さとスタミナで追いあげたが、タッチの差で及ばず、フレーザーが3回連続優勝をなし遂げた。

### (2) 400m 自由形

16か国から38選手が参加し、予選5組の競技が大会7日目午前11時55分から行なわれた。わが国からは早川、菊谷両選手がこれに出場した。まず菊谷選手が第1組に出場し5着、タイムは5分06秒3であった。早川選手は第5組に出場したが4分56秒5で3着となった。予選全組の順位は下記の通りである。

早川 選手	11位
菊谷 選手	23位

結局両選手ともベスト・エイトにはいれず予選で失格した。予選通過はラメノフスキー（米）の4分47秒7が最高で、8位はロング（英）の4分54秒5であった。100mで優勝したフレーザー（豪）が4分52秒2で6位で決勝に進んでいる。早川選手は7月の日本選手権に4分51秒9の日本新記録で優勝、その後の練習でもかなり好調で、少くとも決勝には残れるものと期待していたが意外に振わず落選してしまった。最後の組に出場したために、スタートする前にほぼ予選通過の線が明らかになった。少くとも自己の最高近くで泳がねば予選通過困難であったために、自らを苦しめた結果の不調であったとしか思えない。こういう際には、いわゆる背水の陣のつもりで思い切った力を発揮できるような強い精神力がほしいものである。決勝は最終日の午前11時10分から行なわれたが、アメリカの3選手が断然強く、デュンケル、ラメノフスキー、スティクルスが1位から3位までを占め、アメリカの完全優勝となった。豪のフレーザーはこの種目にも出場、最後の100mでスティクルスとの差をぐんと縮め、措しいところで3位入賞を逸したとはいえ、4分47秒6という自己の最高で泳いでいるところを見ると、矢張り優勝をねらったの出場であったと思う。

### (3) 200m 平泳

25か国より28名の参加があり、これを4組に分けて大会初日の午後1時20分から予選競技が行なわれた。

わが選手は次の2名である。

山本憲子、森実芳子

山本選手は第1組に出場、前半の100mを1分23秒4の好調のペースで泳ぎ進んだが、後半に平素のスパートが出ず、2分57秒0のかんばしくない記録で5着に終わった。森実選手は第4組に出場したが、これまた2分59秒9と平素の力が出ず6着であった。わが選手の予選における成績は次の通りであった。

山本 憲子 2分57秒0 17位 失格

森実 芳子 2分57秒9 21位 "

決勝はその翌日大会第2日目の午後8時20分から行なわれた。水泳競技初の決勝レースなので、非常に緊張したふん囲気の中にスタートがきられた。予選を通過して決勝に進んだ8選手はさすがに定評のあった者ばかりで、ソ連、ドイツ、イギリスから各2名、それにアメリカ、オランダの選手が各1名であった。そろって堂々たる体軀を活かしたダイナミックなオーソドックス泳法で大接戦が展開された。結局、世界記録保持者であるソ連のプロズメンシコワが最初の金メダルに輝いた。米の最年少選手である14才のゴルフ選手はよくこれを追ったが、僅かの差で2位であった。この決勝レースで特に印象に残ったのはミッチェル、スラッターリーのイギリス選手である。共に身体を極度に浮かせるスピーディーな泳法で揃って4位、5位に入賞したのは立派であった。身体を浮かせるのはスピードが得られる反面、疲労し易い欠点がある。しかし高度にレベルの高くなった今日ではスプリントのある泳法で最後まで泳ぎきらない限り、強敵に対抗し、あるいはこれを越すことは望めない。その意味においてイギリス選手の泳法は十分一考するに値するものと考ええる。

### (4) 100m 背泳

18か国から31選手が参加した。これを4組にわけて大会第3日の午後12時10分から予選競技が行なわれた。

これに出場したわが選手は次の2名である。

田中聡子、木原美知子

田中選手は第1組に出場、やや力をセーブして泳ぎ、1分10秒0で米のハーマーについて2着であった。続く第2組に木原選手が出場したが、スタートの直後からあせりぎみで徒らにピッチだけが速く、空かき気味で最後まで水に乗らずじまいで済んでしまったかのように見えた。タイムは1分11秒1で3着となったが、決勝進出の希望はほとんど失われた。結局、予選を通過した8名はフランスのキャロンの1分8秒5(オリンピック新記録)

が最高で、英のノーフォークの1分10秒9が8番目であった。木原選手は9位で措しくも決勝進出が果せなかった。伸びざかりの新進であり、十分決勝に残り得る力を持っている木原選手の予選での失格は意外であったが、さらにこれが田中選手に精神的な影響を及ぼす心配があった。

両選手の予選の成績は次の通りであった。

田中 聡子 1分10秒0 5位

木原美知子 1分11秒1 9位 失格

決勝はその翌日の午後8時20分に行なわれた。米のファーガソンと仏のキャロン、それにわが田中選手が優勝候補であり、ほとんど優劣のない力を持っているものと思われた。ファーガソン、キャロンともに16才、ちょうど上りざかりの最良のコンディションであるのに反し、田中選手は22才と盛りを過ぎていて、年令の点では幾分不利ではあったが、練習中の記録はかつてない程好調だったので、優勝への自信は十分に持っていたようであった。スタート後トップ・クラスはほとんど一線に進み、同時に50mを折り返えした。65mを過ぎた頃から田中選手はスパートして先頭にたったが、75mでファーガソン、キャロンが田中選手とならび抜き去った。あと5mあたりでさらに米のデュンケルにも抜かれ、措しくも4着におちてしまった。結果的に見ると、65mからのスパートがややや過ぎたために最後のふんばりがきかず、3位入賞も失なったのではないかと思うが、田中選手にはそんなことは全然頭になく、優勝か玉砕かの通を選んで思いきってスパートをかけたのであろう。日本中の期待を全身に受けて泳いだ田中選手の悲壮な心情を想うとほめてやっても、とがめる気持ちにはなれなかった。過ぎし4年間ただこの日のために精進した田中選手の努力はついに報われなかったけれど、どれだけ自分をむちうち努力したかは破れはしたが、その記録1分08秒6は自己の最高であり、もちろん日本新記録であったことが実証している。優勝したファーガソン、2位のキャロン、3位のデュンケルともに世界新記録で泳いでいるので、これに堂々と挑んで最善をつくして破れたのであるから、悔は残らなかったであろう。

### (5) 100m バタフライ

16か国から35名の選手が参加して大会4日目の午前11時20分に予選5組の競技が行なわれた。

わが選手は次の3名である。

高橋栄子、佐藤公子、斎藤弘子

まず高橋選手が第1組に出場、1分08秒4で2着、佐藤選手は第2組に出場、1分10秒6で4着となった。斎藤選手は第4組に出場、平素の力が発揮できず1分13秒1で5着に終わった。1分07秒0のオリンピック新記録で

第4組の1着となった米のスタウダーが最高で、続く上位16名が準決勝に進出する資格を得た。わが高橋選手は6位、佐藤選手は11位で、ともに予選を通過したが、斎藤選手は24位で失格した。

準決勝はその翌日大会5日目の午後6時35分から出場する16名を2組に分けて行なわれた。第1組に佐藤選手が出場、予選時の記録が出ず8着であった。続いて高橋選手が第2組に出場、よく力泳して1分07秒8の日本新記録で8着となり、決勝進出の資格を得た。この日高橋選手は流行の感冒がなおりきらず発熱していた。このような悪条件下に自己の最高で泳いだのは普段の真面目な練習態度と、おとなしい心の中に秘めたはげしい斗魂の賜のものであると思う。なお参考までに出場3選手の成績を分析すると次の通りである。

	昨年度の 最高記録	世界 順位	今回の 記録	順位
高橋	1分08秒5	7	1分07秒8	5
佐藤	1分10秒9	30	1分10秒6	16
斎藤	1分11秒6	42	1分13秒0	

決勝はその翌日、大会6日目の午後7時35分から8名の選手によって行なわれた。米のスタウダーとオランダのcockの何れにがい歌があがるかが与味の焦点であった。また高橋選手が準決勝における順位は5位であったが、3位、4位との差は極めて少ないので、3位入賞も望みなしではなかった。大きなレースには非常に強い高橋選手の再度の力泳に期待したが前日につづいてまだ風邪がなおりきらず、発熱が続いているのでスタミナが失われているのではないかという不安があった。果して後半20mの追い追みが全然きかず、1分09秒1で7位であった。平素の練習態度が実に真面目であり、試合度胸もある選手だけに6位入賞をさえ逸したのは惜しまれてならない。

このバタフライの決勝に進出した選手の中で、高橋選手の19才が最年長で、他は比較的年少者ばかりであった。優勝したスタウダー(米)は15才、2位のcock(和)は14才で世界記録をつくっている事実が証明しているように、若い選手が堂々と活躍している。このバタフライは比較的新しく採用された種目なので、わが国ではバタフライは疲労度がはげしく年少者には適さない泳法であるかのように誤解されているように見受けられる。今後はそのような誤解を捨てて、年少のうちから奨励しなければ、この種目での好成績は望めないであろう。

#### (6) 400m 個人メドレー

この大会から初めて採用された種目なので、参加者も比較的少なく、12か国から26名の選手が出場した。

わが選手は次の2名である。

江坂君子、松田奈津子

予選4組の競技は大会5日目の午後1時から開始された。江坂選手は第3組に出場し5分42秒1で4着となり松田選手は第4組に出場、5分51秒5で同じく4着となった。予選におけるわが選手の成績は次の通りである。

江坂 君子 5分42秒1 13位 失格

松田 奈津子 5分51秒5 19位 失格

(昨年度最高記録江坂君子5分42秒0は世界ランキングの20位である)

決勝は大会第7日目の最後に午後9時35分から開始された。アメリカの御家芸ともいわれるほど、古くからアメリカだけで続けられてきた種目なので、アメリカの3選手が圧倒的に強く結局アメリカの完全優勝で1位から3位までを独占された。

#### (7) 400m リレー

大会第4日目の午後1時35分から予選競技が行なわれた。参加チームは10か国であり、これを5チームずつ2組に分けた。この中から8チームが決勝に残り、僅か2チームが予選で失格するという参加数こそ少ないが、それぞれが粒よりの選手を揃えた国ばかりであった。昨年度の世界ランキングなどを参照しても、また100mのフラット・レースに出場した各国選手の力を総合判断しても上位8チームの中に残れる希望は極めてうすかった。ただ4人の選手がそれぞれ自己の最高で泳いだ場合のみ、8位までには入れる可能性はあった。

わがチームメンバーは、次の通りである。

① 浦上 涼子 ② 木原美知子

③ 木村トヨ子 ④ 東 美代子

そこで強い選手をさきに泳がせて逃げこみ策をとった。ただスタートの上手な浦上選手を第一泳者に立たせ次に木原選手を据えた。一応この策戦は効をそうして第3泳者の木村選手がよく頑張って3位のオランダ、4位のカナダにせまりカナダ・チームとはほとんど同時に最終泳者に引き継いだ。最後の泳者東選手が意外に調子が悪く、結局4位のカナダに5秒7の大差をつけられて最下位となり、記録は4分10秒2、日本新記録ではあるけれど決勝に残る望みは消えた。

各個のタイムは次の通りであった。

浦上 1分05秒5 木原 1分03秒7

木村 1分04秒0 東 1分06秒0

決勝は大会第5日目の最終レースとして午後9時15分に行なわれた。4人とも第1級の選手を揃えているアメリカ・チームが終始トップに立ち、あぶなげなく4分3秒8の世界新記録で優勝し、続いてフレーザーの活躍で豪州が2位、オランダのテルプストラがよく力泳してゴール寸前にハンガリーを抜いてタッチの差で3位入賞を

はたした。

このレースの結果から特に印象に残るのは、どのチームにも少なくとも1人は1分0秒ないし、1秒程度で泳げる選手が軸になっているという点であって、一人のすぐれた自由形短距離選手がいれば、100mのフラットレースはもちろんのこと、400mメドレー・リレーおよび400mリレーの勝敗にも大きくひびくので、オリンピック競技では1人のすぐれた短距離泳者の必要をしみじみ味わされた。

#### (8) 400mメドレー・リレー

大会6日目の午前部の最後に参加9チームによって予選が行なわれた。

わが出場選手は次の通りである。

背	泳	田	中	聰	子
平	泳	山	本	憲	子
バタフライ		高	橋	栄	子
自由形		木	原	美	知子

わがチームは第1組に出場、4名ともほとんど自己の最高で泳ぎ、4分40秒6の日本新記録で、ソ連について2着となった。ソ連との差は1秒5、第2泳者の平泳ぎにソ連のパバニーナが1分15秒2という(従来の世界新記録は1分18秒2)すばらしい力泳で、わが山本選手を5秒余り引きはなしたところにソ連チーム勝因があった。予選の結果はソ連、日本、アメリカ、オランダ、ドイツの順位であった。落選したのは意外にも豪州チームであった。わがチームは記録の上では2位で予選を通過したけれど、アメリカ・チームは全員第2軍を出しているの、当然決勝では圧倒的に強いことが予想されるし、オランダ・チームも第3泳者(バタフライ)に補欠を出していて、これがコックに代るだけで、少なくとも5秒の短縮は可能である。かく判断すると決勝で3位に入賞するためには、やはりソ連に勝つ以外にないと考えられた。決勝レースは大会の最終日、女子競技の最後をかざるにふさわしく、各国選手給出の声援のもとに午後5時40分にスタートがきられた。田中選手はよく頑張っアメリカのファーガソンについて2着で山本選手にひきついで山本選手も力泳ソ連には抜かれたが3位で高橋選手に引きついでが、さすがにオランダのコックが強く、300mではついに4位の位置が決定づけられた。100m毎の順位は次の通りである。

	1位	2位	3位	4位
100m	米	日	ソ連	和
200m	ソ連	米	日	和
300m	米	ソ連	和	日
400m	米	和	ソ連	日

以上が示すように200mではパバニーナ(平泳)の力

泳でソ連がトップに立つなど、波乱にみちた好レースであった。

## 5. 大会参加の感慨、反省、将来に対する方策

### (1) オリンピック参加の感慨と反省

オリンピックは全くあっけなくすんでしまった。準備した期間の長かったこと、それに打ち込んだ努力が大きかっただけに、卒直に言ってそんな感じしか残らない。極度の緊張のあとの自失とでも云うべきか。勝利に歓喜したもの敗北に失望したものも、競技が終わった今は同じ感慨にふけていると思う。特に成績のかんばしくなかったわれわれ水泳関係者は、大きな爪あとを残して去った台風のと、ぼう然としているに似た感じである。8日間の競技のあとをふり返ってみると、最初から終りまで惨敗の連続であった。この大会に東京目指して集った若い力に完皮なく踏みにじられた感じがする。

成績は非常に悪かったけれど、コーチ団および選手が一体となって最後まで望みを捨てず、わが代表として恥じない態度をもち続け、試合に臨んでは持てる力を最大限に発揮して精神力、体力の続く限りベストを尽して、よくたたかった上での敗北なので、選手個々はたたかいぶりには悔を残していないと信じている。ただ我々の力の及ばなかったのをわびるばかりである。寒暑にめげず長い準備期間を通して、努力してなおむくわれなかったコーチ、選手団に深甚の感謝を捧げたいと思う。

各国選手がこのオリンピック競技に示した伸長率は次の通りであった。(昨年度の個々の最高記録を100としての伸長率)

国名	男子	女子
アメリカ	102.22	101.94
オーストラリア	102.45	100.46
ドイツ	102.05	100.75
ソビエト	101.01	
日本	100.55	100.73
オランダ	99.90	99.50
イギリス	101.01	100.43

日本選手中最高の伸長率を出したものは、200mバタフライに4位入賞した門永選手の105.34および200m平泳に6位入賞した鶴峰選手の103.19であった。わがチームの敗因を分析するのは、その根が深いので容易につかみにくい、要するに選手達に罪はなく、指導監督の地位にあるわれわれの責任であって、全く申訳ない次第と考える。今から4年前、われわれが遅ればせながら、東京オリンピックを目標に3年間の計画をたてるに当っ

て、基本的に採りあげたものは次の3点であった。

1. 選手の強化にプラスとなると思われるものは進んで採りあげ実行に移す。

2. 水泳競技にはいろいろな制約があるが、それを排除する努力とともに、許された範囲において最高と思われる強化計画を実施する。

3. オリンピックの成績の良否にかかわらず、終了後反省して悔を残さない強化計画を実行する。

要するにオリンピックのすんだあと、競技成績の良否にかかわらず、強化の方法について反省してすべきことが出来ていなければ悔いを千歳に残すので、そういうことのないよう考えついたものは必ず実行に移すことを基本線として採りあげた。

従ってわれわれとしては、かなり恵まれた環境で十分に強化計画を実施出来たと思う。

かくわれわれとしては十分な準備をし、選手もよくたかかった上での敗北なので、彼我の実力の差を認めざるを得ない。

ただその間であって、一つだけ悔いを残す問題があったのが遺憾であった。それは極めて少数の水泳指導者が水泳連盟の計画にそむく行動をとった事件である。

当時かなり世間を騒がした問題なので、今後のためにも言及して置きたい。われわれは4年間連続して強化計画を持った。従って、選手とコーチ団の間には、極めて濃い精神上的のつながりが出来た。長期計画によるよい面が具現できたのであった。このつながりが更に強化されてオリンピック時には、自国であるという地の利と各自の責任感から、いざ競技がはじまれば、全員が団結して当れば、そこに必ず精神力による大きなプラスがあるものと期待した。われわれの統一行動にそむく行動そのものはとるにたらないが、それが選手に精神的な悩みを与え、チーム全員の団結力にひびを入れた結果は極めて大きかった。特にオリンピックを間近に控えて、最も大切な時期にいざやろうという出鼻をくじかれたのは残念であった。オリンピックの前年の夏、恒例の日米対抗水泳大会が東京、大阪において行なわれたが、アメリカ・チームが大勝し、彼我の間に大きな力の差のあることが実証された。たとえ破れてもわが方のチームが若い未知数の新進で構成されている場合なら気にかけることはないが、その有利な条件はむしろアメリカ側にあった。日米対抗の成績、各国水泳界の著しい進歩などから考えて、少くとも水泳に経験を持つものなら、オリンピックに臨む日本チームが極めて苦しい立場に置かれるであろうことを予知し、それに対処するには何が残されているかの判断が出来た筈である。ああした行動に致えて出たのは、恐らく水泳の基本的なものがわかっていないか

らであろうが、誠に思慮のない行動であったと考えざるを得ない。

オリンピックという特殊なスポーツの祭典では、精神的な要素が非常に大きく勝敗に影響するのである。大きな試合に臨む場合、選手は必ずナーバスになるのは避けられない。そのナーバスが成績の上で、プラスになる方向にしむけるのが大切である。チーム全員が一つの火の玉となって、強敵に当る精神的なつながりを作るのは指導、監督の任にあたるものの重要なつとめである。この東京オリンピックにおいて好個の例がある。代々木のオリンピック・プールを沸かした1500m決勝で、2人の豪州選手が示したあのすばらしい泳ぎ振りである。優勝候補と定評のあるアメリカの3選手をほとんど意識しないかのように泳ぎ、そして堂々と栄冠をかちとった。オリンピックのはじまる2か月ほど前豪州のローズがアメリカで1500m、続いてカナダで800mの世界新記録をつかって優勝して問題を投げかけた。メルボルン、ローマと、1500mに連続優勝しているローズは、豪州の誇る選手である。しかし、しばらく水を離れていたローズは東京大会には出場する意思はなかったのだが、思わぬ好記録に自信をとりもどした彼は、東京大会に出場し3連覇をねらいたい旨の意思表示をした。アメリカの水泳関係者も彼の実力のすばらしさを措し、彼の出場が許されるようI.O.C.に直接訴えるなど協力の手を差しのべた。不幸にして、豪州では気候の関係から早春のうちに予選会を持ち、選手を決定していた。もちろんローズはその予選会には出場していなかった。豪州水連は自国の予選競技に出場しなかったという理由でローズをチームに加えることを拒否した。豪州水連の権威をまもるための措置であったと思う。こうした経緯の1500mあったあとの決勝であった。豪州水連がとった厳然とした態度、アマチュア・スポーツ連盟として当然と思われる立派な決断は若い選手達に深い感銘を与え、是が非でもこれに応えねばならない責任感と精神的な奮起をうながした結果の壮挙であったというべきだろう。ウインドル、ウッド両選手がスタートの直後から猛然と速いペースでとび出したあのあざやかな泳ぎぶりが特に強く印象に残るのはそうした理由があるからである。精神力が如何に勝敗に影響するか好例であろう。豪州水連の決断は実に立派であったと自らを反省するとともに、筋を通すためにはローズほどの選手を措しげなく捨てた水連を信頼し、その決定を支持した豪州国民のスポーツに対する理解力の高さに敬服する。もし処をかえていたらどうだろう。我々はスポーツ人として大人になるまでにはまだまだ学ばねばならぬ多くのものがあるように思う。

## (2) 将来に対する方策



オリンピック東京大会の結果から、将来に対する方策を樹てることは極めて重要であることはいままでもない。まして競技成績の非常に悪かったわれわれにとってこの大会の経験を活かし、激動する世界の水泳界についてゆくために何をなすべきかを詳細に検討して対策を講じなければならない。然し彼我の差が大きい現状では生半可な施策では役に立たない。じっくり腰を据えて長期にわたる綿密な基本計画をたて、着々としかも積極的に実行に移す努力を積みかさねなければならない。従ってここに今後の対策を書くことは適当でないし、書くにはそれだけで相当長大な内容になるので、思いついたままの私見の骨子だけを簡単に記して責めをはたしたいと思う。

4年前ローマ大会終了後、各国がアメリカ・チームがローマ大会で示した活躍に刺戟されて若い力の養成にため、また諸般の技術的研究が進んだので各国ともかなり充実した力を保有するにいたった。そのためにこの大会の水泳競技はかつて経験したことのないはげしいレースが全種目にわたって展開し、数々の世界記録が生まれた。記録の更新と相まって参加した選手全体のレベルが非常に高くなったのも、この大会の特徴の一つであった。少数の英雄だけが高いピークであった従前とちがって、覇を競うものの数が多くなり、勝敗の差は非常にうすくなって、誰に勝利の栄冠が握られるかは決勝レースの終るまで予測が困難であったほどである。特に印象に残るのは若い力の台頭であった。オリンピックという特殊な雰囲気で行なわれる大きな競技、しかもその会期がながい大会では心身ともに疲れを知らない勝敗に対するこわさを感じない若い力でなければ、はげしい競争にうちかてないのである。オリンピック直前に世界記録をつくり、優勝候補の匹頭にあげられていたアメリカ・チームのベテランである平泳ぎのジャストレムスキー、1500mのサアリの思わぬ失敗も明らかに若い力に制せられた自滅であった。われわれはかつてサアリが落ちつきはらって自信満々のレースをし、優勝をさらったシーンを何回か見せつけられて来た。その彼でさえ1500m決勝のはじまる直前、選手控え室に休養中の彼をたずねたときは、冷静を粧ってはいたけれど顔面は真赤で、あたかも高熱になやんでいる人のようだった。自分を取りまく若い力に恐怖しながら、なお己れを防衛しようとする精神的なあせりがもたらす、心身の疲労が敗因であったと考える。オリンピック競技は若い力の天国だといえるだろう。東京大会のヒーローも、次のメキシコでは攻守の立場を異にして、次の新しい力の前に精神的な苦痛をなめなければならないだろう。4年ごとに行なわれるオリンピックのつど、新興選手の新陳代謝が繰り返されるであ

る。

この大会の全競技を通して特に目覚ましい活躍を示したのは、アメリカ・チームであって、ちょうどロスアンゼルスオリンピックで日本選手が圧倒的に勝って、ながい間水泳王国を誇っていたアメリカ・チームをその座から引きおろした時と全く似た形でお返しを受けた感を深くした。

しかし、この栄冠をかちとるためにアメリカの水泳指導者が払った熱意と努力は大変なものであった。メルボルンのオリンピック終了直後に、アメリカ水泳再建の基本計画をし、実行に移して以来、8年間の努力の結晶である。結晶というのは早計かも知れぬ。まだまだ結晶の途中にあると見る方が正しいかも知れぬ。その主なものは、非行少年防止を目的とする国家的事業に便乗したエイジ・グループ活動による青少年層を対象とした水泳指導の徹底と併せて父兄の力強い協力の把握であった。国策事業としての国の援助と父兄の心からなる協賛のもとに、思いのまま青少年層をつかみ、これにきびしい指導、鍛練を行ない、自由に競わせて選手としての体験を積ませた結果、強大なチーム力が生み出されたのである。全米に150万の少年選手をかかえているアメリカ水泳陣の今後の活躍は恐るべきものがあると思う。しかし確固たる組織を持つにいたった現状は、安易に出来上がったものではなかった。時にははげしい世間の批判をうけたこともあったようだが、終始関係者の不屈の努力がそれを解決して成功に導いたのである。更生を期すわれわれがまなばねばならないことが多いと思う。この会期中OOCが招いたアメリカのキップス氏は「アメリカは日本のやったことを真似て、少年層の指導を計画し努力し、そして成功した。その日本が何故若い層の指導が思うようにゆかぬのか」と何回となく質問し、そのたびに長時間激論をかわしたのである。激論というより弁解といった方が適切かも知れない。この大会の失敗によって、水泳競技の年令的な特殊性について、一般の認識を深めたのを機会に、今後の対策をこの方向に向ける必要のあるのはいうまでもない。アメリカ・チームに次いで特に印象に残る活躍をしたのはカナダ・チームであった。目立たない存在ではあったが、下位入賞をねらって着々と点をかせぐことに成功していた。カナダ選手の思わぬ活躍で、わが選手が蹴落された場面が何回もあった。このカナダの成功は、アメリカにならって若い層の指導に力を入れたからであって、チームの平均年令は男子が17.0才で全参加国の最低であり、女子は16.1才でスウェーデン・チームの15.9才について2番目、アメリカの16.3才より低い。選手の年令がこのように若いカナダの水泳が今後さらに伸びるであろうことは明らかで、4

年後のメキシコ大会では、カナダ水泳チームがかなり活躍するものと予想される。オリンピック終了後、イギリスも積極的に青少年層の指導を行なうことを決定したと伝えられている。

このように東京オリンピックをけい期として、世界の水泳は大飛躍をしたばかりでなく、今後さらに競争が激甚になるものと考えざるを得ない。

このような各国水泳界の動きに対抗するためには、さきに述べたように、かなり思い切った対策をたてる必要がある。目さきのことには、こだわらずに長期にわたる計画をたて、それを着々と実行に移す忍耐づよい努力が必要である。基本計画にとりあげねばならない問題点は数多くあろうが、とりわけ重要なのは次の5点であろう。

1. 底辺の拡大をはかるため国民皆泳の徹底を期す。
2. プール施設の拡充
3. 水泳普及のための指導者と選手指導者の充実とその組織化
4. 泳法の改善及び研究
5. 基礎体力及び専門筋力の強化、練習法など科学的研究の推進

上記の中、どの項目もいざ実行するとなると、一つだけでなかなか容易ではないが、中でも最も大切なのは国民皆泳の徹底をはかることである。ピークを高くするためには底辺を広くすることが必要なはいうまでもない。青少年層の大半が泳げない現状では、オリンピックで活躍出来るようなすぐれた素質の選手を求めるのは無理である。広く水泳の普及をはかり、全国津々浦々から、よりすぐれた豊かな天分を持つ選手を育成しなければ世界の競争には立ち向えないことをこのオリンピックで思い知らされた。国民皆泳というゆるぎのない基礎の上に高いピークを築きあげなければ、本格的にオリンピックで覇を争うだけの実力を持つことは望めない特に小中学生の皆泳を目標にあらゆる角度から、それが達成されるよう努力しなければならないと考える。少くとも自分の生命の安全を期するためにも、水泳は小中学生時代に教育されるべき重要な課題であると確信する。水泳の普及をはかるためには、その教室であるプールの増設が行なわれなければならない。正確なプールの数はつかめないが、現在、小学校及び中学校のうちプール施設のあるのは僅かに12ないし13%程度であろう。全国到るところにある河川、戦前はこの河川が無数のプールの代りとなって、水泳の普及に非常に役立ってその中から数多くの選手を育てていたのだが、戦後、農業が出現して以来、その流入の危険からほとんどの河川が水泳禁止となるため、河川に恵まれた地方でもプールが施設されない

限り子供達は泳ぐ場所がなくなってしまう。どんなに国民皆泳を望んでもプールが急設されない限り実現は望めないのはいうまでもない。プールとともに必要なのは指導者の問題の解決であろう。水泳の出来ない者が子どもたちに泳ぎを教えることは不可能である。小中学校の先生方の何パーセントが泳げるだろうか。学校において水泳教育が重視されない原因が、こんなところにあるように思われる。水泳を指導すれば先生方は大きな恩典である夏休みを犠牲にして、子供達を護らねばならない上に、生命の危険のある水泳の指導は、教室での授業より以上に責任が重いと思う。その指導者に対する待遇の点に欠けている場合が多く、ほとんどが指導者の犠牲で行なわれているようで、これでは指導者の不足、プールの効率のよい使用が出来ないのも己むを得ないと考えられる実状であるこのようにそれぞれが因果関係に結ばれた問題なので、これをときほぐすことはなかなか容易でない。わが国の水泳が本格的に立ち直るためにはかなり長期を必要とするゆえんである。われわれはこのオリンピックを機会に、多くの外国選手の協力を得て、いろいろな研究をする機会に恵まれた。水泳競技においては身体が受ける水の抵抗が身体の大小あるいは筋力の強弱のバランスをとってくれるものとの根本的な考えの上になって、身体に恵まれないわれわれ日本人が欧米人と堂々と覇を争えるスポーツであると信じていた。しかし実際に水の抵抗度を調べて見ると、彼我の間に我々が常識的に考えていたほどの差がないことが判明した。従ってこれを解決するには我々が彼等と差のない程度に強い泳ぎに必要な専門筋力を身につけなければならないということがわかった。オリンピックに備えてこうした問題の解決のため、諸般の科学的な研究を進めはしたものの、まだまだ初歩の域を出ず、ようやく第一歩を踏み出した程度に過ぎない。今後はこの方面の研究が綿密に行なわれ、それが泳法の研究や練習法の改善にとりいれることが強く望まれる。水泳の練習はプールの中でハード・トレーニングをしていれば足りた時代はもう過去のもので、それだけでは激しい進歩について行けなくなってしまった。指導者も選手も科学的研究の重要性をはっきり認識して、新しい力の育成につとめなければならないと確信する。われわれの力の不足からオリンピック東京大会という一世一代のチャンスに惨敗をしたのは誠に申しわけない次第であるが、われわれはこのにがい経験を活かして、次に向って立ちあがる踏み台にしなければならないと痛感する。

## 飛び込み競技

昭和39年度の飛び込みオリンピック候補選手は、

男子

山野外嗣夫（北陸軽金属株式会社）  
 金戸 俊介（リッカーミシン株式会社）  
 伊藤 勝（三和化学株式会社）  
 土佐 忠雄（早稲田大学）  
 坂手 昭治（ " ）  
 大坪 敏郎（日本体育大学）  
 有光 洋右（日本大学）  
 谷口 博（稲泳会）

女子

渡辺久美子（リッカーミシン株式会社）  
 馬淵かの子（倉敷レイヨン株式会社）  
 大崎 恵子（日本体育大学）  
 葛目千鶴子（ " 教員）  
 石黒のぶよ（株式会社大通）  
 友江嘉代子（住友ゴム株式会社）  
 河合初子（関西飛込クラブ）

以上の男子8名、女子7名合計15名を対象とし、コーチにはそれ等の選手を育てたコーチが引き続いてあたり、コーチ別に合宿練習を行ない、最終選考会に臨む事とした。

最終選考会は、昭和39年度日本選手権水泳競技大会を兼ね、7月16日～19日まで明治神宮プールで行なわれ、結果は次の通り。

女子飛び板飛び込み

順位	氏名(所属)	規定 飛び	予選 得点	決勝 得点
第1位	馬淵(倉レ)	60.77	91.10	140.54
第2位	渡辺(リッカー)	61.60	86.24	134.41
第3位	大崎(日体大)	57.64	87.54	125.02
第4位	葛目(日体大教員)	56.09	86.16	123.23
第5位	河合(関西飛ク)	56.68	84.61	119.51
第6位	友江(住友ゴム)	53.62	84.10	117.89

女子高飛び込み

第1位	渡辺(リッカー)	52.28	99.52
第2位	大崎(日体大)	51.78	96.49
第3位	河合(関西飛ク)	50.05	93.55
第4位	友江(住友ゴム)	52.05	92.91
第5位	石黒(大通)	39.76	81.05
第6位	葛目(日体大教員)	30.09	80.88

男子飛び板飛び込み

第1位	土佐(早大)	63.34	104.15	160.14
-----	--------	-------	--------	--------

第2位	金戸(リッカー)	61.69	96.29	154.23
第3位	山野(北軽金)	62.96	96.02	149.30
第4位	長東(日大)	59.40	90.25	134.81
第5位	藤本(慶大)	55.02	84.70	130.76
第6位	伊藤(三和化)	56.22	89.10	129.42

男子高飛び込み

第1位	金戸(リッカー)	81.91	99.19	154.20
第2位	有光(日大)	79.97	99.47	153.21
第3位	大坪(日体大)	80.06	96.70	149.45
第4位	土佐(早大)	78.42	97.92	143.58
第5位	長東(日大)	78.81	91.33	138.17
第6位	伊藤(三和化)	71.71	89.65	136.24

以上の結果、ローマ大会の6位入賞記録を参考として女子飛び板飛び込みは馬淵かの子、渡辺久美子、高飛び込みは渡辺久美子、大崎恵子が選ばれた。

男子飛び板飛び込みは、土佐忠雄、金戸俊介、山野外嗣夫、高飛び込みは金戸俊介、有光洋右、大坪敏郎が選ばれ、9月1日の追加発表で、女子高飛び込みで河合初子が追加され、女子4名、男子5名の代表選手を決定した。

また、コーチ団としては、毛利元英、杉本又二、馬淵良、坂本章八、小山利治の6名が任命された。

オリンピック大会までの、代表選手の合宿練習は、すべて一緒に行かないコーチ団と行を共にする事とし、下記の通り合宿計画を建て実行に移した。

第1次合宿 8月1日～14日(野沢温泉プール)

第2次合宿 8月15日～31日( " )

第3次合宿 9月1日～16日

(東京オリンピックプール)

第4次合宿 9月17日～25日(野沢温泉プール)

第5次合宿 9月26日以降(オリンピックプール)

以上の如く行ない、その自的は、第1次合宿においては、前半は休養を主とし、徐々に鍛練期に入る準備をし、第2次合宿を鍛練期とし、第3次合宿は完成したばかりの屋内のオリンピック・プールに馴れる事に重点をおき、第4次合宿においては、第3次合宿における練習不足を取り戻すための再鍛練期とし、最後の第5次合宿にオリンピック村に入村して、最終調整に入る事とした。

## 競技経過

10月11日午前、女子飛び板飛び込みは出場者21名にて予選前半の3種目が行なわれ、馬淵は3種目共失敗をし特に、前飛びと前逆飛びにおける失敗が大きく、また、渡辺も後飛びにおいて、練習中にも行なった事のない様な身体の横ぶれという大きい失敗を行ない、前半3種

目の合計点で、馬淵は31点09にて第14位、渡辺は30点68にて第15位と下位になってしまい苦境にたったが、なお午後の後半の4種目に望みを託した。

午後は予選の残り4種目が行なわれた。両名共残り規定飛びの1種目の後踏切り前飛びと前飛び半回捻りであろうやく追いつき、規定飛びの5種目合計で馬淵が53.79で8位、渡辺が53.66で10位と上がり、予選種目の第6番目の選択飛第1で馬淵が後宙返り1回半1回半捻りで、また渡辺は後踏切り前宙返り1回半(えび型)できめ、それぞれ得点16点08および15点62をとり、第7位、8位と予選通過の線上にきて、予選最後の種目で馬淵は後踏み切り前宙返り1回半(えび型)、渡辺は前宙返り1回半一回捻りと大過なく飛び予選の得点合計は下記通りなり、予選を通過した。

第1位	クレーマー(ドイツ)	94.69
第2位	ウィラード(アメリカ)	92.68
第3位	コリヤー( )	89.94
第4位	ゴシック( )	89.29
第5位	ビルバート(ドイツ)	86.53
第6位	フェドソバ(ソビエト)	85.85
第7位	馬淵(日本)	85.27
第8位	渡辺(日本)	84.40

決勝は、翌12日午前中に行なわれたが、昨日の規定飛び第4後踏み初り前飛びの型を間違えて飛び減点されて落選していたソ連のアノヒナがジャッジのミスをつけ込んだ抗議が受理され、日本よりも抗議し、約1時間競技開始が遅れたが、結局、国際飛び込み委員会の採決により、8対3にて破れ、9名にて決勝を行なう事となった。

決勝において、馬淵は練習時には絶えず15~6点位を飛んでいた後宙返り1回半(伸型)に大失敗を行ない、得点10点34しかとれず、4位に入るチャンスを失い7位になり、絶好の機会を失ったのは残念だった。渡辺は前宙返り2回半(えび型)と前逆宙返り1回半(えび型)で大きい失敗を行ない9位に終わった。

優勝者のクレーマー(ドイツ)は、昨年モスクワにおいて行なわれた国際飛び込み大会の時より贅肉がとれ、一段と身体の均整がとれ、彼女のなみなみならぬ努力がみられた。飛び込みは余り高さが無く迫力に欠けていたが、身体の線と入水の確実さが光り、ローマ大会優勝者の貫録で優勝をさらった。

第2, 3, 4位のコリヤー、ウィラード、ゴシックのアメリカ勢は練習中より思いきった踏切を行ない、気力ある飛び込みを示し上位に入った。特にコリヤーは女子選手では始めて見る前逆宙返り1回半(伸び型)で19点50の高い得点をとり、2位に入ったのは見事であった。

第5, 6位のフェドソバ、アノヒナのソビエト勢は、昨年のモスクワ飛び込み大会の時より確実さが増し、特に飛び板の使い方がうまく、高さをとって技をしていたのが良かった。

決勝結果は下記の通り

第1位	クレーマー(ドイツ)	145.00
第2位	コリヤー(アメリカ)	138.35
第3位	ウィラード( )	138.18
第4位	ゴシック( )	129.70
第5位	フェドソバ(ソビエト)	126.33
第6位	アノヒナ( )	125.60
第7位	馬淵(日本)	125.28
第8位	ヒルベルト(ドイツ)	123.27
第9位	渡辺(日本)	120.34

男子飛び板飛び込み予選は出場者27名で争われ、予選は2種目、2種目、3種目の3組に分かれて予選を行ない、1組の2種目は12日夕刻行なわれた。土佐、山野共に失敗を重さね、金戸のみ順調に飛び、2種目合計の結果は、土佐21点93にて14位、山野は18点88で23位、金戸は23点81にて第5位を占めていた。第2組においては前逆飛び、後踏切前飛びを土佐、山野共に失敗し、金戸はそれ以上の不出来で、得点合計38点15にて24位に落ち、土佐は43点34にて13位、山野は40点32にて19位となった。午後よりの予選の最終回においては、土佐遂に実力が出し切れず、その上前種目までの失敗もあり合計89点10にて11位、山野はこれにも調子が出ず81点74にて21位となり、金戸は必死に追い上げ、前飛び半回捻り、前逆宙返り1回半で19位まで回復するも、最後の前逆宙返り1回半1回捻りで、踏切りが後へかかり、そのため飛び板の上に落ち額をうちつけ、前額部烈傷の負傷をし、得点合計71点59の24位にて3名共決勝進出ならず。

アメリカのシツパーガー、ゴーマン、アンドリーセンの3選手で上位3位までを占められたのは、得点の面からみても日本を含め残念だった。

優勝者のシツパーガーは、前年の東京国際スポーツ大会の時より磨きがかかり、全種目を大過なく飛び優勝した。第2位ゴーマンは、非常によく板を踏み身体の線も奇麗で、特に足の伸びがよく、8種目まで1位であったが、9種目めの後宙返り2回半(抱え型)で、早く伸ばしすぎ、大きい失敗をし優勝の座をゆずった。アンドリーセンは、前年日米対抗に來日した当時より、距離が出すぎたり、横へ飛び出したりで悪いくせが出ており、余り見栄えはしなかった。

10位になったイタリアのカニョットはスプリントがあり身体もよく効き、17歳で将来が楽しみな選手だ。

予選結果は下記の通り。

第1位	ゴーマン (アメリカ)	105.99
第2位	アンドリーセン ( " )	100.31
第3位	シッツバーガー ( " )	98.66
第4位	サフォノフ (ソビエト)	94.06
第5位	ボルラッハ ( " )	92.94
第6位	ルンドグビスト (スウェーデン)	31.77
第7位	ワシン (ソビエト)	91.24
第8位	ポフェール (ドイツ)	91.16
第11位	土佐 (日本)	89.10
第21位	山野 ( " )	81.74
第24位	金戸 ( " )	71.59

#### 決勝結果

第1位	シッツバーガー (アメリカ)	159.90
第2位	ゴーマン ( " )	157.63
第3位	アンドリーセン ( " )	143.77
第4位	ポフェール (ドイツ)	142.58
第5位	ルンドグヒスト (スウェーデン)	138.65
第6位	ボルラッハ (ソビエト)	138.64
第7位	サフォノフ ( " )	134.00
第8位	ワシン ( " )	133.48

女子高飛び込みは24名の参加者で15日午前中に4種目で予選、午後は3種目で決勝が行なわれた。決勝には12名出場。

大崎、渡辺、河合の3名は、練習中の調子が全然出ず、4種目とも各人満身に飛べず、実力を出し切れずに終り、大崎は45点20で15位、渡辺は43点50で18位、河合は45点00で16位となり決勝進出ならず敗退した。

高飛び込みも、クレマー (ドイツ) が優勝するのはないかと予想していたが、予想に反しブッシュ (アメリカ) が勝ち、クレマーの消極的な飛び込みにひきかえ、ブッシュの積極的な思いきりのよい、力強い飛び込みが勝利をつかんだという感じがした。アメリカは他の選手が不調な時だけに、ブッシュの優勝は非常な喜びであったと思う。第3位のアレキセバ (ソビエト) は非常に強く、女子初めての前宙返り3回半 (抱え型) をうまくいれ、また他の種目も無難に飛び、練習中の実力を発揮して上位に入った。

#### 予選結果

第1位	ブッシュ (アメリカ)	53.78
第2位	アレクセバ (ソビエト)	53.02
第3位	クレマー (ドイツ)	52.98
第4位	ジュネバ (ソビエト)	51.91
第5位	クズネソバ ( " )	49.89
第6位	ランツケ (ドイツ)	49.69
第7位	ペルトマイヤ (オーストラリア)	49.59
第8位	ラインハルト (ドイツ)	47.83

第9位	クーパー (アメリカ)	47.80
第10位	モロー (カナダ)	47.62
第11位	タルメージ (アメリカ)	47.28
第12位	ブラドショー (オーストラリア)	46.58
第15位	大崎 (日本)	45.20
第16位	河合 ( " )	45.00
第18位	渡辺 ( " )	43.50

男子高飛び込みは16、17、18日の3日間に行なわれ、制限選択飛び6種目と自由選択飛び1種目で予選が行なわれ、最終日の18日に残り3種目で決勝が行なわれた。

金戸は飛び板飛び込み競技において負傷したため練習もできず出場が危ぶまれたが、医師付き添いのうえ出場することになったが、やはり3日間のベッド生活と、練習不足のため思いきった飛び込みができず、91点22で11位有光も第4種目めの後飛び (えび型) で14位となり予選でおちたが、大坪は健斗し走前宙返り1回半1回捻りで失敗したとはいえ、選択飛び第1の後踏切前宙返り2回半 (えび型) にてよくきめ、堂々3位にて予選を通過した。

#### 予選結果

第1位	ディビアシー (イタリア)	97.62
第2位	パラギン (ソビエト)	94.77
第3位	大坪 (日本)	94.32
第4位	フェルブス (イギリス)	93.85
第5位	マドリガル (メキシコ)	93.82
第6位	ウェブスター (アメリカ)	93.18
第7位	ゴンブ ( " )	92.79
第8位	スペルリング (ドイツ)	92.24
第11位	金戸 (日本)	91.31
第14位	有光 ( " )	90.56

決勝は18日午前行なわれ大坪に期待をかけたが、前宙返り1回半2回捻りがかたくなりすぎ回転がかからず失敗し、後宙返り1回半 (伸び型) でも大きく失敗したため、最後の前宙返り3回半で19点71の高点をとったが、僅差で8位に終わった。

優勝者のウェブスター (アメリカ) は、自由選択飛び第1後宙返り2回半 (抱え型) で大きく失敗をし、予選では6位になったが、残りの3種目で追いあげ優勝したのは、やはりローマ大会の優勝者としてのキャリアと、飛び込みの立派さなどで勝ち得たもので当然と思える。2位ディビアシーは各種目とも確実に飛び、ゴンブをおさえ2位になったのは、1963年ベルリン大会出場の父親のコーチと本人の努力のたまもので頭が下がる思いだ。まだ17歳の若さで将来強くなる選手だ。第3位ゴンブは、強さが欠け3位入賞がやっとだった。あわれだったのはウェブスターと共に優勝候補と目されていたビトッシー

(アメリカ)で、逆立ち飛び込みに2度立ちなおしを行ない、0点をとり、予選合計点86点40で落選した。

本大会においてめだったことは、ベテラン選手の失敗と、欧州勢が強くなり、いままで独走の観があったアメリカ勢と差がなくなり、全般的にレベルがあがったことだ、日本選手もわずかなところで入賞を逸したり、予選でおちたりはしたが、その差は本当に紙一重で、その日の調子次第で上位入賞のチャンスは十分にあり、特に馬淵かの子、大坪敏郎については誠に惜しいことをしたの一言につきる。

日本の飛び込みそのものについても、この4年間で相当の進歩をとげ、決して諸外国に劣るものではなく、今後は技術的な練磨と共に、精神面の訓練を行ない、競技会で失敗をしないように指導すべきだと痛感した。

(小柳 富男)

## 水 球

### 1) 選手選考の経緯

ローマ大会終了後われわれはただちに水球強化委員会を設置して、きたるべき東京大会に総力を結集して、邁進できる体制をとり、5か年強化計画をたてその計画にもとづいて年々選手強化を実施してきた。

- a) 昭和36年度 強化対象選手の基礎の拡充と外国コーチ招待による技術の強化向上をはかる。
- b) 昭和37年度 前年にひき続いて外国コーチを招待して技術の強化向上をはかる。前年の強化対象選手をしぼって強化の方針を準英才教育に変える。
- c) 昭和38年度 海外交流と東京国際スポーツ大会での実力打診をし、選手強化の方針を英才教育に重点をおく。
- d) 昭和39年度 チーム編成に重点をおくと同時に欧州遠征を実施して最終調整を行なう。

以上のような強化方針にもとづいて高校、大学、社会人の分野から優秀な素材を集めて、年々強化合宿を実施し、毎年オリンピック候補選手を選抜してしだいに数をしぼって11名の選抜チームを編成してきた。オリンピック代表選手の選考は7月9日～7月12日の間に開催された日本選手権大会で選考を行なったが、11名の選手を同時に選考することがむずかしく、8名の代表選手を決定し、残り3名に関しては今後の強化練習の成果によって決定することにし、8月31日を最終選考会とすることになった。日本選手権大会終了後は、7月15日～8月2日

の間に欧州遠征(監督1, 選手9)が組まれており、さきに決定をみた8名のオリンピック代表選手に1名を加えてハンガリーに最後の武者修業に出かけ、残った候補選手は7月25日～8月5日の間柏崎市において強化合宿を行ない、選手個々の欠点修正と長所の増長をはかり、その後欧州遠征チーム帰国後、8月17日～8月30日の間柏崎市で最終合宿にはいり、この合宿で3名の代表選手を選考することになり、9月2日に水連の選考委員会において3名の選手を決定、これでオリンピック代表選手が全員決定した。

GK		歳	cm	kg	100m
	加藤 蜂男(早大卒)	26	173.0	69.5	1.20.4
	飯田 矩偉(中大卒)	25	170.5	67.5	1.23.0
BW					
	荒川 八郎(慶大卒)	31	173.0	63.2	60.0
	横山 隆(中大卒)	24	175.0	69.0	61.6
	青山 礼三(日大卒)	24	174.0	67.2	61.0
FW					
	高木 弘毅(日大卒)	26	172.0	72.5	62.6
	藤本 重信(日大卒)	24	175.0	68.1	61.8
	清水 洋二(慶大卒)	23	173.0	66.5	61.2
	桑原 重治(成城大卒)	23	176.0	71.0	60.5
	梶月 啓左(早大卒)	23	174.0	71.5	59.7
	竹内 和也(早大4年)	22	176.0	70.6	57.5

以上のごとくFW選手を多くとり攻撃を主体としたチームをつくり、機動性の強い選手を選び、スタミナの不足は交代によってその欠点をおぎなうようにし、チームの平均泳力も60秒6という戦後で最もスピードのあるチームを編成した。

### 2) 選手決定後の活動

第7次強化合宿 9月5日～9月15日

宿 舎 日本青年館

練習場 都屋内プール、参加者はオリンピック代表選手と候補選手7名の18名で強化合宿を行なった。

本合宿は最終調整期の第2期の合宿であり、代表選手決定後であるのでゲーム中心の練習を主体にコンビネーションとチーム・ワークの訓練に主力をおいた合宿練習を実施した。

第8次強化合宿 9月20日～9月30日

代表選手は選手村にはいり、候補選手とJOCコーチ団は御苑マンションに宿舎をとり、

午前10:00～12:00

泳力強化、ボール・ハンドリング、シュートを目的とし

午後4:00～6:00

フォーメーション練習、ワンサイド攻防、練習ゲームを主体とした練習

最後の強化合宿であり、今後外国チームも入村してくるので練習のペースを乱さないように注意しながら、できるだけ多くの外国チームと練習試合をやり、相手チームの研究と同時に日本チームのこまかい作戦上のデータを JOC コーチ団に集めてもらうようにし、本大会に万全を期する体制をとった。

9月24日(木) 雨 17:00~18:00 (都屋内プール)

オーストラリア 3—5 日 本

オーストラリア・チームは旅の疲れがぬけないようでべつに目新しいものも見当らなかったが、ただチームのなかに左ききの選手が3人も含まれており、特に1人は左右両方を使い分けるのでこの点十分マークをしておかないと、思わぬところで防御に混乱をきたすのでこの点を特に注意せねばならない。

9月25日(金) 風雨強く後晴 18:00~19:00

ハンガリー 5—2 日 本

いままでに数多くゲームをやっている相手なのでよく知りつくしているが、やはり優勝候補チームだけになかなか手ごわく、攻防転換からのす早い出足に、まだ覚乱されている。速い攻撃と正確なパスワークを身上とするチームだけに、多彩な攻撃方法をくり出してこちらのわずかのミスをつき速攻はみごとである。

9月26日(土) 晴 11:00~12:00 (都屋内プール)

オーストラリア 3—5 日 本

二度目のゲームであるが、オーストラリア・チームはローマ大会当時と比べてあまり進歩しておらず、機動力やパスワークもさほど恐れるものはないが、左ききのプレーヤーが多いのでその点ゴール前のマークは特に注意を要する。

16:00~17:00 (都屋内プール)

ハンガリー 9—3 日 本

このゲームは完全にハンガリー・チームのペースにのせられた感があり、攻防転換の遅いところをつかれ速攻でノーマークを作られたり、またマーク・チェンジの遅れからくるマークのあまきをつかれて中距離シュートを決められ、一方的におしまわれたゲームであった。しかし、ゴール・キーパーの加藤が好守を示してくれたことは、このゲームでの唯一の収穫であった。

9月28日(月) 雨 (都屋内プール)

いままでの練習試合でめだつた欠点を補強するために午前午後共ゲームをやらす

- (1) 攻防転換に対する速い動き
- (2) マーク・チェンジの動きかた
- (3) 全面プレス・デフェンスの点を重点に練習を行な

う。

9月29日(火) 晴 12:00~13:30 (国立プール)

ドイツ 7—3 日 本

ドイツ・チームはデフェンスのかたいチームであり、スピードはさほど強くなく、相手ボールのときには全員が下りぎみのデフェンスを行ない、ゴール前をせばめて相手の行動範囲をせばめてシュートラインを後方におし出すような体制をとり、攻撃方法は完全なるチャンスができるまで無理な攻撃はせず、遅攻を主としたチームである。

今日のゲームでもなかなかラフなプレイが多く、2メートル線に攻撃ラインをもっていくことがむずかしく、そのため中距離シュートをねらわすべく縦の突込みから、急にストップをかけて相手をやりすごして、そこにパスをするような攻撃方法をとったが、思うように攻めきれず、こちらのあせりからくる無理なシュートが逆に相手の攻撃を受ける結果となり苦戦をした。

18:00~20:00 (都屋内プール)

イタリア 8—3 日 本

ユーゴ 2—0 日 本

イタリアとゲームをした後に、ユーゴと30分間ゲームをやったが、疲れぎみでよいところはなかった。

9月30日(水) 曇後小雨 14:00~16:45

(都屋内プール)

ユーゴ 5—2 日 本

ユーゴはハンガリーとは対照的にデフェンスの強いチームであり、あまりこまかいアタック・システムはないが、確実に得点をしていくチームなので無理なシュートは禁物の相手である。しかし今日のゲームでは積極的に動いてプレーしたので、シュートまで相手にボールをカットされることなく、回転攻撃がスムーズにいった。しかしまだサイドに追込まれた場合のボールのヘルプが遅く、テンポがくずれることがたまにあったが、この点は今後注意しなくてはならない。

今日からチーム数が増えてきたので1日1回(1時間30分)の練習割当てとなる。

10月1日(木) 晴

今日は日本チームの結団式が行なわれ、競泳を除く全チームが入村した。本大会も10日後に迫り、村の中ももりあがり示してきた。現在のところ病人も事故者もなく、このまま調子をあげていけば本大会ではベスト・コンディションでのぞめると思われるので、今後コンディショニングにも注意していかねばならない。

8:00~10:00 (都屋内プール)

今日は自主トレーニングを行なう。

泳ぎ、ダッシュ、ハンドリグ、シュート、ワンサイド

・コンビネーション

10月2日(金)晴 10:00~11:30(都屋内プール)

アメリカ 3—6 日 本

アメリカチームは非常に若がえっており、ローマ大会当時よりは力が多少おちているように思われる。

10月3日(土)晴 12:00~14:00(都屋内プール)

ルーマニア 5—2 日 本

ルーマニア・チームは攻守共にバランスのとれた強力なチームであり、来日以前から東京大会ではベスト4にはいろいろと相当意欲的な練習をしてきており、本大会では相当な活躍が期待されているチームなので、われわれも十分マークすることにする。ルーマニアはローマ大会でも対戦し、またソフィアのユニバーシアード大会でも対戦しているので、だいたいの特色はわかっていたが、下り目のデフェンスにあい、やはりあせったシュートが、結果的にはこちらの失点にむすびついているので、あせらずゴール前を十分に拡げてから、そこへ突込んでシュートするようにしていかないと、やたらと相手の攻撃に苦しめられことになる。またデフェンスの点から特にマークする相手は、ゴール前の GRINTESCU と、中距離に強力なシュート力をもつ ZAHAN の2人は相当マークするようにしないと、この2人が得点源になるように思われる。

19:00~20:00(都屋内プール)

ハンガリー 3  $\left\{ \begin{array}{l} 1-1 \\ 0-0 \\ 0-1 \\ 2-0 \end{array} \right\}$  2 日 本

このゲームは最近でのいちばんよいできで、第3クォーターまではハンガリーに1点のリードをしており、意気あがったゲーム運びで、第4クォーターに2-0と反撃されて、3-2と逆転負けをしたが、全員の動きとコンビネーションは最高のものであり、この調子を本大会に出せば6位入賞は実現できると思われた。

10月4日(日)晴 15:00~16:00(神宮プール)

ベルギー 5  $\left\{ \begin{array}{l} 1-1 \\ 2-1 \\ 1-1 \\ 1-1 \end{array} \right\}$  4 日 本

このチームとは初めてであり、どのような特色があるか解らないが、今日のゲームでは泳力はなく、またプレイヤーもそれほど強力な特定シューターもないので、こちらのペースに乗せられれば骨の折れる相手ではないと思われた。だが今日のゲームでは泳ぎ勝って完全ノーマークができていのに、ゴール前でバックシュートをして失敗したり、やらなくても良い反則を繰り返して退水をとられたり、動きの鋭くない相手と見てなめてかかったのが最大の敗因である。昨日のゲーム運びが良かった

ので油断があったと思うが、こういう点は厳につつまなくてはならない。試合は技術より精神的な面が左右する力が大きいということを選手に良く話して、今後このような事のないように注意した。

10月5日(月)晴 14:00~16:00(都屋内プール)

オランダ 5  $\left\{ \begin{array}{l} 1-0 \\ 1-2 \\ 2-0 \\ 1-3 \end{array} \right\}$  5 日 本

このゲームはパスワークが悪く苦戦をした。しかし第4クォーターは積極的に攻撃して同点にまで持込むことができたが、パスがおくれ気味のためにタイミングが合わないことと、ボールを持ち過ぎで相手のタックルを受けてからパスしようとするために、正確なパスができないことは今後注意せねばならない。オランダ・チームも若手が多く、調子に乗ると実力以上の力を出せるチームのように思われた。

10月6日(火)晴

本日は練習を休み一日外出禁止で村内にて休養する。明日より練習量を減らし、日本チームの自主トレーニングを主体に行ない、コンディション調整をする。

午前9時から本大会の組合わせが行なわれるのでFINA事務所に行く。本大会には16チームが参加する予定であったが、南アフリカ、アルゼンチン、スウェーデンの3チームの不参加が決定したために13チームで大会が行なわれることになった。組合わせ方法は従来と多少変り、ローマ大会の上位4チームを抽せんしてABCDそれぞれに配置し、残りの9チームをまたそれぞれ抽せんして各グループに入れて組合わせを完了した。(従来は上位4チームを第1シードとし、次に5~8位のチームを第2シードとして抽せんして、残りの8チームを混みで抽せんして組合わせを行なった。)

グループ(A): イタリア, ルーマニア, 日本

” (B): ソ連, オーストラリア, ドイツ

” (C): ユーゴ, アメリカ, オランダ, ブラジル

” (D): ハンガリー, アラブ連合, ベルギー

以上の通りで、日本チームはローマ大会同様(A)グループで対戦相手もアラブ連合がないだけでまったく同様な組合わせである。

10月8日(木)雨 10:00~11:30(神宮プール)

ユーゴ 6  $\left\{ \begin{array}{l} 1-0 \\ 1-1 \\ 1-1 \\ 3-1 \end{array} \right\}$  3 日 本

練習ゲームもこれが最後であり、また本大会も4日後に迫っているので、全員試合気分を出して最後まで食い付いて行ったのだが、第4クォーターで3-1とはなされ



で惜敗した。やはり日本チームの攻撃の荒さが目立ち、攻め急いで失敗しているのが目立つ。もっとオープンにボールを回わして、ゴール前のチャンスができるまでじっくり攻めて行くべきで、この点本大会には十分注意せねばならない。

### 3) 本大会試合経過

#### 試合方法

1) 各グループで予選リーグ戦を行ない、各グループの上位2チームによって準決勝リーグ戦が行なわれる。

2) 準決勝におけるグループは、予選リーグの AB グループ E をとし、CD グループを F として行なわれる。各準決勝リーグにおいて上位2チームで決勝リーグ(1位~4位)が行なわれ、下位2チームによって(5位~8位)決定戦が行なわれる。

3) 予選リーグ戦で試合したチーム間にあつては、再試合を行なわず、その結果が全トーナメントに対する得点として計算される。なお勝は2点、引き分けはそれぞれ1点ずつ、負は0点とする。

4) 同点の場合はゴール・アベレージによって順位が決定される。これはゴールの得点に100を乗じ、そして失点で割ることによって求められる。もし平均得点と同点ならば特別な場合として両チームによって新しい試合が勝敗の決するまで行なう。

10月12日(月)晴 10:00~11:00(都屋内プール)

イタリア 5  $\left\{ \begin{array}{l} 3-1 \\ 1-0 \\ 0-1 \\ 1-1 \end{array} \right\}$  3 日本

レフリー：ブランディー(ハンガリー)

ROSSI	1	加	藤
SPINOLA	2	荒	川
PIZZO	3	横	山
LONZI	4	竹	内
LAVORATORI	5	清	水
BARDI	6	藤	本
PARMEGIANI	7	高	木
CEVASCO	8	梶	月
DENNERLEIN	9	青	山
CUERRINI	10	桑	原
MERELLO	11	飯	田

センターボールを竹内が取りバックにボールを返して体型をとる間に、藤本が右サイドから斜めに突っ込んでマークをきれいにはずしてゴール前を横切る間に、高木より絶好のパスがきて試合開始27秒という早い時に右隅に先制のゴールをあげ、素晴らしい速攻にイタリアチームのどぎもを抜いた。その後イタリアはPIZZO~SPINOLA

のリレー・シュートで1分21秒ゴールを決め、続いてDENNERLEINのドリブル・シュート(3分45秒)で反撃され、また日本のマークの僅かのすきをPIZZOにミドルシュート(4分45秒)を決められ完全に逆転されて第1クォーターを終了、第2クォーターは荒川の退水(2分)に乗じてPIZZOに再びミドル・シュートを決められた。第2クォーターは相手を徹底的にマークして、ゴール前に的確なパスを集中させぬようにして反撃のチャンスをつかもうとしたが成功せず、第3クォーターは高木を梶月に代えて反撃をねらい、ストーリングをしばしば使ってチャンスをねらい、ゴール前に切れ込んだ竹内にパスしてフリップ・シュート(2分8秒)を決め2点差に追い上げ、PIZZOのペナルティスローを加藤が鮮やかに止めてイタリアをあわてさせたと同時に日本チームは反撃の意気旺盛になった。第4クォーターはCEVASCOのプッシュ・シュート(53秒)を決められたが、日本チームも反撃のチャンスをねらいボールをキープしてゴール前への突込みを繰返す中に、PIZZO(1分28秒)、清水(2分5秒)、SPINOLA(3分17秒)が退水になり、日本チームは相手のゾーン・ディフェンスを攻撃クロス・パスを回わして竹内がミドル・シュート(3分58秒)を決めて反撃に移るも、イタリアの好ディフェンスを破れず、遂に5-3で惜敗する。

10月13日(火)曇

ルーマニア 9  $\left\{ \begin{array}{l} 1-1 \\ 3-2 \\ 2-0 \\ 3-1 \end{array} \right\}$  4 日本

レフリー：コック(オランダ)

STEFANSCU	1	加	藤
GRINTESCU	2	竹	内
ZAHAN	3	清	水
SZABO	4	高	木
KRONER	5	藤	本
FIROIU	6	横	山
NOVAC	7	荒	川
MARCULESCU	8	青	山
KULINIAC	9	桑	原
LITA	10	梶	月
MURESANU	11	飯	田

まず、センターボールは竹内が取り先取点をあげるべく攻撃をしている内に横山が退水(3分16秒)となり、ゾーン・ディフェンスに移ったところをMARCULESCUにシュート(3分35秒)を決められ、逆に先取点をあげられたが、藤本-清水とゴール前のリレー・シュート(4分54秒)が決まり同点とする。第2クォーターはルーマニアの速攻にKRONER(44秒)ZAHAN(1分33秒)GRINTESCU

(2分23秒)と相次いで得点され4-1とリードされたが、この後ふたたび藤本一清水えのリレー・シュート(4分2秒)と横山のペナルティー・スロー(4分46秒)を決めて反撃4-3と1点差に追い上げ、第3クォーターに高木を臯月に代えて反撃に移ったが、開始直後、臯月とKULINIACが同時に退水(37秒)となり、GRENTESCUにノーマーク・シュート(2分17秒)を決められた。その後ZAHANが退水(2分48秒)となり、日本チーム有利になり1点を返せるチャンスをつかんだが、ゾーンを攻撃している中にパスが悪く、ゴール・スローとなった間に、ルーマニアの速攻にあい、FIROIUにノーマーク・シュート(3分43秒)を決められ、1点差に追上げるチャンスを逆に6-3と3点差に引離された。第4クォーターは第3クォーターの勝負どころで日本がミスしたために、完全なルーマニアペースに巻き込まれ、日本チームはあせりが出て思うような攻撃もできず、パスミスや無理なシュートがわざわざしてZAHANに得点(1分20秒)され、また竹内が2分41秒に退水となって、ふたたびZAHAN(3分42秒)が得点、4分45秒にもSZABOがシュートを決めてルーマニアの一方的なゲームになったが、タイム・アップ直前、高木がペナルティー・スロー(4分59秒)を決めてゲーム終了となる。前日のイタリア戦を失なった日本チームは第2戦に全力を傾注して対ルーマニア戦になんとか一矢をむくいて、準決勝リーグ進出を願ったが、逆に9-4という大差をつけられて破れ、遂に準決勝進出ができなかったことは誠に残念であった。

#### 4) 大会をかえりみて

東京大会は

- |         |         |
|---------|---------|
| ① ハンガリー | ⑤ ルーマニア |
| ② ユーゴ   | ⑥ ドイツ   |
| ③ ソ連    | ⑦ ベルギー  |
| ④ イタリア  | ⑧ オランダ  |

以上のような結果に終わり上位8チームは全部欧州勢で占められることになった。

本大会を通して感じたことは、水球競技に2通り形があらわれたということである。

その一つはオールラランド・システムに徹した機動性のある水球であり、他の一つは技術の行きづまりを感じさせるような格闘競技が行なわれたこと、つまりゴール前での位置の取り合いから体触以上のもみ合いが見られたり、レフリーをぎまんするトリック・プレーが行なわれることがはなはだしくなった。このトリック・プレイの傾向はローマ大会当時にもその感があったが、今回はそれをはるかに上回る程極端なものもしばしば行なわ

れていることがあった。これは今後の水球界のためには決して喜ぶべき現象ではなく、もし後者のごとき水球が今後続けられるとすれば、日本人のごとき体格の小さい者には上位入賞等は考えられないと思う。しかし、このうれべき現象については本大会中も各国監督、レフリー間でしばしば話題になっていたことなので、今後なんらかの方法で消滅するものと確信すると同時に、われわれとしてもそのように働きかけ早く正道にもどさねばならないと考える。

東京大会での組み合わせは前回のローマ大会とまったく同様で、イタリア(ローマ大会1位)ルーマニア(ローマ大会5位)と共にAグループに決定、本大会の最強グループに組合わされ、相当の苦戦はまぬがれなかったが、われわれとしてもローマ大会以来5年間、今までにない強化練習をかさねて来ているので、そうむざむざと敗れるとは考えておらず、最後まで食い下って強豪チームになんとか一泡吹かせたいと考えていたが、そのかいなく予選で2敗を喫して失格となり、準決勝リーグに進出もできず6位入賞の目的を果すことができなかったことは誠に残念に思うと同時に、期待にそえず申訳けないと思う。

第一戦の対イタリア戦は誠に素晴らしいできで、日本チームの持っている力を十分に発揮して、ローマ大会の優勝チームをあわてさす場面もあり、われわれは第2戦の明かるい見通を持つことができたので、対ルーマニア戦は相当戦えるという自信を持ってぶつかった結果は、第1戦とは逆に実力以下の試合をし5点という大差をつけられて敗退してしまった。私は最悪の場合でも2点以上の差で敗れることはあるまいと思っていたが、このような結果に終わったことは誠に意外であった。

試合にはベスト・コンディションで臨むことができたと思う。それは従来の場合と違いスポーツ科学研究委員会からトレーニング・ドクターとして平井、勝村両先生の協力を得て選手の健康管理を強化合宿ごとに実施して毎日測定検査を行ない、日々の結果を個人別とチーム全体のものとしてコンディション調整の資料として提供していただき、コーチ陣でつねに気を配り、実際面と医学的裏付けとを参考にしながらやって来たので、コンディショニングは成功したと思う。では何故ルーマニア戦で第2クォーターまで4-3という接戦をしながら第3、第4クォーターで4点も引離なされたか、人によっては日本人の体力の限界があれまでで、第3、第4クォーターはスタミナの不足であると結論づける人もいるが、私は決してスタミナ不足と思わない。それは過去5年間の強化方針の根本はスタミナをつけることが第一条件であり、スタミナのない日本の水球は考えられない。すなわ

ち、体力が外国選手のそれに劣る日本人にとって動くことによってその体力差をカバーする以外に途はなく、もしスタミナを使い果せば交代ができるので、交代制によってそれはカバーできるとして、強化方針の第一に泳耐力強化を挙げてやって来たからである。

ではなぜ見る目にスタミナ不足という感を与えたかといえば、それはスタミナ不足ではなく気力の欠如であったと思う。なぜ気力にかける所があったか、いやしくもオリンピック大会に参加する選手に一人として、やらんかなの気力がなかったものはないと思う。日本の代表選手として立派な成績をあげようと努力して来たことは事実であると思う。したがって、その原因を考えて見ると、強化方針になにか欠ける所があったのではないかと思う。ローマ大会終了直後から今日に備えてあらゆる角度から検討を加えて5カ年計画をたて、われわれとしては前にも述べたごとく泳耐力を基盤に着々と体質改善を行ない、今までと違った水球チームを作ろうと、外国からコーチを招待して先進国の技術を学び、そして一步一步基礎から積み上げて来て5カ年計画は着実に成果をあげて来た。そしておそらくローマ大会当時とは数段の進歩をとげた強力な個々の選手はできあがったと思うが、チーム・ゲームの本質であるチーム・ワークの点に多少欠ける所があったと思う。それはピックアップ・チームを作り、つねに優秀な個々の選手を集めて国内の大会に選抜チームとして出場し、文句なく勝ち進んで来たために1点を争う接戦を勝ちぬいて来たという経験もなく、また11人の力を1人の力として戦うチーム・ワークもさほど必要としないで勝ち進んで来たことが、全員一丸となって戦いぬき、そして倒れるまで力をふりしぼって勝利をつかみとるといふきびしい場にのぞんで、その欠点をさらけ出したのだと思う。すなわち温室の中で育てられて来たことが最大の原因だと思う。その例は、第1戦では全員一丸となってぶつかった結果が力以上の試合ができ、ルーマニア戦では相手もこの試合に敗れると予選落ちになるので、必死でぶつかっては来たが、第3クォーターの日本チームのミスから引きはなされ、選抜チームの欠点であるコンビネーションがくずれて、大差をつけられたものと思う。ルーマニアもそうやすやすと勝てる相手ではないが、日本チームのもっている力を出しきれなかった原因は気力負けであったと思う。また技術的な面を反省してみると、

#### (1) 攻防転換時の適切な処置

オールラウンダー・システムの動きの激しいゲームにおいては、攻防の転換時が防御側にとっては最大のチャンスであり、攻撃側にとっては最大のピンチであるので、この点をすみやかに処置しなくてはならない。速攻のチャンスはこの時に産み出されるので、それをおさえるにはマーク・チェンジを確実にこなして前にノーマークを作らないようにし、ノーマークのプレーヤーはできるだけ後方に置いて、他の者がこれにマークするようにしなくてはならない。

#### (2) 回転攻撃の徹底

おもに遅攻の場合に考えられることで、体力差のあ

る外国選手とあたる場合に、静止的なプレイはほとんど通用しないので、動きによってチャンスをつかみ、マークを少しでも離して攻撃することが肝要。

#### (3) ポジション・チェンジ

オールラウンダー・システムになると動きが激しくなり、攻防転換時にマーク・チェンジを余儀なくされるので、特定のプレーヤーを特定なプレーヤーでマークがしきれなくなるので、ゲームが静止している時（ゴール・スロー、コーナー・スロー、フリー・スロー等）にお互いのポジションを交代して完全な型にもどすことが必要である。

#### (4) デフェンス技術の習得

水球競技において外国チームと対戦する場合、大型選手はやはりゴール前でのフローティング・テクニックを使うことは十分考えられるので、これに対するマークの方法や、ドリブルしている相手に対するマークの方法をもっと深く掘り下げて研究する必要がある。また同時に全員防御の体制をもっと研究の要がある。大略して以上4点が本大会では徹底的に習得できずに終わったので、今後はこの点を大いに強化していかねばならないと思う。また将来への対策としては、

#### (1) 競技人口の拡充と指導者の養成

高校選手の層をもっと広げていくことと同時に、指導者の教育を行ない高校のレベルを上げること。高校のレベルが上がれば水球の原動力である大学のレベルも必然的に向上してくる。また、一方では社会人も育てねばならない。せっかく大学でできたえられてきた者が、社会人となると水球から遠のいていく現状であるが、この訓練された社会人をなお伸ばしていかないと、日本の水球の今後の発展はのぞめないと思う。それにはクラブ・チームをもっと強化することと社会人の練習の場を確保することが先決である。

#### (2) 指導理論の一本化

これはなかなかむずかしい問題であると思うが、是非共実現せねばならない点で、高校～大学と一貫した指導理論と方法をうちたてて、選手を指導していく必要がある。それには各界の指導者でグループを作り、お互いの意見を交換し合いながらやっていく組織を作ることが必要である。

#### (3) 大型選手の育成

試合において実力が同等であれば体力のある者、大きい者が有利であることは論をまたないと思うが、今回のメキシコ大会を考えた場合、少なくともゴール・キーパー、フルバック、センター・フォワードには1.8m以上の選手が必要であると思う。もちろん11名全員が1.8m以上の選手で揃えることが理想ではあるが、これはなかなか困難なことでもあるので、最低3名を当面の目標と考え、それを逐次増加していくように心がけるべきである。それには高校から始める時にこの点を考慮するのが早道であると思う。

以上3点を今後の恒久的対策として進むことによって、日本の水球はまだまだ進歩していくことは必条である。

(鶴田 武)

## オリンピック大会運営の反省

出席者 奥野 良 伊藤 謹平 菊池 章 赤樫 卓爾  
益田 宗 岩佐 道雄 小川 道郎 谷内 洋一郎  
宍道 洋一 (以上日本水泳連盟) 江戸 周耕 (組織委員会)

日時 昭和39年11月14日(土)

場所 日本体育協会監事室

宍道 今日には御多忙中の処大変有難う御座いました。オリンピック準備のため御骨折りいただいた方々から色々お話を伺って記録に残しておきたいと思い、この座談会を計画しました。では準備委員長の奥野さんからどうぞ。

奥野 きょうはオリンピック大会運営についての準備から大会を含めての批判、ならびにそれに対する反省をし、それを今後どう生かしていくかをお話ねがいたいと思います。この二つの問題は今後水泳連盟がもつ大会についての効果的運営の研究にもなると思います。

今度の大会では、機械審判は大きな課題であったと思います。これを今後どう発展させるか、できるだけ使用回数を多くして、今大会でみられた欠陥をどう補っていくか、果して今後の競技会が、機械審判を使ってどのくらいまでやっていけるかという問題が起きてくると思います。

次に競技役員の件ですが今迄の競技会はオリンピックを含めて役員が誠に多い。果してあれだけの競技役員が必要なのかどうか。それは機械審判の効果的運営とからんだ問題として大いに研究の要があると思います。

### (1) 準備委員会について

宍道 では次に、水連の中に設けられたオリンピック準備委員会の発足と経過について伊藤さんから説明して下さい。

伊藤 準備委員会の発足は何時頃だったか覚えていないのですが、はじめ水連の中に強化本部が出来て、それがある程度軌道に乗り、組織委員会が活発な動きをはじめたころ準備委員会が発足したと思います。準備委員会は強化本部のように特別委員会というような形をとらな

いで、一般の委員会と同じような委員会の性格を持たせて、それをある程度統合したような仕事をさせるような狙いで発足させたと思います。そして設立当初は状況に応じて改良したり拡充したり、人の入替えもやるという弾力的な考えでやったのですが結果的にはそれが最後まで、ほとんど変らなかつたと思います。ということは発足当時の構想がよかつたということでしょう。

それからもう一つ考えたことは最近の理事会その他の空気が、どうも思わしくないので、この準備委員会では言いたいことが自由に言える雰囲気を作ろうと運営上特別に注意したつもりですが、これはある程度成功したと思います。

次に準備委員会の構成ですが、これは各部門のチーフと機械関係に重点をおき、出来るだけ人数をしぼりましたがこれもよかつたと思います。又当初から組織委員会から江戸さんに出ていただいたので、組織委員会に対する注文および組織委員会の考え方が常にこちらにわかつていたし、江戸さんにクッションになってもらったので、スムーズにいったと思います。これがうまくいった原因の第一ではないかと思ひます。

大体、設立からオリンピックのはじまる六カ月くらい前までは、月一回ないし二回会議を開いてきました。六カ月くらい前から一応臨戦態勢になり、質的にも量的にも準備委員会が準備運営委員会となり、運営の方に重きをおいた仕方になってきてまして、そのままオリンピックにはいったわけです。

宍道 江戸さんに伺いたいのですが、準備委員会は各競技団体にそれぞれ設立されておりましたか。

江戸 そうです。

宍道 別に組織委員会から各団体に「準備委員会を作

ってくれ」と要望したわけじゃなく

江戸 要望というほどのものじゃなかったけれども、各競技団体がそのような委員会を作って応じられたわけですね。

益田 はじめはオリンピック連絡協議会といったのじゃないかな。

伊藤 いや、はじめから準備委員会だった。

益田 連絡協議会を青山君がやっていた、それが準備委員会になって、六カ月くらいしてから彼がいなくなりかわりに私がいって。そのときのメンバーをみると強化の方から二、三人きています。

伊藤 いやそれはちがう。

菊池 準備委員会が発足したときの幹事は青山君だったことは事実ですよ。

伊藤 そのときから勝村君がはいっていた。根上さんが委員長で変わらないよ。あとの出入りが変わっただけで、組織や機構は変わったことはない。

益田 オリンピックの運営だけじゃなくて、オリンピック全般の連絡協議会があった。大勢集ってやっていたのを記憶している。中野太郎さんが出ていた。

伊藤 それじゃ別のものだ。

宍道 伊藤さんの言われたように、理事会より準備会の方がものが自由に言えた会ですね。みんないいたいことをいっていた。

伊藤 その代り、いいすぎたことがある。(笑)

菊池 思いきってケンカした会でもある。(笑)

奥野 よりよい結果を出すためにはいろいろな意見を出さなければね。

宍道 益田君が当初オリンピックのプログラムを組んでいたころにはこの会は出来ていたの？

益田 ありました。私がいってのは昭和37年の5月末ですが、そのころの私の役目はオリンピックのプログラムを作ることとIBM担当だった。そのうちに栗村さんがなくなるし、青山さん勝村さんが忙しくなって、ぼくはそっちから抜け出ていったわけです。

## (2) 国際水連との連絡及び競技役員について

宍道 オリンピック開催に当っては、主催者である国際水泳連盟(FINA)のことが当然問題になります。FINAとの折衝は、今から考えるとあまりなかったように思う。それで結構うまく運営されたが、あんなものではないか。

伊藤 FINAとの折衝は相手が安部さんで、私とその折衝に当たったが、安部さんのセンスと私達のセンスは外人と日本人のセンスぐらい違っていて、こちらが重要

なことだと思って連絡しても向うは大して考えていなかったりズレはありました。

それともう一つは、あのころ水連と安部さんの間にスッキリしないものがあった、連絡が悪かったということはあると思います。しかし、FINAと交渉するといっても相手は気心のよく分った安部さんだから、なんとかなるというような安易な気持は多分にあったと思います。みなさんも感じたでしょうが、オリンピックでは、FINAが絶大な権限をもっているのですが、実際問題としてはこちらの考えをFINAがくつがえしたということではなかったと思います。こまかいことではありますがね。

益田 FINAとの間で一番問題になったのは競技役員の数です。

伊藤 競技役員については、はじめ30人~40人くらいしか認められないのじゃないかと思っていたのです。こちらとしては少しでも多く枠をとりたかったので、ケンカしてまで人数をよけ取ったが、組織委員会は非常におおらかで予想以上の枠をくれたので、まったく問題にならなかった。

宍道 このことは江戸さんに感謝していいことだ。

江戸 それは水連が非常に良心的だったからですよ、ひどい競技団体もありましたよ。

奥野 人の問題だけ考えると、水泳の場合は実際に働いてくれる人ということから割出した人数であり、他の団体は論功行賞的なものがかなりあり平常から尽力した人に対して報いてやろうという考え方でやっている。

江戸 水泳には純粹性があった。

伊藤 競技役員数の基本的な考えは必要最小限の人数を出して、それに交代役員として、五割増しの人数を加えるということでした。それでいくと百何十人の人数ですむわけだ。それが組織委員会との予算折衝のときに増加してもよいということになり二百何人かになってしまった。その後またふえて結局358名となった。競技役員に関してはたしかに当初の原案通りの人数で実質的には十分だったと思います。しかしふやしていただいたおかげで、各加盟団体から最小限一人ずつはオリンピック大会を見にこられたということは大いに感謝しております。(笑)

奥野 そういうことを含めて、FINAの名誉主事が安部さんだったことは大助かりだった。相手が安部さんだから了解が早い。向うもこっちの気持を知っているという安心感もあったしね。

益田 そういう雰囲気になってきたのは、大分あとからではじめの中は安部さんの方から120人くらいの案を押しつけてきたんです。「機械関係もあるんですが」と

いったら、「そんなものはいらない」といって、どんどん削ってしまうので困りました。

伊藤 そうでもないんだ。安部さん自身はそう堅く考えていなかった。あの人はかけ引きがある人だから、最終的には200人でもはじめは80人くらいで話を切り出してくるわけだ。

奥野 その間に多少感情問題もあったかもしれない。いずれにせよ、相手が安部さんで助かった。

宍道 安部さんが私に「益田君を大分いじめて悪いことをした」といってました。

益田 手紙で叱られたりしてね。

伊藤 安部さんは自分の計算通り、日本水連をうまく動かしたと思っているのじゃないかな。

江戸 しかしFINAの役員の数は、ほかに比べると大したものですね。陸上以外にはあんなに役員をもっているところはないですよ。

伊藤 没落大帝国だな。(笑)

宍道 国内役員は何名にするという指示はFINAから全然なかったですか。

伊藤 FINAとの交渉では、全部で120人くらいでやろうということになったが、その中日本人役員は20人くらいだということを、こちら50の向う80という線で指示はあったと思う。

宍道 それが、国内役員が358にふくれ上がったことについては、異議はなかったのですか、

伊藤 別に異議はなかったが、安部さんとしては、外国人での競技役員になりたい人をならせればすむわけだからね。

奥野 競技役員は120人で、あとは補助員だと解釈しているのじゃないかな。つまりFINAとしては、主催団体の主たる競技役員120人。それが日本で300人にふくれ上がっても、競技役員じゃないと解釈している。

伊藤 安部さんとしては、沢山のIDカードは出してくれないが、500人でも1,000人でもいいということじゃないか。こちらは門番その他で苦労しなければならぬが……。

江戸 外国役員の数は宿舎の問題で押えられた。組織委員会としては第一ホテルに水泳の分として80人の宿泊を約束したが、これでもほかの競技団体に比べるとものすごく多い。結局120人の線が出たので、あぶれた分は安部さんが他に世話したし、選手村にとまった人もある。

宍道 川田さんがよくいっていたが「オリンピックはあくまでFINAが主催で、われわれは下請だ」とね。結局、FINAのビューロー・メンバーの14人が大会を牛耳っていたが、実質的にはわれわれがやったわけす

よ。

益田 組織委員会との交渉などで「この大会はFINAがやるのであって」とよく言っていたが、この表現は川田さんのそれとは多少ニュアンスが違う。

伊藤 その点ではFINA主催というのは便利だった。

益田 報告書が遅れても、「これはFINAの管轄だからわれわれは知らない」といったりしてね。(笑)

江戸 大分その手でやられた。(笑)どっちがどうなのかわからない。ほかの競技団体はを代表しておったが、水泳は安部さんの方になったり、水連になったりしてね。

益田 自由自在だ。(笑)

伊藤 組織委員会としても、FINAに直接言ったり、水連を通して言ったり、好都合なこともあったと思う。

江戸 具合の悪いことは、「こっちを通さないから知らんよ」とか言ってね(笑)

### (3) 新プール建設のいきさつ

宍道 次はプールのことですが、プールを代々木へつくることに決ったことについて。

伊藤 結局、オリンピック選手村を代々木にすることに決ったときにプールも決ったようなものでしょう。

江戸 場所については、組織委員会が出来たところから検討され、主競技場の近くにつくる予定だったが、あの近所の土地代が高くてどうしようもならずその後、村との関係で代々木につくることになったわけですよ。

菊池 はじめは有栖川公園でしたね。

伊藤 麻布の三連隊跡という話もあったが結局、代々木しかなかったわけですね。これは田畑さんあたりの考えが強力だったと思う。

宍道 はじめはこのプールは柔道といっしょに使う計画だったのですね。

江戸 大蔵省が予算を取る関係上、水泳だけでは困るから他の競技と抱き合せにしてくれと言って来たわけです。それで柔道やバスケットを含めた総合競技場となったんです。

宍道 そういう原則があったにもかかわらず柔道場を九段へつくれたのは？

江戸 つまり、柔道関係の国会議員が多いので、「水泳なんかと一しょにやるのはコケンにかかわるというわけで、大急ぎで武道館をつくることになったのです。

伊藤 正力さんあたりが進めたのじゃないかな。

江戸 そういう話もあったらしい。

谷内 プールの水を抜くのに時間がかかるので水泳競技が終った翌日から柔道場に使えるという話もあったようです。

奥野 柔道といっしょになるという原則のために水泳のスケジュールが変更されたね。今までのオリンピックでは陸上が先で水泳が後なんだが、柔道といっしょにやるというために、水泳が先で柔道、陸上はあとというスケジュールが組まれたわけだ。しかしそのことが水泳にとってよかったかどうかだ。

伊藤 先に終ったのはよかったと思いますね。水泳があとだったらプールの仕上りもおくれているでしょうね。

菊池 すんでしまえば、先でよかった。

江戸 プログラムを組むころ、水泳では日の丸が上がるだろうということで、「景気をつけるために最初にもっていけ」という考えもあったらしい。

奥野 それはないだろう。強化本部からは水泳は何本の丸が上がるかという報告はあったが、内部的には上がるとは思っていなかったからね。

宍道 スケジュールが決るころは、田畑さんが事務局長だったでしょう。

江戸 寒くなるから少しでも早くやれ、というのが田畑さんの考えだった。

宍道 プールは建設省が設計するという話を聞いていましたが、丹下健三氏の設計になったのはどういう経過ですか。

伊藤 田畑さんの意向ではじめから丹下さんだったようです。

江戸 施設委員長の岸田先生などの推薦で丹下さんが出てきたわけですね。それを田畑さんが強力で押し進めた。

伊藤 田畑さんとしては、プールの設計は丹下さんに記録映画を黒沢さんにやらせるのが希望だった。それを強力で押し進めてきたと思う。

奥野 丹下さんは建築家でなくて、建築デザイナーだから、使う方からいったら最良でないという考えはありましたね。

益田 丹下さんがプール内で迷子になったという伝説がありますね。

菊池 試合が始ってから「出口はどこか」と聞いたんですよ（笑）

宍道 週刊朝日11月20号に飯沢匡さんがオリンピック施設を批判している。つまり、オリンピックは短期間の催しなのだから、その施設は天幕張りで沢山だ。すんでしまえばすぐばらせる。なにも何百年も使えるような施設は必要がないという意見を書いています。

奥野 この間、ある地方の方がこのプールを見て、「誠に立派だが、こんなに立派なものをつくるだけの金があるならその金を地方開発に使ったらどうか」といっていたが、これはちょっと話のピントが違うね。水連が好んで作ったのではない。組織委員会が国家事業的にやっているのだから、水泳団体の地方開発に使うとは別問題なんだ。

伊藤 テント張りでは10,000人もはいらないしね。はじめは25,000人位収容できるものを作る予定だったが、最終的に15,000ということになった。ところが設計が出来たら10,000しかはいらない。そういう点でも水連はだまされているんですよ。

オリンピックがすめばあれにも使える、これにも使えるという色々な条件が重なりすぎたために目的のわからないプールになってしまった。

当然「オリンピックプール」と呼ぶべきプールなのに主目的の分らないプールだから国立代々木屋内何とかいうわけの分らぬ名前になってしまった。

奥野 この建物が立派であるということについては異議がないし、立派であればあるほどそれに越したことはないが、最初にいったように、果してわれわれがこれを使いこなせるか、どうかということになるとちよっと心配だ。立派すぎて、かえって親しみがもてず使えないということでは困る。要は安直にいつでも使えるに越したことはない。

宍道 今後水連がこのプールを有効的に使えるかどうかということは常務理事会その他で議題になったことはないですね。

奥野 このプールは独立採算の建前になっているから、我々が気軽に使えるような値段で借してくれるかどうか。折衝次第でしょうが非常に心配です。

菊池 私はよほどのことがなければ使えないと思っています。

伊藤 都の屋内プールがけしからんと思っていたが、それに輪をかけたのがこのプールですよ。

奥野 そのような不安に加えるに機械設備等の問題がある。われわれ一番手近な、親しみのある神宮プールは屋外だし選手育成に万全を期すことができない。新プールを使って育成したいとなると、簡単に使えるかどうかの問題が出てくる。まあ今後の折衝如何だが、何となく不安だね。

益田 あの機械を十分使っていこうとすると、このプール以外にはない。

宍道 賃貸料は具体的にはまだ決っていないのですか。

伊藤 決っているのだろうがまだきいてません。

江戸 大体の案は出来ているんです。

奥野 原則が決った場合うちは使いきれないという心配があるから、特例を設けてもらいたい。

宍道 神宮プールでも屋内プールでも特例があるんすか。

伊藤 神宮プールは特例があります。それは設立のいきさつからいって当然だが、都の屋内プールの場合とは特例がなくて、運用面でやってもらっている。たとえば、5時間使っても3時間分とか。だが、水連が使うなら半額にするというようなことはない。

江戸 新プールはアマチュアについては半額近くすることになっているらしい。

奥野 競技会入場料収入の50%で借してくれるというようなことならいい。入場者が少なければ少ないで使用料は一応払ってるが、特例として半額ということになると相当高レベルの競技会でないとダメだ。

岩佐 冬季にこのプールが使えないのは、インドア・プールとしてはもったいないですね。冬場にも使えるように出来ているのに実際にはもうからないから使わないというのは変ですね。

スケート場になったのではインドア・プールの使命は果せない。

伊藤 だからぼくはオリンピックプールじゃないというんだ。

岩佐 ダイビングプールでも、これだけ立派な施設は他にありませんよ。日本に限らず世界中にもないですよ。それが冬季には全然使えないのですからね。

宍道 プールが浅いというので、水球で問題になりましたね。

伊藤 設計の点では問題はなかった。しかし施行と監督がよくなかったわけですね。設計ではゴール下で急に傾斜してまん中まで平にもって行き「へ」の逆の感じになっていたのを施行のときまっすぐにしてしまったんですよ。わざとしたのかどうか知らないが、日本で一、二といわれる建設会社が請負って、役所が監督して図面通りに施行しなかったのだから変ですね。

小川 FINAの方から「あのプールはあさすぎる」といってきたら、安部さんが「選手の足を切れ」と冗談を言ってるんだ。寸法通りだということだね。まあ日本選手にはさしつかえないようですが、向うの選手はやりづらいらしい。

伊藤 FINAの理事会であの問題が出たときには「寸法通り」と答えたが、それは寸法通りだと思っていたからですよ。(笑い)

江戸 6~7センチ水を余計入れて競技をやった。

奥野 水を入れたけれども図面通りにはならない。

「足を切れ」といって済ましたことは、ルールにこだわらずつっぱねたわけだ。しかしそれは、規定通りの寸法がないから水球ができなくなるから結局はムリが通ったということだね。また、外国選手も、水球のスケジュールを困らせるとかなんとかということではなく、あのプールで試合をやりたかったわけだ。いまさら作り直すわけにはいかないから、「足を切れ」ということでがまんしたとか、水をふやしてがまんしたということで、あのプールで試合をやりたいという気分はたしかあった。

宍道 深さが足りないというのは、偶然そうだったわけではないんでしょう。深谷さんが始めからタッチしていたことだからそんなことはないと思う。

小川 私も、1m80あると思ったのに、外国選手から文句がでたのです。

伊藤 この問題については、水泳連盟の公認規定がいけないこともある。深さに関しては1m30とか、1m50以上あればいいということになっているからね。

奥野 書面審査だけで公認することが多いからね。

谷内 「国際競技には以上を望む」1m80と書いてあったと思う。和訳の関係で「望む」かどうかははっきりしないけれども、1m80なくともいいわけだ。

岩佐 国際水連のプールの規準がアイマイなんですよ。ダイビングの場合などはそのことがはっきりいえます。というのは、4m50以上あればいいことになっていますが、それでは感じとしては浅いのです。設計者はルールブックをみて設計をするから4m50の深さのものをつくる、従って感じとしては浅いことになる。

われわれが交渉にいても、設計者は「規定がこうなっている」と押してきます。

伊藤 こちらが強く要求して1m80なければいけないからということで、わざわざ設計図を変えさせたわけなんです。その通りに出来ていると思ったんですがね。

#### (4) 新しい機械設備について

宍道 次は、新しく使われた機械についてうかがいたいと思います。ローマ大会後われわれが準備したのは機械審判だったが、このいきさつについて説明してください。

伊藤 ローマ大会では誤審問題があったので、東京ではどうしても機械を使わなければいけないということで、安部さんがFINAの理事会で「そんなものは日本で研究してやってやる」と見得を切って帰ってきた。安部さんが言ったことは、かれ個人が言ったのではなく、水連が保証した形になると思う。水連には十何年前から機械委員会というのがあって、機械的に審判することについて色々研究をしていた。しかし機械的なことだけを



考えていたのでは、いつまでたってもダメだから、ひとつ飛躍的にこうということで、3年程前に機械委員以外の人も来て頂いて研究を始めようとした所え、松下がはいってきたわけです。松下の話では「そんなものは簡単だ、すぐ出来る」ということで、例のカウンターを使うことになった。カウンターそのものはすぐ出来ているし、技術的にもむずかしいことはなかった。ただ、カウンターをどうやって止めるかが研究の大部分だった。はじめはあのようなタッチ板ではなくて、アレコレとやったのですが、強度の点や経費の面で、結局あのタッチ板に落ち着いたわけです。もう少し時間に余裕があれば、波では止らなくて、しかも弱いタッチでも止まるという理想に近付けることができたのではないかと考えています。松下も相当努力はしてくれましたが最後には腰だけになって、いい加減なところで手を打ってしまったような結果に終わった。

江戸 組織委員会では松下に単独にやらせるかどうかで契約上の問題があった。組織委員会は官庁組織だから物品の購入には入札が必要だ。電機メーカーは沢山あるのだから、その中から選べばいいということで、松下を指名することには難色を示したわけです。したがって、松下に決るまでに相当モタモタしました。その間松下も中ダルミの状態が続いたですね。だから正式にスタートするのが大分おくれたと思います。

伊藤 そうではなくて、水連が、「松下でなければできないから、松下におねがいします」と組織委員会に文書を出した。それで松下は安心して研究に情熱がはいったのじゃないかとぼくは思うのですが。

江戸 いや、文書が出るまで相当モタモタしていた。

伊藤 松下の方から聞いたか、組織委員会の方から聞いたか忘れたが、「水連から組織委員会宛に申請書を出してくれ」といわれてから出すまでにそれ程時間がかからなかったと思うな。

江戸 でも正式に決るまでに何か月もかかったのです。松下もあまりいい気持はしなかったでしょう。

伊藤 時計も出来るので、計時関係をやっていた田沢君におねがいしました。

宍道 松下一本ヤリのところへ精工舎がはいったのはいつですか。

伊藤 時期は忘れたが、ローザンス会議の時にはすでに決っていたですね。精工舎がオリンピックの時計を全部まかなうのだということがはっきりして具体的に動き出したのは2年くらい前です。

菊池 松下と精工舎の二段構えでいくときまったのはもっとあとだったと思うが、

益田 赤坂離宮で、38年6月展示会をやったが2本立

でいくときまったのはあとでしょう。

宍道 計時関係は精工舎に決ったが、それに対してオメガあたりから運動がありましたか。今までの例からみると、オメガが専売特許だったが……。

江戸 多少あったようです。しかし組織委としては精工舎でやるということに決めていましたから、押返したようです。

岩佐 時計も田畑さんの意向が強かったのじゃないか

江戸 田畑さんは、器具類は全部国産品でやろうという大方針を打立てたですからね。この点田畑さんの功績大ですね。

谷内 精工舎を使ったのはオリンピックとしては画期的でしょう。

岩佐 話を聞くと大分前はロンジンで、その次オメガに変わった。それが東京では精工舎になったのですからね。

江戸 I O C のオットメイヤーはスイスのオメガの番頭さんでしょう。本人は否定していますがね。「精工舎で大丈夫か」と正式文書で組織委員会に申入れてきたのは彼ですよ。

岩佐 戦前はロンジンで、戦後のロンドン大会あたりからオメガになったわけですね。

宍道 以前のオリンピックの写真を見ると、オメガの広告がいっぱい出ていますね。

伊藤 今度の大会は、特に目立つような大きい広告はなかった。

谷内 ベルリンなんかはオメガの広告がスタートのうしろに出ていた位ですからね。

岩佐 ダイビングが機械を使うようになったのはローマからです。戦前、ベルリンで、これは機械といえるかどうかかわからないが、ボタン式のものを使った。その後メルボルン大会では審判に不明朗な点があり、国際水連でも、機械化しなければいけないということになり、ローマ大会で始めて機械が使われたが、聞くところによると故障が多くて目的を果せなかったらしい。だから、計器連動の掲示板を使ったのは今度が初めてなんです。

電気掲示板の話が出たとき、組織委員会は予算がないということで難色を示したが、江戸さんあたりの御努力が実を結び結局日立が引受けてくれることになった。飛込みとしては審判と掲示が連動すれば大変都合がよいのでそのことを日立に話したところ、日立の技術陣が非常に努力してくれて、ああいうものが出てきたわけです。

伊藤 電光掲示板だけならわけないということだったんです。ところが飛込みには難易率があり、又得点の最高と最低を消してやるという複雑なものだったのですが日立側はこれをよく理解して「これは面白いからひとつ

やってみようじゃないか」ということになった。初めの考えでは、飛込みの審判器関係はできなくても仕方がない、電光掲示板だけでいいということであったが、日立の大変な熱意と研究心が実を結んであのような運動性の理想的なものができたわけです。

江戸 面白いのは、組織委員会がIBMと契約したときに、IBMの条件として、電気計算機はIBM以外に使わないということだった。組織委員会はそれを承知したが文書としては交換しなかった。日立を使うことがわかったものですから、ちょっともめたことがあるのです。結局は泣き寝入りになったようですが、条件を文書にしなかったので救われたわけです。

岩佐 われわれも計算器は計算器で別に作って、掲示も飛込みだけの小規模なものでやろうと考えていた。しかし理想的としては計算器と掲示板が運動性のあるものだったのでこれを日立に話したところ、優秀な技術陣があのような立派なものを作ってくれたわけです。

益田 それは去年5月ごろでしょう。

伊藤 日立の技術者は何しろ大変努力してくれたし技術水準も高かったと思います。

岩佐 飛込みの計算や表示の方法を説明しても、一回ではのみみだめなのが普通です。日立の場合は一回でわかってしまった。優秀なものです。逆に質問されたり。(笑い)たとえば「この時間は何秒か」とか「何秒きざみなのか」とかね。

穴道 日立の話は松下より大分あとでした。

伊藤 あとです。日立の重役と親しい深谷さんの話では日立もオリンピックで一役買いたいと考えていたらしいのです。その矢先にこの話が出たので一層熱意をもやしたのでしょう。話合はトントン拍子で、1週間か10日ぐらいであれだけ大きなものがまとまったのです。

穴道 日立、松下、精工舎に対する支払関係はどうなんでしょうか。

江戸 松下は37年度あたりから研究費を出して、一応組織委員会が経費を持ったわけです。日立は全部向うでやりましたし、精工舎も全部向う持ちでした。施設費として金を払うのは松下だけでした。ソニーは使用料を払って借りたのです。

奥野 水連としては飛込みも含めて全部を機械審判でやっていくとしたら、四社、四本立てにするか、どこか一本にしぼるかを考えなくてはいけないと思う。

伊藤 競技会の時には各社から技術者が出てやってもらったのですが、この人達に対する謝礼はオリンピック協力ということで支払ってない。弁当だけは出していたのです。そういう話をしたら、日立は、「技術者の日当を請求するとなると、一人一日1万円をもらわないとい

けない」ということです。そうなると機械があっても使えませんね。

奥野 四社になったのは、第一段が不幸だから第二、第三段の構えをして四社を取入れたのが、あるいは四社とも必要なのか、一社で全部引受けることはできないのかという問題もあるね。結果論になるかも知れないが。

江戸 一番いいのは、松下のタッチ板に、精工舎のカウンターを付けてやることだ。これが完備するとあとはいらなくなるし、ハンドウォッチも失業する。

伊藤 タッチ板がうまくないことがあるから、やはり精工舎の手押しもやった方がいい。

奥野 この場合には電気の問題が起ってくるから、ハンドウォッチは失業しないね。時計の問題は規定をあとから変えられるが、変えるについては設備状況が万全だということが前提だ。一本化することは必要だね。

伊藤 停電の場合でも、精工舎のは直接電気でやるのでなくて、電池で動かしているのだから、停電しても差支えない。

菊池 いまの段階でどれがいいかというと、伊藤さんのいわれたように、精工舎じゃないか。ただ大きさの問題がありますがね。

奥野 精工舎の場合はタイムは悪くなるでしょう。

菊池 そこを研究して修正していく問題が残っている。

伊藤 それは修正できるでしょう。0秒15なら0秒1を機械に与えておけばいい。0秒15でも16でも出ますよ。

穴道 私は直接関係しなかったけれども、印象としては、松下はずいぶん先から準備したが途中でモタモタした。あとから参加した精工舎は、多少精度は落ち、人工的な操作が少しはいるが、結局は信用を博したという感じを受けたんですが。

伊藤 信用を博したというより、根本的に、水泳の自動審判は、いまの段階ではまだ無理だという気がしますね。

赤樫 松下の肩を持つわけではないが、あの機械はやはり異質のものだと思うのです。人間の目で見ると、人間の手で押すつまり人間の思考がはいるものと、機械オンリーでやるのとはちょっと違うと思う。現実問題は、伊藤さんが言ったように、いまのルールでは、軽くしてもタッチすればいいことになっているが、その場合タッチ板に感じないことがある。そうかといって感度をうんとよくしたと手をふれる前に水圧で感じてしまう。水圧でつくのは、これは詐欺ですからね。(笑い)だから現段階では、やっぱり無理じゃないか。ただいえることは、オリンピックはタイムレースだから、全部の組が終らない

といけない。機械のことだから最後の組まで停電もなければ故障もないとはいいきれない。そこえいくと、人間は絶対に故障がない。だから故障さえなければ松下の方がいいと思う。

菊池 機械審判の問題は、写真判定とか、何とか議論した場合にタッチ板におちついたわけですが、現段階では、全自動という面からいって一番いいものだけでも、問題点は今赤樫君がいった通りでしょう。

奥野 松下のタッチ板は全部同じ感度をもっているかどうか。1コースと8コースが同じ正確さを持っているならばいい。

赤樫 発泡ビニールというのですが、面積が大きいので、どの部分も同じとはいいきれませんからね。

奥野 だから、1コースと8コースは違うということもいえる。そこまでのテストはされていないということだな。今度の大会では、精工の時計と誤差の出たということとはなかったわけね。

伊藤 精工の順位と松下の順位と違ったものが二三あったでしょう。

奥野 タッチ板の感度による誤差といえるものなのかどうかということだが。

赤樫 つまり、松下の問題は、全選手が力強くタッチするとは限っていないから、そこに問題がある。しかし全部が力強くタッチすれば松下でいいですよ。

伊藤 根本的に防ぎようがないのは、隣のコースの選手がタッチしたときだ。

赤樫 しかし、ルールでは隣のコースへタッチしてもいいわけですよ。

伊藤 隣にタッチした者をオミットすると全部がオシジャカになってしまう。

菊池 もう一つの問題は、1,500とかリレーの場合、泳ぎ終わった泳者が上がらないで、何度もタッチ板にさわれば、やはりカウンターに出るからね。そこにも問題がある。

伊藤 話がちがってくるが、アマチュアスポーツでそれほどのものを使って正確にする必要があるかどうかということだ。競馬なんかなら別だが、われわれが楽しみでやるスポーツに機械を使って千分の一までも出して、どちらが早く着いたかと、全く誤差のない審判が必要かどうか疑問があるですね。

赤樫 4年間も心身ともに打込んで練習してきたのだから、試合の場合には変な判定では困るということはあるが、やはりいまの精工程度の機械で、みんなに公平にできるならいいのじゃないかと思えますね。

奥野 果して千分の一までも出す必要があるか疑問はあるが、ローマ大会のときの誤審問題、アメリカはあれを

ちゃんと写真に撮っておいて、今でも持ってくるからね。まだ恨みがあるらしいよ。(笑い)だから、早い者は早かったのだということを確認にする必要はあるね。千分の一で正確に出てこなければ、万分の一までも出る機械にしたいという気持はあるだろうな。

菊池 話が千分の一秒ということになったが、ピストルから一番はなれた泳者に音が聞える間の誤差は音の空気中の伝播からいって、千分の一ぐらいあるのではないかという疑問もある。

宍道 審判をやっている以外の者からみて心配になったのは、1,500などは最初にゴールした者と、最後にゴールする者との間に時間があるとき、先着の者がほかのコースを通過するときタッチ板をさわったらとんでもないことになるということだった。

赤樫 実際に、オリンピックのとき、タイマーがちょっと直すためにさわったのでオシジャカになった例がある。それで審判員みんなが、ちょっとさわってもダメだということがわかったのでよかった。

奥野 コース別に一度タッチしたのを切って、また入れるということはできるんでしょう。

赤樫 リレーは「いま着いた、上がった、入れろ」ということはできます。

伊藤 しかし、それをやると、今度はその操作のミスが出ることもある。切りそこなったりね。

赤樫 準備委員会で、「フライングして上がるときタッチ板が動くから、よく点検して正確にしたあとで入れよ」ということもやったが、点検もせず、全然入れ忘れて動かなかったこともあるんです。ですから、機械というものは人間の意思を入れずに、機械だけで動くというのでなければダメですね。操作しちゃうかんのです。

菊池 計時員はスタート台に足をかけては困るということで、片手ついて押した。そしたらタッチ板にさわったんです。まあ、ゴールのところでよかったが、もう少し下をさわったら止っちゃうのですから、タッチ板というものも問題が多いですね。

赤樫 可能性は将来あると思うが、現在のはタッチ板の有効面積が水の上下30センチなんですけど、タッチするのはセンチとは限らない。そうかといってフルに面積をとることは、それだけ水の抵抗がふえますし、でも、どっちが勝ったかが大事でしょう。1コースから8コースまで全部わからないということはまずないでしょう。大体の順位はついてるが、4コースと7コースがはっきりわからないというような場合、機械が動けば安心感があるですね。はっきりどっちが勝ったかが出るから。

岩佐 オリピック競技は人間の目と勘で採点しているのが多いでしょう。パレーの場合でも、オーバー・ネ

ットをとられるが、あれなんか、あるいはオーバー・ネットがなかったかも知れないし、体操でも柔道でも二、三位が二つも三つも出ちゃう。

小川 機械に頼ったらまずいこともあるんですよ。ポロの場合、大時計と運動しているのをオランダのタイマーがさわって止っちゃって、問題を起したことがあります。そのときは中途でよかったです、タイムアップまぎわにやっていたら大変だったですよ。得点も若干離れていたからよかったです、そういう場合に機械に頼っちゃうといけませんね。

赤樫 誤審からいえば、野球のアンパイヤーが、ボールの球をストライクといつても、死ぬまでその人が前言をくつがえさなければ、普通は立派なストライクでしょう。しかし、今度のオリンピックで機械があったことはプラスだった。トラブルがなかったから。

伊藤 「全自動でなければ機械は使わない」というFINAの考え方はおかしいですね。半自動で、押し方が間違っただけかもしれないが、三人で押して、そのまん中を取ってれば、精工舎の半自動でも時計は百分の一まで出ているから同じものだと思いますがね。

奥野 人間の能力で判定しがたいものを機械が解決してくれるということで、機械に一任すれば、どこからも文句が出ない。機械が決めたのだからやむを得ないということになればいいわけだ。しかし、機械そのものが万全かどうか疑問だな。

赤樫 松下のタッチ板でも強くタッチをすれば万全なんじゃないですか。

奥野 さっきも言ったように1コースから8コースまで感度その他が同じかどうか、それに対する疑問はあるわね。

赤樫 1コースから8コースまで同じかというより、いまの段階ではみんな力強く、確実につけば万全なんです。

伊藤 機械が止まらないのは、タッチしないからだというほどに機械の性能が上がればいいわけだ。

菊池 カウンターに出ないのは遅い選手が多いね。結局、くたびれてしまってタッチが弱くなってしまうのか。

奥野 マラソンのアベベの元気一杯なゴールと、ゴールで倒れてしまう選手とのタッチの違いがあるわけだ。

宍道 会長が冗談に「日本選手の泳ぐところは感度のいいのをおいてくれ」といったが。(笑い)

赤樫 一着のタッチ板が感じなかったということはなかった。やっぱりトップはタッチも力強いんですよ。

## (5) 練習会場と輸送計画

宍道 次に練習会場と輸送計画ですがこれは菊池先生が大層苦労されたんですね。

菊池 まず、練習会場をどの程度用意して、どの程度時間割りをすればみんなが納得するか——ということを考えてみました。しかし、オリンピックに行ってきた人の話をきくと、どうしてもメイン・プールで練習をしたがる。そのほかのプールではいい顔をしないということなので、村の中に二つと東大プール、代々木のサブ・プールなどを用意した。ポロの方も神宮と都の屋内プールを用意したのです。ところが、今思うと、それほど心配することはなかったですね。ただ、割当て時間は、各国とも全部同じ時間を希望するのです。つまり、食時間を除いた時間で、一日2回というのです。そこで結局われわれの案を強引におしつけようということになった。担当の藤井先生なんか「ネバー・チェンジのフジイ」といわれたくらいです。(笑い)

結局この方法で、非常にうまくいったのです。ダイビングなんかは夜おそくまでやると聞いていたが、それもやらなくて、早くすんでよかったですと思います。インドアが少ないので、村のプールに屋根をかけてもらったり、もう一つの村のプールは風よけだけ作った。村のプールは25でしたが、宿舎が近いので利用されて、屋根のない中央プールは天気の良い日はほかの選手がひなたぼっこにくるくらいあったかくて、心配した程のことはありませんでした。

奥野 予算のぶん取りと同じで、自分のところの練習時間を主張するのに遠慮することはないからね。しかしいままでの大会からみたら、これほど練習プールが完備されているところはないよ。

伊藤 東大プールは利用しましたか。

益田 イギリスが一回きただけですね。

伊藤 東大プールは必要ないという判断は当たっていませんね。

菊池 東大ヘビストン輸送する車があったけれども、ほとんど使いませんでした。あとから考えるとムダでしたが、やったことはムダじゃなかったと思うのです。最悪の場合は使ったでしょうから。

益田 こちらとしてはお礼を申し上げなければいけませんね。(笑い)

赤樫 これだけメイン・プールを使って練習したのではないのじゃないか。というのは、各国チームは、やはり日本のシーズン・オフを念頭に入れてきたのと、いま先生のおっしゃった、「ネバー・チェンジ」が一番いいことですね。輸送バスでも「満員になったら出る、定刻がき

でも選手一人だったら出ない」というのじゃ、いつ出るのか、言葉が通じないから問題がある。人が乗っていろいろがいまいが、満員であろうがなかろうが、定刻発車でいく。そうすれば選手も、「時間にいけば発車する」ということになっていいわけですよ。

奥野 「ネバーチェンジ」は、食べられないほど貧乏だったから「ネバーチェンジ」じゃなしに、自信を持った「ネバーチェンジ」だな。

菊池 最初は到着順にやったのですが、ひと通りそろったところで、各国に納得させて、Aグループ、Cグループ、Bグループと分けて、Aグループはここを使ったから次はどこを使うというように、各国に表を渡して、「おれたちはあすはどこのプールか」ということがわかるようにしたわけです。ポロの場合は、到着の早いところは必ず一回ここで練習させるという原則を作っていました。

奥野 「ネバーチェンジ」は、主たる日本が利用しなかったことが大きな収穫じゃなかったか。日本がきて文句をいったらこわされる心配があるからね。(笑い)

赤樫 練習方法は、短い時間で、非常に激しい、きびしい、効率のいい練習をやってましたね。

菊池 水泳の後進国は、コースをゆずっていたが、強いところはゆずらなかつたね。それが当たり前だということとで……。

伊藤 それは前からいわれていた。つまり、1人1コース泳がせたら強くないというのだ。

菊池 平均すると4、5人で泳いでいた。それで当たり前なんですよ。

宍道 ポロは同じ国と違う国との練習を相互にやったらいいですね。

小川 国によっては時間的に弱いところといいチームを選んだところとあったようですが、やっぱり時間があつたら練習マッチをやってましたね。

宍道 練習試合のときの審判はクセのある人を選んできてやったんですか。

小川 ほとんど相手チームのどっちかがレフリーをやったり、交代でやったりしてましたね。

菊池 メインプールは朝早くから夜までやってましたね。係員には感謝しています。5時45分に配置について10時すぎまでやってましたからね。

宍道 藤井さんはどこの国から何人くるかわからないで困っていましたね。

菊池 デレゲーションの到着日と人数は組織委員会から連絡してもらうことになっていたが少し早く調べてほしかったですね。

江戸 アンアートを出しても返事をくれないのでわか

らないですよ。まあ、エントリーについては作戦もあるから早目にやれない事情もあるでしょう。

赤樫 作戦より、めんどくさいからですよ。

伊藤 男何人、女何人でいいから早く返事をくれといつても、なかなかこないですよ。

岩佐 ダイビングも、メインプールで長江君が付きっきりで、能率のいい練習をやっていました。

菊池 日が沈むとやめていましたね。

岩佐 はじめは朝6時から夜11時までやるのじゃないかということだったが……、練習中のトラブルもなかったですね。

菊池 柴原さんに「練習時間が少ないですね」ときくと「この段階にきたら効果的に飛んで、よそのいい選手が飛んでいるのをみれば沢山ですよ」といっていた。

伊藤 練習態度は悪いね。

岩佐 飛込みはああいうふうなんです、時間の制限もなかったし、予想したより参加人員が少なかった。

## (6) エントリーと組合せ

宍道 次はエントリーと組合せですが、競泳については主として勝村さんを中心に私と坂本さんが担当しました。個人エントリーは競技の10日前と決っていたが、10日前の9月30日の24時近くになってから組織委員会からドックと廻送されてきました。中には陸上競技とか馬術とかとんでもないのがきたり、名前もわからないのがくる。よくみると「モダン・ペンタスロン」などと書いてある。想像もしない間違いというものがあるんですね。それで水泳の分がほかへ回っているのではないかと心配しましたが、そういうのはなかったので安心しました。また正式のエントリー用紙に書かず、電報で申し込んできたり、いろいろなことがありました。やはり大国はきちっと申し込んできますね。一番手こずったのはペルーです。ペルーはナショナル・エントリーはきたが、個人エントリーがこない。2日くらいたって電報エントリーが組織委員会から廻送されてきたが、種目が書いてない。坂本さんと相談して適当な種目にはめこんでおいた。ところがペルーが現れて「種目が違う」という。ペルーの監督が英語がしゃべれないため英語のできるバスケットの監督が代弁するのですがその代弁者が「個人メドレー」というのが分らないんです。

そのほか、アイスランドが電報で申し込んできた。これは種目が書いてあるが性別が書いていない。3人申し込んできましたが、仕方なくアイスランドの公使館に問合わせて、名前から男か女かを聞いて、「たぶん男、たぶん女」(笑い)ということのエントリーに入れておいた。まあこれはなんとか男女別がわかったが、そういう話が

沢山あるのです。

いずれにしてもきちっと申込んできたのは大国ですね。日本チームの分は24時少しすぎから到着したのですから厳格に言えば失格です。アメリカ、ソ連、ドイツはキチンとしたエントリーだった。ローマではわが方はキチンとやりましたか。

赤樫 ちゃんとやりましたよ。安部さんに恥をかかしちゃいかんから。模範的だった。(笑い)

谷内 ローマでは私は日本選手のエントリーを作りました。志村さんに原稿をもらって、オリンピックの規則に照し合わせて、なんとか間に合わせたのですが、ローマのときには締切りに間に合わないのが沢山あったと聞いておりましたので、東京でもあるのじゃないかと思ったら、24時すぎて持ってきたり、あとから訂正がきたりしましたね。やっぱり南米とかヨーロッパの南の方はルーズですね。ローマのオリンピック組織委員会の方がやり方がルーズで、いい加減なことを受付けてしまったようです。

江戸 ぼくのところへ、藤岡部長から夜2時ごろ電話がかかってきて、英国の監督が「24時に持っていったがしまっていて渡せないから、持ってきたということを確認してくれ」というのだそう。藤岡さんがたまたまそこにいたらしい。それで翌日勝村さんに連絡してやったこともある。

岩佐 ダイビングは私がやったのですが、30日の夜中に締切って3日までかかった、まとめるのに。

宍道 エントリーに基いて組合せを作るのだけれども組合せを作る作業は、前の話ではFINAの担当になっていた、ところがFINAはそれどころじゃない。会議やなんかで振向きもしないので、安部さんに注意したら案の定「水連でやってくれ」という。そこで、大わらわでやったわけですよ。ご存じの通り、組合せは原則として抽選でやることになっていたけれども、清川さんと安部さんに相談した結果、2人くらいずつシードして、あとはあまりムラのないように組合せようということになった。そこで坂本さんの日頃のウンチクが物を言ってみづ文句のない組合せが出来たわけです。組合せがすんだら清川さんがとんできて、「400と1,500は準決勝はやらなくていいのか、そんなルールがどこにあるのか」とひともめしたんですが、400、1,500は準決勝をやらないことになっているのを彼は忘れてたらしいんですね。「そうだったな」というわけでことはすんだが清川氏も大分頭にきていたらしい。(笑い)

ここでちょっと不愉快なことがあった。われわれが予選の組合せをしているときビューロー・メンバーのマークを付けた人がきて、自国の選手のコースをメモしてい

る人です。

赤樫 そうなんです。つまり、そういうことをして「やっているんだぞ」という存在意識を高めているのがある。(笑い)

宍道 見ないでくれといっても「選手たちの名前を確認するのだ」とかなんとかいってね。

伊藤 自分たちのやるべきことを、日本にやらせておいて、それを写しにくる。日本がやらなければできなかったね。

奥野 安部さんはFINAが主宰するのだといって、いばっていたけれど、宍道さんと勝村さんがやってくれたからできたんだ。FINAじゃできない。こちらの能力を買ってくれて、協力したことについての感謝は聞くが、もしそうだとすればFINAの姿はこのままでいいだろうかという問題があるね。やることをやらないで、主張ばかりしていばっているのは、じゃましにくるようなものだよ。みずから組織をこわしにくる態度だったらFINAの組織は改革しなければならぬのじゃないかと感ずる。日本だからできたけれども、メキシコで果してあんなことでやれるかどうか心配だ。メキシコの実力を知らないから失礼かもしれないが。

江戸 ローマは14日間だったが、東京では10日間でしょう。だから相当苦しかった。

伊藤 安部さんはタカをくくっていて、日本でやってくれるから大丈夫だというハラがあったのじゃないか。

奥野 やれなければ、おれが困るのだから助けてくれるという気持があったらうね。

小川 ポロはプラントが案を作ってきて、こういうふうやってくれということでウォーター・ポロ・ボードで決めて、厳正な抽選をやれたからよかった。

岩佐 飛込みの方はそういった仕事をするのはこなかった。外国人は日本に任せたのでわれわれがやった。

奥野 水球はあれよりほかに方法はなかったね。

小川 それはそうです。

宍道 競泳のエントリーに、デンマークは女の選手が「女性である」というモモ色の証明書を付けてきた。

赤樫 陸上は証明書が必要なんですよ。

谷内 水泳は規則にないから特に必要はないんです。

岩佐 陸上は男だか女だかわからないのがあるからね。

奥野 性転換をしたのは5人か6人いる。水泳にはないからね。過去の経験から必要かどうかだ。日本には幸か不幸かそういう経験がないので必要ない。(笑い)

## (7) 審判について

宍道 本競技にはいつからの話に移りたいと思いますが、最初に、競技の審判とかの技術面について外人と

日本人の間に見解の相違などなかったですか。

奥野 特別の問題はなかったが、審判と泳法については問題が起り得る下地はあった。

伊藤 日本の競技会とオリンピックとでは、監察員の役目とか監察員の規則の扱い方は違うわけです。だから日本のような扱い方をオミットされても、アピールできなかったということもあり得る。

赤樫 心配したのは、メルボルン・ローマ・東京とき、平泳の選手の、「アンダー・ザ・ウォーター」頭から水をかぶることが緩和されたというとおかしいが、平泳の本質そのものをマスターしてきたと思う。ローマのときには潜水が禁止されてからはじめてのオリンピックとあって、厳格にやった。それこそスポーツをやっているのか裁判をやっているのかわからないくらいだったが、東京では平泳の本質をマスターしてきたので、まあ問題はなかった。

伊藤 プロコペンコはどうだった？

谷内 日本チームからFINAに対して文書が出されましたね。

奥野 スタイルの規定はFINAの方に問題があるでしょう。審判員は各国が厳選して連れてきているから、寄合い世帯の審判が行う判定はむずかしい。一応選抜するときルールを知った上で正当と認めて連れてきているからね。寄合い世帯の審判の判定を上訴審判にもってこられても、むずかしい問題が起る。今回は問題が少なかったというのは、豪州の平泳については、練習のときから、イミテーションまでつくって判断したこともあったし、予め豪州にもわかっていたから、本試合のときは練習のときほどひどくなかった。そういうようなことで、表面に出てきたトラブルはなかった。

宍道 リレーで失格したチームから異議申立てはなかったのですか。

奥野 なかったね。

益田 コースについている監察員がいまのは「ノー」というと、打合せることもなくてそのまま主任のところへ行って、「ノー」になり、オミットになった。藤岡さんはその点不満だったらしいが。

赤樫 日本流に、たとえば3人みて「おれはこうみたお前はどうか」という談合はない。人がどうみようが、「私のポジションではこうだった」とはっきり言う。

谷内 一人の人が「ノー」と書いた。その人がたまたま見ていてノーと感じたわけですね。それを素直に取上げたということで、日本人の審判員が信用されていたということはうれしかった、とっていましたね。

奥野 つまりそれは、ほかの人は見ていなかったという結果になるね。

伊藤 チーフはいつもウロウロしているんですね。見ていない。

赤樫 どこへいってもウロウロしている。あれがFINAの伝統だよ。

奥野 一種の社交場だね。競技場じゃない。

伊藤 日本に任したことでうまくいったんですから、審判の構成の問題も任せればもううまくいった。

赤樫 しかし、全体にみたら審判は外人があれだけあったがキチンとやっていたですね。テストをやったこともよかったが……。

奥野 そばからみても、あれだけの混成部隊だがキチンといった。

宍道 並んで出ることについて異議が出るのじゃないかといっていたが。

伊藤 並べるのがよかった。

宍道 ローマはどうだった？

赤樫 陸上は整然としていたが、水上がこんなに整然としたのは初めてだ。

谷内 飛込みでソ連の選手の問題があったですね。

岩佐 あれはオリンピック競技で一番不細工な判定だと思う。女子飛板飛込みで、予選が終って決勝進出者が決ったんですが、予選で、ソ連の選手が型を間違えて飛んだ。その選手のエントリーに「のび型」というのがあったのですが、どう勘違いしたのか、「えび型」で飛んでしまった。そのとき、まったくお粗末なんですけど、7人のジャッジが、アナウンスを聞いていなかったのかもしれないし、型を間違えて飛んだことに対して、妥当な点数を出してしまった。点が掲示板に表示されなければよかったのに、表示のボタンをレフェリーが押してしまった。それで計算が出てしまった。その瞬間に審判をやっていたサミーリーが気がついて、これはわれわれも気がついてはいたんですが、「違うじゃないか」と異議が出て、なるほどというので、「いまの型が違っていたから、もう1回点数を出してくれ」というので2回目を出した。それで0点とか3点とか低い点数が出てアノヒナという選手は予選で落ちてしまった。それで8人の決勝進出者が決った。ところが、その夜ソ連から強硬な抗議が出たわけですね。点数が不当だということと、ジャッジの仕方がおかしいという2つの抗議です。それと「FINAは翌朝、決勝の前に審議して、飛び直しをさせてくれ」という、抗議とともに飛び直しの依頼ですね。それで3対3になって、最後の決をレフェリーがとったが、これはレフェリーの権限にまかして、結局飛び直しを認めるということになったわけです。しかし、それでは日本の選手が8番目について、アノヒナがはいつてくると失格する

んですから、日本も抗議した。

**赤塚** 平泳のレースの場合、バタフライをやったなら失格でしょう。それと同じで、種目を間違えたんだから、全部が気がついて0点を出すのは話がわかるが、2点なり3点という点数が出たというのは、のび型なのにえび型のようなのび型をやったからというのかな。

**岩佐** 解釈の仕方が2つあったわけです。つまり、のび型なのに間違えてえび型をやったから0点であるというのと、いや、同じ種目だけれども不満足なものだから0点じゃないという。だから0点と2点、2点を出したわけですね。はじめ気がつかなかったけれども、種目を間違えたからそれはミス・ジャッジだから、ジャッジをやり直しする、それで決らなければいけないのに、ソ連の抗議を受けて飛び直しさせた。それが有効と認められて順位がひっくりかえった。それで日本の渡辺が落ちてアノヒナがはいった。けれども渡辺も飛ばそうという抗議も通って、前代未聞の、オリソドックにはかつてない9人の決勝ということになったわけです。その結果日本選手は2人とも等外になってしまった。決勝は8人というルールがあるのに9人で飛ばしたのはまったくお粗末な話です。

2度目の有効と認めて、ああいう結果を出したのはオリンピックの飛び込み史上汚点を残したものだといえますね。FINAの役員は「われわれは公平に考えて、どこの国にもいいようにやったのだからいいではないか」といっていますが……。

**伊藤** 審判員のところでやめるといふ判断をしなければならぬのに、会議を開いたのもお粗末ですね。その上、会議を開いて「いい」ということになったのはなおお粗末だ。(笑い)

**奥野** 一つくずれたから悪い方、悪い方へといったわけだ。

**岩佐** 日本の国内競技でもあんなことはない。あのとき0点を出したのは日本、アメリカ、メキシコだった。

ジャカルタではひねりが変わっただけで0点だったし、ヘルシンキでもあった。

**奥野** ひねりをしそこなった程度なら2点とか3点でもいいが、型が違うという解釈ならやはり0点だね。まあジャッジの主観でいいが、やはり採点しなおしたものをとるべきだよ。レフェリーの権限でソ連の抗議をやらなければいかんよ。

**谷内** つまり、今度の問題は、飛び直すチャンスを与えるという前例を作ってしまったのだから大きい。

**伊藤** 抗議そのものも「30分以内」というルールからはずれているね。

**岩佐** ヘルシンキで、アメリカの選手がローラーのビ

ュウがとまってなくて、ローラーが動いたから失敗して飛び直しさせたという例はあるが、今度は競技が終って発表もして、その晩抗議が出たんですからね。しかもメンバーがいなくて、会議を開いたのは翌朝だ。

**奥野** ヘルシンキのアメリカ選手とはケースが違う。

**岩佐** ソ連も種目の型を間違えたことは認めているのに抗議した。それを受けた結果として、ソ連が間違えて飛んだことの制裁はなんにもない。そのまま通ってしまった。

**谷内** 予選だったからいいが、決勝だったら大変だ。

**岩佐** 決勝でも同じでしょうね。

**宍道** 飛び込みの規則に「決められた以外の種目を飛んだ場合には0点とみなす」とあるのでしょ。

**岩佐** あります。0点です。前宙返りを後宙返りでやれば0点だし。しかし、今度のケースは、種目は同じだが型が違う、「えび」「のび」という……。そこで解釈の仕方が分れた。

**奥野** 「のび」をのびそこなって「えび」をやったというのか。

**岩佐** あれは日本の選手にも精神的にひびいたのじゃないですか。

**宍道** ポロのジャッジでは、個人差というか、ゲームの進行状態が違うという話を聞くが、今度はいろいろな人がジャッジしたけれども、どうでした。

**小川** 個人差はあったと思う。やっぱり厳格なレフェリーとルーズな人がいるんですよ。だから、強いチームはそれと合うように作戦を変えている。ハンガリー、ユーゴは、見てないとみると、完全にひっぱたいたりなんかする。(笑い) わからないところでね。強いチームはそういうふうに訓練されているんですね。

**宍道** そこまでいかなければウソでしょうね。(笑い)

**奥野** レフェリーに対するのは競技者が合合わせたようになるが、レフェリーがうまいのとまずいのは違うね。ユーゴとハンガリーのときはうまかった。

**小川** あの人は今度きた中では一番うまいですよ。自信を持っているし。

**谷内** ゲームの盛り上がりは、レフェリーの旗でもって変わってきますからね。

**小川** ポロで困ったのは、ヘッドがパキパキしていないで、なんでも会議をやる。最終日は同率にはならなかったが、同率になったらそのときまた考えようというように、こっちがヒヤヒヤしているのに……。

**宍道** たとえば、AとBでやるときには、それ以外の国からレフェリーを出すことは決まっているでしょう。ウォーター・ポロ・ボートで、第三国の人が笛を吹くという原則を立ててやっていたね。レフェリーとかゴール



ジャッジ、タイマーは、ウォーター・ボロ・ボートで決まる。それを日本は知らないで打合せでやったが、ジャッジとかタイマーには相当つけてくれた。レフェリーしたかったでしょう。沢山きていたのだから、名取君一人でも吹けたのはよかった。

小川 彼もあがっていましたね。前の試合のときから何回も便所へ行って、何を聞いても「知らない」(笑い)

益田 前日から興奮していたからね。

谷内 ゴール・ジャッジが旗をあげて、レフェリーが取上げなかったというのは、見ているとおかしいように感じたが……。

小川 ルールからいえばレフェリーがオールマイティなんです。ゴール・ジャッジは得点をみるのとレフェリーにアドバイスをするくらいです。規則に書いてないのです。最終はレフェリーだから、いかんともしがたない。

谷内 ゴール・ジャッジが得点といっても見向きもしなかったこともある。ああいうとき一方が競技を中止したらどうなの？

小川 インプレーだから入れられちゃいますよ。名取審判はどっちかというところゴール・ジャッジを見すぎた。

谷内 日本ではゴール・ジャッジに従ってやるが、あのレフェリーはそうじゃなかった。

小川 あのときは抗議はこなかった。

谷内 一時とんできたね。

赤樫 あそこで考えちゃうともめるんだ。見向きもせずにやればいい。

益田 ボロで乱闘寸前までいったのがあるね。

小川 チェコの選手が退場させられて最後まで出られなかった。アルゼンチンのレフェリーだかがおこっていましたよ。ぼくたちもオリンピック期間中、「このゲームはどうか」と聞いたら、「もうすんだことだからいい」といって、ゲームだけですんだ。そういう権限もレフェリーにある。今回は強いチームはみなソ連圏なのでそれほど荒れなかったので助かりました。

宍道 体操はジャッジの国によってはソ連に甘く採点すると聞きましたが、水球はその傾向はなかったですか。

岩佐 以前はあったらしい。しかし今度は目立ってひどいのはなかった。

赤樫 電光掲示板をみていたが、甘い人はずっと甘いし、からい人はからかったね。

岩佐 今度は審判員の番付をチェックする仕事をFINAが取上げたが、競技が終るたびにレフェリーにもって行って会議を開いていた。しかし、チェックのたびに「お前はおかしい、悪い」というのは出てこなかったら

しい。問題になるようなことはなかったらしい。ビデオテープを取ったので、それを見て、「お前が出した点数が甘い、お前のはからい」ということをやりましたがね。飛板を踏む場合、2度踏みというのがある。その場合減点しなければならないが、瞬間的なので見落す。それをあるジャッジはみつけたが、ほかは見落したので点差が開くわけです。そういうときビデオをみて、お互いに話し合いをして納得していました。ダイビングではビデオを有効に使いました。ビデオはまる一日キープするようたのみまして、その場でもみられるし、翌日も見直せるようにしておいたんです。

伊藤 競泳スタートは大体よかった。

赤樫 評判はよかった。清川さんとFINA、日本水連との間でスターターの位置についてもめたが……。ヨーロッパは前なんです。まあどっちがいいか悪いか別に、スターターのモーションを盗むことを考えちゃいけない。

## (8) 入場者の規制について

宍道 入場者の規制についてですが、この面で苦労されたのは菊地先生と赤樫さんですね。

菊池 これは一番頭がいたい問題だった。私も正直のところゲームは殆んどみていない。第一日目だけは半日時計のところへすわったが、あとはもっぱら門番だ。

奥野 切符が悪いから大変だったろうな。

伊藤 水連で切符を分ける時、切符の見方の解説書を作った。それをしないと、何日の切符かもわからない。午前、午後もちろんわからない。自分の席の番号はどこか、プールがどこにあるかもわからない。だから「あの切符じゃ大変だ。トラブルが起るよ」といっていたら事実トラブルがあった。

奥野 今後もし水連がここでやる場合には、「総合競技場の水泳場」などと言わずに「代々木プール」でいきたいね。

赤樫 オリンピックプールだな。

奥野 そうね。「代々木オリンピックプール」でいい

菊池 今後は、原宿門とか渋谷門とかABなどと分けることはない。まん中から切って、どっちからでもはいるようにしたい。

伊藤 はじめは向うとこっちで切ったのに、いつの間にかまん中で切ってやるようになった。

菊池 極端に言うと、座席が一つちがっても、ぐるっと回ってはいらなければいけない。

宍道 あいていた席があったようだが。

伊藤 あれは朝鮮が引揚げたのであいたんですよ。それで水連であとで売った。それと、あまり負けるのを見

にこなかったのじゃないか。(笑い)

江戸 死角で見えないところがあるので見えるところへチェンジした。だからすみの方はあいていました。

宍道 ロイヤルボックスのある方が8コースで、反対が1コースというのは反対だと思っていたが……。神宮プールはロイヤルボックス側が1コースでしょう。

谷内 正面スタンドの方が8コースになるのはオリンピック慣例かなんかにあるんですよ。日本人の感覚で逆につけてしまったので付け替えたという話を聞きました。

伊藤 ルール・ブックで決っているんだ。プールに向かって右側と。

宍道 競泳も水球も入場券は全部売れた?

江戸 売れたはずですよ。

小川 ポロはスタンドの高い所に空席があった。でも切符を欲しいというのが沢山あったが、切符は売切れていなかった。

伊藤 お役所で最後までとっておきの切符をもっていたよ。

江戸 ごく少数でしょう。

小川 ガラの悪い選手団が陣取って、ロイヤルボックスの中までもはいつてきて、トレーニングシャツのままでもどなっているんです。相当出してもらったけれども、すいていたので、案外いい場所に割込まれた。

宍道 菊地先生は玄関で苦労されたが。

菊池 資格のない者ではいたいというのが多くて困った。これには競技の始る前の練習会場のときから苦労しました。大臣が「たまたま通りかかったからみせろ」というのもあったし、外人が「5分間でいいからみせろ」というのもあった。期間中でもそうですよ。しかしそういうのを入っていたらキリがないからことわりしましたがね。「全会場通行証」というのが沢山出ていて、これにも困った。これを入れたらキリがないですからね。

もう一つは選手ですね。ほかの種目の選手が見たいというのです。これは会長から叱られたのですよ。「どうして外国選手にみせてやらないのか」と。しかしそれをやったらキリがない。おことわりしました。でも強引に突破するのがいるのですね。もう一つは、あの建物はどこからでもは入れるように出来ているんです。週刊新潮に、「モデル箱根の炊事場からは入れる」と書いてありましたが、2日くらい前にあそこをみつけたんです。それと報道関係が相当問題がありました。今後はオリンピックとちがってそれほどなことはないでしょうが、日米対抗のような大きな試合は、入口をよほどしっかりしないとイケませんね。

奥野 あとから批評する場合、厳重にやったから立派

に終わったというおほめの言葉を賜わると同時に、期間中はその嚴重さが融通がきかないと批判される。前とあとと批評がちがってくるから困る。

菊池 たしかにそうです。文部省の局長を入れないというのでめたですね。局長は私の先生ですが、あとで聞くとブランデーが「水泳場は立派だった」とほめた。それでがらっと変ったらしいが、規則は規則でちゃんとやらないといけませんね。

赤樫 ぼくはアリーナ面を担当したのですが、インドアだから選手席が少ないのはいいが、参加する選手が決っているのにあれがいっぱいになるのはおかしいと思ったら、ほかの種目の選手がきているんです。やはり各国の選手が、自分たちはIDカードでどこへはいれるかということを知らなかったことと、通路があるのに通っちゃいけないというのは無理ですよ。コンクリートのカベがあるなら通れないが、人がきというのはどうもトラブルが起き易い。

菊池 インフォメーションも同じで、協力してもらって助かったが、練習会場のときから、絶対規則は規則でいきましようということで、大いに力づけられてやった。ネパーチェンジもそうなので、変えない方針で強引にやったが、それが当り前ですね。

赤樫 新聞を見たら気ちがい部落と書いてあった。面白いのはソ連の選手だ。「ウォーター・ポロだ」といって8人グループできた。ところが、まん中のIDカードをとってみると、近代五種がはいっているんです。近代五種はないからダメだといってことわると、2階の方からIDカードを落す。ことわったのと同じ人間が5分後にまたくる。「君はちがうじゃないか」というと、素直に帰るのですね。これで終りかと思うと、今後は水球のボールを持ってくる。それでもことわると、「何かやるから」といってモスクワ絵はがきを出す。あの手この手とやってくるんですよそれで帰ればいいのに、なおも1時間くらいねばっているんです。(笑い)

菊池 水着をもってきてみせたのがいる。本当に試合に出るならあわてるかと思ったら、あわてなかった。

(笑い)

赤樫 ソ連は最後まで入れなかったですよ。そうかと思うと、カヌーのイギリス選手なんか断わると、さびしそうに帰るのですよ。ああなるとかわいそうになってしまふですね。3時間かかってきたといっていました。そっと連れて行ってやったら涙を流して喜んでるんです。国民性が出るんですね。そこへ行くとソ連のネバリ強さは大したもんです。

小川 ポロは団体ゲームでしょう。アリーナのプールサイドへ出てきてみたり、控室のベンチを持込んだり、

競泳のスタート台の方まで出てきたり、いくらいってもダメですね。はり紙をしてもだめだ。団体ゲームは手におえないですね。通訳がいつも相手にしない、青いブレザーを着て話すと、自分はわからないという。(笑い)言葉がわからないのじゃない、とぼけてるんです。

赤樫 中にいる水泳選手は競技をみたいでしょうが、みる場合は指令室の前を通せばすぐいけるが、通路がないから控室から帰らせた。今までのオリンピックでは、終わったら通路があってすぐみられたんですが……。

奥野 施設が立派だという半面、運営面では構造のためにうまくいかなかったという感じを受けている。飛込みの観衆と競泳の観衆と全然ちがうのに一緒にところで両方の切符を売ることがまずいのだ。安いところを買ったというので飛込みの上に来た。競泳をみたいといって買った人がね。だから設備そのものは立派だが、運営面からはよくない設備だと思う。新聞にも書かれたし、泣きそうな選手がいたから、少し直そうかと思ったが、直せば不公平になるから最初から終りまで同じことをやった。結果的にはそれがよかった。

各国選手団が飛込みの方へいっている。競泳をみるといってもみられないのだから移動するよ。切符を売ってシートにおさまったからというのは数字上の計算だけで実際面は参照していない設備だ。

宍道 日本選手団は電光掲示板の右のわきの方へ陣取っていたが、あそこが指定席ですか。

伊藤 そうじゃないですよ。比較的すいていた席だからですよ。

## (9) 表彰と通訳について

宍道 表彰の問題について。ほかの競技は振袖姿のお嬢さんが出たが、水泳は二階堂高校の清楚な姿が印象的だったが。

奥野 ぼくはあれが一番よかったと思う。ふりそで姿も一応考えたが、組織委員会で表彰の役員は別のをくれるというので、出来上がったのをみたら、どうも感心できないので前の清楚な姿にしたそれについてはちよつと問題があった。というのは2階堂の先生も校服を持っていくのは運動したと思われるからというのですね。しかしこちらの意思によってやるという、押切った。

伊藤 組織委員会のおしきせはやぼりたい、それで制服がいいというので、組織委へ伺いを立てて、ダメを押してやった。振袖姿じゃプールで水をパチャパチャやるから、それにすべってころばれても困るというのでやめることにした。

益田 一つは平賀さんの功績大だ。

奥野 あの訓練の仕方は本職だね。

赤樫 彼女たちは表彰のないときはほかの仕事もよく手伝ってくれた。

益田 それがあるから二階堂を選んだんだよ。(笑い)

菊池 帰りには掃除して帰るし。

奥野 彼女たちは皆まじめだったし、訓練もよかった問題は服装だが、振袖よりやはりあれの方がよかったと思っている。

赤樫 振袖姿じゃ動作がスローモーになってスポーツという気分にそぐわないね。

奥野 外国人が日本へきて、芸者ガールと富士山じゃまずいと思ったし、振袖なんて斜陽的な傾向はやらなくていいという突き上げた気持もあったんだ。いい家に育って常に着物を着ている人ならいいが、それでなければ芸者になっちゃうからね。

伊藤 こっちでクツのカカトの高さから大きさ、先のとがり方まで気を配ったからね。

宍道 マメをつくった子がいたよ。だけれども、ひまがあれば練習していたね。ほんとに辛棒ぶよくやってくれた。

奥野 歩く練習をはじめ「止まれ」といわなければ何回でもやっていたよ。止まれというのを平賀先生が忘れてしまったんだがね。(笑い)

宍道 表彰の方は評判がよくてよかった。通訳の問題は、水泳はもっぱらICUにおねがいしたが、水泳の方は最初からICUの割当があったんですか。

伊藤 女の子ばかりでどうかという話があったが、水泳は女で間に合うからいいということでした。当初は多少心配したが、結果的にはよかった。

奥野 なれていたせいもよくやったね。

谷内 水連の一員になっていたですからね。

奥野 コンパニオンと通訳がわからなかった。われわれの通訳は誠に優秀だったね。

伊藤 粒がそろっていた。甲乙がないこと。それと仕事そのものをわけへだてなくやってくれた。

谷内 水連の仕事をして、そのために涙を流したというのはうれしかったですね。それまで一生懸命やってくれたんですから。いっそのこと水連の役員の一員にすべきだった。

伊藤 馬術の方もうまくいったらしい。ICUは男と女と両方、軽井沢で一カ月くらい合宿したらしい。こちらもうまくいって感謝したが、馬術の連中も感謝していた。どこの競技団体も同じだったと思うが。やはり門番はやらせないしろ、騰写版から机運びまでやらせたらしい。

岩佐 競技役員のブレザーを着ていてもよかった。通訳だけじゃないものね。

益田 水連は競技役員と分けへだてなくやっていたからね。近代五種は地下二階に小さい物置みたいな会議室があって、そこで通訳が待っていて、四階の近代五種の部屋から電話がかかってきて、召されていくわけだ。用をたすともとへ戻る。(笑い)

伊藤 ICUは斎藤という先生が良識があってしっかりしている。組織委員の岩田氏もかなわないよ。同時通訳の金を払ってないから早く払ってくださいよといわれていた。

菊池 ある人が「水連とよく仕事ができるね」といったらしい。

谷内 われわれが反省しなければならぬのは、外に対して強くて、中ではうまくやった。それが外の通訳にそううつったのじゃないですか。

岩佐 ダイビングの経験者を通訳に入れたけれども、通訳として使うにはICUの方がいいですね。主観を入れないから正直に相手に伝わる。なまじっかに経験していると主観がはいる。通訳としてはうまくなかった。こまかいことを相談してくれとかということならいいが。

伊藤 いい主観がはいるのならいいが、主観を入れる人は悪い主観の方が多からね。

赤樫 終るところになって水連をわかってくれたと思う。最初「もう少し系統立ってものをいってくれないと困る」といわれてね。

奥野 系統立ってないところが水連だ。(笑い)

江戸 それはぼくも感じた。しかし、総論として、水連はわが道を断固としていったことがよかった。これは賞賛に値する。世間の批評に全然左右されずにね。

谷内 首尾一貫して、一つの信念という大げさだが、オリンピックはこういうふうにやるという気持があった。それが通訳にもわかってもらえた。

赤樫 試合の途中である新聞記者にいわれたが、「弱いくせになんだ、この運営は、いまの水泳の地位を知らないのか」ってね。それでちょっとトラブルがあった。いちばんいやなことをいわれたからね。

江戸 弱いからしっぺ返しをやるのだらうというわけでしょう。

伊藤 弱いからこそ運営だけでもちゃんとしようと思ったわけだ。(笑い)

宍道 天皇陛下とか高貴な方がこられるときは静かだったが、方針があったのですか。

江戸 別に聞いてませんが。

奥野 週間誌には書いてあったね。外国選手が喜んでアピールしているのに、日本人だけ静かだ。日本選手もとけ込み方が少ないのじゃないか。もう少し観衆も喜んでいいのじゃないか——というわけだ。

ぼくももっと素直に喜んで拍手していいと思うが、ひとつには、自分自分が写真をとるとか、記録することに忙しくて、そこまで手が回らなかったこともあるのじゃないかな。

菊池 国民性でしょうね。

赤樫 レスリングのテレビをみたが、レスリングなんか胴上げしておかしくない。水泳はああいうふうにいかない。

奥野 競技場には伝統的なふんいきがある。水泳の運営からいって、雑音がはいる余地はないんだよ。次々とアナウンスしたりしているからね。

宍道 最後に奥野さんからまとめる意味で、今度のオリンピックから得た教訓というようなものを……。

奥野 皆さんから、いろいろ有益なお話がありましたが、それはそれとして、最初申上げたように、今後われわれが主催する競技会はどうすれば一番効果的に運営できるか、そのためにはムダなところがあればそれは切っつけていかなければならない。又あの豪華なオリンピック・プールを生かすためにはどうしたらいいか。しかもそれは水連の経済的枠内で考えなければならぬ。さらに機械審判を、もっと完全なものとする必要がある。おそらく今まで行った大会の運営は、みんなが一生懸命にやっ、これ以上の運営はできないと思っていますがより完全なものとするためには機械と人間がどの辺で交錯し、チェンジしていくかが問題じゃないか。水連が今後これだけの設備をどこまで生かし得るかが大きな課題であると思います。(おわり)

# メキシコオリンピック決勝進出の水準

小山賢之助

敗軍の将はその兵を語らずと言われているが、将ではない私ではあるが、今回の様な完敗を喫したオリンピックについて、競泳の観戦記を書くことはどうも気が進まない。

NHKテレビで、マラソンの実況放送を見たのであるが、後半は全くアベベの独走振りの描写に終始した様に思われる。これがスポーツ放送の真の姿であろうが、参加する事に意義があるというオリンピックも、或る人は金メダルを取らねば意味はないとも言う。勝負の世界は厳しい、競泳において5人泳ごうが8人泳ごうが、観客の見るのは先頭の1人であとの4人、或いは7人は、誰も見ていない、と言いつ切る人も居るのである。若しこれが正しいとすれば、戦後20年間に観客の見た日本選手はメルボルン大会の古川君1人ということになる。

然し乍ら、ローマは一日にして成らずと言ひ、勝つ為めには、グッド・ルーザーであれということもある。トップの1人しか見ない人ばかりいたのでは、本当に水泳の好きな我々は、どうすればよいのであろうか、我々は日本の水泳の強くなる事を願い、微力乍ら出来るだけの事をしてるのである。我々は只1人の優勝者だけを見るわけには行かない。東京オリンピック水泳で22種目の中16人のアメリカ人を見るだけで、オリンピック水泳、飛込を見たとはいへまい。我々はその中に日本の泳手を見、たとえアメリカ人の後を追って居っても、日本の泳手に声援を送りたとえ、それが、武運拙く敗退しても、本人のベストタイムを出せば、拍手喝采を惜しまないのである。そしてこの次には何とか勝って貰い度いと願うのである。

どうすれば早く泳げるか、どうすれば、強い肉体、強い精神が作られるか、という様な事は、私にはどうも回答が出せない。これらについては、他に色々と適任者が居られることと思う。そこで私は、何時もの事ながら、少し記録を集め、これに少しのソロバンを弾くことに依って、次のメキシコオリンピックには世界競泳の水準はどの辺りに行くであろうかという事を大雑把に捕えて見たいと思う。電子計算機の時代にソロバンは全くアナクロニズムではあるが、こういう簡単な手法も使い様に依っては意味があるのではなからうか。

私はオリンピック競泳の水準を決勝出場者の第8位の記録を取ることにした。つまり予選或いは準決勝でのタ

イムレース第8位の記録を、メルボルン、ローマ、東京と取って見て、それぞれのタイムの短縮率を出し、メルボルン=ローマ、ローマ=東京の短縮率の平均を出してメキシコの第8位の予想値としたのである。従ってこの記録はオリンピック決勝での第8位の記録とは違うのである。タイムの向上を率で出す場合、例えば10秒が9秒となった時、9秒を100とすれば10秒は111であるから向上率11%とするやり方と、10秒を100として9秒は90であるから、短縮率10%とするやり方の二種があるが、前者は後者よりも%の出し方が計算がやや複雑である。どうせ程度の差ではあるが、後者の方が数字を出し易いので後者を採ることとした。

計算例を男子100米自由形について示すと次の如くなる。

メルボルンにおける100米自由形準決勝により決勝出場権を獲得した最も悪いタイムは58.0秒であった。ローマではこれが56.5秒、東京では54.8秒であった。58秒を100とすれば56.5秒は97.4、56.5秒を100とすると54.8秒は97.0である。この97.4と97.0を平均すると97.2となるがこれはメルボルン=ローマ=東京と短縮されてきたタイムと同じペースで、メキシコで下るとすれば、メキシコのタイムレース第8位の記録は54.8秒の97.2%即ち53.3秒という数字になるのである。

以下、メルボルン=ローマ=東京に共通にあった種目について男女種目毎に同様の計算をして私になりその数字の理由らしいものを書いて見た。ローマで新設され、メルボルンになかった種目、或いは男子背泳の如く距離の変更されたものは割愛した。傾向値は少くとも二つの数字がなくては近似価値に乏しいと判断した次第である。

## 1) 男子100米自由形

メルボルン	58.0	97.4%
ローマ	56.5	97.0
東京	54.8	97.2
メキシコ	53.3	

メルボルン=ローマよりもローマ=東京の方が短縮率が高く、まだまだタイムが向上する余地がある様に思われる。ローマの優勝記録55.2では、東京の決勝に残れず、東京の優勝記録53.4では、メキシコで決勝に残れないこととなるが、恐ろしいこととなったものである。

2) 男子 400 米自由形

メルボルン	4:37.6	97.0%
ローマ	4:29.2	97.0
東京	4:21.1	97.0
メキシコ	4:13.3	

この種目は 100 米よりも短縮率が稍高い。然し、決勝出場者の 1 位と 8 位の差が開いているために、前回の優勝記録を出しても予選で落ちるといったことはない。ローマ優勝記録 4:18.3 は東京では決勝に残れる。然し 2 位の 4:21.4 では、決勝出場は出来ない。

3) 男子 1500 米自由形

メルボルン	18:51.6	96.3%
ローマ	18:09.9	96.7
東京	17:33.5	96.5
メキシコ	16:56.6	

この種目では 400 米よりも更らに短縮のピッチが早い。然し 400 米以上に 1 位と 8 位のバラつきが荒い為めに、優勝記録を出せば次の時の決勝には残れる。然しメキシコでは、いよいよ 17 分を切らないと、決勝に残ることが出来ない様だ。然し、各国選手の泳力が尚進歩して限界に近付いてくると、バラつきの目がこまかくなつて、100 米の様な数字が出る様になってくるのではなからうか。

4) 男子 200 米平泳

メルボルン	2:43.0	98.7%
ローマ	2:40.8	95.4
東京	2:33.5	97.1
メキシコ	2:29.0	

メルボルンからローマ迄の短縮率の少いのは潜水泳法禁止の影響と見られるが、ソビエト勢の進出によりローマ=東京の短縮率の著しい進歩があったので、或いは 2:29.0 ではメキシコの決勝では危いのではないかという気がする。

5) 男子 200 米バタフライ

メルボルン	2:29.9	95.5%
ローマ	2:23.1	92.9
東京	2:12.9	94.2
メキシコ	2:05.2	

米国のキップス監督によると、今後のタイムの向上はバタフライに於いて最も著しいという。この数字を見ても同氏の言が裏付けられると思う。ローマ=東京の 92.9 というのは素晴らしいもので、もしこの調子が続くと、メキシコでは 2:05.0 を切るようになるかも知れない。

6) 女子 100 米自由形

メルボルン	1:06.0	97.3%
ローマ	1:04.2	97.8

東京	1:02.8	97.6
メキシコ	1:01.3	

1964 年の 1 月から 9 月迄の記録と、オリンピックの記録の比較が水泳強化本部から出されているが、女子の方が男子に比し総体的に言って、オリンピックでの記録が余りよくない。男子では 1 月から 9 月のベストタイムをオリンピックで出して居るのであるが、女子は稍劣って居るのである。オランダ選手が特に著しい。女子は男子に比して、オリンピックで上るのであろうか、もしそうとすれば、日本の女子も平素の記録をオリンピックで出せば、男子に比して好成績を出す事が出来るということになるが、日本の女子は外国の女子よりも余計に上るのであろうか。

7) 女子 400 米自由形

メルボルン	5:14.4	95.5%
ローマ	5:00.1	98.3
東京	4:54.8	96.9
メキシコ	4:45.7	

メルボルンからローマ迄に 14 秒 3、4.5% を短縮したにも拘らず、ローマから東京では、5 秒 3、1.7% の短縮しか行われていない。ところがローマでは決勝の 7 位 8 位はそれぞれ、5:02.3、5:02.4 で予選 8 位の記録より悪いのに対し、東京では 7、8 位はそれぞれ 4:52.9、4:53.0 で予選の記録よりよいのである。ローマでの予選では全力を尽くし、東京では入選タイムの見当がついて、少し流したのではあるまいか。

8) 女子 200 米平泳

メルボルン	2:58.2	98.9%
ローマ	2:56.3	96.8
東京	2:50.7	97.9
メキシコ	2:47.1	

メルボルンからローマの短縮率の少いのは男子同様潜水泳法によるものであろうか、これもメキシコでは 2:47 を割ると思わねばなるまい。

9) 女子 100 米バタフライ

メルボルン	1:17.4	94.2%
ローマ	1:13.0	94.2
東京	1:08.8	94.2
メキシコ	1:04.8	

男子同様短縮率が高い。男子のそれが 94.2、女子が 94.2 と一致しているのは偶然にしては話があい過ぎると思うが、どうか。

10) 女子 100 米背泳

メルボルン	1:15.0	96.7%
ローマ	1:12.5	97.4
東京	1:10.6	97.1

メキシコ 1:08.6

田中聰子がオリンピックで出した日本記録 1:08.6 を破らないと決勝には残れない。

#### 11) 女子 400 米リレー

メルボルン	4:34.6	99.0%
ローマ	4:31.9	93.8
東京	4:15.0	96.4
メキシコ	4:05.8	

メルボルンでの日本チームの記録は 4:35.8 で入選スレスレのところ、ローマでは、4:35.9、メルボルンよりは悪く、入選との差 4.0 秒、東京では 4:19.2 でその差 4.2 秒、我国女子自由形の水準は、メルボルン以来

ギリ貧という結果が出てくる。

尚、メルボルンからローマへの男子個人種目 5 つの平均短縮率は 97.0、女子は 95.5 であるに対し、ローマから東京では、男子が 95.8、女子が 96.9 で男女の傾向が全く反対である。これは私には何が原因か原因がよくわからない、果してメキシコではどう出るか。当るも八野、当らぬも八野、メキシコオリンピック、決勝出場権獲得のタイム、如何相い成りましようか、お立ち合い。

(尚此の計算は凡て四捨五入で少数点一位に止めたので、結果の数字に 0.1 秒程度の計算上の誤差があるが、大体の傾向を知るには支障のないものと考える)。

(筆者はもと水連専務理事)

## プー ル サ イ ド

○ 審判で活躍した N 氏、各審判員から提出されるデータをまとめて審判長(外人)に渡すとき、小さな声で「ホイ来たオッさん」。相手が外人だから分らないようなものの、聞いている方はヒヤヒヤ。

○ リレーメンバーの提出はレースの 2 時間前ときめられているが、仲々その通り出してくれない。ペルーの如きは選手が勝手に書き出して来たので責任者のサインを要求したら「監督がバスケットボールを見に行っている」とのんきな話、又統一ドイツチームは西側の責任者が書いて出したメンバーをあとから東側の監督が確認しに来るといった具合。決して一しょに来ない所が「ベルリンの壁」を感じる。

○ タイの選手は日本の 10 月がやはり寒いらしく、カゼをひくものが続出。折角リレーに申し込んでも棄権と言った状態。

○ タイの背泳選手、チヨドチバナ君の個人エントリーをみると 1915 年生れとある。そうすると 48 才ということになるが何かの間違ひではないかと本人にきいてみると正しくその通り 48 才、将にオリンピック新記録(?) だろうと思われるがカゼを引いて早く帰国してしまい残念乍ら棄権。

○ 役員選手入口で無法侵入者に目を光らしている A 氏、規定のカードをみせないではいろいろとした外人の前に立ちふさがって「NO」ついて来た日本人がたまたま A 氏の知人で「此の人は I O C のブランデー会長」だときかされた A 氏こんどは直立不動で「ブリーズ」

○ 同じブリーズでもアリーナをウロウロする外人選手を追い出す仕事をやらされた S 氏、丁寧に追い出そうと「ブリーズ、ブリーズ」とやったものだから外人選手どうしていいか分らずマゴマゴ。

○ 水泳競技第 2 日目の朝、あるラヂオ放送が「今日の見所」と題して「女子飛板飛込の決勝はエングルとクラマー両選手の間で争われるものと思われま

す」誠に愉快な「見所」ではある。

○ 問「田中聰子さんはオリンピックがすんだら何をおやりになりますか。」答「ハイエイパトロールをやります」三平のリズム落語の一節。

○ 電光掲示板の全責任者、日立の K さん「ミスが時々あるんで誠にはづかしいんですよ。うちの重役があのおスミで見てるもんですからね」15,000 人の目より一人の重役の方がやはりこわいらしい。

○ 「顔で笑って心で泣いて」なんて言葉がある位日本人は感情を顔にあらわさないが、外人はこれとは反対に優勝でもしようなら大変な騒ぎ、特にオリンピック水泳史上始めてソ連が金メダルをとった女子 200 平泳でプロズメンシコワが優勝したときのソ連選手団のハシヤギようは大変なもので気でも違ったのではないかと思われる位であった。そのプロズメンシコワ嬢表彰に出る前の控室では 3 着になったハバニナ嬢とポロポロ涙を流して抱き合っていた。

○ 3 回連続優勝という大偉業をなしとげた豪州のフレーザー女史はさすがにチームの姉さん株である。リレーチームが表彰される時もぬれた髪にクシをいれてゆったり水着のシワをのばしてゆったりして若い連中の面倒をよくみていた。話題の多い選手だったがい反面もあるようだ。

○ 飛板飛込予選で活躍した金戸君、緊張しすぎたのが失敗して頭を板の先端にぶつけてケガをした。此の時プールサイドでみていた外国の一選手が間髪をいれずに飛込み同君を助けあげたが、そのキビキビした動作は観客に大きな感銘を与えた。

○ ソ連チームの通訳氏、若いのに大変日本語がうまい。どこで習ったのかきいてみると、私はレニングラード大学で日本文学を専攻しています。日本の古典文学は六ヶしいが面白いですね、源氏物語や……」古典文学ともなると日本人であるわれわれもあまり強くないので話はシュンとなってしまった。

# アメリカ・オリンピックコーチの報告

(スイミングワールドより)

## ▷ASCA ミーティングでの報告◁

ヒューストン (テキサス発) —アメリカ水泳コーチ協会においてメンバーとコーチは非常に意義ある時間をすごした。150人以上がリストに名をのせ、5時間以上に亘って論談や映画に注意を傾けた。

なんといっても頂点はジム・カウンスルマンコーチ (オリンピック男子コーチ) のとったオリンピック、フィルムをうつした時であった。このフィルムにつづいてカウンスルマン氏は、オリンピック競技に関しての医療団のために用意されたレポートをよみあげた。男子のアシスタント・コーチのジョージ・ヘインズは短いスピーチをし次にピーターディーランド (女子コーチ) がそのトレーニングについて話をした。

会議はカウンスルマン氏にフロアから直接むけられた質問で幕をあげた。(答はカウンスルマン氏より。)

**【質問】** オリンピック競技のとき明らかなルール違反での資格取り消しがなかったのはなぜですか？

多くのオフィシャル達は4年に1度だけ1ゲームをみるのです。殆んどが国ではビジネス・マンであり、相対的にいえばあまりよい水泳記録をもっていません。で、泳ぎそのものにはあまり慣れておらず多くの人がエージ・グループで、他には起らぬようなみすごしをしてしまいました。リレーでのジャンプ、ターンの失敗、キックの違反などがあり、またアメリカのどこでも起りえぬような取扱い上のミスもありました。

**【質問】** トレーニング等に関してのレポートはありますか？

いいえ。しかしオリンピック競技医療団のためのレポートがあります。

ニューヨークで男子の選考をしてから、水泳チームはカリフォルニアのパロ・アルトにむけて出発した。(これは男子のみ。) 9月29日に東京に出発する前の4週間を練習にあて、4週間に1日2回、1週6日の練習をした。日曜日は練習はなし。

このトレーニングに先だって、すべての泳者とコーチはそのトレーニングに関しての質問表をうけとった。これらは後のトレーニングの参考となった。即ち、27人も

泳者がいて、コーチは27人いなかったし、また時間はなかったの、そのままの練習行程をつづけるわけにいかなかったの、何かパターンを作りだす必要があったのである。例えばひとりの泳者は1日につき1~1.5マイルを泳ぐことが習慣になっていたが、彼は4.3~5マイルのグループにいれられ、我々は彼が著しく記録更新することも予想していた。その後心電図もあまり変化をみせず、我々はそのままのプログラムをつづけた。彼はオリンピックまでずっとよくなりつづけ、勝利をあげた。もしかしたら1.3マイルでよかったかもしれない、もしかしたら1.2マイルではだめだということを読みしているのかもしれない。とにかくこの点をとり上げるために述べてみました。

午前の練習はクレモント・ヒルズで行い、平均は4800mでした。約3マイルです。午後はフットヒル・カレッジプールで約3200mの長距離もふくめて合計5マイルを泳がせた。平均して4マイルのスプリンターと5マイルの中距離その他という内容でした。長距離泳者は最大で6マイルを泳いだ。

**【質問】** これら長距離は各々時間はどれくらいでしたか？

朝のうち、キックボードをつかったり、おいかけてこしたり、という工合で15~20分をすごしてから、練習表に従ってやるのが2時間15分で、午後は1時間半くらいでした。午後はキックボードはあまりなかったのですが(朝には)これはたのしかったですね。すごいのはかりいて、ジョージ・ヘインズが頭なんですから。とにかく時間は充分あったし、そろそろ仕事に精をいれるばかりでも能はないでしょう。

**【質問】** トレーニングはどんな風にやりましたか？

チームは3つに分けられ、スプリンター、中距離、長距離という工合になり、各々異ったトレーニングで殆んどトレーニングワークはインターバル式でした。いつも毎朝の練習のまえにコーチは皆を集めてその日の行程表を話しあった。練習の最中に異常に疲労を訴える者があればプールから出るようにいわれた。いわゆる「落伍者」兆候をみせるものがあれば1.2日ノック・ダウンすることになっていた。生理テストを受けとったのでは遅すぎ



たし、心電図表を適当に応用出来なかった。とにかく我々は我々の判断でやった。

すべての練習の記録が取られており、水泳、キック、プルの平均タイムは「スイミング・テクニク」の中に定期的にのることになっている。カリフォルニアにいる間に心理、生理テストがされた。サンホセ・ステートのオギルビー博士とその助手が心理テストを担当したが、これは4時間のもので、その結果、

- 1) チームは攻撃的で個人主義、野心にとむ
- 2) ヘテロセクシュアル、即ち異性への関心がつよいということが判った。

とにかく殆んど性質がよいものであるというわけだった。ただひとつの例外は心理的耐久力（子供のときには注意力の幅巾、又は自己興味振興の幅というのですが）が低い、インターバルのしかも変化の多いのを練習に組まねばならぬということでした。つまり、ある月曜日に8×400m、火曜日に2×200mをやり、次の週にこれを同じようにやったのではだめということでありました。で、よろこばせておくためにはフィルムでみせたようにいろいろなことをやりました。古い手ではダメというわけです。

インターバルだと、おもしろくなります。心理実験は結果発表をする予定ですが、これは興味あるものです。グループとしては最大数の泳者を抱えていたのに耐久力では全く低く、平均以下でした。驚くべきことです。東京出発の前に故障はありませんでした。すり切傷と、エド・タウンゼンドがプールからおちた以外は怪我もなくうまくいきました。

サアリがあまりよくなかったことについて質問がありました。ロイノジョージ・ヘインズと私の3人で話し合いました。ロイはこのことに関して、ドン・ギャンプルの診療所で話してくれました。ロスアンジェルズで。

東京についたとき、ロイは風邪をひき、2、3日水に入れません。水に入ったときは身体がガクガクして休息が必要という有様でした。で、2週間水から遠ざかっていました。で、ある日、水に入り、ジョニー・ウイルソンが1週間後に迫った、6×400mやり、4:40で各々を泳ぎ終るのには4:28をだしたとき、ロイは「ああひどい！」といって400mを5分に切れるくらいで一度泳いだりだった。考えてみればなっていなかったわけであり、個人メドレーではきれいに泳いだけれども、これで全力を尽してしまっていた。400mバタフライでは4:47で、最初の200mは2:13.5。良好のときは100mバタで1:01.8までいったのだが。出だしは1:02.2で、200mのときは2:13.5。まえに最良のときは2:15だったのだが。

トレーナーのアーニー・ピグスによれば、彼はとにかく疲労困憊してしまい「この子は2、3日泳げないな」ということだった。足筋が硬くなっていた。

足が硬化し、シルバーメダルを得るために台によるためには臭いかぎ塩（気つけ薬）を与えるしまつだった。とにかくもうだめだと思い乍ら彼は個人メドレーから帰ってきた。5日後には2マイルものレースがまっていた。各々がむづかしく彼の身体はなまっていた。勝てると思っていた個人メドレーにまけてから士気が落ちていた。1500mにでたときはまったく消沈していた。

とにかくジョージと私は重大な決定を迫られたのである。即ち、400、1500にまづかった男を自由型リレーに出すか、どうか、という点である。むづかしかった。助言が流れこみ、いろいろな人がいろいろなことをいった。結局ロイを泳がせることに決定がなされ、皆もその承認をした。このことは我々をほっとさせロイは結局1:58.1で泳いで我々を満足させてくれた。ロイはすばらしいことだと思う。おせじではなく真実、彼が行動で示してくれた。2人の息子と2人の娘も彼のようにであればと思うくらいだ。ロイは心理テストでも天使のような結果をみせたし、協働するにはもってこいのすばらしい少年である。

皆の好成績でヘインズと私はたいへんよろこばされた。予想を上まわる成績—我々が東京で費した時間は適切なものだったと思う。試合のおわり頃泳いだ子はすこしやせてしまったかもしれないが、とにかくよかった。もっと早くついていたら時間調整がうまくいかなかっただろうし。とにかくもしもういちどくりかえせるものならせいぜい3、4日を遅らせる程度であろう。

村の食事はすばらしく、多量にたべすぎて太りすぎたのもいた。これが判明したとき、我々は献立表をつくりカロリー制限をした。ギャリー・イルマンは特に太りすぎた方だった。外では絶対たべさせず、皆村の自転車にのらず歩かされるか、バスにのるかさせられた。（足のいたくなった者が後者を利用。）

呼吸器系病氣、下痢がすこしあった。ディック・ロスの盲腸炎がおこり、泳げないかと心配したが、安全とされ、予選でまずまず、決勝で2:16でロイについてゆき、とうとうぬくという快挙をみせた。この結果ロイは疲れたのだが。

皆1週間以内で状況に慣れることが判った。予選と実際の試合の間にあった期間は大いに助けになった。この6、7週でグループ精神が育まれ、再調節をした。1968年にもこうして備えられたい。

これが報告です。

「ジョージ、ヘインズ何かいうかい？」

次にヘインズ氏（アシスタント）のコメントがある。

皆といっしょに非常におもしろかったとだけいたい。クロード・コルプの水泳はすばらしい努力のみものだったし、また800m自由型リレーはみていて興奮の連続だった。つまりドイツのクラインが1:58.2で出していたし、彼は世界記録保持者でもあったのです。ウィーガントというのも、我々はあまりしらなかったが、1:58.7をだしたし、その他3、4人の2分1〜2秒台の泳ぎの者がいて、すばらしいチームだった。

ロイの問題についてはカウンセルマン氏もいったけれども、そして多くの人が助言を与えてくれたが、とにかく2つのことで決定された、といえる。即ち、

- (1) スチーブ・クラークその他がロイ・サアリがいれば安心してやれるのではないか、彼はそれだけやれるといったこと。
- (2) リレーの日にロイが来て「信じないかもしれないけれど今日は気分がよい」といったこと。1:58.1で彼は実際に泳いだのです！

こんな少年達がいたということが、リレーを可能にしたのであり、理解ある者が多くいたのは嬉しいことである。敵がい心、特にドイツのクラインとの間のもはすざましく、故に皆一丸となりたかったのは単に800リレーのみでなかったが。そういうわけで私は800リレーが特におもしろいと思った。ショランダーがアンカーとして1:55.6をだしたのなどすごかったと思いますネ

## ▷ ASCA 報告会の記録 ◁

(注) アメリカ・コーチ協会の報告会においてピーター・ディランド（アメリカ・オリンピック女子水泳コーチ）が、AAU全米大会に際しヒューストンで行った演説をスペースの都合で全部のせるわけにいかなかったが、それはオーストラリアの金メダル勝者であり、出場停止を命ぜられたドーン・フレーザーにむけてなされた非難に関して非常に興味あるものである。

### オリンピックの報告=R.ディランド

オリンピックのコーチになることは確かに名誉なことであるが、たいへんな仕事でもある。皆が「東京はいかがでしたか？日本が好きになりましたか？何をみましたか？」ときくけれども、実際何もみなかったし、またそれで当然だ。

ロス・アンジェルスのコリセウム・プールでの予選会につづいて即刻出発した我々は、まず2グループにわかれて練習した。まず軽い方はスプリンター中心で、激し

い方のグループは400mと200m平泳ぎを中心にした。（平泳ぎは少くもひとり各グループにいた。）

長距離組は1日に3〜3.5マイルを泳ぐという、早泳ぎを実行した。スプリントの方は、2〜2.5マイルだった、22人の女の子という大世帯で100m以上は泳がないというのが13人もおり、行程表をつくるのにひとくろうだった。彼女達が若いというのもむづかしい要素だった。それで結局スピード強調を一時的にやめてしまうようなことがあれば、女の子もコーチ達も自信をなくすだろう、という結論に達した。女の子達には四六時中、コーチと両親がついていたのだから。

だからといって、私は両親やコーチを責めているのではない。女の子はいつも誰かといるものであり、自衛本能や物事がスムーズにゆくように意識することも強いという点では独立的な男子とは異っている。

とにかく我々はスピード中心でやり、決して50m、20mのスプリントをやめるような事はしなかった。女の子達はいつも崖っぷちに立たされているかんじようだった。

ロス・アンジェルスであった小試合には出てみたいと私とボブ・バスビーは熱心に希望していた。というのも女の子達がそれでずい分自信をつけるだろうと思ったからである。多くのものが、実際には、この試みのあとで不安感をもった、というのも、私自身と同様に彼らたちまで「何故コーチのおかげでこんなにまでよい成績が上がるのか、わからない」と思われたからである。

### オリンピック・アシスタントコーチとして

たしかにある時はこのピークの状況をのちに再生できたが、不運な事例もあった。これは、即ちゲーム時に最高になった水泳選手を上位のみとってきて、まだ他によい人がいるということ、は問題であると思う。とにかく、ある時トップになった者を集め、一時だけ彼等の調子をおとし、そしてまた最上のところに持ち上げるというのは大変なことです。

トレーニングが始ってから3週間目にロス・アンジェルスでの試合で得た5つの世界新記録では喜ばされたもので、自信をつけて東京に出发した。ここでは男子側におこったと同じ困難が待ちうけていた。着くと同時に、喉の痛み、風邪、その他呼吸器系疾患が原因で殆んどの子供がやられてしまった。旅行で疲れていたこともある。飛行中、殆んど眠れず東京についたときは全く疲れきっていて、2、3日は休息を必要とし、そうだった。

オリンピック試合そのものが誘惑に溢れていて、まるでディズニーランドにいるようなものである。次から次へと冒険であり、角をまがると新しい、おもしろいもの

があり、他国から来た人がおり、ピンの交換、村の売店電話、そして他は東京の街――。

女の子は小さかったので、試合が終るまでは外出まかりならぬ、と申し渡した。ただ、両親、友人の両親、又は認めらるべき成人とならよともきめた。ちょっと厳しくきこえるかもしれないが、平均年齢16才の女子のうち、3人はたった14才で、そのうちひとりには銀メダル勝者なのである。

とにかく男子とは異った問題を抱えて、シャペロンのミセス・フィルコックスはよくやったけれどとにかくきつい状況にあった。ひとつ寮に28人の女子がいて平均16.5才なのに、ひとりで監督するのだから。ペティ（ミセス・フィルコックス）は日夜奮戦していた。

行程は2つのオリンピックプールでなされた。ひとつはフィルムにある大きく立派なので、もうひとつは6コースの練習用である。温度はそこではひどいものだったし、いつも我々は男子と共用して練習をした。6コースに49人は、もうそれだけでたいへんなことだ。3コースに22人の女の子が入りこみ、ヘインズとカンシルマンが他の3コースで27人の男の子を教え、片や少くも100人の見物人と、20～30人のカメラマンがいるというのでは。時にはインタビューなどあったが、とにかくやることだけはやった。

ドック（カンシルマン）とジョージ（ヘインズ）も同意すると思うが、こちらでやっているように同じものを同じプール時間に2度とやったのではだめだと判っているながら、なおやったのであるが、これですこし損をしたと思っている。

競技そのものに関しては、バスビー（助コーチ）と私は5つの競技に勝つと考えていた。そしてみてみて、確実に4はとれること、もしうまくいって6つだ、とも思った。新聞記者は「どの位の予想を？」ときくのが常であったが、この答は示さず、いつも「最善を尽します」といった。これしかいえなかったのだけれども、皆とにかく予想がほしかったのである。

又、新聞記者はジョージやジムに「ゴールはいくつですか」とか「オリンピック記録はいくつ？」「金、銀メダルは？」「アメリカの状況は？オリンピックで水泳はよいですか？」ともきいていた。とにかくこんな調子でこのスポーツに興味を示されるのはおかしい位だった。もちろんアメリカ人が見守っており、金メダルを取ったら意気あがるものと感じていた。私はひとりのロス・アンジェルスからきた新聞記者とインタビューした。彼は多分もう私のところに来ないだろう。私は彼に「一時的に水泳に興味を示してくれてありがとう。」といったものだ。彼らの興味は水泳というもので中々内在してい

るカネにむけられている。

競技会自体は日本人の手でうまく運営されていた。ひとつ私を怖ろしく思わせしたのは、とにかくリレー・エントリーに関して責任がとれぬと嫌だ、この件では誰も信用できないと思って自分のところにおいておき、ゲームがすすんで疲れてきたとき忘れる、ということである。丁度、メドレー・リレーのとき、最後の日、最後のリレーで、私は女子チームをプールでウォーム・アップさせていた時だった。と、イタリア組のコーチと泳者が興奮したように話ししてから、コーチが慌てて出ていったのをみた。彼が戻ってきた時、どうしたときくと、「エントリーを忘れましてね」という。私の手はポケットにのび、そこにエントリーをみつけた！ときのおどろき。あわててプールを出たものだった。どうなっていたかーを考えるととにかく怖ろしくなる一瞬だった。

皆よくやってくれた。中にはコーチや我々がやると思ったまでゆかなかった者もあったけれども、とにかく水泳は率の問題であるから仕方ない。もし22人いても22回勝つとは限らず、11人勝ったとしても平均である。私はとにかく平均を上まわったといってよいと思う。態度はよかつたし、命令と規律に従い、ホーム・コーチもよく仕つけていた。

14、15才の女子がオリンピックを経験するのは仲々楽ではない。ニナ・ハーマーは、ある人によると「こんどはちゃんとやりたいわ。ローマでは何をしているか判らなかつたもの。」といったという。即ち、これが将来我々の考えねばならぬ問題である。皆小さくて何をしているか判らない状態にある。

例えばひとりの子は両親から一晩以上離れていたことがなく、ロス・アンジェルスに来たときは両親はおらずたいへんであった。物事を処理して泳げるようになるまでに、彼女はしばらく時間がかかったものだ。他には、きれいで、魅力的で、大騒ぎされるアメリカのスター的女の子が男の子といて、誘惑の手に対して「いいえ。私はここにトレーニングのため来ています。」というのはむづかしいということもある。しかし、私は皆がこんなような誘いにはのらずよくやったと思う。

ここで質問に答えましょう。

（質）背泳での日本の田中、その他はどうなったのか？

（答）田中は数少いうちのひとりである。第一人者とはいえずとも。決勝での1:08.6が彼女のベストであり、日本記録だった。1:08.9とか1:09が最上の彼女だとは思わない。世界記録は、ギニー・デュンケルの1:08.8でロス・アンジェルスでたてられた。その前はクリステーン・キャロンの。

この点に関して、背泳ぎ以外には5人の世界的泳者がみられた。オランダのバタフライのアダ・コック。彼女は出だしが50mわるく、シャロン・スタウダーの一身長ぬく出だしでやられたが。フランスの背泳、クリスチーン・キャロン。彼女はオリンピック中ずっとよくやり、デュンケルに続いてゴールに入ったとき新ヨーロッパ記録をたてたし、それにそのときトップの3人は皆世界記録を破っていた。100m自由型はドーン・フレーザー。400mメドレーでは東独のヴェロニカ・ホレツ。この4人と、少し違った分野としての平泳ぎを除けば、勿論田中が残る。

平泳ぎ分野では、クローデァ・コルブが唯一のブル、唯一のスライドなし泳者で決勝をかざった。他の2人のアメリカ人女子は雰囲気まけして最上を尽せなかった。

ヨーロッパ人や他の人々は皆、激しいキックとスライド・ストロークを使っていた。女子にはこの方がよいのかもしれない。クロジディア・コルブは別のストローク、即ちチェット・ジャストレムスキーの有名にしたストロークで泳ぐ唯一の女の子である。

女子平泳は転機にきている。答は何か、知らないが、とにかく、すべての方面で実験にとりかかってよいと思う。私はそれを始めているし、まだ結果は不明としてもとにかく、スライド・ストロークは泳者が腕力があり、又コルブのように肩力のある場合は別としてあまりよくないのかもしれない、と思いはじめている。彼女の肩・腕はまったく強力で、強い足のキックと共に強力に力を発揮するのである。

### ◀ 編集後記 ▶

大変お待たせ致しました。ようやくオリンピック特集号を皆様のお手許にお届け出来る運びとなりました。発行が遅れましたことを深くお詫び致します。

内容が少々かたい感じの特集号になってしまいましたが、選手強化報告書、選手団報告書、競技運営の反省座談会等、其の他いづれも、今後の水泳界にとって誠に貴重な資料となるものと存じます。

尚、水泳競技公式記録は公式のものという意味で敢えて英語版で掲載致してありますので何卒御諒承下さい。

紙質、表紙等は通常のものより上質のものを使用し、多少デラックスの感じを出したつもりです。水泳の文献の一つとして永く保存して頂ければ誠に幸せに存じます。 (記録編集委員長 岩佐)

### 記録編集委員 (順不同) ◎印委員長

◎岩佐 道雄, 宍道 洋一, 坂本亮四郎, 鈴木 祐一, 島田桃一郎, 島田 博, 津村 弘光  
益田 宗, 米本 隆吉, 佐藤 幸男, 高橋 静子, 林 務, 高木 裕己, 田口 宗行  
堀 正美, 山岸 清, 水野 雄之, 坂本 信夫, 小林 文枝

<p>日本水泳連盟 機関誌</p>	<p>昭和40年12月15日印刷 昭和40年12月20日発行</p>	<p>東京都渋谷区神南町25 岸記念体育会館内</p>
<p>水 泳</p>	<p>日本水泳連盟 編集兼 伊藤 謹 平 発行人 印刷所 株式会社 成島印刷所</p>	<p>発行並 日本水泳連盟 申込所 電話東京(467)3111(代表) 東京(466)6433(直通)</p>
<p>第161・2・3号</p>	<p>東京都中央区日本橋本石町3の4 電話日本橋(241)1701.6509.7082</p>	<p>振替口座東京5178番</p>

RESULTS OF THE GAMES OF  
THE XVIII OLYMPIAD TOKYO, 1964  
SWIMMING, DIVING and WATER-POLO

オリンピック東京大会

水泳競技公式記録

JAPAN AMATEUR SWIMMING FEDERATION

## TABLE OF CONTENTS

SWIMMING \* NATATION  
 DIVING \* PLONGEONS  
 AND \* ET  
 WATER POLO \* WATER POLO

	EVENT	PAGE
1	100M FREESTYLE — MEN	69
2	400M FREESTYLE — MEN	72
3	1, 500M FREESTYLE — MEN	74
4	200M BREASTSTROKE — MEN	77
5	200M BUTTERFLYSTROKE — MEN	79
6	200M BACKSTROKE — MEN	81
7	400M INDIVIDUAL MEDLEY — MEN	83
8	4×100M FREESTYLE RELAY — MEN	85
9	4×200M FREESTYLE RELAY — MEN	87
10	4×100M MEDLEY RELAY — MEN	89
11	100M FREESTYLE — LADIES	91
12	400M FREESTYLE — LADIES	93
13	200M BREASTSTROKE — LADIES	95
14	100M BUTTERFLYSTROKE — LADIES	96
15	100M BACKSTROKE — LADIES	98
16	400M INDIVIDUAL MEDLEY — LADIES	100
17	4×100M FREESTYLE RELAY — LADIES	101
18	4×100M MEDLEY RELAY — LADIES	103
NOTE:	NWR — NEW WORLD RECORD	TWR — TIE WORLD RECORD
	NOR — NEW OLYMPIC RECORD	TOR — TIE OLYMPIC RECORD
19	SPRINGBOARD DIVING—MEN	105
20	SPRINGBOARD DIVING—LADIES	107
21	HIGH DIVING—MEN	109
22	HIGH DIVING—LADIES	111
23	WATER POLO—FIRST ROUND LEAGUE	114
	WATER POLO—SEMI-FINAL LEAGUE	130
	WATER POLO—FINAL LEAGUE	138

OCT. 11, 1964

MORNING

WEATHER—FINE I. TEMP.— 25.0 C W. TEMP.— 26.0 C

## 100M FREESTYLE—MEN \* \* \* 100M NAGE LIBRE—HOMMES

WORLD RECORD	52.9	GOTTVALES, ALAIN	FRANCE	1964
OLYMPIC RECORD	55.2	DEVITT, JOHN	AUSTRAL.	1960

## — HEAT 1 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	TIME	
1	4	ILMAN, GARY STEVEN	U. S. A.	54.0	NOR
2	2	GROPAIZ, GERARD	FRANCE	55.8	
3	6	DE OLIVEIRA JUNIOR, A. P.	BRAZIL	56.0	
4	1	VAN BAALLEN, LEVINUS W.	NETHLAND	56.8	
5	5	BIANCHI, BRUNO	ITALY	56.8	
6	7	HUTTON, RALPH	CANADA	57.7	
7	3	KIM, BONG-JO	KOREA	1:01.2	

## — HEAT 2 —

1	6	AUSTIN, MICHAEL MACKAY	U. S. A.	54.9
2	1	DICKSON, DAVID GAVIN	AUSTRAL.	55.1
3	5	CURTILLET, JEAN PASCAL	FRANCE	56.2
4	4	KASVIO, MATTI JUHANI	FINLAND	56.3
5	2	DE AVILA PIRES, ALVARO R	BRAZIL	56.8
6	7	CAPRILES, TEODORO	VENEZUELA	57.2
7	3	TAN, THUAN HENG	MALAYSIA	58.7

## — HEAT 3 —

1	5	LINDBERG, PER-OLA	SWEDEN	55.1
2	6	GOTO, TADAHARU	JAPAN	55.8
3	7	BOSCAINI, PIETRO	ITALY	55.8
4	1	NICOLAO, LUIS ALBERTO	ARGENTIN	56.1
5	4	ESPINOSA, JOSE MIGUEL	SPAIN	57.4
6	2	RIBEIRO, HERLANDER FELGA	PORTUGAL	59.0
7	3	LIMPICHATI, SOMCHAI	THAILAND	59.8

## — HEAT 4 —

1	3	KLEIN, HANS JOACHIM	GERMANY	55.3
2	2	PHELPS, PETER	AUSTRAL.	56.1
3	6	ERIKSSON, ERIK LESTER	SWEDEN	56.2
4	5	SUMTSOV, YURY	U. S. S. R.	56.3
5	4	SIMONS, FRANCOIS	BELGIUM	56.8
6	1	VAN DER MAATH, CARLOS	ARGENTIN	57.5
7	7	LE, NGUYEN DINH	VIET-NAM	1:01.1

## — HEAT 5 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	TIME
1	3	SCHOLLANDER, D. ARTHUR	U. S. A.	54.3
2	4	OKABE, YUKIAKI	JAPAN	55.4
3	2	JACOBSEN, UWE	GERMANY	55.6
4	6	LOHNICKY, PETR	CZECHSLV.	56.4
5	5	WIELAND, GERHARD	AUSTRIA	56.8
6	1	PEREZ COSPEDAL, ANTONIO	SPAIN	57.8
7	7	FERNANDES FONSECA, MAURI	BRAZIL	59.6

## — HEAT 6 —

1	5	SHERRY, DANIEL JOHN	CANADA	55.2
2	2	GOTTVALLES, ALAIN	FRANCE	55.2
3	1	RYAN, JOHN	AUTRAL.	55.5
4	6	LOFFLER, HORST	GERMANY	55.6
5	3	SHUVALOV, VLADIMIR	U. S. S. R.	55.9
6	7	WELBES, GEORGES	LUXEMBRG	58.6
7	4	VAAHTORANTA, H. PERTTI J.	FINLAND	58.7
8	8	GISLASON, GUDMUNDUR	ICELAND	59.0

## — HEAT 7 —

1	8	FUJIMOTO, TATSUO	JAPAN	55.8
2	5	DOBAI, GYULA	HUNGARY	55.8
3	6	GILCHRIST, JOHN ALEXANDER	CANADA	55.8
4	4	KOLLI, GERT	AUSTRIA	56.5
5	7	HALLER, DAVID JOSEPH G.	BRITAIN	57.7
6	1	SITTERS, BERTUS	NETHLAND	58.1
7	2	PAZ SOLDAN, LUIS	PERU	58.5
8	3	LOH, ROBERT	HONGKONG	1:00.4

## — HEAT 8 —

1	2	VAGNER, JINDRICH	CZECHSLV.	55.5
2	3	KROON, RONALD	NETHLAND	55.5
3	5	LORD, ROBERT THOMAS	BRITAIN	55.7
4	6	GULRICH, JOZSEF	HUNGARY	56.3
5	8	HAMALAINEN, TUOMO JUHANI	FINLAND	57.6
6	7	RUIZ DE CHAVEZ OCHOA, S.	MEXICO	58.8
7	4	CAPERONIS, PANO	SWITZ	58.9

## — HEAT 9 —

1	1	McGREGOR, ROBERT BILSLAND	BRITAIN	54.7
2	2	NORDVALL, BENGT-OLOF	SWEDEN	55.6
3	4	SEMCHENKOV, VICTOR	U. S. S. R.	56.2
4	8	SZALL, ANTAL	HUNGARY	56.8
5	6	DE GREGORIO, SERGIO	ITALY	56.8
6	3	DONG, PHAN HUU	VIET-NAM	1:01.1
7	7	PEREZ, CELESTINO	P. RICO	1:01.3
8	5	SHONJANI, HAYDAR	IRAN	1:02.1



YOYOGI NATIONAL GYM.

OCT. 11, 1964

EVENING

## 100M FREESTYLE—MEN \* \* \* 100M NAGE LIBRE—HOMMES

WORLD RECORD	52.9	GOTTVALLES, ALAIN	FRANCE	1964
OLYMPIC RECORD	54.0	ILMAN, GARY STEVEN	U. S. A.	1964

## — SEMI-FINAL 1 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	TIME	
1	4	ILMAN, GARY STEVEN	U. S. A.	53.9	NOR
2	5	AUSTIN, MICHAEL MACKAY	U. S. A.	54.3	
3	6	OKABE, YUKIAKI	JAPAN	55.2	
4	3	SHERRY, DANIEL JOHN	CANADA	55.5	
5	1	GOTO, TADAHARU	JAPAN	55.6	
6	2	KROON, RONALD	NETHLAND	55.7	
7	7	LOFFLER, HORST	GERMANY	56.0	
8	8	BOSCAINI, PIETRO	ITALY	56.1	

## — SEMI-FINAL 2 —

1	4	SCHOLLANDER, D. ARTHUR	U. S. A.	54.0	
2	3	GOTTVALLES, ALAIN	FRANCE	54.3	
3	2	JACOBSEN, UWE	GERMANY	54.8	
4	5	LINDBERG, PER-OLA	SWEDEN	55.1	
5	6	VAGNER, JINDRICH	CZECHSLV.	55.5	
6	1	GROPAIZ, GERARD	FRANCE	55.7	
7	8	GILCHRIST, JOHN ALEXANDER	CANADA	56.4	
8	7	LORD, ROBERT THOMAS	BRITAIN	56.5	

## — SEMI-FINAL 3 —

1	4	McGREGOR, ROBERT BILSLAND	BRITAIN	54.3	
2	3	KLEIN, HANS JOACHIM	GERMANY	54.4	
3	1	DOBAI, GYULA	HUNGARY	54.8	
4	5	DICKSON, DAVID GAVIN	AUSTRAL.	54.9	
5	8	SHUVALOV, VLADIMIR	U. S. S. R.	55.8	
6	7	FUJIMOTO, TATSUO	JAPAN	55.8	
7	2	NORDVALL, BENGT-OLOF	SWEDEN	56.4	
8	6	RYAN, JOHN	AUSTRAL.	56.5	

## 100M FREESTYLE—MEN \* \* \* 100M NAGE LIBRE—HOMMES

WORLD RECORD	52.9	GOTTVALLES, ALAIN	FRANCE	1964
OLYMPIC RECORD	53.9	ILMAN, GARY STEVEN	U. S. A.	1964

## — FINAL —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	TIME	
1		SCHOLLANDER, D. ARTHUR	U. S. A.	53.4	NOR
2		McGREGOR, ROBERT BILSLAND	BRITAIN	53.5	
3		KLEIN, HANS JOACHIM	GERMANY	54.0	
4		ILMAN, GARY STEVEN	U. S. A.	54.0	
5		GOTTVALLES, ALAIN	FRANCE	54.2	
6		AUSTIN, MICHAEL MACKAY	U. S. A.	54.5	
7		DOBAI, GYULA	HUNGARY	54.9	
8		JACOBSEN, UWE	GERMANY	56.1	

NO. 2-1

OCT. 14, 1964  
AFTERNOON

WEATHER—RAINY I. TEMP.—25.5 C W. TEMP.—25.5 C

## 400M FREESTLYE—MEN \* \* \* 400M NAGE LIBRE—HOMMES

WORLD RECORD	4:12.7	SCHOLLANDER, D. ARTHUR	U. S. A.	1964
OLYMPIC RECORD	4:18.3	ROSE, MURRAY	AUSTRAL.	1960

## — HEAT 1 —

PLACE	NAME	COUNTRY	100M	200M	300M	FINISH
1	WINDLE, ROBERT GEORGE	AUSTRAL.	1:00.3	2:04.4	3:11.9	4:21.6
2	YOSHIMUTA, HARUO	JAPAN	1:02.1	2:09.1	3:18.8	4:28.8
3	KREMER, WOLFGANG	GERMANY	1:01.3	2:10.0	3:20.8	4:29.9
4	ORLANDO, GIOVANNI	ITALY	1:02.3	2:10.4	3:21.6	4:30.8
5	CANEPA BUSTAMANTE, CARLOS	PERU	1:05.6	2:17.6	3:32.3	4:44.9
6	SZLAMKA, LASZLO	HUNGARY	1:05.8	2:23.0	3:42.1	5:00.0
	NICOLAO, LUIS ALBERTO	ARGENTIN				WITHDRAWAL

## — HEAT 2 —

1	SAARI, ROY ALLEN	U. S. A.	59.6	2:05.6	3:13.9	4:20.0
2	GILCHRIST, JOHN ALEXANDER	CANADA	1:01.1	2:08.2	3:16.7	4:24.2
3	DE GREGORIO, SERGIO	ITALY	1:02.3	2:09.8	3:17.4	4:27.4
4	PARAMONOV, ALEXANDR	U. S. S. R.	1:02.3	2:10.8	3:21.9	4:34.0
5	ARANGO, JULIO	COLOMBIA	1:03.6	2:13.8	3:25.1	4:35.1
6	TIN MAUNG NI	BURMA	1:03.8	2:14.4	3:27.5	4:40.9
7	LOH, ROBERT	HONGKONG	1:04.5	2:16.5	3:32.7	4:53.3
	CANAVESE, PIERRE	FRANCE				WITHDRAWAL

— HEAT 3 —

PALCE	NAME	COUNTRY	100M	200M	300M	FINISH
1	NELSON, JOHN MAUER	U. S. A.	1:00.5	2:06.6	3:13.0	4:19.9
2	BONTEKOE, JOHAN KLAAS	NETHLAND	1:01.7	2:08.4	3:16.8	4:26.6
3	NOVIKOV, EUGENY	U. S. S. R.	1:03.6	2:12.7	3:22.4	4:30.0
4	VAN DER MAATH, CARLOS	ARGENTIN	1:03.2	2:11.9	3:21.0	4:30.2
5	DURRETT, ALAN HUGH	N. RHODES	1:03.1	2:13.5	3:26.2	4:39.0
6	OUDT, ADRIAAN FREDERIK	NETHLAND	1:04.9	2:17.1	3:32.5	4:46.5
	LUNDIN, JAN ORED	SWEDEN				WITHDRAWAL
	ECHEVARRIA PEREZ, G.	MEXICO				WITHDRAWAL

— HEAT 4 —

1	YAMANAKA, TSUYOSHI	JAPAN	1:00.5	2:06.9	3:14.0	4:21.1
2	ROSENDAHL, HANS VIKTOR	SWEDEN	1:01.2	2:08.7	3:16.3	4:23.5
3	JACKS, RONALD BRIAN	CANADA	1:02.3	2:11.4	3:21.5	4:29.3
4	SPANGARO, PIERPAOLO	ITALY	1:03.6	2:12.8	3:22.0	4:30.0
5	HAMALAINEN, TUOMO JUHANI	FINLAND	1:02.3	2:12.1	3:23.4	4:35.5
6	KOLLI, GERT	AUSTRIA	1:03.5	2:14.2	3:26.8	4:38.4
7	KIM, BONG-JO	KOREA	1:05.2	2:20.0	3:38.0	4:55.8
	POMMAT, JEAN	FRANCE				WITHDRAWAL

— HEAT 5

1	PHEGAN, RUSSELL	AUSTRAL.	1:01.8	2:06.7	3:12.6	4:19.8
2	KATONA, JOZSEF	HUNGARY	1:02.0	2:08.0	3:15.6	4:24.7
3	YAMAKAGE, TAKESHI	JAPAN	1:01.5	2:09.9	3:18.7	4:27.8
4	THURLEY, JOHN PHILIP	BRITAIN	1:03.2	2:11.8	3:21.3	4:31.0
5	DIJAKOVIC, SLOBODAN	YUGOSLAV.	1:00.9	2:09.0	3:22.8	4:41.0
6	CAPRILES, TEODORO	VENEZULA	1:04.9	2:16.9	3:30.5	4:44.5
7	LEDGARD BUSE, WALTER	PERU	1:06.6	2:21.4	3:37.1	4:50.4
	CHENAUX, H. ELIOT	P. RICO				WITHDRAWAL

— HEAT 6 —

1	WIEGAND, FRANK	GERMANY	1:00.1	2:05.7	3:14.0	4:17.2	NOR
2	BELITS-HEIMAN, SEMEN	U. S. S. R.	1:00.4	2:05.7	3:11.7	4:19.4	
3	LOHNICKY, PETR	CZECHSLV.	1:02.1	2:10.1	3:18.7	4:28.9	
4	PEREZ, CELESTINO	P. RICO	1:02.9	2:11.4	3:21.1	4:30.9	
5	LORD, ROBERT THOMAS	BRITAIN	1:03.0	2:13.3	3:25.2	4:33.2	
6	LUYCE, FRANCIS	FRANCE	1:02.5	2:11.7	3:22.9	4:33.2	
7	SUVANTO, ILKKA T.	FINLAND	1:05.2	2:16.0	3:28.0	4:38.0	
8	BODNAR, ANDRAS	HUNGARY	1:04.1	2:21.6	3:43.1	5:03.7	

— HEAT 7 —

1	SCHOLLANDER, D. ARTHUR	U. S. A.	1:02.1	2:08.1	3:12.6	4:15.8	NOR
2	WOOD, ALLAN	AUSTRAL.	1:01.8	2:06.2	3:11.5	4:16.2	
3	SVENSSON, MATS GUNNAR	SWEDEN	1:02.8	2:10.6	3:17.1	4:24.6	
4	KLINK, MARTIN	GERMANY	1:02.9	2:10.6	3:18.4	4:29.1	
5	HUTTON, RALPH	CANADA	1:03.3	2:12.1	3:21.1	4:29.4	
6	MRTIN DYE, JOHN	BRITAIN	1:04.1	2:14.3	3:24.3	4:34.3	
7	TAN, THUAN HENG	MALAYSIA	1:03.9	2:15.0	3:27.3	4:38.2	
8	CAPERONIS, PANO	SWITZ	1:06.8	2:19.3	3:33.2	4:43.8	

## 400M FREESTYLE—MEN \* \* \* 400M NAGE LIBRE—HOMMES

WORLD RECORD	4:12.7	SCHOLLANDER, D. ARTHUR	U. S. A.	1964
OLYMPIC RECORD	4:15.8	SCHOLLANDER, D. ARTHUR	U. S. A.	1964

## — FINAL —

PLACE	NAME	COUNTRY	100M	200M	300M	FINISH	
1	SCHOLLANDER, D. ARTHUR	U. S. A.	1:00.4	2:05.7	3:10.5	4:12.2	NWR NOR
2	WIEGAND, FRANK	GERMANY	1:01.1	2:06.4	3:11.9	4:14.9	
3	WOOD, ALLAN	AUSTRAL.	1:01.5	2:06.2	3:10.6	4:15.1	
4	SAARI, ROY ALLEN	U. S. A.	1:00.3	2:06.0	3:12.5	4:16.7	
5	NELSON, JOHN MAUER	U. S. A.	1:01.3	2:06.9	3:12.5	4:16.9	
6	YAMANAKA, TSUYOSHI	JAPAN	1:01.0	2:07.5	3:14.4	4:19.1	
7	PHEGAN, RUSSELL	AUSTRAL.	1:01.5	2:06.8	3:12.8	4:20.2	
8	BELITS-HEIMAN, SEMEN	U. S. S. R.	1:00.5	2:06.1	3:14.0	4:21.4	

NO. 3—1

OCT. 16, 1964  
EVENING

## 1500M FREESTYLE—MEN \* \* \* 1500M NAGE LIBRE—HOMMES

WORLD RECORD	16:58.7	SAARI, ROY ALLEN	U. S. A.	1964
OLYMPIC RECORD	17:19.6	KONRADS, JOHN	AUSTRAL.	1960

## — HEAT 1 —

PLACE	NAME	COUNTRY	100M 600M 1100M	200M 700M 1200M	300M 800M 1300M	400M 900M 1400M	500M 1000M 1500M	
1	WINDLE, ROBERT GEORGE	AUSTRAL.	1:06.6 6:51.2 12:37.2	2:15.5 8:00.3 13:47.0	3:24.4 9:09.4 14:57.2	4:33.9 10:18.8 16:07.2	5:42.7 11:28.5 17:15.9	NOR
2	KATONA, JOZSEF	HUNGARY	1:05.2 6:54.1 12:50.0	2:14.4 8:05.3 14:01.6	3:23.7 9:16.2 15:12.8	4:33.5 10:27.4 16:24.3	5:43.5 11:38.8 17:33.5	
3	IWAMOTO, KAZUYUKI	JAPAN	1:04.5 6:57.0 12:59.2	2:14.8 8:08.8 14:12.4	3:25.1 9:20.4 15:26.2	4:34.9 10:33.0 16:40.0	5:45.5 11:45.8 17:52.7	
4	KIRSCHKE, HOLGER	GERMANY	1:04.2 7:03.0 13:10.6	2:14.4 8:15.9 14:24.1	3:24.9 9:29.8 15:37.9	4:36.9 10:43.9 16:50.8	5:49.9 11:57.4 18:01.6	
5	PEREZ, CELESTINO	P. RICO	1:06.7 7:09.9 13:12.5	2:19.4 8:22.0 14:26.2	3:32.2 9:34.5 15:40.6	4:45.0 10:47.5 16:55.0	5:57.4 12:00.2 18:07.2	
6	TAN, THUAN HENG	MALAYSIA	1:06.0 7:11.5 13:26.1	2:18.9 8:25.9 14:41.5	3:31.3 9:40.3 15:56.8	4:44.0 10:55.2 17:11.1	5:57.8 12:10.7 18:24.2	
7	LEPOLA, ESA OVALI	FINLAND	1:03.8 7:15.7 13:33.1	2:16.3 8:31.2 14:48.7	3:30.5 9:46.2 16:00.4	4:45.0 11:01.6 17:19.5	6:00.2 12:17.3 18:33.4	

— HEAT 2 —

PLACE	NAME	COUNTRY	100M	200M	300M	400M	500M
			600M	700M	800M	900M	1000M
			1100M	1200M	1300M	1400M	1500M
1	SAARI, ROY ALLEN	U. S. A.	1:05.2	2:14.3	3:23.9	4:34.4	5:44.7
			6:54.7	8:05.1	9:15.0	10:25.2	11:35.8
			12:46.4	13:57.2	15:07.3	16:17.9	17:27.0
2	SASAKI, SUEAKI	JAPAN	1:03.8	2:12.2	3:22.0	4:32.3	5:43.4
			6:53.1	8:04.0	9:14.7	10:25.9	11:37.2
			12:48.7	13:59.2	15:10.4	16:21.2	17:28.8
3	GILCHRIST, JOHN ALEXANDER	CANADA	1:03.8	2:12.8	3:23.0	4:33.5	5:44.6
			6:55.5	8:07.1	9:18.8	10:30.5	11:42.8
			12:54.7	14:06.9	15:18.9	16:31.4	17:42.0
4	TIN MAUNG NI	BURMA	1:07.9	2:19.1	3:30.7	4:43.4	5:56.1
			7:08.7	8:22.2	9:35.3	10:48.5	12:02.2
			13:15.6	14:29.1	15:42.8	16:56.5	18:09.5
5	DURRETT, ALAN HUGH	N. RHODES	1:06.1	2:18.1	3:31.6	4:45.1	5:59.3
			7:13.7	8:27.3	9:41.2	10:54.9	12:10.1
			13:24.8	14:40.7	15:56.0	17:11.5	18:24.9
6	DIJAKOVIC, SLOBODAN	YUGOSLAV.	1:05.1	2:17.2	3:31.1	4:44.9	5:59.6
			7:14.5	8:29.0	9:44.0	10:59.3	12:14.7
			13:30.2	14:46.1	16:01.5	17:16.7	18:31.2
7	LEDGARD BUSE, WALTER	PERU	1:09.9	2:25.1	3:41.5	4:58.2	6:15.8
			7:33.6	8:51.7	10:09.2	11:26.6	12:44.3
			14:02.3	15:20.4	16:38.3	17:55.1	19:10.3

— HEAT 3 —

1	NELSON, JOHN MAUER	U. S. A.	1:02.8	2:12.7	3:22.8	4:32.6	5:42.2
			6:51.4	8:01.9	9:12.2	10:22.6	11:33.2
			12:44.2	13:55.3	15:05.9	16:14.9	17:22.4
2	PHEGAN, RUSSELL	AUSTRAL.	1:05.9	2:15.3	3:24.6	4:34.3	5:44.0
			6:53.4	8:03.1	9:13.4	10:23.8	11:34.7
			12:45.9	13:56.4	15:07.5	16:18.3	17:28.9
3	ECHEVARRIA PEREZ, G.	MEXICO	1:04.3	2:13.5	3:23.4	4:33.4	5:44.4
			6:55.0	8:05.7	9:17.2	10:27.2	11:39.2
			12:51.0	14:03.2	15:15.8	16:27.6	17:35.0
4	TORRES, MIGUEL	SPAIN	1:05.4	2:14.9	3:25.1	4:35.3	5:45.9
			6:56.8	8:08.0	9:19.1	10:30.4	11:41.7
			12:53.2	14:04.6	15:16.2	16:27.9	17:36.0
5	JUNGA, HEINZ	GERMANY	1:07.7	2:18.5	3:29.8	4:41.4	5:53.1
			7:05.7	8:18.2	9:31.6	10:45.1	11:59.2
			13:13.4	14:27.6	15:42.0	16:56.3	18:08.7
6	LOHNICKY, PETR	CZECHSLV.	1:07.8	2:21.4	3:35.4	4:49.9	6:01.8
			7:14.5	8:27.4	9:41.1	10:54.6	12:08.7
			13:22.5	14:36.5	15:51.3	17:05.7	18:18.4
7	CHENAUX, H. ELIOT	P. RICO	1:10.5	2:26.0	3:41.7	4:56.6	6:11.8
			7:26.7	8:41.4	9:57.3	11:13.3	12:27.1
			13:41.1	14:55.2	16:08.5	17:21.0	18:33.1
	BEREZIN, VLADIMIR	U. S. S. R.	WITHDRAWAL				

— HEAT 4 —

1	WOOD, ALLAN	AUSTRAL.	1:05.7	2:15.1	3:24.3	4:34.0	5:43.0
			6:52.2	8:02.4	9:12.1	10:21.9	11:31.9
			12:42.4	13:53.5	15:04.2	16:15.8	17:26.3
2	ROGUSIC, VELJKO	YUGOSLAV.	1:04.5	2:16.2	3:28.4	4:42.0	5:54.8
			7:08.1	8:21.6	9:34.7	10:48.8	12:02.3
			13:15.4	14:28.9	15:42.9	16:55.4	18:05.5
3	THURLEY, JOHN PHILIP	BRITAIN	1:07.5	2:19.3	3:31.4	4:43.8	5:56.1
			7:08.9	8:21.8	9:34.7	10:48.3	12:02.5
			13:16.1	14:29.9	15:44.3	16:59.1	18:12.3
4	MORELLO, RICARDO	ARGENTIN	1:08.5	2:22.3	3:37.4	4:51.8	6:07.7
			7:23.8	8:40.1	9:56.3	11:12.2	12:29.3
			13:45.1	15:01.2	16:16.4	17:31.4	18:46.5
5	CAPERONIS, PANO	SWITZ	1:09.3	2:25.1	3:42.7	4:59.9	6:18.6
			7:37.0	8:55.8	10:13.9	11:32.0	12:50.0
			14:07.3	15:25.4	16:43.2	18:00.2	19:10.5

PLACE	NAME	COUNTRY	100M	200M	300M	400M	500M
			600M	700M	800M	900M	1000M
			1100M	1200M	1300M	1400M	1500M
6	LOH, ROBERT	HONGKONG	1:10.7	2:28.4	3:46.4	5:04.9	6:22.8
			7:40.2	8:57.7	10:16.0	11:34.1	12:52.7
			14:11.4	15:30.3	16:50.2	18:10.4	19:28.6
	BENGTSSON, W. LARS-ERIK	SWEDEN					WITHDRAWAL
	BELITS-HEIMAN, SEMEN	U. S. S. R.					WITHDRAWAL

— HEAT 5 —

1	FARLEY, WILLIAM WINFIELD	U. S. A.	1:03.2	2:11.7	3:21.6	4:31.9	5:41.8
			6:52.3	8:03.0	9:14.0	10:25.2	11:36.6
			12:47.9	13:59.6	15:10.8	16:22.0	17:30.5
2	NAKANO, SATORU	JAPAN	1:04.5	2:13.6	3:23.4	4:33.6	5:44.9
			6:56.2	8:07.7	9:19.2	10:30.7	11:42.5
			12:54.8	14:06.9	15:19.4	16:32.0	17:40.4
3	ARANGO, JULIO	COLUMBIA	1:04.6	2:15.8	3:28.1	4:40.3	5:53.1
			7:06.2	8:18.5	9:31.6	10:44.4	11:57.6
			13:10.1	14:22.6	15:35.0	16:47.7	17:59.1
4	GUZMAN TORRES, ALFREDO	MEXICO	1:05.5	2:15.9	3:28.2	4:40.4	5:53.4
			7:06.3	8:18.6	9:31.8	10:44.8	11:57.9
			13:11.1	14:24.9	15:40.3	16:54.8	18:07.4
	LUNDMARK, JAN BERTIL	SWEDEN					WITHDRAWAL
	HETZ, GERHARD	GERMANY					WITHDRAWAL
	DUCHATEAU, PIERRE	FRANCE					WITHDRAWAL
	ALI, CSABA	HUNGARY					WITHDRAWAL

NO. 3-2

YOYOGI NATIONAL GYM.

OCT. 17, 1964

EVENING

WEATHER—FINE I. TEMP.—26.5 C W. TEMP.—24.5 C

1500M FREESTYLE—MEN \* \* \* 1500M NAGE LIBRE—HOMMES

WORLD RECORD	16:58.7	SAARI, ROY ALLEN	U. S. A.	1964
OLYMPIC RECORD	17:15.9	WINDLE, ROBERT GEORGE	AUSTRAL.	1964

— FINAL —

1	WINDLE, ROBERT GEORGE	AUSTRAL.	1:03.5	2:09.5	3:16.8	4:24.5	5:33.0
			6:41.4	7:50.4	8:58.7	10:07.2	11:16.3
			12:26.0	13:36.2	14:46.0	15:55.4	17:01.7
							NOR
2	NELSON, JOHN MAUER	U. S. A.	1:04.0	2:11.7	3:19.8	4:28.4	5:37.6
			6:46.7	7:55.8	9:05.3	10:14.5	11:23.8
			12:32.9	13:41.9	14:50.4	15:58.4	17:03.0
3	WOOD, ALLAN	AUSTRAL.	1:04.5	2:11.5	3:18.7	4:25.8	5:33.5
			6:41.7	7:50.4	8:58.9	10:07.9	11:17.6
			12:27.4	13:37.4	14:48.2	15:59.4	17:07.7
4	FARLEY, WILLIAM WINFIELD	U. S. A.	1:02.5	2:10.3	3:18.4	4:27.8	5:37.1
			6:47.1	7:57.2	9:07.1	10:17.0	11:27.3
			12:37.5	13:48.1	14:58.6	16:09.2	17:18.2
5	PHEGAN, RUSSELL	AUSTRAL.	1:05.2	2:14.5	3:24.0	4:33.2	5:43.0
			6:52.8	8:02.4	9:12.6	10:23.3	11:34.3
			12:45.6	13:55.0	15:04.7	16:14.2	17:22.4
6	SASAKI, SUEAKI	JAPAN	1:04.5	2:12.9	3:21.7	4:31.2	5:41.1
			6:50.4	8:00.7	9:11.2	10:22.0	11:32.6
			12:43.3	13:54.2	15:05.1	16:16.3	17:25.3
7	SAARI, ROY ALLEN	U. S. A.	1:03.9	2:11.9	3:20.3	4:29.4	5:38.2
			6:47.2	7:56.3	9:06.2	10:16.6	11:28.2
			12:40.9	13:53.5	15:05.6	16:16.7	17:29.2
8	KATONA, JOZSEF	HUNGARY	1:05.4	2:14.6	3:24.5	4:34.8	5:45.2
			6:55.8	8:06.2	9:16.5	10:27.2	11:38.8
			12:49.7	14:00.9	15:11.7	16:22.7	17:30.8

WEATHER—RAINAY I. TEMP.—24.5 C W. TEMP.—25.5 C

## 200M BREASTSTROKE—MEN \* \* \* 200M BRASSE—HOMMES

WORLD RECORD 2:28.2 JASTREMSKI, CHESTER A. U. S. A. 1964  
 OLYMPIC RECORD 2:37.2 MULLIKEN, WILLIAM U. S. A. 1960

## — HEAT 1 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	100M	FINISH	
1	1	O'BRIEN, IAN	AUSTRAL.	1:13.7	2:31.4	NOR
2	4	TRETHEWAY, TOM GEORGE	U. S. A.	1:13.0	2:33.4	
3	5	KATZUR, KLAUS	GERMANY	1:14.5	2:36.7	
4	6	ZABLITH FILHO, FARID	BRAZIL	1:20.0	2:45.2	
5	7	MENSONIDES, WIEGER EMILE	NETHLAND	1:19.8	2:47.4	
6	3	HAI, HUYNH VAN	VIET-NAM	1:19.8	2:51.6	
	2	DENNERLEIN, COSTANTINO	ITALY			WITHDRAWAL

## — HEAT 2 —

1	1	HENNINGER, EGON	GERMANY	1:10.8	2:30.1	NOR
2	3	PROKOPENKO, GEORGY	U. S. S. R.	1:11.6	2:30.3	
3	4	LENKEI, FERENC	HUNGARY	1:14.7	2:38.6	
4	5	TONKIN, PETER JAMES	AUSTRAL.	1:15.2	2:39.3	
5	7	VRIENS, HERMANUS S. A.	NETHLAND	1:16.2	2:40.8	
6	2	JALMA-ANI, AMMAN E.	PHILPINS	1:17.4	2:44.7	
7	6	CHENAUX, H. ELIOT	P. RICO	1:20.5	2:52.5	

## — HEAT 3 —

1	5	ANDERSON, WAYNE ROBERT	U. S. A.	1:12.1	2:31.5	
2	6	TSURUMINE, OSAMU	JAPAN	1:14.5	2:34.1	
3	7	LANDRITO, ROLANDO M.	PHILPINS	1:16.5	2:41.9	
4	4	GROSS, GIAN CORRADO	ITALY	1:16.6	2:42.8	
5	3	CHIN, JANG-RHIM	KOREA	1:17.0	2:48.6	
	1	KLUMBANJONG, VIRAYUTH	THAILAND			WITHDRAWAL

## — HEAT 4 —

1	6	MATSUMOTO, KENJIRO	JAPAN	1:13.4	2:33.8	
2	3	KOSINSKY, VLADIMIR	U. S. S. R.	1:14.5	2:35.6	
3	5	MESSNER, WILHELM	GERMANY	1:15.2	2:36.0	
4	4	NICHOLSON, NEIL	BRITAIN	1:15.6	2:36.6	
5	2	SHEFA, GERSHON	ISRAEL	1:16.7	2:40.6	
6	1	CARAMELLI, CESARE	ITALY	1:17.3	2:40.9	
7	7	NAVARRO, MIGUEL ANGEL	ARGENTIN	1:17.4	2:49.7	

— HEAT 5 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	100M	FINISH
1	2	JASTREMSKI, CHESTER A	U. S. A.	1:12.1	2:30.5
2	1	SHIKIISHI, YOSHIAKI	JAPAN	1:12.8	2:32.3
3	7	TUTAKAEV, ALEXANDR	U. S. S. R.	1:15.1	2:36.9
4	3	ORAVAINEN, JOHN V.	AUSTRAL.	1:14.9	2:38.7
5	4	PADRON, NAZARIO	SPAIN	1:15.7	2:40.5
6	5	BRACK, RUEDI	SWITZ	1:17.5	2:46.0
7	6	CHEAH, TONG KIM	MALAYSIA	1:17.4	2:46.2
8	8	FOX, CHARLES WANNEL	N. RHODES	1:20.1	2:49.1

YOYOGI NATIONAL GYM.

NO. 4—2  
OCT. 14, 1964  
AFTERNOON

200M BREASTSTROKE—MEN \* \* \* 200M BRASSE—HOMMES

WORLD RECORD	2:28.2	JASTREMSKI, CHESTER A.	U. S. A.	1964
OLYMPIC RECORD	2:30.1	HENNINGER, EGON	GERMANY	1964

— SEMI-FINAL 1 —

1	JASTREMSKI, CHESTER A	U. S. A.	1:12.5	2:32.1
2	ANDERSON, WAYNE ROBERT	U. S. A.	1:13.6	2:32.6
3	HENNINGER, EGON	GERMANY	1:12.1	2:33.3
4	TSURUMINE, OSAMU	JAPAN	1:13.0	2:33.3
5	TRETHEWAY, TOM GEORGE	U. S. A.	1:12.7	2:34.5
6	MESSNER, WILHELM	GERMANY	1:15.0	2:35.5
7	KATZUR, KLAUS	GERMANY	1:13.4	2:37.3
8	LENKEI, FERENC	HUNGARY	1:13.1	2:37.5

— SEMI-FINAL 2 —

1	O'BRIEN, IAN	AUSTRAL.	1:13.3	2:28.7	NOR
2	PROKOPENKO, GEORGY	U. S. S. R.	1:10.9	2:29.7	
3	TUTAKAEV, ALEXANDR	U. S. S. R.	1:11.1	2:30.5	
4	KOSINSKY, VLADIMIR	U. S. S. R.	1:14.1	2:33.5	
5	MATSUMOTO, KENJIRO	JAPAN	1:13.8	2:34.3	
6	SHIKIISHI, YOSHIAKI	JAPAN	1:13.2	2:34.5	
7	ORAVAINEN, JOHN V.	AUSTRAL.	1:15.9	2:39.6	
8	NICHOLSON, NEIL	BRITAIN	1:16.0	2:39.9	

NO. 4—3  
OCT. 15, 1964  
EVENING

200M BREASTSTROKE—MEN \* \* \* 200M BRASSE—HOMMES

WORLD RECORD	2:28.2	JASTREMSKI, CHESTER A.	U. S. A.	1964
OLYMPIC RECORD	2:28.7	O'BRIEN, IAN	AUSTRAL.	1964



— FINAL —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	100M	FINISH
1		O'BRIEN, IAN	AUSTRAL.	1:10.5	2:27.8 NWR, NOR
2		PROKOPENKO, GEORGY	U. S. S. R.	1:09.2	2:28.2
3		JASTREMSKI, CHESTER A.	U. S. A.	1:10.2	2:29.6
4		TUTAKAEV, ALEXANDR	U. S. S. R.	1:11.4	2:31.0
5		HENNINGER, EGON	GERMANY	1:10.8	2:31.1
6		TSURUMINE, OSAMU	JAPAN	1:13.9	2:33.6
7		ANDERSON, WAYNE ROBERT	U. S. A.	1:12.5	2:35.0
8		KOSINSKY, VLADIMIR	U. S. S. R.	1:12.7	2:38.1

NO. 5—1

YOYOGI NATIONAL GYM.

OCT. 16, 1964  
AFTERNOON

200M BUTTERFLYSTROKE—MEN \* \* \* 200M PAPILLON—HOMMES

WORLD RECORD	2:06.9	BERRY, KEVIN JOHN	AUSTRAL.	1964
OLYMPIC RECORD	2:12.8	TROY, MICHAEL F.	U. S. A.	1960

— HEAT 1 —

1	ROBIE, CARL JOSEPH	U. S. A.	1:01.9	2:10.0 NOR
2	OH BAYASHI, ATSUSHI	JAPAN	1:03.6	2:15.1
3	RASTRELLI, ANTONIO	ITALY	1:06.6	2:17.3
4	LOTTER, HERMANN	GERMANY	1:05.9	2:18.2
5	FONSECA, VITOR MANUEL F. D.	PORTUGAL	1:06.5	2:18.3
6	CHOK-UMNUAY, NARONG	THAILAND	1:09.0	2:32.5
	POMMAT, JEAN	FRANCE		WITHDRAWAL

— HEAT 2 —

1	BERRY, KEVIN JOHN	AUSTRAL.	1:03.1	2:11.0
2	SATO, KOHSUKE	JAPAN	1:02.1	2:12.4
3	SHERRY, DANIEL JOHN	CANADA	1:04.0	2:12.9
4	GERRARD, DAVID FRANCIS	NZEALAND	1:04.5	2:16.3
5	MELAMED, ABRAHAM	ISRAEL	1:07.1	2:20.7
6	CANEPA BUSTAMANTE, CARLOS	PERU	1:06.5	2:24.9
7	PUJOL, JOAQUIN	SPAIN	1:08.0	2:28.3

— HEAT 3 —

1	NICOLAO, LUIS ALBERTO	ARGENTIN	1:04.8	2:15.0
2	STARK, JOHN	AUSTRAL.	1:04.8	2:15.3
3	KUZMIN, VALENTIN	U. S. S. R.	1:05.1	2:15.5
4	FREITAG, WERNER	GERMANY	1:05.6	2:16.9
5	ALANIS GUERRERO, JUAN	MEXICO	1:06.1	2:23.9
6	CHAN, BERNARD CHENG WAH	MALAYSIA	1:08.3	2:26.6
	ERIKSSON, KARL INGVAR	SWEDEN		WITHDRAWAL

— HEAT 4 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	100M	FINISH
1		RIKER, PHILIP, III	U. S. A.	1:00.0	2:12.6
2		JENKINS, BRIAN	BRITAIN	1:05.1	2:15.5
3		FOTIN, OLEG	U. S. S. R.	1:06.9	2:17.3
4		ALTAMIRANO TAMES, GABRIEL	MEXICO	1:04.1	2:17.9
5		PLATZECK, WOLFGANG	GERMANY	1:05.7	2:18.7
6		DECKARDT, VOLKER	AUSTRIA	1:06.7	2:21.3
7		LANGERHORST, DIRK F. A.	NETHLAND	1:05.9	2:22.5

— HEAT 5 —

1		HILL, BRETT CECIL GRAEME	AUSTRAL.	1:02.7	2:12.8
2		SCHMIDT, FRED WEBER	U. S. A.	1:01.7	2:13.3
3		KADONAGA, YOSHINORI	JAPAN	1:03.9	2:14.5
4		FOSSATI, GIAMPIERO	ITALY	1:03.8	2:17.2
5		HUTTON, RALPH	CANADA	1:05.9	2:20.8
6		OCAMPO, GUSTAVO	PERU	1:08.4	2:31.4
		THURLEY, JOHN PHILIP	BRITAIN		WITHDRAWAL

NO. 5—2

YOYOGI NATIONAL GYM.

OCT. 17, 1964

EVENING

WEATHER—FINE I. TEMP.—26.5 C W. TEMP.—24.5 C

200M BUTTERFLYSTROKE—MEN \* \* \* 200M PAPILLON—HOMMES

WORLD RECORD	2:06.9	BERRY, KEVIN JOHN	AUSTRAL.	1964
OLYMPIC RECORD	2:10.0	ROBIE, CARL JOSEPH	U. S. A.	1964

— SEMI-FINAL 1 —

1	4	ROBIE, CARL JOSEPH	U. S. A.	1:01.3	2:09.3	NOR
2	6	SCHMIDT, FRED WEBER	U. S. A.	1:01.4	2:11.5	
3	3	HILL, BRETT CECIL GRAEME	AUSTRAL.	1:02.3	2:11.9	
4	1	KUZMIN, VALENTIN	U. S. S. R.	1:03.5	2:11.9	
5	5	SATO, KOHSUKE	JAPAN	1:02.5	2:13.4	
6	8	FREITAG, WERNER	GERMANY	1:02.3	2:13.5	
7	2	NICOLAO, LUIS ALBERTO	ARGENTIN	1:02.5	2:13.7	
8	7	STARK, JOHN	AUSTRAL.	1:05.1	2:18.4	

— SEMI-FINAL 2 —

1	4	BERRY, KEVIN JOHN	AUSTRAL.	1:02.4	2:09.8
2	5	RIKER, PHILIP, III	U. S. A.	1:02.1	2:09.9
3	6	KADONAGA, YOSHINORI	JAPAN	1:03.9	2:12.3
4	3	SHERRY, DANIEL JOHN	CANADA	1:03.8	2:12.9
5	2	OHBAYASHI, ATSUSHI	JAPAN	1:03.5	2:14.1
6	1	GERRARD, DAVID FRANCIS	NZEALAND	1:03.7	2:15.4
7	7	JANKINS, BRIAN	BRITAIN	1:04.8	2:15.5
8	8	FOSSATI, GIAMPIERO	ITALY	1:05.5	2:18.1

YOYOGI NATIONAL GYM.

OCT. 18, 1964

MORNING

WEATHER—RAINY I. TEMP.—25.0 C W. TEMP.—24.5 C

## 200M BUTTERFLYSTROKE—MEN \* \* \* 200M PAPILLON—HOMMES

WORLD RECORD 2:06.9 BERRY, KEVIN JOHN AUSTRAL. 1964  
 OLYMPIC RECORD 2:09.3 ROBIE, CARL JOSEPH U. S. A. 1964

— FINAL —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	100M	FINISH
1	5	BERRY, KEVIN JOHN	AUSTRAL.	1:00.4	2:06.6 NWR, NOR
2	4	ROBIE, CARL JOSEPH	U. S. A.	1:00.4	2:07.5
3	6	SCHMIDT, FRED WEBER	U. S. A.	1:00.2	2:09.3
4	3	RIKER, PHILIP, III	U. S. A.	1:01.7	2:11.0
5	7	KUZMIN, VALENTIN	U. S. S. R.	1:02.8	2:11.3
6	1	KADONAGA, YOSHINORI	JAPAN	1:03.0	2:12.6
7	2	HILL, BRETT CECIL GRAEME	AUSTRAL.	1:03.2	2:12.8
8	8	SHERRY, DANIEL JOHN	CANADA	1:02.4	2:14.6

OCT. 11, 1964

EVENING

WEATHER—FINE I. TEMP.—25.0 C W. TEMP.—26.0 C

## 200M BACKSTROKE—MEN \* \* \* 200M DOS—HOMMES

WORLD RECORD 2:10.9 STOCK, THOMAS U. S. A. 1962  
 OLYMPIC RECORD 2:47.0 HOPPENBERG, ERNST GERMANY 1960

— HEAT 1 —

1	5	BENNETT, ROBERT EARL	U. S. A.	1:04.0	2:16.1 NOR
2	2	OSUMI, ISAGI	JAPAN	1:05.6	2:17.3
3	3	HUTTON, RALPH	CANADA	1:06.6	2:17.8
4	4	VAN OSCH, HENRI	NETHLAND	1:05.8	2:19.1
5	6	KRAUS JENSEN, LARS	DENMARK	1:08.7	2:23.3
6	1	VERBAUWEN, HERMAN	BELGIUM	1:07.9	2:24.9
7	7	EU, MICHAEL SEONG CHIN	MALAYSIA	1:12.2	2:35.8

— HEAT 2 —

1	3	FUKUSHIMA, SHIGEO	JAPAN	1:05.1	2:14.7 NOR
2	2	MAZANOV, VICTOR	U. S. S. R.	1:05.7	2:16.8
3	1	DIETZE, JURGEN	GERMANY	1:07.4	2:20.4
4	5	WEETELING, JAN	NETHLAND	1:07.2	2:20.4
5	4	BYROM, JOHN DOUGLAS	AUSTRAL.	1:09.3	2:27.0
6	6	GULYAS, AKOS	HUNGARY	1:11.2	2:30.5
7	7	CHENAUX, H. ELIOT	P. RICO	1:12.2	2:33.1

— HEAT 3 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	100M	FINISH
1	4	GRAEF, JED RICHARD	U. S. A.	1:04.5	2:14.5 NOR
2	5	ITO, KEISUKE	JAPAN	1:05.2	2:16.7
3	2	RORA, CHIAFFREDO	ITALY	1:04.3	2:17.8
4	3	CABRERA, JESUS	SPAIN	1:07.2	2:19.7
5	1	DIZ EZPELETA, PEDRO	ARGENTIN	1:08.0	2:24.9
6	6	WIELAND, GERHARD	AUSTRIA	1:08.6	2:25.9
7	7	FERRERO, C. AUGUSTO	PERU	1:10.9	2:29.9

— HEAT 4 —

1	1	DELLA SAVIA, EZIO	ITALY	1:05.6	2:16.6
2	7	KUPPERS, ERNST JOACHIM	GERMANY	1:07.7	2:17.9
3	5	FERAK, IVAN	CZECHSLV.	1:07.2	2:20.0
4	2	SUDA, FRIEDEL	AUSTRIA	1:06.7	2:20.7
5	6	JACKS, RONALD BRIAN	CANADA	1:07.5	2:21.3
6	4	THWAITES, GEOFFREY R.	BRITAIN	1:08.8	2:22.0
7	3	CHAN, KAM HONG	HONGKONG	1:16.6	2:46.0

— HEAT 5 —

1	6	DILLEY, GARY J.	U. S. A.	1:04.5	2:14.2 NOR
2	5	REYNOLDS, PETER ASKIN	AUSTRAL.	1:05.9	2:15.9
3	1	CSIKANY, JUZSEF	HUNGARY	1:07.2	2:18.3
4	4	WAGNER, WOLFGANG	GERMANY	1:08.0	2:18.5
5	3	VAN DER MAATH, CARLOS	ARGENTIN	1:07.7	2:19.6
6	7	CHRISTOPHE, ROBERT	FRANCE	1:08.8	2:22.5
	2	CHODTIPANANG, SOMCHAI	THAILAND		WITHDRAWAL

YOYOGI NATIONAL GYM.

NO. 6—2

OCT. 12, 1964

EVENING

WEATHER—FINE I. TEMP.— 24.5 C W. TEMP.— 26.0 C

200M BACKSTROKE—MEN \* \* \* 200M DOS—HOMMES

WORLD RECORD	2:10.9	STOCK, THOMAS	U. S. A.	1962
OLYMPIC RECORD	2:14.2	DILLEY, GARY J.	U. S. A.	1964

— SEMI-FINAL 1 —

1	DILLY, GARY J.	U. S. A.	1:04.6	2:13.8 NOR
2	FUKUSHIMA, SHIGEO	JAPAN	1:04.6	2:14.1
3	HUTTON, RALPH	CANADA	1:06.7	2:15.8
4	BENNETT, ROBERT EARL	U. S. A.	1:05.8	2:16.3
5	OSUMI, ISAGI	JAPAN	1:06.6	2:17.0
6	CSIKANY, JOZSEF	HUNGARY	1:06.3	2:17.5
7	ITO, KEISUKE	JAPAN	1:06.1	2:17.6
8	VAN OSCH, HENRI	NETHLAND	1:07.5	2:19.7

— SEMI-FINAL 2 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	100M	FINISH	
1		GRAF, JED RICHARD	U. S. A.	1:04.4	2:13.7	NOR
2		KUPPERS, ERNST JOACHIM	GERMANY	1:04.8	2:15.3	
3		MAZANOV, VICTOR	U. S. S. R.	1:05.4	2:15.4	
4		REYNOLDS, PETER ASKIN	AUSTRAL.	1:06.1	2:15.6	
5		RORA, CHIAFFREDO	ITALY	1:06.4	2:16.7	
6		DELLA SAVIA, EZIO	ITALY	1:06.3	2:18.4	
7		WAGNER, WOLFGANG	GERMANY	1:06.9	2:20.2	
8		VAN DER MAATH, CARLOS	ARGENTIN	1:07.0	2:21.3	

NO. 6—3

YOYOGI NATIONAL GYM.

OCT. 13, 1964

EVENING

WEATHER—RAINY I. TEMP.—24.5 C W. TEMP.—25.5 C

200M BACKSTROKE—MEN \* \* \* 200M DOS—HOMMES

WORLD RECORD	2:10.9	STOCK, THOMAS	U. S. A.	1962
OLYMPIC RECORD	2:13.7	GRAEF, JED RICHARD	U. S. A.	1964

1	4	GRAEF, JED RICHARD	U. S. A.	1:03.1	2:10.3	NWR, NOR
2	5	DILLEY, GARY J.	U. S. A.	1:03.3	2:10.5	
3	8	BENNETT, ROBERT EARL	U. S. A.	1:03.7	2:13.1	
4	3	FUKUSHIMA, SHIGEO	JAPAN	1:04.2	2:13.2	
5	6	KUPPERS, ERNST JOACHIM	GERMANY	1:04.0	2:15.7	
6	2	MAZANOV, VICTOR	U. S. S. R.	1:05.0	2:15.9	
7	1	HUTTON, RALPH	CANADA	1:05.8	2:15.9	
8	7	REYNOLDS, PETER ASKIN	AUSTRAL.	1:04.5	2:16.6	

NO. 7—1

OCT. 12, 1964

EVENING

WEATHER—FINE I. TEMP.—25.0 C W. TEMP.—27.0 C

400M INDIVIDUAL MEDLEY—MEN \* \* \* 400M QUATRE NAGES—HOMMES

WORLD RECORD	4:48.6	ROTH, RICHARD WILLIAM	U. S. A.	1964
--------------	--------	-----------------------	----------	------

— HEAT 1 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	100M	200M	300M	FINISH
1	4	ROBIE, CARL JOSEPH	U. S. A.	1:02.0	2:18.2	3:46.2	4:52.0
2	2	HUTTON, RALPH	CANADA	1:06.5	2:22.3	3:58.9	5:06.2
3	3	ORAVAINEN, JOHN V.	AUSTRAL.	1:06.6	2:25.5	3:56.7	5:07.0
4	7	WEINRICH, STEFFAN	GERMANY	1:05.2	2:25.5	3:54.1	5:07.8
5	1	PEREZ, CELESTINO	P. RICO	1:08.5	2:28.5	4:01.6	5:10.9
6	8	ROGUSIC, VELJKO	YUGOSLAV.	1:06.8	2:28.4	4:02.4	5:11.0
7	6	SHEFA, GERSHON	ISRAEL	1:08.6	2:30.8	3:58.3	5:11.2
	5	LIMPICHATI, SOMCHAI	THAILAND				WITHDRAWAL

— HEAT 2 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	100M	200M	300M	FINISH
1	5	GILCHRIST, JOHN ALEXANDER	CANADA	1:05.1	2:25.4	3:51.2	4:58.3
2	7	ROTH, RICHARD WILLIAM	U. S. A.	1:07.0	2:22.8	3:51.7	5:01.3
3	1	BUCK, TERRY WILLIAM	AUSTRAL.	1:05.5	2:26.8	3:55.3	5:02.5
4	4	CHENAUX, H. ELIOT	P. RICO	1:08.2	2:29.8	3:58.9	5:11.3
5	3	FORTUNY, JUAN	SPAIN	1:10.4	2:32.5	4:07.6	5:18.2
6	6	ALANIS GUERRERO, JUAN	MEXICO	1:08.2	2:27.5	4:09.1	5:18.6
7	2	BASTO, ANTONIO A. B.	PORTUGAL	1:12.2	2:35.5	4:09.3	5:19.7
8	8	PAZ SOLDAN, LUIS	PERU	1:09.4	2:30.4	4.20.8	5:39.5

— HEAT 3 —

1	3	SAARI, ROY ALLEN	U. S. A.	1:05.9	2:22.4	3:53.1	5:02.3
2	5	KOSZTOLANCZI, GYORGY	HUNGARY	1:06.9	2:24.4	3:54.0	5:03.8
3	1	JISKOOT, JOHANNES	NETHLAND	1:06.5	2:24.6	3:55.5	5:04.4
4	6	PFEIFER, DIETER	GERMANY	1:07.3	2:25.1	3:52.9	5:05.2
5	4	SUVANTO, ILKKA T.	FINLAND	1:06.5	2:28.2	4:00.4	5:09.0
6	7	HERNANDEZ ROJAS, RAFAEL	MEXICO	1:05.9	2:28.6	4:00.6	5:09.8
7	2	FOX, CHARLES WANNEL	N. RHODES	1:12.7	2:43.0	4:16.9	5:38.2
8	8	CAPRILES, TEODORO	VENEZULA				WITHDRAWAL

— HEAT 4 —

1	5	HETZ, GERHARD	GERMANY	1:05.7	2:24.0	3:49.3	4:57.6
2	3	ALI, CSABA	HUNGARY	1:07.7	2:27.2	3:54.9	5:05.4
3	2	FERM, SVEN OLLE ERIK	SWEDEN	1:07.8	2:25.4	4:00.1	5:10.5
4	1	ALEXANDER, A. FLEMING	AUSTRAL.	1:08.3	2:27.9	3:59.7	5:10.8
5	8	GISLASON, GUDMUNDUR	ICELAND	1:07.7	2:30.4	4:03.3	5:15.5
6	6	VAAHTORANTA, H. PERTTI J.	FINLAND	1:09.2	2:31.6	4:05.9	5:16.2
7	4	DAVILA, GUILLERMO	MEXICO	1:10.8	2:35.9	4:13.0	5:27.1
8	7	CHOK-UMNUAY, NARONG	THAILAND	1:11.4	2:41.1	4:25.5	5:44.1

NO. 7-2

YOYOGI NATIONAL GYM.

OCT. 14, 1964

EVENING

400M INDIVIDUAL MEDLEY—MEN \* \* \* 400M QUATRE NAGES—HOMMES

WORLD RECORD	4:48.6	ROTH, RICHARD WILLIAM	U. S. A.	1964
OLYMPIC RECORD	4:52.0	ROBIE, CARL JOSEPH	U. S. A.	1964

— FINAL —

1		ROTH, RICHARD WILLIAM	U. S. A.	1:04.1	2:16.4	3:41.3	4:45.4	NWR NOR
2		SAARI, ROY ALLEN	U. S. A.	1:02.2	2:13.5	3:40.3	4:47.1	
3		HETZ, GERHARD	GERMANY	1:04.1	2:20.6	3:45.9	4:51.0	
4		ROBIE, CARL JOSEPH	U. S. A.	1:01.0	2:16.4	3:45.2	4:51.4	
5		GILCHRIST, JOHN ALEXANDER	CANADA	1:04.4	2:24.6	3:50.5	4:57.6	
6		JISTKOOT, JOHANNES	NETHLAND	1:05.8	2:23.3	3:54.2	5:01.9	
7		KOSZTOLANCZI, GYORGY	HUNGARY	1:05.8	2:23.6	3:53.8	5:01.9	
8		BUCK, TERRY WILLIAM	AUSTRAL.	1:05.5	2:26.8	3:56.2	5:03.0	

OCT. 13, 1964

MORNING

WEATHER—CLOUDY I. TEMP.—24.0 C W.—TEMP.—26.0 C

## 4×100M FREESTYLE RELAY—MEN \* \* \* 4×100M NAGE LIBRE—HOMMES

WORLD RECORD 3:36.1 U. S. A. 1963

## — HEAT 1 —

PLACE	COUNTRY	ORDER MEMBER	100M	FINISH
1	AUSTRAL.	1) DOAK, PETER JOHN	55.7	3:40.6
		2) DICKSON, DAVID GAVIN	54.7	
		3) RYAN, JOHN	55.3	
		4) WINDLE, ROBERT GEORGE	54.9	
2	FRANCE	1) GOTTVALLLES, ALAIN	54.8	3:42.1
		2) GROPAIZ, GERARD	55.2	
		3) CHRISTOPHE, ROBERT	56.3	
		4) CURTILLET, JEAN PASCAL	55.8	
3	JAPAN	1) OKABE, YUKIAKI	55.4	3:42.3
		2) IWASAKI, KUNIHIRO	55.3	
		3) ISHIHARA, KATSUKI	56.3	
		4) GOTO, TADAHARU	55.3	
4	HUNGARY	1) SZALL, ANTAL	56.7	3:43.2
		2) GULYAS, AKOS	56.2	
		3) SZLAMKA, LASZLO	55.9	
		4) DOBAI, GYULA	54.4	
5	NETHLAND	1) KROON, RONALD	55.9	3:43.8
		2) VAN BAALEN, LEVINUS W.	55.4	
		3) JISKOOT, JOHANNES	56.3	
		4) BONTEKOE, JOHAN KLAAS	56.2	
6	MEXICO	1) HERNANDEZ ROJAS, RAFAEL	58.7	3:58.9
		2) RUIZ DE CHAVEZ OCHOA, S.	59.5	
		3) GUZMAN TORRES, ALFREDO	1:01.8	
		4) ECHEVARRIA PEREZ, G.	58.9	

## — HEAT 2 —

1	U. S. A.	1) CLARK, STEPHEN EDWARD	53.6	3:38.8	NOR
		2) SCHULHOF, LARY ALAN	55.6		
		3) AUSTIN, MICHAEL MACKAY	55.3		
		4) ILMAN, GARY STEVEN	54.3		
2	GERMANY	1) LOFFLER, HORST	56.0	3:41.0	
		2) JACOBSEN, UWE	55.5		
		3) WIEGAND, FRANK	54.2		
		4) KLEIN, HANS JOACHIM	55.3		
3	SWEDEN	1) ERIKSSON, ERIK LESTER	56.0	3:41.3	
		2) LUNDIN, JAN ORED	55.1		
		3) NORDVALL, BENGT OLOF	55.9		
		4) LINDBERG, PER OLA	54.3		
4	U. S. S. R.	1) BEREZIN, VLADIMIR	56.5	3:41.8	
		2) SHUVALOV, VLADIMIR	55.6		
		3) SEMCHENKOV, VICTOR	54.9		
		4) SUMTISOV, YURY	54.8		
5	BRITAIN	1) LORD, ROBERT THOMAS	56.4	3:42.7	
		2) MARTIN-DYE, JOHN	56.4		
		3) KENDREW, PETER	56.0		
		4) MCGREGOR, ROBERT BILSLAND	53.9		
6	CANADA	1) SHERRY, DANIEL JOHN	56.1	3:49.7	
		2) HUTTON, RALPH	57.2		
		3) JACKS, RONALD BRIAN	59.0		
		4) GILCHRIST, JOHN ALEXANDER	57.4		
7	PERU	1) PAZ SOLDAN, LUIS	58.8	4:02.6	
		2) CANEPA BUSTAMANTE, CARLOS	59.6		
		3) FERRERO, C. AUGUSTO	1:02.8		
		4) LEDGARD BUSE, WALTER	1:01.4		

## 4×100M FREESTYLE RELAY—MEN \* \* \* 4×100M NAGE LIBRE—HOMMES

WORLD RECORD 3:36.1 U. S. A. 1963  
OLYMPIC RECORD 3:38.8 U. S. A. 1964

— FINAL —

PLACE	COUNTRY	ORDER MEMBER	100M	FINISH
1	U. S. A.	1) CLARK, STEPHEN EDWARD	52.9	NOR 3:33.2 NWR, NOR
		2) AUSTIN, MICHAEL MACKAY	53.9	
		3) ILMAN, GARY STEVEN	53.4	
		4) SCHOLLANDER, D. ARTHUR	53.0	
2	GERMANY	1) LOFFLER, HORST	55.8	3:37.2
		2) WIEGAND, FRANK	54.2	
		3) JACOBSEN, UWE	54.8	
		4) KLEIN, HANS JOACHIM	52.4	
3	AUSTRAL.	1) DICKSON, DAVID GAVIN	54.6	3:39.1
		2) DOAK, PETER JOHN	55.0	
		3) RYAN, JOHN	55.3	
		4) WINDLE, ROBERT GEORGE	54.2	
4	JAPAN	1) IWASAKI, KUNIHIRO	55.8	3:40.5
		2) GOTO, TADAHARU	55.2	
		3) FUJIMOTO, TATSUO	54.9	
		4) OKABE, YUKIAKI	54.6	
5	SWEDEN	1) NORDVALL, BENGT OLOF	56.6	3:40.7
		2) ERIKSSON, ERIK LESTER	54.9	
		3) LUNDIN, JAN ORED	54.6	
		4) LINDBERG, PER OLA	54.6	
6	U. S. S. R.	1) MAZANOV, VICTOR	56.3	3:42.1
		2) SHUVALOV, VLADIMIR	55.4	
		3) SEMCHENKOV, VICTOR	55.0	
		4) SUMTISOV, YURY	55.4	
7	BRITAIN	1) LORD, ROBERT THOMAS	56.2	3:42.6
		2) MARTIN-DYE, JOHN	56.5	
		3) KENDREW, PETER	55.8	
		4) McGREGOR, ROBERT BILSLAND	54.1	
	FRANCE	1) GOTTVALLS, ALAIN	54.0	DISQUALIFIED
		2) GROPAIZ, GERARD	55.1	
		3) CANAVESE, PIERRE	55.3	
		4) CURTILLET, JEAN PASCAL	54.9	



OCT. 17, 1964

AFTERNOON

WEATHER—CLOUDY I. TEMP.—25.0 C W. TEMP.—24.5 C

## 4×200M FREESTYLE RELAY—MEN \* \* \* 4×200M NAGE LIBRE—HOMMES

WORLD RECORD 8:01.8 U. S. A. 1964  
 OLYMPIC RECORD 8:10.2 U. S. A. 1960

## — HEAT 1 —

PLACE	COUNTRY	ORDER MEMBER	100M	200M	FINISH
1	GERMANY	1) GREGOR, HORST GUNTHER	58.2	2:03.1	8:09.7 NOR
		2) HETZ, GERHARD	57.5	2:02.9	
		3) WIEGAND, FRANK	57.3	2:01.8	
		4) KLEIN, HANS JOACHIM	57.1	2:01.9	
2	JAPAN	1) FUKUI, MAKOTO	58.3	2:02.6	8:10.4
		2) IWASAKI, KUNIHIRO	59.3	2:02.7	
		3) SHOJI, TOSHIO	58.6	2:01.9	
		4) YAMANAKA, TSUYOSHI	59.1	2:03.2	
3	U. S. S. R.	1) BELITS-HEIMAN, SEMEN	58.0	2:02.3	8:14.5
		2) BEREZIN, VLADIMIR	57.2	2:04.1	
		3) PARAMONOV, ALEXANDR	59.6	2:04.1	
		4) NOVIKOV, EUGENY	59.7	2:04.0	
4	ITALY	1) BIANCHI, BRUNO	1:00.1	2:04.2	8:17.8
		2) ORLANDO, GIOVANNI	59.4	2:05.9	
		3) BOSCAINI, PIETRO	1:00.7	2:05.4	
		4) DE GREGORIO, SERGIO	58.4	2:02.3	
5	CANADA	1) JACKS, RONALD BRIAN	1:00.1	2:06.3	8:22.2
		2) HUTTON, RALPH	58.8	2:05.3	
		3) SHERRY, DANIEL JOHN	57.5	2:05.2	
		4) GILCHRIST, JOHN ALEXANDER	58.4	2:05.4	
6	NETHLAND	1) BONTEKOE, JOHAN KLAAS	58.5	2:02.2	8:27.7
		2) JISKOOT, JOHANNES	1:00.5	2:07.8	
		3) KROON, RONALD	58.5	2:07.2	
		4) SITTERS, BERTUS	1:01.8	2:10.5	
7	MEXICO	1) HERNANDEZ ROJAS, RAFAEL	1:01.7	2:12.5	8:50.3
		2) ECHEVARRIA PEREZ, G.	1:01.7	2:10.5	
		3) GUZMAN TORRES, ALFREDO	1:06.3	2:17.0	
		4) RUIZ DE CHAVEZ OCHOA, S.	1:00.1	2:10.3	

## — HEAT 2 —

1	U. S. A.	1) METTLER, WILLIAM ROY	59.7	2:02.6	8:09.0 NOR
		2) LYONS, DAVID CHANDLER	58.1	2:02.8	
		3) WALL, MICHAEL ALLEN	57.9	2:01.8	
		4) TOWNSEND, ROBERT EDWARD	57.8	2:01.8	
2	SWEDEN	1) LUNDIN, JAN ORED	59.7	2:01.9	8:10.3
		2) ERIKSSON, ERIK LESTER	57.6	2:03.8	
		3) ROSENDAHL, HANS VIKTOR	59.3	2:02.5	
		4) SVENSSON, MATS GUNNAR	58.7	2:02.1	
3	FRANCE	1) CANAVESE, PIERRE	1:00.2	2:04.1	8:17.0
		2) CURTILLET, JEAN PASCAL	58.8	2:03.2	
		3) LUYCE, FRANCIS	59.0	2:04.5	
		4) GOTTVALLLES, ALAIN	59.3	2:05.2	
4	AUSTRAL.	1) DOAK, PETER JOHN	1:00.3	2:03.7	8:18.3
		2) KONRADS, JOHN	57.5	2:02.8	
		3) RYAN, JOHN	1:01.2	2:07.4	
		4) DICKSON, DAVID GAVIN	57.8	2:04.4	
5	FINLAND	1) SUVANTO, ILKKA T.	1:00.1	2:05.6	8:23.3
		2) VAAHTORANTA, H. PERTTI J.	1:00.6	2:07.6	
		3) HAMALAINEN, TUOMO JUHANI	59.9	2:06.3	
		4) KASVIO, MATTI JUHANI	57.7	2:03.8	

PLACE	COUNTRY	ORDER MEMBER	100M	200M	FINISH
6	HUNGARY	1) DOBAI, GYULA	58.9	2:02.8	8:24.4
		2) ALI, CSABA	1:00.4	2:08.1	
		3) KOSZTOLANCZI, GYORGY	1:01.3	2:08.0	
		4) KATONA, JOZSEF	59.2	2:05.5	
7	BRITAIN	1) MARTIN-DYE, JOHN	1:00.5	2:05.5	8:30.9
		2) THURLEY, JOHN PHILIP	1:02.2	2:09.7	
		3) LORD, ROBERT THOMAS	1:00.2	2:06.3	
		4) MCGREGOR, ROBERT BILSLAND	59.9	2:09.4	
8	SPAIN	1) FORTUNY, JUAN	1:00.4	2:06.7	8:32.6
		2) TORRES, MIGUEL	1:03.2	2:09.0	
		3) PEREZ COSPEDAL, ANTONIO	1:01.5	2:08.7	
		4) CODINA, ANTONIO	1:00.2	2:08.2	

NO. 9-2

YOYOGI NATIONAL GYM.

OCT. 18, 1964

EVENING

4×200M FREESTYLE RELAY—MEN \* \* \* 4×200M NAGE LIBRE—HOMMES

WORLD RECORD	8:01.8	U. S. A.	1964
OLYMPIC RECORD	8:09.0	U. S. A.	1964

— FINAL —

1	U. S. A.	1) CLARK, STEPHEN EDWARD	58.5	2:00.0	7:52.1
		2) SAARI, ROY ALLEN	57.1	1:58.1	
		3) ILMAN, GARY STEVEN	56.2	1:58.4	
		4) SCHOLLANDER, D. ARTHUR	56.5	1:55.6	
2	GERMANY	1) GREGOR, HORST GUNTHER	58.5	2:02.0	7:59.3
		2) HETZ, GERHARD	57.9	2:01.8	
		3) WIEGAND, FRANK	56.2	1:57.6	
		4) KLEIN, HANS JOACHIM	55.4	1:57.9	
3	JAPAN	1) FUKUI, MAKOTO	59.0	2:00.5	8:03.8
		2) IWASAKI, KUNIHIRO	58.0	2:01.1	
		3) SHOJI, TOSHIO	58.2	2:01.7	
		4) OKABÉ, YUKIAKI	57.3	2:00.5	
4	AUSTRAL.	1) DICKSON, DAVID GAVIN	59.6	2:02.2	8:05.7
		2) WOOD, ALLAN	57.7	2:01.7	
		3) DOAK, PETER JOHN	58.3	2:03.1	
		4) WINDLE, ROBERT GEROGÉ	56.3	1:58.7	
5	SWEDEN	1) SVENSSON, MATS GUNNAR	58.7	2:01.8	8:08.0
		2) ERIKSSON, ERIK LESTER	58.6	2:03.2	
		3) ROSENDAHL, HANS VIKTOR	59.1	2:03.3	
		4) LUNDIN, JAN ORED	57.6	1:59.7	
6	FRANCE	1) CURTILLET, JEAN PASCAL	59.3	2:02.7	8:08.7
		2) CANAVESE, PIERRE	57.9	2:02.8	
		3) LUYCE, FRANCIS	57.7	2:02.0	
		4) GOTTVALLÉS, ALAIN	56.4	2:01.2	
7	U. S. S. R.	1) BELITS-HEIMAN, SEMEN	58.1	2:02.7	8:15.1
		2) BEREZIN, VLADIMIR	58.5	2:03.6	
		3) PARAMONOV, ALEXANDR	59.5	2:04.8	
		4) NOVIKOV, EUGENY	59.4	2:04.0	
8	ITALY	1) DE GREGORIO, SERGIO	58.9	2:03.3	8:18.1
		2) BIANCHI, BRUNO	58.5	2:03.4	
		3) ORLANDO, GIOVANNI	1:00.2	2:06.4	
		4) BOSCAINI, PIETRO	58.9	2:05.0	

## 4×100M MEDLEY RELAY—MEN \* \* \* 4×100M QUATRE NAGES—HOMMES

WORLD RECORD 4:00.1 U. S. A. 1963  
OLYMPIC RECORD 4:05.4 U. S. A. 1960

## — HEAT 1 —

PLACE	COUNTRY	ORDER MEMBER	100M	FINISH
1	GERMANY	1) KUPPERS, ERNST JOACHIN	1:02.1	4:06.6
		2) HENNINGER, EGON	1:07.1	
		3) GREGOR, HORST GUNTHER	1:00.7	
		4) KLEIN, HANS JOACHIM	56.7	
2	JAPAN	1) FUKUSHIMA, SHIGEO	1:03.2	4:07.3
		2) ISHIKAWA, KENJI	1:10.1	
		3) NAKAJIMA, ISAO	58.9	
		4) OKABE, YUKIAKI	55.1	
3	U. S. S. R.	1) MAZANOV, VICTOR	1:02.7	4:07.6
		2) TUTAKAEV, ALEXANDR	1:09.3	
		3) KUZMIN, VALENTIN	59.8	
		4) SEMCHENKOV, VICTOR	55.8	
4	BRITAIN	1) THWAITES, GEOFFREY R.	1:04.6	4:12.3
		2) NICHOLSON, NEIL	1:12.2	
		3) JENKINS, BRIAN	1:01.8	
		4) MCGREGOR, ROBERT BILSLAND	53.7	
5	NETHLAND	1) WEETELING, JAN	1:04.2	4:12.6
		2) VRIENS, HERMANUS S. A.	1:12.3	
		3) JISKOOT, JOHANNES	1:00.8	
		4) KROON, RONALD	55.3	
6	BRAZIL	1) DE OLIVEIRA JUNIOR, A. P.	1:07.4	4:21.2
		2) ZABLITH FILHO, FARID	1:13.7	
		3) FERNANDES FONSECA, MAURI	1:02.7	
		4) DE AVILA PIRES, ALVARO R.	57.4	
7	MALAYSIA	1) EU, MICHAEL SEONG CHIN	1:09.3	4:29.3
		2) CHEAH, TONG KIM	1:15.7	
		3) CHAN, BERNARD CHENG WAH	1:05.0	
		4) TAN, THUAN HENG	59.3	

## — HEAT 2 —

1	U. S. A.	1) McGEAGH, RICHARD MICHAEL	1:01.1	4:05.1	NOR
		2) LUKEN, VIRGIL W.	1:10.9		
		3) RICHARDSON, WALTER PIERCE	58.7		
		4) BENNETT, ROBERT EARL	54.4		
2	HUNGARY	1) CSIKANY, JOZSEF	1:02.5	4:08.8	
		2) LENKEI, FERENC	1:11.2		
		3) GULRICH, JOZSEF	59.2		
		4) DOBAI, GYULA	55.9		
3	ITALY	1) RORA, CHIAFFREDO	1:02.0	4:09.3	
		2) GROSS, GIAN CORRADO	1:11.7		
		3) FOSSATI, GIAMPIERO	1:00.0		
		4) BOSCAINI, PIETRO	55.6		
4	AUSTRAL.	1) REYNOLDS, PETER ASKIN	1:03.7	4:11.4	
		2) TONKIN, PETER JAMES	1:12.7		
		3) BERRY' KEVIN JOHN	1:00.1		
		4) DICKSON, DAVID GAVIN	54.9		
5	CANADA	1) HUTTON, RALPH	1:04.6	4:15.5	
		2) GILCHRIST, JOHN ALEXANDER	1:14.7		
		3) SHERRY, DANIEL JOHN	59.4		
		4) JACKS, RONALD BRIAN	56.8		

PLACE	COUNTRY	ORDER MEMBER	100M	FINISH
6	ARGENTIN	1) VAN DER MAATH, CARLOS	1:04.6	4:15.8
		2) NAVARRO, MIGUEL ANGEL	1:14.9	
		3) NICOLAO, LUIS ALBERTO	58.8	
		4) BOURDILLON, ALFREDO	57.5	
7	SPAIN	1) CABRERA, JESUS	1:02.6	4:17.4
		2) PADRON, NAZARIO	1:12.2	
		3) PUJOL, JOAQUIN	1:05.1	
		4) ESPINOSA, JOSE MIGUEL	57.5	

YOYOGI NATIONAL GYM.

NO. 10-2

OCT. 16, 1964

EVENING

WEATHER—FINE I. TEMP.— 26.0 C W. TEMP.— 24.5 C

4×100M MEDLEY RELAY—MEN \* \* \* 4×100M QUATRE NAGES—HOMMES

WORLD RECORD 4:00.1 U. S. A. 1963  
 OLYMPIC RECORD 4:05.1 U. S. A. 1964

— FINAL —

1	U. S. A.	1) MANN, HAROLD THOMPSON	59.6 NWR	3:58.4 NWR, NOR
		2) CRAIG, WILLIAM NORVAL	1:09.6	
		3) SCHMIDT, FRED WEBER	56.8	
		4) CLARK, STEPHEN EDWARD	52.4	
2	GERMANY	1) KUPPERS, ERNST JOACHIM	1:01.4	4:01.6
		2) HENNINGER, EGON	1:07.7	
		3) GREGOR, HORST GUNTHER	59.8	
		4) KLEIN, HANS JOACHIM	52.7	
3	AUSTRAL.	1) REYNOLDS, PETER ASKIN	1:03.0	4:02.3
		2) O'BRIEN, IAN	1:07.8	
		3) BERRY, KEVIN JOHN	57.7	
		4) DICKSON, DEVID GAVIN	53.8	
4	U. S. S. R.	1) MAZANOV, VICTOR	1:02.6	4:04.2
		2) PROKOPENKO, GEORGY	1:06.5	
		3) KUZMIN, VALENTIN	59.3	
		4) SHUVALOV, VLADIMIR	55.8	
5	JAPAN	1) FUKUSHIMA, SHIGEO	1:03.0	4:06.6
		2) ISHIKAWA, KENJI	1:09.6	
		3) NAKAJIMA, ISAO	58.9	
		4) OKABE, YUKIAKI	55.1	
6	HUNGARY	1) CSIKANY, JOZSEF	1:02.4	4:08.5
		2) LENKEI, FERENC	1:11.6	
		3) GULRICH, JOZSEF	1:00.7	
		4) DOBAI, GYULA	53.8	
7	ITALY	1) RORA, CHIAFFREDO	1:02.6	4:10.3
		2) GROSS, GIAN CORRADO	1:11.7	
		3) FOSSATI, GIAMPIERO	1:00.6	
		4) BOSCAINI, PIETRO	55.4	
8	BRITAIN	1) THWAITES, GEOFFREY R.	1:04.4	4:11.4
		2) NICHOLSON, NEIL	1:11.1	
		3) JENKINS, BRIAN	1:02.5	
		4) MCGREGOR, ROBERT BILSLAND	53.4	

YOYOGI NATIONAL GYM.

OCT. 12, 1964

MORNING

WEATHER—FINE I. TEMP.—25.0 C W. TEMP.—27.0 C

## 100M FREESTYLE—LADIES \* \* \* 100M NAGE LIBRE—DAMES

WORLD RECORD	58.9	FRASER, DAWN	AUSTRAL.	1964
OLYMPIC RECORD	1:00.6	FRASER, DAWN	AUSTRAL.	1960

## — HEAT 1 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	TIME
1	7	ELLIS, KATHLEEN	U. S. A.	1:01.5
2	2	GRUNERT, MARTINA	GERMANY	1:03.1
3	6	BENECK, DANIELA	ITALY	1:03.2
4	4	VAN WEERDENBURG, W.	NETHLAND	1:03.8
5	3	URAKAMI, RYOKO	JAPAN	1:04.5
6	1	STEWART, MARY PAULINE	CANADA	1:05.1
7	5	LIM, KUM-JA	KOREA	1:16.1

## — HEAT 2 —

1	5	HAGBERG, ANN-CHRISTINE	SWEDEN	1:02.5
2	7	SCHUMACHER, RITA	GERMANY	1:03.9
3	3	ROCKEMBACH, ANNELIESSE	VENEZULA	1:04.3
4	6	SAINI, PAOLA	ITALY	1:04.4
5	4	KEEN, SANDRA	BRITAIN	1:04.7
6	2	BEUMER, CATHARINA JOHANNA	NETHLAND	1:05.2
7	1	LALLANDE, ANN	P. RICO	1:06.8

## — HEAT 3 —

1	3	HALLOCK, JEANNE COURTNEY	U. S. A.	1:03.6
2	7	THORN, ROBYN	AUSTRAL.	1:03.7
3	5	USTINOVA, NATALYA	U. S. S. R.	1:04.2
4	4	STRANGE, KIRSTEN	DENMARK	1:05.3
5	6	BEIERLEIN, TRAUDI	GERMANY	1:05.4
6	2	PIETRI, MONIQUE	FRANCE	1:05.8
7	1	PAUKERL, CHRISTINE	AUSTRIA	1:07.3

## — HEAT 4 —

1	2	TERPSTRA, ERICA GEORGINE	NETHLAND	1:02.5
2	4	TUROCZY, JUDIT	HUNGARY	1:02.9
3	1	JAFVERT, ULLA BIRGITTA E.	SWEDEN	1:03.8
4	5	BYSTROVA, NATALYA	U. S. S. R.	1:04.0
5	7	WILKINSON, DIANA E.	BRITAIN	1:05.0
6	3	SACCHI, MARA	ITALY	1:05.9
7	8	GUDMUNSDOTTIR, H.	ICELAND	1:06.4
8	6	VIVANCO ROCA, ROSARIO	PERU	1:09.0

— HEAT 5 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	TIME	
1	7	FRASER, DAWN	AUSTRAL.	1:00.6	TOR
2	4	LAY, MARION BEVERLY	CANADA	1:02.1	
3	2	TAKACS, KATALIN	HUNGARY	1:03.5	
4	8	KIMURA, TOYOKO	JAPAN	1:04.8	
5	6	SIDELSKY, MARILYN	RHODESIA	1:05.5	
6	1	AMOS, LINDA	BRITAIN	1:06.1	
7	5	PULIDO, RITA	SPAIN	1:06.7	
8	3	HARDING, MARGARET	P. RICO	1:11.7	

— HEAT 6 —

1	6	STOUDER, SHARON MARIE	U. S. A.	1:02.3
2	5	BELL, LYNETTE	AUSTRAL.	1:02.4
3	7	DOBAI-MADARASZ, CSILLA	HUNGARY	1:02.5
4	4	LILJA, GUN ANN-CHARLOTT	SWEDEN	1:03.7
5	1	KENNEDY, HELEN LOUISE	CANADA	1:04.2
6	2	AZUMA, MIYOKO	JAPAN	1:06.4
7	3	TSENG, JOVINA	MALAYSIA	1:13.9

YOYOGI NATIONAL GYM.

NO. 11—2

OCT. 12, 1964

EVENING

WEATHER—FINE I. TEMP.—24.5 C W. TEMP.—26.0 C

100M FREESTYLE—LADIES \* \* \* 100M NAGE LIBRE—DAMES

WORLD RECORD	58.9	FRASER, DAWN	AUSTRAL.	1964
OLYMPIC RECORD	1:00.6	FRASER, DAWN	AUSTRAL.	1960

— SEMI-FINAL 1 —

1	4	FRASER, DAWN	AUSTRAL.	59.9	NOR
2	5	LAY, MARION BEVERLY	CANADA	1:02.2	
3	3	BELL, LYNETTE	AUSTRAL.	1:02.3	
4	6	DOBAI-MADARASZ, CSILLA	HUNGARY	1:02.4	
5	1	HALLOCK, JEANNE COURTNEY	U. S. A.	1:02.9	
6	7	BENECK, DANIELA	ITALY	1:02.9	
7	2	TUROCZY, JUDIT	HUNGARY	1:03.0	
8	8	THORN, ROBYN	AUSTRAL.	1:03.9	

— SEMI-FINAL 2 —

1	5	STOUDER, SHARON MARIE	U. S. A.	1:01.4
2	3	TERPSTRA, ERICA GEORGINE	NETHLAND	1:02.3
3	4	ELLIS, KATHLEEN	U. S. A.	1:02.5
4	6	HAGBERG, ANN-CHRISTINE	SWEDEN	1:02.8
5	2	GRUNERT, MARTINA	GERMANY	1:03.1
6	7	TAKACS, KATALIN	HUNGARY	1:03.3
7	1	LILJA, GUN ANN-CHARLOTT	SWEDEN	1:03.9
8	8	JAFVERT, ULLA BIRGITTA E.	SWEDEN	1:04.6

## 100M FREESTYLE—LADIES \* \* \* 100M NAGE LIBRE—DAMES

WORLD RECORD	58.9	FRASER, DAWN	AUSTRAL.	1964
OLYMPIC RECORD	59.9	FRASER, DAWN	AUSTRAL.	1964

## — FINAL —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	TIME	
1	4	FRASER, DAWN	AUSTRAL.	59.5	NOR
2	5	STOUDER, SHARON MARIE	U. S. A.	59.9	
3	1	ELLIS, KATHLEEN	U. S. A.	1:00.8	
4	2	TERPSTRA, ERICA GEORGINE	NETHLAND	1:01.8	
5	3	LAY, MARION BEVERLY	CANADA	1:02.2	
6	7	DOBAI-MADARASZ, CSILLA	HUNGARY	1:02.4	
7	8	HAGBERG, ANN-CHRISTINE	SWEDEN	1:02.5	
8	6	BELL, LYNETTE	AUSTRAL.	1:02.7	

NO. 12-1  
OCT. 17, 1964  
MORNING

WEATHER—CLOUDY I. TEMP.—25.0 C W. TEMP.—24.5 C

## 400M FREESTYLE—LADIES \* \* \* 400M NAGE LIBRE—DAMES

WORLD RECORD	4:39.5	RAMENOFKY, MARILYN	U. S. A.	1964
OLYMPIC RECORD	4:50.6	VON SALTZA, CHRISTINE	U. S. A.	1960

## — HEAT 1 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	100M	200M	300M	FINISH	
1	3	DUENKEL, VIRGINIA RUTH	U. S. A.	1:06.3	2:19.7	3:34.5	4:48.6	NOR
2	7	GRUNERT, MARTINA	GERMANY	1:07.3	2:24.4	3:42.2	4:57.7	
3	2	TIGELAAR, WILLEMINA H.	NETHLAND	1:09.4	2:25.8	3:43.5	5:01.8	
4	5	HOUNSELL, BARBARA	CANADA	1:11.4	2:30.8	3:48.7	5:04.9	
5	4	KIKUTANI, TAZUKO	JAPAN	1:10.2	2:27.0	3:46.4	5:06.3	
	1	FRANK, MARIA	HUNGARY				WITHDRAWAL	
	6	PACIFICI, MARIA CHRISTINA	ITALY				WITHDRAWAL	

## — HEAT 2 —

1	6	HERFORD, KIM	AUSTRAL.	1:07.1	2:20.3	3:35.1	4:49.8	
2	1	LILJA, GUN ANN-CHARLOTT	SWEDEN	1:08.6	2:23.4	3:38.2	4:52.3	
3	3	THOMPSON, PATRICIA E.	CANADA	1:09.3	2:26.1	3:45.8	5:06.7	
4	5	SILLETT, PAULINE	BRITAIN	1:11.8	2:32.3	3:53.3	5:12.2	
5	2	WEETELING, ALBERTHA	NETHLAND	1:10.1	2:31.0	3:54.2	5:13.0	
	4	USTINOVA, NATALYA	U. S. S. R.				WITHDRAWAL	
	7	SAINI, PAOLA	ITALY				WITHDRAWAL	

— HEAT 3 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	100M	200M	300M	FINISH
1	6	LONG, ELIZABETH CAROLE	BRITAIN	1:07.5	2:23.5	3:38.7	4:54.5
2	2	BENECK, DANIELA	ITALY	1:09.7	2:25.3	3:42.1	4:56.2
3	1	LJUNGGREN, ELISABETH	SWEDEN	1:09.8	2:26.1	3:42.1	4:57.0
4	3	WANKE, JUTTA	GERMANY	1:10.1	2:26.9	3:44.8	5:01.7
5	5	LALLANDE, ANN	P. RICO	1:08.9	2:26.3	3:46.3	5:04.3
6	4	PULIDO, RITA	SPAIN	1:10.0	2:28.5	3:48.2	5:06.2
7	7	SIDELSKY, MARILYN	RHODESIA	1:07.9	2:25.9	3:48.6	5:08.9
	8	VIVAOCO ROCA, ROSARIO	PERU				WITHDRAWAL

— HEAT 4 —

1	6	RAMENOFKY, MARILYN	U. S. A.	1:06.3	2:20.3	3:34.3	4:47.7	NOR
2	5	FRASER, DAWN	AUSTRAL.	1:07.5	2:21.6	3:36.9	4:52.2	
3	2	HUGHES, JENE MARRIAN	CANADA	1:08.4	2:24.2	3:40.5	4:54.8	
4	8	BYSTROVA, NATALYA	U. S. S. R.	1:10.0	2:27.9	3:47.0	5:05.0	
5	1	SOUZA, MARIA LUISA	MEXICO	1:09.2	2:26.4	3:46.3	5:05.2	
6	4	WELANDER, MAJVOR MARIA C.	SWEDEN	1:10.6	2:29.5	3:49.5	5:07.7	
7	3	BELMAR, OLGA	MEXICO	1:09.4	2:29.9	3:52.0	5:14.0	
8	7	TSENG, JOVINA	MALAYSIA	1:16.1	2:45.0	4:16.7	5:46.0	

— HEAT 5 —

1	1	STICKLES, TERRI LEE	U. S. A.	1:07.7	2:22.1	3:36.4	4:49.3	
2	5	DUNCAN, NANETTE MARY	AUSTRAL.	1:08.7	2:22.5	3:38.9	4:55.2	
3	2	HAYAKAWA, KAZUE	JAPAN	1:09.9	2:24.7	3:41.2	4:56.5	
4	8	PECHSTEIN, HEIDI	GERMANY	1:08.1	2:23.8	3:41.7	5:01.4	
5	4	MIHAYLOVA, NATALYA	U. S. S. R.	1:11.6	2:30.4	3:50.2	5:08.0	
6	6	LIM, KUM-JA	KOREA	1:18.5	2:44.9	4:11.0	5:38.7	
	3	LONSBROUGH, ANITA	BRITAIN				WITHDRAWAL	
	7	PIETRI, MONIQUE	FRANCE				WITHDRAWAL	

NO. 12-2

YOYOGI NATIONAL GYM.

OCT. 18, 1964

MORNING

WEATHER—RAINY I. TEMP.—25.0 C W. TEMP.—24.5 C

400M FREESTYLE—LADIES \* \* \* 400M NAGE LIBRE—DAMES

WORLD RECORD	4:39.5	REMENOFKY, MARILYN	U. S. A.	1964
OLYMPIC RECORD	4:47.7	REMENOFKY, MARILYN	U. S. A.	1964

— FINAL —

1	5	DUENKEL, VIRGINIA RUTH	U. S. A.	1:06.8	2:20.0	3:32.4	4:43.3	NOR
2	4	RAMENOFKY, MARILYN	U. S. A.	1:06.6	2:20.1	3:33.0	4:44.6	
3	3	STICKLES, TERRI JEE	U. S. A.	1:07.1	2:20.8	3:34.2	4:47.2	
4	2	FRASER, DAWN	AUSTRAL.	1:06.7	2:21.3	3:36.1	4:47.6	
5	8	HUGHES, JANE MARRIAN	CANADA	1:08.8	2:23.4	3:38.5	4:50.9	
6	1	LONG, ELIZABETH CAROLE	BRITAIN	1:07.1	2:21.9	3:37.2	4:52.0	
7	6	HERFORD, KIM	AUSTRAL.	1:09.4	2:22.7	3:37.1	4:52.9	
8	7	LILJA, GUN ANN-CHARLOTT	SWEDEN	1:08.6	2:23.4	3:38.6	4:53.0	



WEATHER—FINE I. TEMP.—25.0 C W. TEMP.—26.0 C

## 200M BREASTSTROKE—LADIES \* \* \* 200M BRASSE—DAMES

WORLD RECORD 2:45.4 PROZUMENSCHIKOVA, GALINA U. S. S. R. 1964  
OLYMPIC RECORD 2:49.5 LONSBROUGH, ANITA BRITAIN 1960

## — HEAT 1 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	100M	FINISH
1	1	BIMOLT, KLENA GREETJE	NETHLAND	1:21.6	2:50.7
2	7	RUYGROK, MARGUERITHA I.	AUSTRAL.	1:21.3	2:53.1
3	6	URSELMANN, WILTRUD	GERMANY	1:22.9	2:53.2
4	4	HAZLETON, TAMARA ANNE	U. S. A.	1:25.6	2:55.0
5	3	YAMAMOTO, NORIKO	JAPAN	1:23.4	2:57.0
6	5	KOVACS, ZSUZSA	HUNGARY	1:27.4	3:06.7
7	2	HARDING, MARGARET	P. RICO	1:32.2	3:16.0

## — HEAT 2 —

1	4	GRIMMER, BARBEL	GERMANY	1:20.9	2:48.6	NOR
2	1	PROZUMENSCHIKOVA, GALINA	U. S. S. R.	1:20.7	2:49.0	
3	7	ENFIELD, JACQUELINE IDA	BRITAIN	1:23.6	2:54.9	
4	5	KOK, MARGRETHA	NETHLAND	1:24.7	2:55.4	
5	6	PEPER, SUSANA NORMA	ARGENTIN	1:26.0	3:00.0	
	3	BARNETSON, SHRISTINE P.	AUSTRAL.			DISQUALIFIED
	2	EGERVARI, MARTA	HUNGARY			WITHDRAWAL

## — HEAT 3 —

1	1	BABANINA, SVETLANA	U. S. S. R.	1:20.8	2:48.3	NOR
2	7	MITCHELL, STELLA M. M.	BRITAIN	1:21.6	2:48.8	
3	6	KOLB, CLAUDIA ANNE	U. S. A.	1:21.6	2:49.7	
4	3	KUPER, URSULA	GERMANY	1:21.6	2:50.1	
5	5	CASTANE, ISABEL	SPAIN	1:25.2	2:55.7	
6	4	McGILL, LINDA CAROL	AUSTRAL.	1:25.3	2:59.4	
7	2	JOLLY, MARIANA	MALAYSIA	1:30.0	3:11.0	

## — HEAT 4 —

1	2	SLATTERY, JILL	BRITAIN	1:21.4	2:50.2
2	1	HADDON, VIVIEN JOAN	NZEALAND	1:23.2	2:53.4
3	3	LOOIJIS, GEERTRUIDA	NETHLAND	1:23.2	2:54.5
4	6	NITTA, SANDRA HAUKA	U. S. A.	1:25.0	2:58.4
5	5	FILIPPOVITS, CHRISTINE	AUSTRIA	1:25.4	2:59.2
6	7	MORIZANE, YOSHIKO	JAPAN	1:27.7	2:59.9
7	4	LI, HIN YU	HONGKONG	1:35.1	3:22.2

OCT. 12, 1964

EVENING

WEATHER—FINE I. TEMP.—24.5 C W. TEMP.—26.0 C

## 200M BREASTSTROKE—LADIES \* \* \* 200M BRASSE—DAMES

WORLD RECORD 2:45.4 PROZUMENSCHIKOVA, GALINA U. S. S. R. 1964  
 OLYMPIC RECORD 2:48.3 BABANINA, SVETLANA U. S. S. R. 1964

— FINAL —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	100M	FINISH
1	6	PROZUMENSCHIKOVA, GALINA	U. S. S. R.	1:19.8	2:46.4 NOR
2	2	KOLB, CLAUDIA ANNE	U. S. A.	1:21.0	2:47.6
3	4	BABANINA, SVETLANA	U. S. S. R.	1:21.3	2:48.6
4	3	MITCHELL, STELLA M. M.	BRITAIN	1:21.6	2:49.0
5	1	SLATTERY, JILL	BRITAIN	1:21.1	2:49.6
6	5	GRIMMER, BARBEL	GERMANY	1:21.5	2:51.0
7	8	BIMOLT, KLENA GREETJE	NETHLAND	1:22.2	2:51.3
8	7	KUPER, URSULA	GERMANY	1:22.1	2:53.9

NO. 14-1

OCT. 14, 1964

MORNING

WEATHER—RAINY I. TEMP.—24.5 C W. TEMP.—25.5 C

## 100M BUTTERFLYSTROKE—LADIES \* \* \* 100M PAPILLON—DAMES

WORLD RECORD 1:05.1 KOK, ADA NETHLAND 1964  
 OLYMPIC RECORD 1:09.5 SCHULER, CAROLYN U. S. A. 1960

— HEAT 1 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	TIME
1	2	ELLIS, KATHLEEN	U. S. A.	1:07.8 NOR
2	3	TAKAHASHI, EIKO	JAPAN	1:08.4
3	5	GEGAN, JUDITH ANN	BRITAIN	1:10.8
4	6	LASTERIE, AARTJE E.	NETHLAND	1:11.2
5	4	McGILL, LINDA CAROL	AUSTRAL.	1:11.7
6	1	BRUNNER, URSEL	GERMANY	1:13.6
7	7	TAY, MOLLY CHIN SAY	MALAYSIA	1:23.0

— HEAT 2 —

1	6	DE VARONA, DONNA E.	U. S. A.	1:07.5 NOR
2	3	COTTERILL, MARY ANNE	BRITAIN	1:09.4
3	2	STEWART, MARY PAULINE	CANADA	1:09.9
4	4	SATO, KIMIKO	JAPAN	1:10.6
	5	ERDELYI, EVA	HUNGARY	WITHDRAWAL
	7	ANDERSSON, LOTTEN KATRIN	SWEDEN	WITHDRAWAL

— HEAT 3 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	TIME
1	4	KOK, ADA	NETHLAND	1:07.8
2	7	PYRHONEN, EILA MARJATTA	FINLAND	1:07.9
3	3	HUMENIUK, MARIANNE	CANADA	1:09.5
4	6	EGERVARI, MARTA	HUNGARY	1:10.3
5	1	DEVIATOVA, TATIANA	U. S. S. R.	1:11.1
6	5	WOOD, JENNIFER	RHODESIA	1:11.3
7	2	LALLANDE, ANN	P. RICO	1:17.1

— HEAT 4 —

1	2	STOUDER, SHARON MARIE	U. S. A.	1:07.0	NOR
2	5	NOACK, UTE	GERMANY	1:09.2	
3	7	YAKOVIEVA, VALENTINA	U. S. S. R.	1:11.2	
4	1	KENNÉDY, HELEN LOUISE	CANADA	1:11.2	
5	4	SAITO, HIROKO	JAPAN	1:13.1	
6	6	DE GREENLAW, GILLIAN C.	AUSTRAL.	1:14.8	
7	3	HARDING, MARGARET	P. RICO	1:23.7	

— HEAT 5 —

1	6	PHILLIPS, GLENDA MAY	BRITAIN	1:10.3	
2	3	CECCHI, ANNA MARIA	ITALY	1:10.3	
3	4	HUSTEDE, HEIKE	GERMANY	1:10.5	
4	1	BELMAR BOHIGAS, SILVIA	MEXICO	1:12.1	
5	7	BALLESTER, MARIA	SPAIN	1:13.1	
6	5	TURNER, JAN	AUSTRAL.	1:14.4	
	2	TUROCZY, JUDIT	HUNGARY		WITHDRAWAL
	8	GUDMUNSDOTTIR, H.	ICELAND		WITHDRAWAL

YOYOGI NATIONAL GYM.

NO. 14—2

OCT. 15, 1964

EVENING

WEATHER—FINE I. TEMP.—27.0 C W. TEMP.—24.5 C

100M BUTTERFLYSTROKE—LADIES \* \* \* 100M PAPILLON—DAMES

WORLD RECORD	1:05.1	KOK, ADA	NETHLAND	1964
OLYMPIC RECORD	1:07.0	STOUDER, SHARON MARIE	U. S. A.	1964

— SEMI-FINAL 1 —

1	4	STOUDER, SHARON MARIE	U. S. A.	1:05.6	NOR
2	5	KOK, ADA	NETHLAND	1:05.9	
3	3	PYRHONEN, EILA MARJATTA	FINLAND	1:07.9	
4	2	HUMENIUK, MARIANNE	CANADA	1:09.2	
5	6	NOACK, UTE	GERMANY	1:09.3	
6	7	PHILLIPS, GLENDA MAY	BRITAIN	1:10.6	
7	1	EGERVARI, MARTA	HUNGARY	1:10.7	
8	8	SATO, KIMIKO	JAPAN	1:11.2	

— SEMI-FINAL 2 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	TIME
1	5	ELLIS, KATHLEEN	U. S. A.	1:07.2
2	4	DE VARONA, DONNA E.	U. S. A.	1:07.7
3	3	TAKAHASHI, EIKO	JAPAN	1:07.8
4	2	STEWART, MARY PAULINE	CANADA	1:08.6
5	1	HUSTEDE, HEIKE	GERMANY	1:08.8
6	6	COTTERILL, MARY ANNE	BRITAIN	1:09.4
7	7	CECCHI, ANNA MARIA	ITALY	1:10.4
8	8	EGAN, JODITH ANN	BRITAIN	1:10.5

NO. 14—3

YOYOGI NATIONAL GYM.

OCT. 16, 1964

EVENING

WEATHER—FINE I. TEMP.—26.0 C W. TEMP.—24.5 C

100M BUTTERFLYSTROKE—LADIES \* \* \* 100M PAPILLON—DAMES

WORLD RECORD	1:05.1	KOK, ADA	NETHLAND	1964
OLYMPIC RECORD	1:05.6	STOUDER, SHARON MARIE	U. S. A.	1964

— FINAL —

1	4	STOUDER, SHARON MARIE	U. S. A.	1:04.7	NWR, NOR
2	5	KOK, ADA	NETHLAND	1:05.6	
3	3	ELLIS, KATHLEEN	U. S. A.	1:06.0	
4	7	PYRHONEN, EILA MARJATTA	FINLAND	1:07.3	
5	6	DE VARONA, DONNA E.	U. S. A.	1:08.0	
6	8	HUSTEDE, HEIKE	GERMANY	1:08.5	
7	2	TAKAHASHI, EIKO	JAPAN	1:09.1	
8	1	STEWART, MARY PAULINE	CANADA	1:10.0	

NO. 15—1

OCT. 13, 1964

AFTERNOON

WEATHER—CLOUDY I. TEMP.—24.0 C W. TEMP.—26.0 C

100M BACKSTROKE—LADIES \* \* \* 100M DOS—DAMES

WORLD RECORD	1:08.3	DUENKEL, VIRGINIA RUTH	U. S. A.	1964
OLYMPIC RECORD	1:09.0	BURKE, LYNN	U. S. A.	1960

— HEAT 1 —

1	3	HARMAR, NINA ADAMS	U. S. A.	1:09.8
2	6	TANAKA, SATOKO	JAPAN	1:10.0
3	2	LODGROVE, LINDA KAY	BRITAIN	1:10.3
4	4	NEUBER, HELGA	GERMANY	1:11.4
5	5	KENNEDY, HELEN LOUISE	CANADA	1:12.5
6	1	WOOSLEY, BELINDA	AUSTRAL.	1:15.3
7	7	TSENG, JOVINA	MALAYSIA	1:20.7

— HEAT 2 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	TIME	
1	2	DUENKEL, VIRGINIA RUTH	U. S. A.	1:08.9	NOR
2	4	WEIR, EILLEN	CANADA	1:09.7	
3	1	KIHARA, MICHIKO	JAPAN	1:11.1	
4	8	MICHAELSEN, KIRSTEN	DENMRK	1:11.2	
5	5	SAVELIEVA, TATIANA	U. S. S. R.	1:11.8	
6	3	BALLA, MARIA	HUNGARY	1:12.0	
7	7	WEETELING, ALBERTHA	NETHLAND	1:13.1	
8	6	SEITZ, URSULA	AUSTRIA	1:13.3	

— HEAT 3 —

1	2	FURGUSON, CATHY JEAN	U. S. A.	1:08.8	
2	6	BORIE, FRANCOISE	FRANCE	1:11.8	
3	7	NERGER, PETRA	GERMANY	1:12.1	
4	4	LEWIS, SYLVIA ANNE	BRITAIN	1:12.2	
5	3	VAN VELSEN, MARIA MARTINA	NETHLAND	1:12.2	
6	8	DAYMAN, MARLENE ANNE	AUSTRAL.	1:12.9	
7	5	ROCKEMBACH, ANNELIESSE	VENEZULA	1:14.1	
8	1	HARDING, MARGARET	P. RICO	1:19.5	

— HEAT 4 —

1	3	CARON, CHRISTINE	FRANCE	1:08.5	NOR
2	7	NORFOLK, JILL ROSEMARY	BRITAIN	1:10.6	
3	1	SCHMIDT, INGRID	GERMANY	1:11.1	
4	2	MIHAYLOVA, NATALYA	U. S. S. R.	1:11.4	
5	6	WINKEL, KORNELIA	NETHLAND	1:11.6	
6	4	DUNCAN, NANETTE MARY	AUSTRAL.	1:12.4	
7	8	PEPER, SUSANA NORMA	ARGENTIN	1:13.2	
8	5	CHUN, OK-JA	KOREA	1:21.7	

YOYOGI NATIONAL GYM.

NO. 15-2  
OCT. 14, 1964  
EVENING

100M BAKSTROKE—LADIES \* \* \* 100M DOS—DAMES

WORLD RECORD	1:08.3	DVENKEL, VIRGINIA RUTH	U. S. A.	1964
OLYMPIC RECORD	1:08.5	CARON, CHRISTINE	FRANCE	1964

— FINAL —

1		FERGUSON, CATHY JEAN	U. S. A.	1:07.7	NWR, NOR
2		CARON, CHRISTINE	FRANCE	1:07.5	
3		DUENKEL, VIRGINIA RUTH	U. S. A.	1:08.0	
4		TANAKA, SATOKO	JAPAN	1:08.6	
5		HARMAL, NINA ADAMS	U. S. A.	1:09.4	
6		LUDGROVE, LINDA KAY	BRITAIN	1:09.5	
7		WEIR, EILLEN	CANADA	1:09.8	
8		NORFOLK, JILL ROSEMARY	BRITAIN	1:11.2	

WEATHER—FINE I. TEMP.—28.0 C W. TEMP.—24.5 C

## 400M INDIVIDUAL MEDLEY—LADIES \* \* \* 400M 4 NAGES—DAMES

WORLD RECORD 5:14.9 DE VARONA, DONNA E. U.S.A. 1964

## — HEAT 1 —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	100M	200M	300M	FINISH
1	3	LONSBROUGH, ANITA	BRITAIN	1:14.3	2:40.6	4:14.4	5:30.6 NOR
2	4	FINNERAN, SHARON EVAN	U.S.A.	1:13.4	2:40.0	4:19.4	5:32.7
3	5	EGERVARI, MARTA	HUNGARY	1:15.7	2:41.6	4:16.7	5:35.8
4	2	ZIMMERMANN, HELGA	GERMANY	1:15.5	2:45.1	4:24.9	5:38.9
5	6	CORTIS, JANE	AUSTRAL.	1:16.9	2:40.7	4:23.5	5:43.6
	7	SIDELSKY, MARILYN	RHODESIA				WITHDRAWAL

## — HEAT 2 —

1	2	RANDALL, MARTHA IRENE	U.S.A.	1:13.9	2:35.2	4:14.8	5:27.8 NOR
2	7	HOUNSELL, BARBAR	CANADA	1:18.4	2:44.2	4:22.9	5:38.4
3	6	LASTERIE, AARTJE E.	NETHLAND	1:14.6	2:44.0	4:23.6	5:41.3
4	5	BLANK, HARRIET	GERMANY	1:15.8	2:45.2	4:22.6	5:42.4
5	4	CASTANE, ISABEL	SPAIN	1:20.0	2:50.2	4:24.3	5:50.7
6	3	HARDING, MARGARET	P. RICO	1:19.3	2:55.9	4:44.3	6:10.7

## — HEAT 3 —

1	5	HOLLETZ, VERONIKA	GERMANY	1:13.6	2:34.7	4:11.2	5:26.8 NOR
2	6	HEUKELS, ELIZABETH ANNA	NETHLAND	1:15.6	2:41.6	4:12.9	5:32.4
3	4	MAGILL, LINDA CAROL	AUSTRAL.	1:13.9	2:43.6	4:20.0	5:38.3
4	2	EZAKA, KIMIKO	JAPAN	1:15.6	2:45.7	4:24.7	5:42.1
5	7	STRANGE, KIRSTEN	DENMARK	1:17.6	2:48.5	4:23.8	5:44.4
6	3	JOHNSON, PAMELA	BRITAIN	1:22.8	2:54.4	4:44.4	6:11.9
	1	VIVANCO ROCA, ROSARIO	PERU				WITHDRAWAL

## — HEAT 4 —

1	5	DE VARONA, DONNA E.	U.S.A.	1:10.9	2:31.3	4:10.4	5:24.2 NOR
2	3	HEEMSKERK, MARIANNE Y.	NETHLAND	1:13.4	2:41.3	4:18.9	5:38.6
3	1	KENNEDY, HELEN LOUISE	CANADA	1:18.5	2:46.9	4:34.9	5:49.9
4	7	MATSUDA, NATSUKO	JAPAN	1:14.8	2:49.6	4:30.3	5:51.5
5	6	BELMAR BOHIGAS, SILVIA	MEXICO	1:17.1	2:51.8	4:39.5	6:00.7
	2	LJUNGGREN, ELISABETH	SWEDEN				WITHDRAWAL
	4	MURPHY, JANICE	AUSTRAL.				WITHDRAWAL

YOYOGI NATIONAL GYM.

OCT. 17, 1964

EVENING

WEATHER—FINE I. TEMP. — 26.5 C W. TEMP. — 24.5 C

## 400M INDIVIDUAL MEDLEY—LADIES \* \* \* 400M 4 NAGES—DAMES

WORLD RECORD 5:14.9 DE VARONA, DONNA E. U. S. A. 1964  
 OLYMPIC RECORD 5:24.2 DE VARONA, DONNA E. U. S. A. 1964

— FINAL —

PLACE	LANE	NAME	COUNTRY	100M	200M	300M	FINISH
1	4	DE VARONA, DONNA E.	U. S. A.	1:09.9	2:28.3	4:05.9	5:18.7 NOR
2	7	FINNERAN, SHARON EVANS	U. S. A.	1:11.8	2:35.7	4:12.0	5:24.1
3	3	RANDALL, MARTHA ISENE	U. S. A.	1:12.6	2:34.2	4:12.9	5:24.2
4	5	HOLLETZ, VERONIKA	GERMANY	1:13.5	2:36.8	4:12.3	5:25.6
5	8	McGILL, LINDA CAROL	AUSTRAL.	1:13.8	2:40.2	4:13.0	5:28.4
6	2	HEUKELS, ELIZABETH ANNA	NETHLAND	1:15.2	2:42.6	4:13.7	5:30.3
7	6	LONSBROUGH, ANITA	BRITAIN	1:14.8	2:42.5	4:14.5	5:30.5
8	1	EGERVARI, MARTA	HUNGARY	1:14.9	2:42.5	4:18.5	5:38.4

OCT. 14, 1964

AFTERNOON

WEATHER—RAINY I. TEMP. — 24.5 C W. TEMP. — 25.5 C

## 4×100M FREESTYLE RELAY—LADIES \* \* \* 4×100M NAGE LIBRE—DAMES

WORLD RECORD 4:07.6 U. S. A. 1964  
 OLYMPIC RECORD 4:08.9 U. S. A. 1960

— HEAT 1 —

PLACE	LANE	COUNTRY	ORDER MEMBER	100M	FINISH
1	2	U. S. A.	1) HALLOCK, JEANNE COURTNEY	1:02.8	4:12.2
			2) BRICKER, ERIKA ELOISE	1:04.0	
			3) ALLSUP, LYNNE MARIE	1:02.8	
			4) SHERMAN, PATIENCE HALSEY	1:02.6	
2	3	SWEDEN	1) LILJA, GUN ANN-CHARLOTT	1:04.1	4:13.5
			2) ANDERSSON, LOTTEN KATRIN	1:04.4	
			3) JAFVERT, ULLA BIRGITTA E.	1:03.5	
			4) HAGBERG, ANN-CHRISTINE	1:01.5	
3	5	NETHLAND	1) VAN DER WILDT, PAULINA J.	1:04.2	4:14.8
			2) BEUMER, CATHARINA JOHANNA	1:04.2	
			3) VAN WEERDENBURG, W.	1:04.3	
			4) TERPSTRA, ERICA GEORGINE	1:02.1	
4	6	CANADA	1) THONPSON, PATRICIA E.	1:04.5	4:14.9
			2) STEWART, MARY PAULINE	1:04.4	
			3) KENNEDY, HELEN LOUISE	1:04.1	
			4) LAY, MARION BEVERLY	1:01.9	
5	4	JAPAN	1) URAKAMI, RYOKO	1:05.5	4:19.2
			2) KIHARA, MICHIKO	1:03.7	
			3) KIMURA, TOYOKO	1:04.0	
			4) AZUMA, MIYOKO	1:06.0	

PLACE	LANE	COUNTRY	ORDER MEMBER	100M	FINISH
1	2	AUSTRAL.	1) THORN, ROBYN 2) MURPHY, JANICE 3) TURNER, JAN 4) BELL, LYNETTE	1:03.7 1:02.6 1:03.5 1:02.0	4:11.8
2	4	HUNGARY	1) TUROCZY, JUDIT 2) FRANK, MARIA 3) ERDELYI, EVA 4) DOBAI, MADARASZ, CSILLA	1:03.9 1:04.1 1:03.4 1:02.0	4:13.4
3	6	GERMANY	1) PECHSTEIN, HEIDI 2) BEIERLEIN, TRAUDI 3) GRUNERT, MARTINA 4) SCHUMACHER, RITA	1:04.6 1:03.9 1:03.2 1:03.2	4:14.9
4	5	ITALY	1) SAINI, PAOLA 2) PACIFICI, MARIA CHRISTINA 3) SACCHI, MARA 4) BENECK, DANIELA	1:04.5 1:03.3 1:04.7 1:02.5	4:15.0
5	3	BRITAIN	1) KEEN, SANDRA 2) SILLEST, PAULINE 3) LONG, ELIZABETH CAROLE 4) WILKINSON, DAIANA E.	1:03.8 1:04.2 1:03.2 1:03.9	4:15.1

NO. 17-2

YOYOGI NATIONAL GYM.

OCT. 15, 1964

EVENING

WEATHER—FINE I. TEMP.—25.0 C W. TEMP.—24.5 C

4×100M FREESTYLE RELAY—LADIES \* \* \* 4×100M NAGE LIBRE—DAMES

WORLD RECORD 4:07.6 U. S. A. 1964  
OLYMPIC RECORD 4:08.9 U. S. A. 1960

— FINAL —

1	5	U. S. A.	1) STOUDE, SHARON MARIE 2) DE VARONA, DONNA E. 3) WATSON, LILLIAN DEBRA 4) ELLIS, KATHLEEN	1:01.2 1:00.9 1:00.7 1:01.0	4:03.8 NWR, NOR
2	4	AUSTRAL.	1) THORN, ROBYN 2) MURPHY, JANICE 3) BELL, LYNETTE 4) FRASER, DAWN	1:03.8 1:02.9 1:01.6 58.6	4:06.9
3	2	NETHLAND	1) VAN DER WILDT, PAULINA J. 2) BEUMER, CATHARINA JOHANNA 3) VAN WEERDENBURG, W. 4) TERPSTRA, ERICA GEORGINE	1:04.6 1:03.8 1:02.6 1:01.0	4:12.0
4	3	HUNGARY	1) TUROCZY, JUDIT 2) ERDELYI, EVA 3) TAKACS, KATALIN 4) DOBAI, MADARASZ CSILLA	1:03.2 1:04.2 1:03.0 1:01.7	4:12.1
5	6	SWEDEN	1) LILJA, GUN ANN-CHARLOTT 2) ANDERSSON, LOTTEN KATRIN 3) JAFVERT, ULLA BIRGITTA E. 4) HAGBERG, ANN-CHRISTINE	1:04.5 1:04.7 1:03.3 1:01.5	4:14.0
6	7	GERMANY	1) GRUNERT, MARTINA 2) BEIERLEIN, TSAUDI 3) SCHUMACHER, RITA 4) PECHSTEIN, HEIDI	1:03.5 1:05.1 1:02.9 1:03.5	4:15.0
7	1	CANADA	1) STEWART, MARY PAULINE 2) THONPSON, PATRICIA E. 3) KENNEDY, HELEN LOUISE 4) LAY, MARION BEVERLY	1:05.5 1:04.3 1:03.6 1:02.5	4:15.9
8	8	ITALY	1) SAINI, PAOLA 2) PACIFICI, MARIA CHRISTINA 3) SACCHI, MARA 4) BENECK, DANIELA	1:04.5 1:04.2 1:04.6 1:03.9	4:17.2



## 4×100M MEDLEY RELAY—LADIES \* \* \* 4×100M 4 NAGES—DAMES

WORLD RECORD	4:34.6	U. S. A.	1964
OLYMPIC RECORD	4:41.1	U. S. A.	1960

## — HEAT 1 —

PLACE	LANE	COUNTRY	ORDER MEMBER	100M	FINISH
1	4	U. S. S. R.	1) SAVELIEVA, TATIANA	1:10.0	4:39.1 NOR
			2) BABANINA, SVETLANA	1:15.2	
			3) DEVIATOVA, TATIANA	1:10.0	
			4) BYSTROVA, NATALYA	1:03.4	
2	6	JAPAN	1) TANAKA, SATOKO	1:08.6	4:40.6
			2) YAMAMOTO, NORIKO	1:20.6	
			3) TAKAHASHI, EIKO	1:08.0	
			4) KIHARA, MICHIKO	1:03.4	
3	5	NETHLAND	1) WINKEL, KORNELIA	1:11.5	4:44.1
			2) BIMOLT, KLENA GREETJE	1:18.1	
			3) LASTERIE, AARTJE E.	1:12.4	
			4) TERPSTRA, ERICA GEORGINE	1:02.1	
4	3	AUSTRAL.	1) DUNCAN, NANETTE MARY	1:13.0	4:52.3
			2) RUYGROK, MARGHERITHA I.	1:21.9	
			3) MCGILL, LINDA CAROL	1:16.1	
			4) FRASER, DAWN	1:01.3	

## — HEAT 2 —

1	2	U. S. A.	1) HARMAR, NINA ADAMS	1:10.4	4:41.6
			2) REEDER, JUDITTH ANNE	1:22.3	
			3) PITT, SUSAN KAY	1:07.0	
			4) WATSON, LILLIAN DEBRA	1:01.9	
2	5	GERMANY	1) SCHMIDT, INGRID	1:11.2	4:43.2
			2) GRIMMER, BARBEL	1:19.2	
			3) HUSTECE, HEIKE	1:09.6	
			4) GRUNERT, MARTINA	1:03.2	
3	6	BRITAIN	1) LUDGROVE, LINDA KAY	1:10.6	4:44.3
			2) MITCHELL, STELLA M. M.	1:20.0	
			3) COTTERILL, MARY ANNE	1:10.2	
			4) LONG, ELIZABETH CAROLE	1:03.5	
4	4	CANADA	1) WEIR, EILLEN	1:10.3	4:46.6
			2) LAY, MARION BEVERLY	1:22.9	
			3) STEWART, MARY PAULINE	1:09.7	
			4) KENNEDY, HELEN LOUISE	1:03.7	
5	3	HUNGARY	1) BALLA, MARIA	1:11.5	4:48.9
			2) KOVACS, ZSUZSA	1:23.0	
			3) EGERVARI, MARTA	1:12.0	
			4) DOBAI, MADARASZ CSILLA	1:02.4	

## 4×100M MEDLAY RELAY—LADIES \* \* \* 4×100M 4 NAGES—DAMES

WORLD RECORD	4:34.6	U. S. A.	1964
OLYMPIC RECORD	4:39.1	U. S. S. R.	1964

## — FINAL —

PLACE	LANE	COUNTRY	ORDER MEMBER	100M	FINISH
1		U. S. A.	1) FERGUSON, CATHY JEAN 2) GOYETTE, CYNTHIA LEE 3) STOUDEER, SHARON MARIE 4) ELLIS, KATHLEEN	1:08.6 1:18.3 1:06.1 1:00.9	4:33.9 NWR, NOR
2		NETHLAND	1) WINKEL, KORNELIA 2) BIMOLT, KLENA GREETJE 3) KOK, ADA 4) TERPSTRA, ERICA GEORGINE	1:12.2 1:18.5 1:05.0 1:01.3	4:37.0
3		U. S. S. R.	1) SAVELIEVA, TATIANA 2) BABANINA, SVETLANA 3) DEVIATOVA, TATIANA 4) USTINOVA, NATALYA	1:11.1 1:15.3 1:09.3 1:03.5	4:39.2
4		JAPAN	1) TANAKA, SATOKO 2) YAMAMOTO, NORIKO 3) TAKAHASHI, EIKO 4) KIHARA, MICHIKO	1:09.5 1:20.5 1:09.3 1:02.7	4:42.0
5		BRITAIN	1) NORFOLK, JILL ROSEMARY 2) MITCHELL, STELLA M. M. 3) COTTERILL, MARY ANNE 4) LONG, ELIZABETH CAROLE	1:12.1 1:19.8 1:09.4 1:04.5	4:45.8
6		CANADA	1) WEIR, EILEEN 2) LAY, MARION BEVERLY 3) STEWART, MARY PAULINE 4) KENNEDY, HELEN LOUISE	1:11.5 1:23.9 1:09.3 1:05.2	4:49.9
		GERMANY	1) SCHMIDT, INGRID 2) GRIMMER, BARBEL 3) HUSTEDE, HEIKE 4) GRUNERU, MARTINA	1:11.2 1:19.0 1:10.8 1:01.5	DISQUALIFIED
		HUNGARY	1) BALLA, MARIA 2) KOVACS, ZSUZSA 3) EGERVARI, MARTA 4) DOBAI, MADARASZ CSILLA	1:12.3 1:23.6 1:11.4 1:01.4	DISQUALIFIED

YOYOGI NATIONAL GYM.

SPRINGBOARD DIVING—MEN \* \* \* PLONGEON DU TREMPIN—HOMMES

PLC ST. OR.	NAME	COUNTRY	REQUIRED DIVES					SUB-TOTAL	VOLUNTARY DIVES					TOTAL POINTS
			1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
1 17	SITZBERGER, KENNETH R.	U.S.A.	11.68	12.07	12.92	10.65	12.54	59.86	19.76	19.04	19.17	21.28	20.79	159.90
2 23	GORMAN, FRANCIS XAXIER	U.S.A.	11.84	13.60	15.58	11.40	13.68	66.10	20.80	19.09	19.98	10.08	21.58	157.63
3 18	ANDREASEN, LARRY EDWIN	U.S.A.	11.52	12.75	14.44	10.95	13.49	63.15	17.28	19.88	16.24	11.88	15.34	143.77
4 12	POPHAL, HANS-DIETER	GERMANY	11.20	11.56	13.30	10.20	13.30	59.56	15.36	16.24	16.10	17.64	17.68	142.58
5 8	LUNDQVIST, GORAN C. O.	SWEDEN	10.56	11.05	12.54	9.10	13.68	56.93	18.20	16.64	16.80	18.20	11.88	138.65
6 6	POLULJAKH, BORIS	U.S.S.R.	11.36	11.56	13.87	9.90	11.59	58.28	18.46	16.20	14.56	13.72	17.42	138.64
7 19	SAFONOV, MIKHAIL	U.S.S.R.	11.20	12.07	13.68	10.35	12.54	59.84	15.86	18.36	17.82	15.12	7.00	134.00
8 20	VASIN, VLADIMIR	U.S.S.R.	11.04	11.73	13.87	9.30	12.54	58.48	12.48	20.28	15.64	14.28	12.32	133.48

\* \* \* \* \*

REFEREE SMITH, J.  
 JUDGE BUROV, G. MAYER, G. KRIGSTEIN, L. WEINAS, L. E. GRANTSTUART, R. W.  
 RAANAN, Y. ANDERSON, M.  
 SCORER IWASA, M.

YOYOGI NATIONAL GYM.

SPRINGBOARD DIVING—MEN \* \* \* PLONGEON DU TREMPAIN—HOMMES

PLC ST. OR.	NAME	COUNTRY	1	2	3	4	5	SUB-TOTAL	VOLUNTARY DIVES 1	VOLUNTARY DIVES 2	TOTAL POINTS
9 29	CANDER, JOHN	BRITAIN	10.88	12.07	10.26	10.50	12.54	56.25	17.16	17.28	90.69
10 10	CAGNOTTO, FRANCO	ITALY	11.84	12.41	13.87	9.49	11.97	59.58	15.08	14.88	89.54
11 2	TOSA, TADAO	JAPAN	10.88	11.05	11.21	10.20	11.59	54.93	17.16	17.01	89.10
12 22	NINO DE RIVERA, L. L.	MEXICO	11.36	11.73	12.92	10.20	12.54	58.75	16.90	12.22	87.87
13 27	DIBIASI, KLAUS	ITALY	10.08	11.90	13.87	8.71	11.78	56.34	17.04	14.30	87.68
14 21	SPERLING, ROLF	GERMANY	8.96	9.69	12.54	9.30	11.97	52.46	16.32	18.20	86.98
15 4	GAXIOLA ROBLES, ALVARO	MEXICO	8.96	7.99	12.73	10.05	11.21	50.94	18.20	16.64	85.78
16 5	MRKWICKA, KURT	AUSTRIA	11.68	12.41	10.64	10.95	8.55	54.23	16.08	15.41	85.72
17 11	ROSENFELDT, HORST	GERMANY	10.24	11.39	11.97	9.60	11.78	54.98	15.34	15.34	85.66
18 28	DINSLEY, THOMAS EDWARD	CANADA	10.08	10.71	11.97	8.70	12.54	54.00	15.86	13.16	83.02
19 3	ROBINSON GONZALEZ, J. D. J.	MEXICO	11.04	10.20	10.07	10.05	11.78	53.14	18.36	10.92	82.42
20 25	KOSKINEN, PENTTI P. I.	FINLAND	9.76	9.35	10.83	9.30	13.49	52.73	18.20	11.07	82.00
21 7	YAMANO, TOSHIO	JAPAN	8.32	9.86	12.54	9.60	11.78	52.10	16.12	13.52	81.74
22 14	ANDERSON, JERRY H.	P. RICO	8.12	10.88	11.97	7.41	10.45	48.83	15.34	16.90	81.07
23 26	SONG, JAE-UNG	KOREA	9.28	8.84	11.59	8.45	11.40	49.56	14.26	11.28	75.10
24 15	KANETO, SHUNSUKE	JAPAN	11.06	12.75	6.84	7.50	13.68	51.83	17.94	1.82	71.59
25 9	PARASAD, ANSUYA	INDIA	9.60	9.69	9.88	7.50	10.83	47.50	11.22	10.32	69.04
26 24	FASIHI, MANUCHER	IRAN	7.42	8.67	10.45	7.02	8.46	42.02	12.42	12.76	67.20
27 16	ROSSITER, TERRY	RHODESIA	8.80	6.80	11.40	4.65	8.93	40.58	12.42	8.06	61.06

\* \* \* \* \*

OCT. 12, 1964

YOYOGI NATIONAL GYM.

SPRINGBOARD DIVING--LADIES \* \* \* PLONGEON DU TREMPIN--DAMES

PLC ST. OR.	NAME	COUNTRY	1	2	3	4	5	SUB-TOTAN	1	2	3	4	5	TOTAL POINTS
1 1	ENGEL-KRAMER, INGRID	GERMANY	11.84	12.24	13.68	10.80	14.25	62.81	15.60	16.28	15.87	17.16	17.28	145.00
2 12	COLLIER, JEANNE ELLEN	U.S.A.	11.68	12.75	13.68	10.35	11.78	60.24	14.30	15.40	11.50	19.50	17.42	138.36
3 3	WILLARD, MARY PATRICIA	U.S.A.	11.52	13.77	14.25	10.50	14.06	64.10	15.60	12.98	15.12	14.30	16.08	138.18
4 20	GOSSICK, SUE	U.S.A.	11.20	12.41	12.16	8.97	12.73	57.47	14.40	17.42	15.18	14.52	10.71	129.70
5 16	FEDOSOVA, TAMARA	U.S.S.R.	11.84	12.75	14.06	7.20	12.16	58.01	12.88	14.96	11.28	14.08	15.12	126.33
6 19	ANOKHINA, ELENA	U.S.S.R.	10.72	11.73	12.92	9.60	12.92	57.89	11.44	15.87	15.84	10.56	14.00	125.60
7 10	MABUCHI, KANOKO	JAPAN	9.44	11.39	10.26	10.35	12.35	53.79	16.08	15.40	14.07	10.34	15.60	125.28
8 6	HILBERT, ANGELIKA	GERMANY	10.08	12.07	13.30	9.15	11.59	56.19	14.74	15.60	10.12	15.18	11.44	123.27
9 21	WATANABE, KUMIKO	JAPAN	11.36	6.97	12.35	9.49	13.49	53.66	15.62	15.12	14.30	10.12	11.52	120.34

\* \* \* \* \*

REFEREE MATVEIEFF, G.

JUDGE ADERHOLD, H. HONIKMAN, B. SHIBAHARA, T. LEE, S. PETRUHINA HEATLY, P.

MARISCAL, A. G.

SCORER IWASA, M.

OCT. 12, 1964

## YOYOGI NATIONAL GYM.

## SPRINGBOARD DIVING—LADIES \* \* \* PLONGEON DU TREMPIN—DAMES

PLC ST. OR.	NAME	COUNTRY	1	2	3	4	5	SUB- TOTAL	VOLUNTARY DIVES 1	2	TOTAL POINTS
10 18	LANZKE, CHRISTIANE	GERMANY	9.92	12.24	13.11	9.30	13.11	57.68	10.80	14.08	82.56
11 3	STEWART, JUDY LEONA	CANADA	8.40	11.05	13.11	8.19	12.16	52.91	14.30	15.18	82.39
12 13	BAKLANOVA, VERA	U. S. S. R.	11.36	11.56	11.21	9.75	9.88	53.76	12.88	15.40	82.04
13 17	BRADSHOW, ROBYN JEAN	AUSTRAL.	9.44	10.37	12.35	9.15	9.31	50.62	14.30	12.72	77.64
14 7	KNIGHT, SUSAN MARGARET	AUSTRAL.	9.44	7.14	12.16	10.20	9.69	48.63	14.49	13.64	76.76
15 11	SVOBODA, ELISABETH	AUSTRIA	9.10	9.35	11.97	6.89	11.40	48.71	12.10	14.64	75.45
16 2	PERTMAYR, INGEBORG	AUSTRIA	8.48	8.84	11.40	9.60	8.93	47.25	13.86	13.20	74.31
17 4	GRANT STUART, LINDSAY M.	RHODESIA	10.08	7.31	12.16	9.00	11.02	49.57	12.98	11.73	74.28
18 5	SINDELAR-PACHOWSKY, U.	AUSTRIA	10.08	10.20	11.78	8.97	6.84	47.87	10.08	12.32	70.27
19 15	MORROW, CAROL ANN	CANADA	9.66	11.22	12.16	7.95	10.45	51.44	7.35	5.28	64.07
20 14	BEZUIDENHOUT, SARIE	RHODESIA	8.26	8.33	11.40	7.65	9.12	44.76	10.34	8.40	63.50
21 9	RYBRANT, KERSTIN INGEGARD	SWEDEN	8.64	3.57	10.07	7.54	8.55	38.37	12.81	10.56	61.74

\* \* \* \* \*

OCT. 18, 1964

YOYOGI NATIONAL GYM.

HIGH DIVING—MEN \* \* \* PLONGEON DE HAUT VOL—HOMMES

PLC ST. OR.	NAME	COUNTRY	DIVES WITH LIMIT						SUB-TOTAL	DIVES WITHOUT LIMIT				TOTAL POINTS
			1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	
1 22	WEBSTER ROBERT DAVID	U.S.A.	12.16	13.30	14.06	11.20	12.96	17.25	80.93	12.25	18.20	18.72	18.48	148.58
2 20	DIBIASI, KLAUS	ITALY	11.36	11.52	14.25	13.49	12.96	16.10	79.68	17.94	16.56	15.60	17.76	147.54
3 16	GOMPF, THOMAS EUGENE	U.S.A.	9.60	13.68	12.06	10.65	11.70	16.90	74.59	18.20	19.44	15.36	18.98	146.57
4 21	MADRIGAL GARCIA, ROBERTO MEXICO		9.45	12.78	11.78	12.16	11.25	17.94	75.36	18.46	17.28	16.79	16.38	144.27
5 1	PALAGIN, VIKTOR	U.S.S.R.	10.08	12.96	13.49	16.32	11.20	13.30	77.35	17.42	16.32	16.12	16.56	143.77
6 9	PHELPS, BRIAN ERIC	BRITAIN	11.84	12.54	12.35	10.40	12.42	15.84	75.39	18.46	16.33	15.84	17.16	143.18
7 30	SPEHLING, ROLF	GERMANY	9.76	12.24	12.54	16.33	11.36	13.11	75.34	16.90	16.10	17.52	16.38	142.24
8 14	OTSUBO, TOSHIO	JAPAN	10.72	12.24	11.20	13.49	13.49	14.72	75.86	18.46	15.60	12.42	19.71	142.05

\* \* \* \* \*

REFEREE SMITH, J.  
 JUDGE KRIGSTEIN, L. SNICK, J. HEATLY, P. ANDERSON, M. ADERHOLD, H. RAANAN, Y.  
 SCORER MARISCAL, A. G. IWASA, M.

## HIGH DIVING—MEN \* \* \* PLONGEON DE HAUT VOL—HOMMES

## THE RESULT OF PRELIMINARY ROUND

PLC ST. OR.	NAME	COUNTRY	1	2	3	4	5	6	SUB-TOTAL	W/O LIMIT	TOTAL POINTS
9 27	VOLKER, GERD	GERMANY	9.10	15.64	12.54	12.16	11.36	14.96	75.76	15.86	91.62
10 15	NINO DE RIVERA, L. L.	MEXICO	7.84	16.79	12.73	12.54	12.00	11.88	73.78	27.68	91.46
11 3	KANETO, SHUNSUKE	JAPAN	10.08	10.98	12.92	13.11	10.88	16.33	74.30	17.01	91.31
12 2	LOBANOV, IGOR	U. S. S. R.	12.92	13.87	11.16	15.87	12.24	9.30	75.36	15.86	91.22
13 25	POGOZHEV, VIKTOR	U. S. S. R.	11.34	10.88	11.52	12.42	14.49	12.92	73.57	17.16	90.73
14 13	ARIMITSU, YOSUKE	JAPAN	11.04	10.40	13.49	11.78	15.41	12.06	74.18	16.38	90.56
15 19	KONZORR, KLAUS	GERMANY	10.72	12.92	13.11	14.49	12.42	10.56	74.22	15.86	90.08
16 24	KITCHER, ANTHONY WILLIAM	BRITAIN	11.04	12.73	10.08	11.88	15.18	12.92	73.82	16.12	89.95
17 32	MRKWICKA, KURT	AUSTRIA	10.56	12.54	13.11	11.88	14.49	10.40	72.98	16.12	89.10
18 8	GAXIOLA ROBLES, ALVARO	MEXICO	7.35	11.40	11.78	12.06	9.90	17.68	70.17	16.90	87.07
19 12	VITUCCI, LOUIS VINCENT	U. S. A.	10.50	13.87	14.25	0.00	14.04	17.42	70.08	16.32	86.40
20 4	SVEJSTRUP, SOREN	DENMARK	10.26	11.78	13.40	14.72	10.24	9.60	70.00	15.36	85.36
21 5	DORA, JOZSEF	HUNGARY	11.52	9.76	11.97	13.80	9.76	11.97	68.78	15.84	84.62
22 28	CHO, CHANG-JAE	KOREA	11.52	14.49	12.35	8.40	10.24	9.60	66.60	17.42	84.02
23 23	CAGNOTTO, FRANCO	ITALY	10.35	6.88	11.40	10.64	11.88	15.18	66.33	16.90	83.23
24 11	DINSLEY, THOMAS EDWARD	CANADA	9.92	11.59	10.64	10.08	14.95	11.16	68.34	14.88	83.22
25 31	WOOD, WILLIAM RALPH	BRITAIN	10.08	12.92	9.69	10.72	12.60	15.41	71.42	10.40	81.82
26 18	SONG, JAE-UNG	KOREA	10.80	14.72	11.78	12.16	7.36	10.08	66.90	14.82	81.72
27 17	ANDERSON, JERRY H	P. RICO	10.44	11.97	11.59	13.80	9.44	8.00	65.24	14.30	79.54
28 7	ROSSITER, TERRY	RHODESIA	12.98	10.64	10.08	8.68	13.57	7.68	63.63	15.60	79.23
29 26	HENAO, DIEGO	COLUMBIA	13.64	12.35	9.88	10.24	12.20	3.52	61.83	15.08	76.91
30 29	SINGH, SOHAN	INDIA	8.80	9.12	10.62	9.00	13.57	8.67	59.78	14.40	74.18
6	DIBIASI, CARLO	ITALY									WITHDRAWAL
10	LUNDQVIST, GORAN C. O.	SWEDEN									WITHDRAWAL

\* \* \* \* \*



YOYOGI NATIONAL GYM.

HIGH DIVING--LADIES \* \* \* PLONGEON DE HAUT VOL--DAMES

PLC ST. OR.	NAME	COUNTRY	1	2	3	4	SUB-TOTAL	1	2	3	TOTAL POINTS
1 24	BUSH, LESLEY LEIGH	U.S.A.	12.16	13.20	11.52	13.30	50.18	16.90	17.76	14.96	99.80
2 9	ENGEL KRAMER, INGRID	GERMANY	11.36	13.30	11.68	13.49	49.83	16.64	15.18	16.80	98.45
3 6	ALEKSEEVA, GALINA	U.S.S.R.	8.80	13.30	11.68	12.92	46.70	19.24	15.34	16.32	97.60
4 12	COOPER, LINDA LEE	U.S.A.	9.92	12.20	10.72	12.92	45.76	14.96	19.50	16.08	96.30
5 10	LANZKE, CHRISTIANE	GERMANY	11.04	11.21	11.36	13.30	46.91	16.08	15.41	14.52	92.92
6 19	PERTMAYR, INGEBORG	AUSTRIA	10.72	12.20	10.72	12.92	46.56	15.86	15.40	14.88	92.70
7 23	KUZNETSOVA, NATALIA	U.S.S.R.	11.20	13.49	11.04	11.59	47.32	14.16	14.03	15.40	90.91
8 1	TALMAGE, BARBARA ELLEN	U.S.A.	9.12	10.80	11.04	12.16	43.12	16.32	13.78	16.38	89.60
9 21	BRADSHAW, ROBYN JEAN	AUSTRAL.	10.24	11.78	10.40	12.16	44.58	14.16	15.34	14.08	88.16
10 8	REINHARDT, DELIA	GERMANY	10.24	13.49	10.24	12.92	46.89	13.86	14.16	11.88	86.79
11 2	MORROW, CAROL ANN	CANADA	9.38	12.80	10.08	12.16	44.42	15.36	15.18	11.18	86.14
12 3	DJENEVA, TATIANA	U.S.S.R.	10.88	13.11	10.88	12.73	47.60	17.04	13.00	7.36	85.00

\* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \*

REFEREE SMITH, J.  
 JUDGE HONIKMAN, B. WEINAS, L. E. LEE, S. BUROV, G. SHIBAHARA, T. MAYER, G.  
 TRANTER, C. K.  
 SCORER IWASA, M.

YOYOGI NATIONAL GYM.

HIGH DIVING--LADIES \* \* \* PLONGEON DE HAUT VOL--DAMES

THE RESULT OF PRELIMINARY ROUND

PLC	ST. OR.	NAME	COUNTRY	1	2	3	SUB-TOTAL	VOLUNTARY DIVES	TOTAL POINTS
13	4	SVOBODA, ELISABETH	AUSTRIA	10.40	11.78	9.28	31.46	14.64	46.10
14	17	CRAMP, FRANCES CAROLINE	BRITAIN	7.68	11.40	10.08	29.16	16.32	45.48
15	5	OSAKI, KEIKO	JAPAN	9.60	10.00	10.88	30.48	14.72	45.20
16	18	KAWAI, HATSUKO	JAPAN	8.32	12.96	9.92	31.20	13.80	45.00
17	16	VELIN, KIRSTEN BODIL	DENMARK	8.06	11.59	10.40	30.05	13.80	43.85
18	14	WATANABE, KUMIKO	JAPAN	7.84	12.06	9.44	29.34	14.16	43.50
19	11	NEWMAN, JOY	BRITAIN	6.24	11.40	9.24	26.88	15.84	42.72
20	20	KNIGHT, SUSAN MARGARET	AUSTRAL.	8.32	11.78	10.08	30.18	11.66	41.84
21	7	SINDELAR-PACHOWSKY, U.	AUSTRIA	5.92	11.02	10.40	27.34	12.88	40.22
22	13	BEZUIDENHOUT, SARIE	RHODESIA	7.93	7.56	8.68	24.17	13.42	37.59
23	22	STEWART, JUDY LEONA	CANADA	7.67	9.20	8.68	25.55	10.92	36.47
24	15	CHUNG, HEE-JUNG	KOREA	6.11	10.44	7.42	23.97	9.60	33.57

\* \* \* \* \* \* \* \* \*

# WATER POLO

TOKYO METRO. INDOOR SWIMMING POOL

OCT. 11, 1964

MATCH NO. 4

TIME 10.00

WEATHER—FINE

I. TEMP.—24.0 C

W. TEMP.—24.2 C

## WATER POLO \* \* \* WATER POLO

## FIRST ROUND LEAGUE GROUP C

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P.T.	M.F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	DANIEL, LUIZ	*	*	*	*	0	0	0
2	COCHRANE FILHO, OSWALDO	*	*	*	*	0	0	3
3	KESSELRING CAROTINI, P.	*	*	*		0	0	0
4	PINCIROLI JUNIOR, PEDRO	*	*	*	*	0	0	0
5	KELLY DOS SANTOS, MARVIO	*	*	*	*	1	0	0
6	SZABO, ALADAR	*	*	*	*	1	0	1
7	GONCALVES FILHO, JOAO	*				0	0	0
8	GRIJO FILHO, ADHEMAR				*	0	0	0
9	KESSELRING CAROTINI, IVO					0	0	0
10	BORGES NOGUEIRA, NEY					0	0	0
11	STUART BELL, RODNEY		*	*	*	0	0	0
TOTAL						2	0	4

BRAZIL

2			
1	0	0	1
1	1	0	1

REFREE

—SEMENOV, E.

U. S. S. R.

GOAL JUDGE

—MATSUMOTO, S.

JAPAN

—BRANDI, J.

HUNGARY

TIME KEEPER

—NICOLAESCU, N.

RUMANIA

NETHERLANDS

3

1	HERMSEN, HENDRIK WILLEM	*	*	*	*	0	0	0
2	LEENARDS, ABRAHAM C. W.	*	*	*	*	0	0	0
3	VAN SPINGELEN, WILLEN	*	*	*	*	1	0	2
4	WORMGOOR, GERARDUS H.	*	*		*	0	0	0
5	VAN DORP, ALFRED CAREL	*	*	*	*	1	0	1
6	VRIEND, HENRI GERARD	*	*			0	0	0
7	VAN DER VOET, NICOLAAS M.	*	*	*	*	1	0	0
8	VRIEND, WILLEM JAN F.				*	0	0	0
9	MULLER, JOHAN ARNOLDUS			*	*	0	0	0
10	BULTMAN, JAN AREND					0	0	0
11	KNIEST, LAMBERTUS G.					0	0	0
TOTAL						3	0	3

## GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	2.29	SZABO, ALADER	1ST	2.10	VAN SPINGELEN, WILLEM
4TH	2.47	KELLY DOS SANTOS, MARVID	2ND	1.50	VAN DORP, ALFRED CAREL
			4TH	3.05	VAN DER VOET, NICOLAAS M.

## PLAYER ORDERED FROM WATER

1ST	4.48	SZABO, ALADAR	1ST	4.48	VAN SPINGELEN, WILLEM
2ND	1.19	COCHRANE FILHO, OSWALDO	3RD	4.02	VAN DORP, ALFRED CAREL
3RD	4.02	COCHRANE FILHO, OSWALDO	4TH	2.13	VAN SPINGELEN, WILLEM
4TH	4.46	COCHRANE FILHO, OSWALDO			

TOKYO METRO. INDOOR SWIMMING POOL

OCT. 11, 1964

MATCH NO. 5

TIME 11:10

WEATHER—FINE I. TEMP.—24.0 C W. TEMP.—24.2 C

WATER POLO \* \* \* WATER POLO  
FIRST ROUND LEAGUE GROUP A

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P.T.	M.F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	ROSSI, DANTE	*	*	*	*	0	0	0
2	D ALTRUI, GIUSEPPE	*	*	*	*	1	0	1
3	PIZZO, ERALDO	*	*	*	*	3	0	2
4	LONZI, GIANNI	*	*	*	*	0	0	0
5	LAVORATORI, FRANCO				*	0	0	0
6	BARDI, DANIO		*			0	0	0
7	PARMEGIANI, ROSARIO	*		*		0	0	1
8	CEVASCO, MARIO	*	*	*	*	0	0	0
9	DENNERLEIN, FEDERICO	*	*	*	*	0	0	1
10	GUERRINI, GIANCARLO					0	0	0
11	SPINOLA, ALBERTO					0	0	0
TOTAL						4	0	5

ITALY	4
2	0
2	0
0	2
0	1
RUMANIA	3

REFEREE —DIRNWEBER, J. AUSTRIA  
GOAL JUDGE —SAID, H. U. A. R.  
—SEGURA, M. J. ARGENTIN  
TIME KEEPER —FUCHS, A. BELGIUM

1	STEFANESCU, MIRCEA	*	*	*	*	0	0	0
2	GRINTESCU, ANATOLIE		*	*	*	2	1	0
3	ZAHAN, AUREL	*	*	*	*	0	0	0
4	SZABO, ALEXANDRU	*	*	*		0	0	1
5	KRONER, STEFAN	*	*		*	1	0	1
6	FIROIU, NICOLAE	*			*	0	0	0
7	NOVAC, GRUIA		*	*		0	0	1
8	MARCULESCU, CORNEL	*	*	*	*	0	0	1
9	KULINIAC, IOSIF	*		*	*	0	0	1
10	LITA, COSMA					0	0	0
11	MURESANU, EMIL					0	0	0
TOTAL						3	1	5

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	2.19	PIZZO, ERALDO	2ND	1.50	GRINTESCU, ANATOLIE
	4.19	D ALTRUI, GIUSEPPE		3.57	GRINTESCU, ANATOLIE
3RD	1.45	PIZZO, ERALDO	4TH	4.58	KRONER, STEFAN
	3.04	PIZZO, ERALDO			

PLAYER ORDERED FROM WATER

1ST	1.58	PARMEGIANI, ROSARIO	1ST	0.50	MARCULESCU, CORNEL
	3.54	PIZZO, ERALDO		2.10	KULINIAC, IOSIF
	4.36	DENNERLEIN, FEDERICO		4.43	SZABO, ALEXANDRU
2ND	3.42	PIZZO, ERALDO	2ND	2.35	KRONER, STEFAN
			3RD	1.17	NOVAC, GRUIA

WATER POLO \* \* \* WATER POLO

FIRST ROUND LEAGUE GROUP B

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	GRABOVSKY, IGOR			*	*	0	0	0
2	KUZNETSOV, VLADIMIR	*		*	*	2	0	0
3	GRISHIN, BORIS		*	*	*	1	0	1
4	POPOV, BORIS	*	*			0	0	0
5	KALASHINKOV, NIKOLAY	*	*		*	0	0	0
6	BORTKEVICH, ZENON	*		*		0	0	0
7	KUZNETSOV, NICOLAY	*		*	*	0	0	0
8	SEMIONOV, VLADIMIR		*	*	*	2	2	1
9	AGEEV, VICTOR		*	*		0	0	0
10	OSIPOV, LEONID	*	*		*	1	0	0
11	YEGOROV, EDUARD	*	*			0	0	0
TOTAL						6	2	2

U. S. S. R.	6
	1 1 2 2
	0 0 0 0
AUSTRALIA	0

REFEREE	—MANGUILLOT, M.	SPAIN
GOAL JUDGE	—DE KOK, H. G.	NETHLAND
	—CHAN, KAM FUI	HONGKONG
TIME KEEPER	—DIRNWEBER, J.	AUSTRIA

1	WITHERS, MICHAEL RODNEY	*	*	*		0	0	0
2	HOAD, THOMAS HENRY		*	*	*	0	0	0
3	MILLS, IAN ALEXANDER	*	*	*		0	0	0
4	PEIRCE, EDWARD JOHN	*		*	*	0	0	0
5	BARNES, NICOL	*	*	*	*	0	0	2
6	WIEGARD, LEON ALBERT	*	*			0	0	1
7	NUNN, LESLIE ERNEST	*	*	*	*	0	0	1
8	HAMMOND, STANLEY R. A.			*	*	0	0	0
9	MCATEE, WILLIAM ANTHONY	*	*			0	0	0
10	PHILLIPS, WILLIAM J. B.					0	0	0
11	SAMUEL, GRAEME LESLIE				*	0	0	0
TOTAL						0	0	4

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	3.40	KUZNETSOV, VLADIMIR			
2ND	4.56	GRISHIN, BORIS			
3RD	2.10	KUZNETSOV, VLADIMIR			
	3.44	SEMIONOV, VLADIMIR			(NONE)
4TH	1.29	OSIPOV, LEONID			
	4.52	SEMIONOV, VLADIMIR			

PLAYER ORDERED FROM WATER

4TH	1.26	SEMIONOV, VLADIMIR	1ST	2.39	WIEGARD, LEON ALBERT
	3.32	OSIPOV, LEONID	4TH	1.26	NUNN, LESLIE ERNEST
				4.32	BARNES, NICOL

TOKYO METRO. INDOOR SWIMMING POOL

OCT. 11, 1964

MATCH NO. 7

TIME 17.40

WEATHER—FINE

I. TEMP.—23.5 C

W. TEMP.—24.9 C

WATER POLO \* \* \* WATER POLO

FIRST ROUND LEAGUE GROUP D

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	BOROS, OTTO	*	*	*	*	0	0	0
2	MAYER, MIHALY	*	*	*		0	0	1
3	FELKAI, LASZILO	*	*		*	2	0	0
4	RUSORAN, PETER	*	*		*	2	0	0
5	KONRAD II., JANOS	*	*			1	0	0
6	DOMOTOR, ZOLTAN	*	*			1	0	1
7	KARPATI, GYORGY	*	*	*		1	0	0
8	GYARMATI, DEZSO			*	*	1	0	0
9	KANIZSA, TIVADAR			*	*	1	0	0
10	POCSIK, DENES			*	*	1	0	0
11	BODNAR, ANDRAS			*	*	1	0	0
TOTAL						11	0	2

HUNGARY

11

2	3	2	4
0	0	1	0

U. A. R

1

REFEREE

—SEGURA, M. J.

ARGENTIN

GOAL JUDGE

—PHILLIPS, C. B.

AUSTRAL.

—NATORI, M.

JAPAN

TIME KEEPER —DRAGAN

RUMANIA

1	KALIL, MOHAMED	*	*	*	*	0	0	0
2	SOLIMAN, MOHAMED	*	*	*	*	0	0	0
3	ELGAMAL, HUSSEIN	*	*	*	*	0	0	1
4	AMIN, ABDELRAHMAN	*	*	*	*	1	0	0
5	ELSAYED, SAMI	*	*	*		0	0	0
6	KOURCHED, HAZEM	*	*		*	0	0	0
7	GAMIL, ASHRAF	*	*	*		0	0	0
8	ELMEALEM, ADEL				*	0	0	0
9	AMR, MAMDOUH			*	*	0	0	0
10	FARAG, GOUBRAN					0	0	0
TOTAL						1	0	1

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	0.30	KONRAD II., JANOS	3RD	1.17	AMIN, ABDELRAHMAN
	3.29	RUSORAN, PETER			
2ND	1.02	DOMOTOR, ZOLTAN			
	2.01	RUSORAN, PETER			
	2.59	KARPATI, GYORGY			
3RD	3.30	POCSIK, DENES			
	4.24	BODNAR, ANDRAS			
4TH	1.12	KANIZSA, TIVADAR			
	3.15	GYARMATI, DEZSO			
	4.00	FELKAI, LASZLO			
	4.43	FELKAI, LASZLO			

PLAYER ORDERED FROM WATER

2ND	2.40	DOMOTOR, ZOLTAN	2ND	2.40	ELGAMAL, HUSSEIN
	4.56	MAYER, MIHALY			

TOKYO METRO. INDOOR SWIMMING POOL

OCT. 11, 1964

MATCH NO. 8

TIME 18.50

WEATHER—FINE

I. TEMP.—23.5 C

W. TEMP.—24.9 C

WATER POLO \* \* \* WATER POLO  
FIRST ROUND LEAGUE GROUP C

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	MUSKATIROVIC, MILAN	*	*			0	0	0
2	TRUMBIC, IVO			*	*	0	0	0
3	ROSIO, VINKO	*	*		*	1	0	0
4	SIMENC, ZLATKO	*	*	*	*	0	0	0
5	STANISIC, BOZIDAR		*	*	*	0	0	0
6	NARDELI, ANTE	*	*			0	0	0
7	JANKOVIC, ZORAN	*		*	*	1	0	1
8	SANDIC, MIRKO	*		*	*	0	0	0
9	NONKOVIC, FRANE		*			0	0	0
10	BONACIC, OZREN	*	*	*		0	0	0
11	STIPANIC, KARLO			*	*	0	0	0
TOTAL						2	0	1

YUGOSLAVIA

2

1	0	0	1
1	0	0	0

U. S. A.

1

REFEREE —FUCHS, A. BELGIUM  
GOAL JUDGE —KOTANI, Y. JAPAN  
—ANGERHAUSEN, CH. BELGIUM  
TIME KEEPER —COSTA, A. ITALY

1	VAN DORP, ANTON LUDWIG	*	*	*	*	0	0	0
2	CRAWFORD, RONALD EMERSON	*	*	*	*	0	0	0
3	ASHLEIGH, DAVID MICHAEL	*	*	*	*	0	0	0
4	MCILROY, NED LEROY	*	*	*	*	0	0	0
5	MCILROY, CHARLES RAYMOND	*	*	*	*	0	0	0
6	COLE, STANLEY CLARK	*	*	*	*	1	0	0
7	SAARI, ROBERT PAUL	*	*		*	0	0	0
8	DROWN, DANIEL HANNON			*		0	0	0
9	MCILROY, PAUL ROBERT					0	0	0
10	WHITNEY, RALPH JOHN					0	0	0
11	STRANSKY, GEORGE CHARLES					0	0	0
TOTAL						1	0	0

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	3.00	JANKOVIC, ZORAN	1ST	3.23	COLE, STANLEY CLARK
4TH	1.45	ROSIO, VINKO			

PLAYER ORDERED FROM WATER

3RD	4.14	JANKOVIC, ZORAN	(NONE)
-----	------	-----------------	--------



TOKYO METRO. INDOOR SWIMMING POOL

OCT. 12, 1964

MATCH NO. 9

TIME 10.00

WEATHER—FINE

I. TEMP.—24.0 C

W. TEMP.—24.5 C

WATER POLO \* \* \* WATER POLO  
FIRST ROUND LEAGUE GROUP A

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	ROSSI, DANTE			*	*	0	0	0
2	SPINOLA, ALBERTO	*		*	*	1	0	1
3	PIZZO, ERALDO	*	*	*	*	2	1	1
4	LONZI, GIANNI	*	*	*	*	0	0	0
5	LAVORATORI, FRANCO		*			0	0	0
6	BARDI, DANIO		*			0	0	0
7	PARMEGIANI, ROSARIO	*		*		0	0	0
8	CEVASCO, MARIO	*	*	*	*	1	0	0
9	DENNERLEIN, FEDERICO	*		*	*	1	0	0
10	GUERRINI, GIANCARLO		*		*	0	0	0
11	MERELLO, EUGENIO	*	*			0	0	0
TOTAL						5	1	2

ITALY	5		
3	1	0	1
1	0	1	1
JAPAN	3		

REFEREE —BRANDI, J. HUNGARY  
GOAL JUDGE —BAUWENS, J. BELGIUM  
—ANGERHAUSEN, CH. BELGIUM  
TIME KEEPER —FANGERO, W. GERMANY

1	KATO, MINEO	*	*	*	*	0	0	0
2	ARAKAWA, HACHIRO	*	*	*	*	0	0	1
3	YOKOYAMA, TAKASHI	*	*	*	*	0	0	0
4	TAKEUCHI, KAZUYA	*	*	*	*	2	0	1
5	SHIMIZU, YOJI	*	*	*	*	0	0	1
6	FUJIMOTO, SHIGENOBU	*	*	*	*	1	0	0
7	TAKAGI, KOKI	*	*			0	0	0
8	SATSUKI, KEISUKE			*	*	0	0	0
9	AOYAMA, REIZO					0	0	0
10	KUWABARA, SHIGEHARU					0	0	0
11	IIDA, NORIHIDE					0	0	0
TOTAL						3	0	3

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	1. 21	SPINOLA, ALBERTO	1ST	0. 27	FUJIMOTO, SHIGENOBU
	3. 45	DENNERLEIN, FEDERICO	3RD	2. 08	TAKEUCHI, KAZUYA
	4. 45	PIZZO, ERALDO	4TH	3. 58	TAKEUCHI, KAZUYA
2ND	4. 38	PIZZO, ERALDO			
4TH	0. 53	CEVASCO, MARIO			

PLAYER ORDERED FROM WATER

4TH	1. 28	PIZZO, ERALDO	2ND	2. 00	ARAKAWA, HACHIRO
	3. 17	SPINOLA, ALBERTO	4TH	2. 05	SHIMIZU, YOJI

WATER POLO \* \* \* WATER POLO

FIRST ROUND LEAGUE GROUP B

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P.T.	M.F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	GRABOVSKY, IGOR	*		*	*	0	0	0
2	KUZNETSOV, VLADIMIR	*		*	*	0	0	0
3	GRISHIN, BORIS	*	*	*	*	0	0	0
4	POPOV, BORIS	*	*		*	0	0	1
5	KALASHNIKOV, NIKOLAY	*	*		*	0	0	0
6	BORTKEVICH, ZENON	*		*		2	0	1
7	KUZNETSOV, NICOLAY	*		*		0	0	0
8	SEMIONOV, VLADIMIR		*	*	*	1	1	1
9	AGEEV, VICTOR		*	*		0	0	0
10	OSIPOV, LEONID		*		*	0	0	0
11	YEGOROV, EDUARD		*			0	0	0
TOTAL						3	1	3

U. S. S. R	3		
1	0	1	1
2	0	0	0
GERMANY	2		

REFEREE	—BAUWENS, J.	BELGIUM
GOAL JUDGE	—COSTA, A.	ITALY
	—MAHONEY, J. E.	U. S. A.
TIME KEEPER	—DE KOK, H. C.	NETHLAND

1	SCHMIDT, PETER	*	*	*	*	0	0	0
2	THIEL, JURGEN	*	*	*		0	0	1
3	SCHLENKRICH, KLAUS	*	*	*	*	0	0	2
4	BALLERSTEDT, SIEGFRIED	*	*		*	0	0	1
5	SCHULZE, KLAUS	*			*	0	0	0
6	KLUGE, JURGEN	*	*	*	*	0	0	1
7	VOHS, DIETER	*	*		*	2	0	0
8	WITTIG, HEINZ		*	*		0	0	0
9	HOHNE, HUBERT			*	*	0	0	0
10	THIELE, EDGAR			*		0	0	0
11	MADER, HEINZ					0	0	0
TOTAL						2	0	5

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	1.47	BORTKEVICH, ZENON	1ST	2.14	VOHS, DIETER
3RD	3.37	BORTKEVICH, ZENON		3.27	VOHS, DIETER
4TH	1.00	SEMIONOV, VLADIMIR			

PLAYER ORDERED FROM WATER

1ST	2.00	BORTKEVICH, ZENON	1ST	1.35	THIEL, JURGEN
3RD	2.29	SEMIONOV, VLADIMIR	3RD	2.29	SCHLENKRICH, KLAUS
4TH	2.20	POPOV, BORIS		3.22	KLUGE, JURGEN
			4TH	1.44	BALLERSTEDT, SIEGFRIED

WATER POLO \* \* \* WATER POLO

FIRST ROUND LEAGUE GROUP D

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	BOROS, OTTO	*	*			0	0	0
2	MAYER, MIHALY	*	*	*	*	0	0	1
3	FELKAI, LASZLO	*	*	*	*	1	0	0
4	DOMOTOR, ZOLTAN	*	*		*	1	0	0
5	KANIZSA, TIVADAR	*	*			0	0	0
6	GYARMATI, DEZSO	*	*			0	1	0
7	KARPATI, GYORGY	*	*	*		1	1	0
8	KONRAD II., JANOS			*	*	1	0	0
9	RUSORAN, PETER			*	*	1	0	0
10	BODNAR, ANDRAS			*	*	0	0	1
11	AMBRUS, MIKLOS			*	*	0	0	0
TOTAL						5	2	2

HUNGARY

5			
0	2	3	0
0	0	0	0

BELGIUM

0

REFEREE

—BATALLE, T.

SPAIN

GOAL JUDGE

—WOO, CHO KIN

HONGKONG

—MATSUMOTO, S.

JAPAN

TIME KEEPER

—DE KOK, H. G.

NETHLAND

1	DE HESSELLE, BRUND	*	*	*	*	0	0	0
2	D OOSTERLINCK, FRANK	*	*	*	*	0	0	0
3	DE WILDE, ROGER	*	*	*	*	0	0	0
4	CAUERIER, JACQUES	*	*	*		0	0	0
5	LAURENT, ANDRE	*	*		*	0	0	0
6	DE VIS, KAREL	*	*			0	0	0
7	DUMONT, JOSE	*	*	*	*	0	0	1
8	VAN DEN STEEN, JOHAN			*		0	0	1
9	PICKERS, LEON			*	*	0	0	0
10	STAPPERS, JOSEPH				*	0	0	0
TOTAL						0	0	2

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
2ND	3.40	DOMOTOR, ZOLTAN			
	4.09	FELKAI, LASZLO			
3RD	2.48	KARPATI, GYORGY			(NONE)
	3.25	RUSORAN, PETER			
	4.06	KONRAD II., JANOS			

PLAYER ORDERED FROM WATER

1ST	4.08	MAYER, MIHALY	1ST	4.08	DUMONT, JOSE
3RD	4.37	BODNAR, ANDRAS			

TOKYO METRO. INDOOR SWIMMING POOL

OCT. 12, 1964

MATCH NO. 12

TIME 17.40

WEATHER-CLOUDY

I. TEMP. - 24.0 C

W. TEMP. - 24.6 C

WATER POLO \* \* \* WATER POLO  
FIRST ROUND LEAGUE GROUP C

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	MUSKATIROVIC, MILAN	*	*	*	*	0	0	0
2	TRUMBIC, IVO	*	*	*	*	1	0	0
3	ROSIO, VINKO	*	*		*	2	0	0
4	SIMENC, ZLATKO	*	*	*		0	0	1
5	STANISIC, BOZIDAR	*	*		*	1	0	1
6	NARDELI, ANTE			*	*	2	0	1
7	JANKOVIC, ZORAN	*	*		*	0	0	0
8	SANDIC, MIRKO	*	*	*		1	0	1
9	NONKOVIC, FRANE			*		0	0	0
10	BONACIC, OZREN			*	*	0	0	0
11	STIPANIC, KARLO					0	0	0
TOTAL						7	0	4

YUGOSLAVIA

7			
1	2	1	3
0	2	0	0

NETHERLANDS

2

REFEREE	-COSTA, A.	ITALY
GOAL JUDGE	-KIM, YOUNG-HO	KOREA
	-MANGUILLOT, M.	SPAIN
TIME KEEPER	-EL DIN, Y. E.	U. A. R.

1	HERMSEN, HENDRIK WILLEM	*	*			0	0	0
2	LEENARDS, ABRAHAM C. W.	*	*	*	*	1	0	3
3	VAN SPINGELEN, WILLEM	*	*	*	*	0	0	2
4	WORMGOOR, GERARDUS H.	*	*	*	*	0	0	1
5	VAN DORP, ALFRED CAREL	*	*	*	*	0	0	1
6	VRIEND, HENRI GERARD	*		*	*	0	0	0
7	VAN DER VOET, NICOLAAS M.		*	*		0	0	1
8	VRIEND, WILLEM JAN F.	*			*	0	0	0
9	MULLER, JOHAN ARNOLDUS		*			1	0	0
10	BULTMAN, JAN AREND					0	0	0
11	KNIEST, LAMBERTUS G.			*	*	0	0	0
TOTAL						2	0	8

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	3.21	ROSIO, VINKO	2ND	4.28	MULLER, JOHAN ARNOLDUS
2ND	0.52	SANDIC, MIRKO		3.47	LEENARDS, ABRAHAM C. W.
	2.26	STANISIC, BOZIDAR			
3RD	0.42	TRUMBIC, IVO			
4TH	1.14	ROSIO, VINKO			
	2.11	NARDELI, ANTE			
	4.11	NARDELI, ANTE			

PLAYER ORDERED FROM WATER

2ND	2.41	SANDIC, MIRKO	1ST	2.49	LEENARDS, ABRAHAM C. W.
	4.21	STANISIC, BOZIDAR	2ND	0.29	VAN DER VOET, NICOLAAS M.
	4.40	SIMENC, ZLATKO		1.31	LEENARDS, ABRAHAM C. W.
3RD	2.44	NARDELI, ANTE		3.59	VAN DORP, ALFRED CAREL
			3RD	3.49	LEENARDS, ABRAHAM C. W.
			4TH	0.40	VAN SPINGELEN, WILLEM
				1.52	WORMGOOR, GERARDUS H.
				3.30	VAN SPINGELEN, WILLEM

WATER POLO \* \* \* WATER POLO  
FIRST ROUND LEAGUE GROUP C

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	VAN DROP, ANTON LUDWIG	*	*	*		0	0	0
2	CRAWFORD, RONALD EMERSON	*	*	*	*	3	0	0
3	ASHLEIGH, DAVID MICHAEL	*	*	*	*	2	0	0
4	MCILROY, NED LEROY	*	*	*		0	0	0
5	MCILROY, CHARLES RAYMOND	*	*			0	0	0
6	COLE, STANLEY CLARK	*	*	*	*	0	0	0
7	SAARI, ROBERT PAUL	*	*	*	*	0	0	1
8	DROWN, DANIEL HANNON			*	*	2	0	0
9	MCILROY, PAUL ROBERT					0	0	0
10	WHITNEY, RALPH JOHN				*	0	0	0
11	STRANSKY, GEORGE CHARLES				*	0	0	0
TOTAL						7	0	1

U. S. A.	7			
	1	1	3	2
	0	0	0	1
BRAZIL	1			

REFEREE -NATORI, M. JAPAN  
GOAL JUDGE -EL DIN, Y. E. U. A. R.  
-PHILLIPS, C. B. AUSTRAL.  
TIME KEEPER -SAID, H. U. A. R.

1	DANIEL, LUIZ	*	*	*	*	0	0	0
2	COCHRANE FILHO, OSWALD	*	*			0	0	0
3	PINCIROLI JUNIOR, PEDRO	*	*	*	*	0	0	0
4	GRIJO FILHO, ADHEMAR	*	*	*	*	0	0	2
5	KELLY DOS SANTOS, MARVIO	*	*	*		0	1	1
6	SZABO, ALADAR	*	*		*	1	0	0
7	GONCALVES FILHO, JOAO	*	*	*	*	0	0	1
8	KESSELRING CAROTINI, P.			*	*	0	0	0
9	KESSELRING CAROTINI, IVO					0	0	0
10	BORGES NOGUEIRA, NEY			*		0	0	0
11	STUART BELL, RODNEY				*	0	0	1
TOTAL						1	1	5

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	1.47	CRAWFORD, RONALD EMERSON	4TH	2.48	SZABO, ALADAR
2ND	2.38	CRAWFORD, RONALD EMERSON			
3RD	1.49	CRAWFORD, RONALD EMERSON			
	2.16	ASHLEIGH, DAVID MICHAEL			
	4.16	ASHLEIGH, DAVID MICHAEL			
4TH	3.14	DROWN, DANIEL HANNON			
	4.20	DROWN, DANIEL HANNON			

PLAYER ORDERED FROM WATER

2ND	4.25	SAARI, ROBERT PAUL	1ST	3.41	KELLY DOS SANTOS, MARVID
			2ND	4.25	GRIJO FILHO, ADHEMAR
			4TH	3.02	STUART BELL, RODNEY
				3.39	GRIJO FILHO, ADHEMAR
				3.47	GONCALVES FILHO, JOAO

MATCH NO. 20

WEATHER—FINE

I. TEMP.—24.0 C

W. TEMP.—24.6 C

WATER POLO \* \* \* WATER POLO  
FIRST ROUND LEAGUE GROUP C

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P.T.	M.F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	MUSKATIROVIC, MILAN					0	0	0
2	TRUMBIC, IVO	*	*	*	*	1	1	0
3	ROSIO, VINKO	*		*	*	0	0	1
4	SIMENC, ZLATKO	*	*	*		2	0	0
5	STANISIC, BOZIDAR		*	*	*	1	0	0
6	NARDELI, ANTE	*	*		*	1	1	0
7	JANKOVIC, ZORAN	*		*		1	0	0
8	SANDIC, MIRKO	*		*		2	0	0
9	NONKOVIC, FRANE		*		*	0	0	0
10	BONACIC, OZREN		*		*	0	0	0
11	STIPANIC, KARLO	*	*	*	*	0	0	0
TOTAL						8	2	1

YUGOSLAVIA

8

3	0	4	1
0	0	0	0

BRAZIL

0

REFEREE —EL DIN, Y. E.

U. A. R.

GOAL JUDGE —BATALLE, T.

SPAIN

—WILSON, R.

RHODESIA

TIME KEEPER —KIM, YOUNG-HO

KOREA

1	DANIEL, LUIZ	*	*	*	*	0	0	0
2	COCHRANE FILHO, OSWALDO	*	*	*		0	0	1
3	KESSELRING CAROTINI, IVO	*	*		*	0	0	0
4	KESSELRING CAROTINI, P.	*	*	*	*	0	0	1
5	PINCIROLI JUNIOR, PEDRO	*	*	*		0	0	1
6	SZABO, ALADAR	*	*	*	*	0	0	0
7	GONCALVES FILHO, JOAO	*		*	*	0	0	1
8	KELLY DOS SANTOS, MARVIO		*			0	0	0
9	GRIJO FILHO, ADHEMAR			*		0	0	0
10	BORGES NOGUEIRA, NEY				*	0	0	1
11	STUART BELL, RODNEY				*	0	0	0
TOTAL						0	0	5

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	0.30	SANDIC, MIRKO			
	2.40	SANDIC, MIRKO			
	4.44	NARDELI, ANTE			
3RD	1.00	STANISIC, BOZIDAR			(NONE)
	2.48	SIMENC, ZLATKO			
	4.09	JANKOVIC, ZORAN			
4TH	4.29	SIMENC, ZLATKO			
	4.27	TRUMBIC, IVO			

PLAYER ORDERED FROM WATER

3RD	3.05	ROSIO, VINKO	1ST	2.39	COCHRANE FILHO, OSWALDO
			2ND	4.10	KESSELRING CAROTINI, P.
			3RD	2.45	PINCIROLI JUNIOR, PEDRO

WATER POLO \* \* \* WATER POLO

FIRST ROUND LEAGUE GROUP A

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P.T.	M.F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	KATO, MINEO	*	*	*	*	0	0	0
2	TAKEUCHI, KAZUYA	*	*	*	*	0	0	2
3	SHIMIZU, YOJI	*	*	*	*	2	0	0
4	TAKAGI, KOKI	*	*		*	1	1	0
5	FUJIMOTO, SHIGENOBU	*	*	*	*	0	0	0
6	YOKOYAMA, TAKASHI	*	*	*	*	1	1	1
7	ARAKAWA, HACHIRO	*	*	*	*	0	0	0
8	AOYAMA, REIZO					0	0	0
9	KUWABARA, SHIGEHARU					0	0	0
10	SATSUKI, KEISUKE			*		0	0	1
11	IIDA, NORIHIDE					0	0	0
TOTAL						4	2	4

JAPAN				4
1	2	0	1	
1	3	2	3	
RUMANIA				9

REFEREE	—DE KOK, H. G.	NETHLAND
GOAL JUDGE	—MANGUILLOT, M.	SPAIN
	—EL DIN, Y. E.	U. A. R.
TIME KEEPER	—SAID, H.	U. A. R.

1	STEFANESCU, MIRCEA	*	*	*		0	0	0
2	GRINTESCU, ANATOLIE	*	*	*	*	2	0	0
3	ZAHAN, AUREL	*	*	*	*	3	0	1
4	SZABO, ALEXANDRU	*	*		*	1	0	0
5	KRONER, STEFAN	*	*		*	1	0	0
6	FIROIU, NICOLAE			*	*	1	0	0
7	NOVAC, GRUIA			*	*	0	0	0
8	MARCULESCU, CORNEL	*	*	*		1	0	0
9	KULINIAC, IOSIF	*	*	*		0	0	2
10	LITA, COSMA					0	0	0
11	MURESANU, EMIL				*	0	0	0
TOTAL						9	0	3

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	4.54	SHIMIZU, YOJI	1ST	3.35	MARCULESCU, CORNEL
2ND	4.46	YOKOYAMA, TAKASHI	2ND	0.44	KRONER, STEFAN
	4.02	SHIMIZU, YOJI		1.33	ZAHAN, AUREL
4TH	4.59	TAKAGI, KOKI		2.23	GRINTESCU, ANATOLIE
			3RD	2.17	GRINTESCU, ANATOLIE
				3.43	FIROIU, NICOLAE
			4TH	1.20	ZAHAN, AUREL
				3.42	ZAHAN, AUREL
				4.45	SZABO, ALEXANDRU

PLAYER ORDERED FROM WATER

1ST	3.16	YOKOYAMA, TAKASHI	1ST	3.55	KULINIAC, IOSIF
	3.55	TAKEUCHI, KAZUYA	3RD	0.37	KULINIAC, IOSIF
3RD	0.37	SATSUKI, KEISUKE		2.48	ZAHAN, AUREL
4TH	2.41	TAKEUCHI, KAZUYA			

WATER POLO \* \* \* WATER POLO  
FIRST ROUND LEAGUE GROUP B

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P.T.	M.F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	WITHERS, MICHAEL RODNEY	*	*	*	*	0	0	0
2	HOAD, THOMAS HENRY		*	*		0	0	0
3	MILLS, IAN ALEXANDER	*	*	*		1	0	0
4	PEIRCE, EDWARD JOHN	*			*	0	0	0
5	BARNES, NICOL	*	*	*	*	0	0	0
6	WIEGARD, LEON ALBERT	*	*	*		0	0	1
7	NUNN, LESLIE ERNEST	*	*	*	*	0	0	0
8	HAMMOND, STANLEY R. A.				*	0	0	0
9	MCATEE, WILLIAM ANTHONY	*	*	*		0	0	0
10	PHILLIPS, WILLIAM J. B.				*	0	0	0
11	SAMUEL, GRAEME LESLIE				*	0	0	0
TOTAL						1	0	1

AUSTRALIA	1
0	1
0	0
1	0
0	2
0	0
GERMANY	3

REFEREE — ANGERHAUSEN, CH. BELGIUM  
GOAL JUDGE — WOO, CHO KIN HONGKONG  
— DIRNWEBER, J. AUSTRIA  
TIME KEEPER — NATORI, M. JAPAN

1	MADER, HEINZ	*	*	*	*	0	0	0
2	THIEL, JURGEN	*	*	*	*	0	0	0
3	HOHNE, HUBERT	*	*	*		0	0	0
4	BALLERSTEDT, SIEGFRIED	*	*		*	0	0	1
5	THIELE, EDGAR	*	*			0	0	0
6	KLUGE, JURGEN	*	*	*		0	0	0
7	WITTIG, HEINZ	*	*		*	0	0	0
8	VOHS, DIETER				*	1	0	1
9	SCHULZE, KLAUS				*	0	0	0
10	SCHLENKRICH, KLAUS				*	1	0	0
11	SCHMIDT, PETER					0	0	0
TOTAL						3	0	2

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
2ND	2.37	MILLS, IAN ALEXANDER	1ST	2.02	BALLERSTEDT, SIEGFRIED
			3RD	1.56	SCHLENKRICH, KLAUS
				2.30	VOHS, DIETER
PLAYER ORDERED FROM WATER					
3RD	0.34	WIEGARD, LEON ALBERT	1ST	4.18	BALLERSTEDT, SIEGFRIED
			3RD	4.00	VOHS, DIETER



WATER POLO \* \* \* WATER POLO  
FIRST ROUND LEAGUE GROUP D

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	KALIL, MOHAMED	*	*	*	*	0	0	0
2	SOLIMAN, MOHAMED	*	*	*	*	0	0	1
3	ELGAMAL, HUSSEIN	*	*	*	*	1	0	3
4	AMIN, ABDELRAHMAN	*	*	*	*	2	1	1
5	ELMEALEM, ADEL	*	*	*	*	0	0	0
6	KOURCHED, HAZEM	*	*	*	*	1	0	4
7	GAMIL, ASHRAF	*	*	*		1	0	0
8	ELSAYED, SAMI				*	0	0	0
9	AMR, MAMDOUH					0	0	0
10	ELKACHEF, KALED					0	0	0
11	FARAG, GOUBRAN					0	0	0
TOTAL						5	1	9

U. A. R.

5			
1	3	1	0
2	3	2	1
8			

BELGIUM

REFEREE —COSTA, A. ITALY  
GOAL JUDGE —PHILLIPS, C. B. AUSTRAL.  
—MATSUMOTO, S. JAPAN  
TIME KEEPER —DE KOK, H. G. NETHLAND

1	DE HESSELLE, BRUND	*	*	*	*	0	0	0
2	D OOSTERLINCK, FRANK	*		*	*	2	0	1
3	DE WILDE, ROGER	*	*	*	*	2	0	1
4	CAUFRIER, JACQUES	*	*	*	*	0	0	1
5	LAURENT, ANDRE	*		*		0	0	0
6	DE VIS, KAREL		*		*	0	0	2
7	DUMONT, JOSE	*	*		*	4	1	0
8	VAN DEN STEEN, JOHAN		*		*	0	0	0
9	PICKERS, LEON	*	*	*		0	0	0
10	STAPPERS, JOSEPH			*		0	0	0
TOTAL						8	1	5

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	0.38	KOURCHED, HAZEN	1ST	1.28	D OOSTERLINCK, FRANK
2ND	0.34	KOURCHED, HAZEN		2.23	D OOSTERLINCK, FRANK
	2.44	GAMIL, ASHRAF	2ND	1.38	DUMONT, JOSE
	3.32	ELGAMAL, HUSSEIN		2.59	DUMONT, JOSE
3RD	4.21	AMIN, ABDELRAHMAN		4.14	DUMONT, JOSE
			3RD	1.25	DE WILDE, ROGER
				3.45	DE WILDE, ROGER
			4TH	1.52	DUMONT, JOSE

PLAYER ORDERED FROM WATER

1ST	1.14	ELGAMAL, HUSSEIN	1ST	1.45	DE WILDE, ROGER
	1.45	KOURCHED, HAZEN		2.38	D OOSTERLINCK, FRANK
	2.08	AMIN, ABDELRAHMAN	2ND	0.12	DE VIS, KAREL
	2.11	ELGAMAL, HUSSEIN		1.59	DE VIS, KAREL
2ND	3.17	ELGAMAL, HUSSEIN			
	4.01	KOURCHED, HAZEN			
3RD	0.36	KOURCHED, HAZEN			
	4.37	KOURCHED, HAZEN			

WATER POLO \* \* \* WATER POLO

FIRST ROUND LEAGUE GROUP C

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	VAN, DROP, ANTON, LUDWIG	*	*	*	*	0	0	0
2	CRAWFORD, RONALD EMERSON	*	*	*	*	1	0	0
3	ASHLEIGH, DAVID MICHAEL	*	*	*	*	0	0	1
4	MCILROY, NED LEROY	*	*	*	*	0	0	0
5	MCILROY, CHARLES RAYMOND	*	*	*	*	0	0	1
6	COLE, STANLEY, CLARK	*	*	*	*	2	0	1
7	SAARI, ROBERT PAUL	*	*	*	*	1	0	0
8	DROWN, DANIEL HANNON				*	0	0	0
9	MCILROY, PAUL ROBERT					0	0	0
10	WHITNEY, RALPH JOHN					0	0	0
11	STRANSKY, GEORGE, CHARLES					0	0	0
TOTAL						4	0	3

U. S. A.

4			
2	0	0	2
2	3	0	1

NETHERLANDS

6

REFEREE —DIRNWEBER, J. AUSTRIA  
 GOAL JUDGE —FANGERO, W. GERMANY  
 —NICOLAESCU, N. RUMANIA  
 TIME KEEPER —PROSTIAKOV, N. U. S. S. R.

1	HERMSEN, HENDRIK WILLEM	*	*	*	*	0	0	0
2	LEENARDS, ABRAHAM C. W.	*	*	*	*	0	0	0
3	VAN SPINGELEN, WILLEM	*	*	*	*	0	0	0
4	WORMGOOR, GERARDUS H.	*	*	*	*	0	0	2
5	VAN DORP, ALFRED CAREL	*	*	*	*	1	1	1
6	VRIEND, HENRI GERARD	*			*	2	0	0
7	VAN DER VOET, NICOLAAS M.	*		*	*	0	0	0
8	VRIEND, WILLEM JAN F.		*	*		2	1	0
9	MULLER, JOHAN ARNOLDUS		*			1	0	0
10	BULTMAN, JAN AREND					0	0	0
11	KNIEST, LAMBERTUS G.					0	0	0
TOTAL						6	2	3

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	1.52	DROWN, DANIEL HANNON	1ST	1.08	VAN DROP, ALFRED CAREL
	3.58	CRAWFORD, RONALD EMERSON		4.52	VRIEND, HENRI GERARD
4TH	0.50	COLE, STANLEY CLARK	2ND	1.52	VRIEND, WILLEM JAN F.
	4.41	SAARI, ROBERT PAUL		3.07	MULLER, JOHAN ARNOLDUS
				3.42	VRIEND, WILLEM JAN F.
			4TH	1.12	VAN DER VOET, NICOLAAS M.

PLAYER ORDERED FROM WATER

2ND	2.51	COLE, STANLEY CLARK	1ST	1.29	WORMGOOR, GERARDUS H.
			3RD	4.48	WORMGOOR, GERARDUS H.
			4TH	4.08	VAN DORP, ALFRED CAREL

OCT. 13, 1964

## WATER POLO \* \* \* WATER POLO

## FIRST ROUND LEAGUE

GROUP	A	ITALY	RUMANIA	JAPAN	GAMES	WON	TIED	LOST	DISQ	GOALS	OPPOSITE GOALS	MATCH POINTS	PLACE	
	ITALY	*	4-3	5-3	2	2	0	0	0	9	6	4	1	
	RUMANIA	3-4	*	9-4	2	1	0	1	0	12	8	2	2	
	JAPAN	3-5	4-9	*	2	0	0	2	0	7	14	0	3	
GROUP	B	U.S.S.R.	AUSTRAL.	GERMANY	GAMES	WON	TIED	LOST	DISQ	GOALS	OPPOSITE GOALS	MATCH POINTS	PLACE	
	U.S.S.R.	*	6-0	3-2	2	2	0	0	0	9	2	4	1	
	AUSTRAL.	0-6	*	1-3	2	0	0	2	0	1	9	0	3	
	GERMANY	2-3	3-1	*	2	1	0	1	0	5	4	2	2	
GROUP	C	YUGOSLAV	U.S.A.	NETHLAND	BRAZIL	GAMES	WON	TIED	LOST	DISQ	GOALS	OPPOSITE GOALS	MATCH POINTS	PLACE
	YUGOSLAV	*	2-1	7-2	8-0	3	3	0	0	0	17	3	6	1
	U.S.A.	1-2	*	4-6	7-1	3	1	0	2	0	12	9	2	3
	NETHLAND	2-7	6-4	*	3-2	3	2	0	1	0	11	13	4	2
	BRAZIL	0-8	1-7	2-3	*	3	0	0	3	0	3	18	0	4
GROUP	D	HUNGARY	U.A.R.	BELGIUM	GAMES	WON	TIED	LOST	DISQ	GOALS	OPPOSITE GOALS	MATCH POINTS	PLACE	
	HUNGARY	*	11-1	5-0	2	2	0	0	0	0	16	1	4	1
	U.A.R.	1-11	*	5-8	2	0	0	2	0	0	6	19	0	3
	BELGIUM	0-5	8-5	*	2	1	0	1	0	0	8	10	2	2

WATER POLO \* \* \* WATER POLO

SEMI-FINAL LEAGUE C. D GROUP

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	BOROS, OTTO	*	*	*	*	0	0	0
2	POCSIK, DENES	*	*	*	*	1	0	0
3	MAYER, MIHALY	*	*	*	*	0	0	0
4	FELKAI, LASZLO	*	*	*		0	0	0
5	DOMOTOR, ZOLTAN	*	*			2	0	1
6	RUSORAN, PETER	*	*			2	0	0
7	KARPATI, GYORGY	*	*		*	0	0	0
8	GYARMATI, DEZSO			*	*	1	0	1
9	KONRAD II., JANOS			*	*	0	0	0
10	KNIZSA, TIVADAR			*	*	0	0	2
11	AMBRUS, MIKLOS					0	0	0
TOTAL						6	0	4

HUNGARY	6		
3	1	1	1
0	2	1	2
NETHERLANDS	5		

REFEREE	—MANGUILLOT, M.	SPAIN
GOAL JUDGE	—NATORI, M.	JAPAN
	—KOTANI, Y.	JAPAN
TIME KEEPER	—ANGERHAUSEN, CH.	BELGIUM

1	HERMSEN, HENDRIK WILLEM	*		*		0	0	0
2	LEENARDS, ABRAHAM C. W.	*	*	*	*	0	0	1
3	VAN SPINGELEN, WILLEM	*	*	*		0	0	0
4	WORMGOOR, GERARDUS H.	*		*	*	0	0	1
5	VAN DROP, ALFRED CAREL	*	*	*	*	0	0	0
6	VRIEND, HENRI GERARD	*		*	*	1	0	0
7	VAN DER VOET, NICOLAAS M.	*	*	*	*	3	0	1
8	VRIEND, WILLEM JAN F.		*		*	1	0	0
9	MULLER, JOHAN ARNOLDUS		*			0	0	0
10	BULTMAN, JAN AREND					0	0	0
11	KNIEST, LAMBERTUS G.		*		*	0	0	0
TOTAL						5	0	3

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	0.42	DOMOTOR, ZOLTAN	2ND	1.45	VAN DER VOET, NICOLAAS M.
	2.28	RUSORAN, PETER		3.52	VAN DER VOET, NICOLAAS M.
	3.58	DOMOTOR, ZOLTAN	3RD	0.43	VRIEND, HENRI GERARD
2ND	2.30	RUSORAN, PETER	4TH	1.55	VAN DER VOET, NICOLAAS M.
3RD	2.36	GYARMATI, DEZSO		4.14	VRIEND, WILLEM JAN F.
4TH	3.26	POCSIK, DENES			

PLAYER ORDERED FROM WATER

2ND	0.46	DOMOTOR, ZOLTAN	4TH	2.12	LEENARDS, ABRAHAM C. W.
3RD	3.02	KANIZSA, TIVADAR		3.17	WORMGOOR, GERARDUS H.
4TH	2.12	GYARMATI, DEZSO		4.37	VAN DER VOET, NICOLAAS M.
	3.54	KANIZSA, TIVADAR			

TOKYO METRO. INDOOR SWIMMING POOL

OCT. 14, 1964

MATCH NO. 26

TIME 13.00

WEATHER—RAINY

I. TEMP.—23.5 C

W. TEMP.—24.5 C

WATER POLO \* \* \* WATER POLO  
SEMI-FINAL LEAGUE C. D GROUP

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	MUSKATIROVIC, MILAN	*	*	*		0	0	0
2	TRUMBIC, IVO	*	*	*	*	1	0	1
3	ROSIO, VINKO	*	*		*	0	0	0
4	SIMENC, ZLATKO	*	*	*		1	0	0
5	STANISIC, BOZIDAR	*	*		*	2	0	0
6	NARDELI, ANTE			*	*	1	1	0
7	JANKOVIC, ZORAN	*	*			1	0	0
8	SANDIC, MIRKO	*	*	*		0	0	0
9	NONKOVIC, FRANE			*	*	0	0	1
10	BONACIC, OZREN			*	*	0	0	1
11	STIPANIC, KARLO				*	0	0	0
TOTAL						6	1	3

YUGOSLAVIA

6			
2	2	1	1
0	1	0	1

REFEREE —SEGURA, M. J.

ARGENTIN

GOAL JUDGE —WOO, CHO KIN

HONGKONG

—BRANDI, J.

HUNGARY

TIME KEEPER —BATALLE, T.

SPAIN

BELGIUM

2

1	DE HESSELLE, BRUND	*	*	*	*	0	0	0
2	D OOSTERLINCK, FRANK	*	*	*	*	1	0	2
3	DE WILDE, ROGER	*	*	*	*	0	0	0
4	CAUFRIER, JACQUES	*	*	*	*	0	0	0
5	LAURENT, ANDRE	*		*	*	0	0	1
6	DE VIS, KAREL		*	*		0	0	0
7	DUMONT, JOSE	*	*		*	1	0	1
8	VAN DEN STEEN, JOHAN		*		*	0	0	0
9	PICKERS, LEON	*		*		0	0	0
10	STAPPERS, JOSEPH					0	0	0
TOTAL						2	0	4

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	3.01	TRUMBIC, IVO	2ND	3.39	DUMONT, JOSE
	3.51	SIMENC, ZLATKO	4TH	1.49	D OOSTERLINCK, FRANK
2ND	1.25	JANKOVIC, ZORAN			
	3.25	STANISIC, BOZIDAR			
3RD	2.52	NARDELI, ANTE			
4TH	3.35	STANISIC, BOZIDAR			

PLAYER ORDERED FROM WATER

4TH	1.02	TRUMBIC, IVO	1ST	2.41	LAURENT, ANDRE
	1.30	NONKOVIC, FRANE	2ND	2.24	CAUFRIER, JACQUES
	4.30	BONACIC, OZREN	3RD	2.34	D OOSTERLINCK, FRANK
			4TH	1.02	DUMONT, JOSE

WATER POLO \* \* \* WATER POLO

SEMI-FINAL LEAGUE A. B GROUP

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	ROSSI, DANTE	*	*	*	*	0	0	0
2	D ALTRUI, GIUSEPPE	*	*	*	*	0	0	1
3	PIZZO, ERALED	*	*	*	*	0	0	0
4	LANZI, GIANNI	*	*	*	*	0	0	2
5	LAVORATORI, FRANCO				*	0	0	0
6	BARDI, DANIO					0	0	0
7	PARMEGIANI, ROSARIO		*	*		0	0	1
8	CEVASCO, MARIO	*	*	*		0	0	0
9	DENNERLEIN, FEDERICO	*	*	*	*	0	0	0
10	GUERRINI, GIANCARLO	*				0	0	0
11	SPINOLA, ALBERTO				*	0	0	0
TOTAL						0	0	4

ITALY	0
0	0
0	0
0	0
1	1
0	0
U. S. S. R.	2

REFEREE —NATORI, M. JAPAN  
 GOAL JUDGE —PHILLIPS, C. B. AUSTRAL.  
 —MATSUMOTO, S. JAPAN  
 TIME KEEPER —SAID, H. U. A. R.

1	GRABOVSKY, IGOR	*	*	*	*	0	0	0
2	KUZNETSOV, VLADIMIR	*		*	*	0	0	0
3	GRISHIN, BORIS		*	*	*	0	0	0
4	POPOV, BORIS	*	*		*	0	0	1
5	KALASHNIKOV, NIKOLAY	*	*			0	0	1
6	BORTKEVICH, ZENON	*		*	*	0	0	1
7	KUZNETSOV, NICOLAY	*		*		1	1	0
8	SEMIONOV, VLADIMIR		*	*	*	1	0	1
9	AGEEV, VICTOR		*	*		0	0	0
10	OSIPOV, LEONID	*	*		*	0	0	0
11	YEGOROV, EDUARD					0	0	0
TOTAL						2	1	4

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
		(NONE)	1ST	2.33	KUZNETSOV, NICOLAY
			2ND	2.00	SEMIONOV, VLADIMIR

PLAYER ORDERED FROM WATER

2ND	1.18	PARMEGIANI, ROSARIO	2ND	1.18	KALASHNIKOV, NIKOLAY
	2.53	LONZI, GIANNI	3RD	2.28	BORTKEVICH, ZENON
4TH	2.42	D ALTRUI, GIUSEPPE	4TH	2.42	SEMIONOV, VLADIMIR
				3.42	POPOV, BORIS

TOKYO METRO. INDOOR SWIMMING POOL

OCT. 14, 1964

MATCH NO. 28

TIME 15.20

WEATHER—RAINY

I. TEMP.—23.5 C

W. TEMP.—24.5 C

## WATER POLO \* \* \* WATER POLO

## SEMI-FINAL LEAGUE A. B GROUP

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P.T.	M.F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	STEFANESCU, MIRCEA	*	*	*	*	0	0	0
2	GRINTESCU, ANATOLIE	*	*	*	*	0	0	2
3	ZAHAN, AUREL	*	*	*	*	0	0	1
4	SZABO, ALEXANDRU	*	*	*	*	1	0	0
5	KRONER, STEFAN	*	*		*	1	0	0
6	FIROIU, NICOLAE			*	*	1	0	0
7	NOVAC, GRUIA					0	0	0
8	MARCULESCU, CORNEL	*	*	*		1	0	0
9	KULINIAC, IOSIF	*	*	*	*	1	0	0
10	LITA, COSMA					0	0	0
11	MURESANU, EMIL					0	0	0
TOTAL						5	0	3

RUMANIA

5

0	1	2	2
0	1	0	3

GERMANY

4

REFEREE —BAUWENS, J.

BELGIUM

GOAL JUDGE —PHILLIPS, C. B.

AUSTRAL.

—BATALLE, T.

SPAIN

TIME KEEPER —KIM, YOUNG-HO

KOREA

1	MADER, HEINZ	*	*			0	0	0
2	THIELE, EDGAR			*	*	1	0	0
3	HOHNE, HUBERT	*	*			0	0	1
4	BALLERSTEDT, SIEGFRIED	*		*	*	0	0	0
5	THIEL, JURGEN	*	*	*	*	1	1	0
6	VOHS, DIETER	*	*	*	*	1	0	0
7	SCHULZE, KLAUS			*		0	0	0
8	KLUGE, JURGEN	*	*		*	0	0	1
9	SCHLENKRICH, KLAUS		*	*		0	0	0
10	WITTIG, HEINZ	*	*		*	1	0	2
11	SCHMIDT, PETER			*	*	0	0	0
TOTAL						4	1	4

## GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
2ND	4.46	KRONER, STEFAN	2ND	3.26	VOHS, DIETER
3RD	2.55	SZABO, ALEXANDRU	4TH	1.15	WITTIG, HEINZ
	3.26	MARCULESCU, CORNEL		3.46	THIELE, EDGAR
4TH	1.38	KULINIAC, IOSIF		4.55	THIEL, JURGEN
	4.35	FIROIU, NICOLAE			

## PLAYER ORDERED FROM WATER

1ST	2.48	GRINTESCU, ANATOLIE	1ST	2.48	HOHNE, HUBERT
4TH	1.46	ZAHAN, AUREL	2ND	4.20	KLUGE, JURGEN
	4.54	GRINTESCU, ANATOLIE	4TH	1.28	WITTIG, HEINZ
				4.13	WITTIG, HEINZ

WATER POLO \* \* \* WATER POLO

SEMI-FINAL LEAGUE A. B GROUP

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	ROSSI, DANTE	*	*	*	*	0	0	0
2	D ALTRUI, GIUSEPPE	*	*	*	*	0	0	0
3	PIZZO, ERALDO	*	*	*	*	0	0	1
4	LONZI, GIANNI	*	*	*	*	0	0	0
5	LAVORATORI, FRANCO	*	*	*	*	0	0	2
6	BARDI, DANIO			*		0	0	0
7	PARMEGIANI, ROSARIO		*			0	0	0
8	CEVASCO, MARIO	*	*		*	1	0	0
9	SPINOLA, ALBERTO			*		1	0	0
10	GUERRINI, GIANCARLO	*			*	0	0	0
11	MERELLO, EUGENIO					0	0	0
TOTAL						2	0	3

ITALY	2		
0	0	1	1
0	0	0	1
GERMANY	1		

REFEREE —DE KOK, H. G. NETHLAND  
 GOAL JUDGE —SAID, H. U. A. R.  
 —NATORI, M. JAPAN  
 TIME KEEPER —BRANDI, J. HUNGARY

1	SCHMIDT, PETER	*	*	*	*	0	0	0
2	SCHLENKRICH, KLAUS				*	1	0	0
3	KLUGE, JURGEN	*	*	*	*	0	0	0
4	BALLERSTEDT, SIEGFRIED	*	*	*	*	0	0	2
5	THIEL, JURGEN	*	*	*	*	0	0	0
6	HOHNE, HUBERT	*	*	*		0	0	0
7	THIELE, EDGAR		*	*		0	0	0
8	VOHS, DIETER	*	*	*	*	0	0	0
9	WITTIG, HEINZ	*				0	0	0
10	SCHULZE, KLAUS				*	0	0	0
11	MADER, HEINZ					0	0	0
TOTAL						1	0	2

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
3RD	3.44	SPINOLA, ALBERTO	4TH	1.51	SCHLENKRICH, KLAUS
4TH	2.32	CEVASCO, MARIO			

PLAYER ORDERED FROM WATER

1ST	2.42	LAVORATORI, FRANCO	1ST	2.42	THIEL, JURGEN
4TH	0.54	LAVORATORI, FRANCO	4TH	0.54	THIEL, JURGEN
	1.13	PIZZO, ERALDO			



WATER POLO \* \* \* WATER POLO

SEMI-FINAL LEAGUE A. B GROUP

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	GRABOVSKY, IGOR	*	*	*	*	0	0	0
2	KUZNETSOV, VLADIMIR	*		*	*	0	0	0
3	GRISHIN, BORIS		*	*	*	0	0	0
4	POPOV, BORIS	*	*			0	0	0
5	KALASHNIKOV, NIKOLAY	*	*			1	0	1
6	BORTKEVICH, ZENON	*		*	*	0	0	0
7	KUZNETSOV, NICOLAY	*				0	0	0
8	SEMIONOV, VLADIMIR		*	*	*	0	0	0
9	AGEEV, VICTOR		*	*	*	1	0	1
10	OSIPOV, LEONID	*	*	*	*	0	0	1
11	YEGOROV, EDUARD					0	0	0
TOTAL						2	0	3

U. S. S. R.

2			
0	1	1	0
0	1	0	1
2			

RUMANIA

REFEREE —MANGUILLOT, M.

GOAL JUDGE —DE KOK, H. G.

—KOTANI, Y.

TIME KEEPER —CHAN, KAM FUI

SPAIN

NETHLAND

JAPAN

HONGKONG

1	STEFANESCU, MIRCEA	*	*	*	*	0	0	0
2	GRINTESCU, ANATOLIE	*	*	*		0	0	0
3	ZAHAN, AUREL	*	*	*	*	2	0	2
4	SZABO, ALEXANDRU	*	*	*	*	0	0	1
5	KRONER, STEFAN	*	*	*		0	0	0
6	FIROIU, NICOLAE	*	*	*	*	0	0	0
7	NOVAC, GRUIA				*	0	0	0
8	MARCULESCU, CORNEL				*	0	0	0
9	KULINIAC, IOSIF	*	*	*	*	0	0	1
10	LITA, COSMA					0	0	0
11	MURESANU, EMIL					0	0	0
TOTAL						2	0	4

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
2ND	3.50	KALASHNIKOV, NIKOLAY	2ND	0.58	ZAHAN, AUREL
3RD	2.18	AGEEV, VICTOR	4TH	4.00	ZAHAN, AUREL

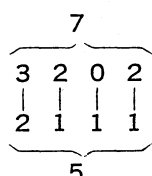
PLAYER ORDERED FROM WATER

1ST	4.25	KALASHNIKOV, NIKOLAY	2ND	2.18	ZAHAN, AUREL
2ND	4.59	OSIPOV, LEONID	4TH	4.59	SZABO, ALEXANDRU
3RD	1.43	AGEEV, VICTOR	3RD	2.05	ZAHAN, AUREL
			4TH	1.18	KULINIAC, IOSIF

WATER POLO \* \* \* WATER POLO  
SEMI-FINAL LEAGUE C. D GROUP

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	HERMSEN, HENDRIK, WILLEM	*	*			0	0	1
2	LEENARDS, ABRAHAM C. W.	*	*	*	*	1	0	1
3	VAN SPINGELEN, WILLEM	*	*	*	*	0	0	3
4	WORMGOOR, GERARDUS H.	*		*	*	0	0	1
5	VAN DORP, ALFRED CAREL	*	*	*	*	2	0	0
6	VRIEND, HENRI GERARD	*		*	*	1	0	1
7	VAN DER VOET, NICOLAAS M.		*	*	*	3	0	0
8	VRIEND, WILLEM JAN F.		*			0	0	0
9	MULLER, JOHAN ARNOLDUS	*				0	0	0
10	BULTMAN, JAN AREND		*			0	0	2
11	KNIEST, LAMBERTUS G.			*	*	0	0	0
TOTAL						7	0	9

NETHERLANDS



REFEREE	—FANGERO, W.	GERMANY
GOAL JUDGE	—SEMOV, E.	U. S. S. R.
	—NICOLAESCU, N.	RUMANIA
TIME KEEPER	—BATALLE, T.	SPAIN

BELGIUM

1	DE HESSELLE, BRUND	*	*	*	*	0	0	0
2	D OOSTERLINCK, FRANK	*	*	*	*	1	0	1
3	DE WILDE, ROGER	*	*	*	*	0	0	1
4	CAUFRIER, JACQUES	*	*	*	*	0	0	1
5	LAURENT, ANDRE	*		*		0	0	0
6	DE VIS, KAREL		*		*	1	0	0
7	DUMONT, JOSE	*	*	*	*	1	1	2
8	VAN DEN STEEN, JOHAN		*		*	0	0	0
9	PICKERS, LEON	*		*		2	0	1
10	STAPPERS, JOSEPH					0	0	0
TOTAL						5	1	6

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	0.39	LEENARDS, ABRAHAM C. W.	1ST	1.54	PICKERS, LEON
	1.34	VRIEND, HENRI GERARD		2.48	PICKERS, LEON
	4.29	VAN DORP, ALFRED CAREL		3.01	DE VIS, KAREL
2ND	0.36	VAN DER VOET, NICOLAAS M.	3RD	1.48	D OOSTERLINCK, FRANK
	4.13	VAN DER VOET, NICOLAAS M.	4TH	1.45	DUMONT, JOSE
4TH	0.48	VAN DER VOET, NICOLAAS M.	PLAYER ORDERED FROM WATER		
	2.29	VAN DORP, ALFRED CAREL	1ST	0.29	PICKERS, LEON
1ST	1.47	WORMGOOR, GERARDUS H.	1ST	4.55	DE WILDE, ROGER
	2.29	HERMSEN, HENDRIK WILLEM	2ND	1.04	CAUFRIER, JACQUES
2ND	0.53	BULTMAN, JAN AREND	2ND	4.37	DUMONT, JOSE
	4.37	VAN SPINGELEN, WILLEM	3RD	4.01	DUMONT, JOSE
3RD	4.09	BULTMAN, JAN AREND	3RD	4.36	D OOSTERLINCK, FRANK
	0.30	VRIEND, HENRI GERARD			
	4.01	VAN SPINGELEN, WILLEM			
	4.36	LEENARDS, ABRAHAM C. W.			

YOYOGI NATIONAL GYM.

OCT. 15, 1964

MATCH NO. 32

TIME 19.20

WEATHER—FINE

I. TEMP.—26.0 C

W. TEMP.—24.5 C

WATER POLO \* \* \* WATER POLO

SEMI-FINAL LEAGUE C. D GROUP

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	MUSKATIROVICE, MILAN	*	*			0	0	0
2	TRUMBIC, IVO	*	*	*	*	0	0	0
3	ROSIO, VINKO	*	*			1	0	0
4	SIMENC, ZLATKO	*	*	*	*	0	0	0
5	STANISIC, BOZIDAR	*	*		*	1	0	1
6	NARDELI, ANTE			*		0	0	0
7	JANKOVIC, ZORAN	*	*	*	*	0	0	0
8	SANDIC, MIRKO	*	*	*	*	2	1	4
9	NONKOVIC, FRANE					0	0	0
10	BONACIC, OZREN			*	*	0	0	0
11	TRUMBIC, IVO					0	0	0
TOTAL						4	1	5

YUGOSLAVIA

4			
3	0	1	0
0	3	0	1

HUNGARY

4			
---	--	--	--

REFEREE —DIRNWEBER, J.

AUSTRIA

GOAL JUGDE —BATALLE, T.

SPAIN

—PHILLIPS, C. B.

AUSTRAL.

TIME KEEPER —SEGURA, M. J.

ARGENTIN

1	BOROS, OTTO	*	*	*	*	0	0	0
2	MAYER, MIHALY	*	*	*	*	0	0	1
3	FELKAI, LASZLO	*	*	*	*	1	0	1
4	DOMOTOR, ZOLTAN	*	*	*	*	0	0	2
5	KONRAD II., JANOS	*	*	*	*	0	0	1
6	GYARMATI, DEZSO	*	*			0	0	1
7	KARPATI, GYORGY	*	*		*	2	1	1
8	RUSORAN, PETER			*	*	1	1	0
9	BODNAR, ANDRAS			*		0	0	0
10	KANIZSA, TIVADAR					0	0	0
11	POCSIK, DENES					0	0	0
TOTAL						4	2	7

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	1.29	SANDIC, MIRKO	2ND	1.09	FELKAI, LASZLO
	3.38	ROSIO, VINKO		3.03	KARPATI, GYORGY
	4.41	STANISIC, BOZIDAR		4.19	KARPATI, GYORGY
3RD	2.35	SANDIC, MIRKO	4TH	4.35	RUSORAN, PETER

PLAYER ORDERED FROM WATER

1ST	3.57	SANDIC, MIRKO	1ST	3.57	GYARMATI, DEZSO
2ND	0.51	SANDIC, MIRKO	2ND	4.13	DOMOTOR, ZOLTAN
	1.41	SANDIC, MIRKO	3RD	1.14	MAYER, MIHALY
2.44	ROSIO, VINKO	3.58		KONRAD, II., JANOS	
3RD	3.58	SANDIC, MIRKO	4TH	3.09	DOMOTOR, ZOLTAN
4TH	4.13	TRUMBIC, IVO	4.13	KARPATI, GYORGY	

TOKYO METRO. INDOOR SWIMMING POOL

OCT. 17, 1964

MATCH NO. 33

TIME 13.00

WEATHER—FINE I. TEMP.—24.0 C W. TEMP.—24.5 C

WATER POLO \* \* \* WATER POLO  
FINAL LEAGUE FOR 1-4 PLACES

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	ROSSI, DANTE	*	*	*	*	0	0	0
2	D ALTRUI, GIUSEPPE	*	*	*	*	0	0	0
3	PIZZO, ERALDO	*	*	*	*	0	0	1
4	LONZI, GIANNI	*	*	*	*	0	0	1
5	LAVORATORI, FRANCO		*	*		0	0	0
6	BARDI, DANIO	*			*	0	0	0
7	PARMEGIANI, ROSARIO	*		*		0	0	1
8	CEVASCO, MARIO	*	*		*	1	0	0
9	SPINOLA, ALBERTO		*	*		0	0	0
10	GUERRINI, GIANCARLO				*	0	0	0
11	MERELLO, EUGENIO					0	0	0
TOTAL						1	0	3

ITALY	1
0	1
0	0
0	0
HUNGARY	3

REFEREE —MANGUILLOT, M. SPAIN  
GOAL JUDGE —KOTANI, Y. JAPAN  
—DE KOK, H. G. NETHLAND  
TIME KEEPER —ANGERHAUSEN, CH. BELGIUM

1	AMBRUS, MIKLOS	*	*	*	*	0	0	0
2	FELKAI, LASZLO	*	*	*	*	0	0	0
3	KONRAD II., JANOS	*	*	*	*	0	0	0
4	DOMOTOR, ZOLTAN	*	*	*	*	1	0	2
5	KANIZSA, TIVADAR	*	*			0	1	0
6	RUSORAN, PETER	*	*	*	*	1	1	0
7	KARPATI, GYORGY	*	*	*	*	0	0	1
8	MAYER, MIHALY					0	0	0
9	GYARMATI, DEZSO					0	0	0
10	BODNAR, ANDRAS			*	*	1	0	0
11	POCSIK, DENES					0	0	0
TOTAL						3	2	3

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
2ND	1.12	CEVASCO, MARIO	3RD	0.59	BODNAR, ANDRAS
				3.43	RUSORAN, PETER
			4TH	2.52	DOMOTOR, ZOLTAN
PLAYER ORDERED FROM WATER					
2ND	4.28	LONZI, GIANNI	2ND	0.44	DOMOTOR, ZOLTAN
				2.24	KARPATI, GYORGY
			4TH	3.49	DOMOTOR, ZOLTAN

WATER POLO \* \* \* WATER POLO

FINAL LEAGUE FOR 5—8 PLACES

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	STEFANESCU, MIRCEA	*	*	*		0	0	0
2	GRINTESCU, ANATOLIE	*	*	*	*	1	0	0
3	ZAHAN, AUREL					0	0	0
4	SZABO, ALEXANDRU	*	*	*	*	1	0	2
5	KRONER, STEFAN	*	*	*	*	0	0	0
6	FIROIU, NICOLAE	*	*	*		1	0	0
7	NOVAC, GRUIA				*	0	0	0
8	MARCULESCU, CORNEL	*	*	*	*	3	0	0
9	KULINIAC, IOSIF	*	*	*	*	0	0	0
10	LITA, COSMA					0	0	0
11	MURESANU, EMIL				*	0	0	0
TOTAL						6	0	2

RUMANIA

6			
2	1	1	2
0	1	0	0

NETHERLANDS

1

REFEREE

—BAUWENS, J.

BELGIUM

GOAL JUDGE

—MANGUILLOT, M.

SPAIN

—MATSUMOTO, S.

JAPAN

TIME KEEPER

—BATALLE, T.

SPAIN

1	HERMSEN, HENDRICK WILLEM	*	*			0	0	0
2	LEENARDS, ABRAHAM C. W.	*	*	*	*	0	0	0
3	VAN SPINGELEN, WILLEM	*	*	*	*	0	0	0
4	WORMGOOR, GERARDUS H.	*	*	*	*	0	0	0
5	VAN DORP, ALFRED CAREL	*	*	*	*	0	0	0
6	VRIEND, HENRI GERARD	*				0	0	0
7	VAN DER VOET, NICOLAAS M.	*	*		*	0	0	0
8	VRIEND, WILLEM JAN F.		*	*		1	0	0
9	MULLER, JOHAN ARNOLDUS			*	*	0	0	1
10	BULTMAN, JAN AREND					0	0	0
11	KNIEST, LAMBERTUS G.			*	*	0	0	0
TOTAL						1	0	1

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
1ST	3.08	GRINTESCU, ANATOLIE	2ND	4.10	VRIEND, WILLEM JAN F.
	4.55	SZABO, ALEXANDRU			
2ND	1.42	FIROIU, NICOLAE			
3RD	3.28	MARCULESCU, CORNEL			
4TH	3.01	MARCULESCU, CORNEL			
	4.57	MARCULESCU, CORNEL			

PLAYER ORDERED FROM WATER

1ST	1.40	SZABO, ALEXANDRU	3RD	4.29	MULLER, JOHAN ARNOLDUS
3RD	4.12	SZABO, ALEXANDRU			

WATER POLO \* \* \* WATER POLO

FINAL LEAGUE FOR 5-8 PLACES

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	MADER, HEINZ	*	*	*	*	0	0	0
2	THIEL, JURGEN	*	*	*	*	3	0	0
3	HOHNE, HUBERT	*	*	*		0	0	1
4	BALLERSTEDT, SIEGFRIED	*	*		*	0	0	1
5	THIELE, EDGAR	*	*			0	0	1
6	KLUGE, JURGEN	*	*	*	*	0	0	1
7	VOHS, DIETER	*	*	*	*	2	0	1
8	SCHULZE, KLAUS			*	*	0	0	1
9	SCHLENKRICH, KLAUS			*	*	0	0	2
10	SCHMIDT, PETER					0	0	0
TOTAL						5	0	8

GERMANY

5			
0	1	1	3
1	1	1	0
3			

BELGIUM

REFEREE —BRANDI, J.  
GOAL JUDGE —NICOLAESCU, N.  
—DRAGAN  
TIME KEEPER —SAID, H.

HUNGARY  
RUMANIA  
RUMANIA  
U. A. R.

1	DE HESSELLE, BRUND	*	*	*	*	0	0	0
2	D OOSTERLINCK, FRANK	*	*	*	*	0	0	1
3	DE WILDE, ROGER	*	*	*	*	2	1	0
4	CAUFRIER, JACQUES	*	*	*	*	0	0	1
5	LAURENT, ANDRE	*	*		*	0	0	2
6	DE VIS, KAREL			*		0	0	0
7	DUMONT, JOSE	*	*		*	1	0	0
8	VAN DEN STEEN, JOHAN		*	*		0	0	0
9	PICKERS, LEON	*				0	0	0
10	STAPPERS, JOSEPH			*	*	0	0	1
TOTAL						3	1	5

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
2ND	1.50	THIEL, JURGEN	1ST	3.38	DE WILDE, ROGER
3RD	1.38	THIEL, JURGEN	2ND	2.21	DUMONT, JOSE
4TH	0.34	THIEL, JURGEN	3RD	3.28	DE WILDE, ROGER
	2.10	VOHS, DIETER			
	4.53	VOHS, DIETER			

PLAYER ORDERED FROM WATER

1ST	4.38	KLUGE, JURGEN	1ST	4.03	D OOSTERLINCK, FRANK
2ND	1.48	VOHS, DIETER	2ND	2.03	LAURENT, ANDRE
	2.03	HOHNE, HUBERT	3RD	0.46	CAUFRIER, JACQUES
3RD	0.46	SCHULZE, KLAUS		4.58	STAPPERS, JOSEPH
	1.53	SCHLENKRICH, KLAUS	4TH	4.35	LAURENT, ANDRE
4TH	2.25	SCHLENKRICH, KLAUS			
	4.35	BALLERSTEDT, SIEGFRIED			

YOYOGI NATIONAL GYM.

NO. 23—28

MATCH NO. 36

OCT. 17, 1964

TIME 19.30

WEATHER—FINE I. TEMP.—26.5 C W. TEMP.—24.5 C

WATER POLO \* \* \* WATER POLO  
FINAL LEAGUE FOR 1—4 PLACES

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	MUSKATIROVIC, MILAN	*	*	*	*	0	0	0
2	TRUMBIC, IVO	*	*	*	*	0	0	0
3	ROSIO, VINKO	*			*	0	0	0
4	SIMENC, ZLATKO	*				0	0	0
5	STANISIC, BOZIDAR		*	*	*	0	0	1
6	NARDELI, ANTE	*	*			0	0	0
7	JANKOVIC, ZORAN	*		*		2	1	0
8	SANDIC, MIRKO	*	*	*	*	0	0	1
9	NONKOVIC, FRANE					0	0	0
10	BONACIC, OZREN			*	*	0	0	2
11	STIPANIC, KARLO					0	0	0
TOTAL						2	1	4

YUGOSLAVIA

2			
0	0	2	0
0	0	0	0

U. S. S. R.

0			
---	--	--	--

REFEREE —FUCHS, A.  
GOAL JUDGE —BATALLE, T.  
—NATORI, M.  
TIME KEEPER —PHILLIPS, C. B.

BELGIUN  
SPAIN  
JAPAN  
AUSTRAL.

1	GRABOVSKY, IGOR	*	*	*	*	0	0	0
2	KUZNETSOV, VLADIMIR	*		*	*	0	0	0
3	GRISHIN, BORIS		*	*	*	0	0	0
4	POPOV, BORIS	*	*			0	0	0
5	KALASHNIKOV, NICOLAY	*	*		*	0	0	0
6	BORTKEVICH, ZENON	*				0	0	0
7	KUZNETSOV, NICOLAY	*		*	*	0	0	0
8	SEMIONOV, VLADIMIR		*	*	*	0	0	1
9	AGEEV, VICTOR		*	*		0	0	1
10	OSIPOV, LEONID	*	*	*	*	0	0	1
11	YEGOROV, EDUARD					0	0	0
TOTAL						0	0	3

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
3RD	1.59	JANKOVIC, ZORAN			(NONE)
	4.35	JANKOVIC, ZORAN			

PLAYER ORDERED FROM WATER

1ST	0.33	SANDIC, MIRKO	1ST	0.33	OSIPOV, LEONID
2ND	2.27	STANISIC, BOZIDAR	2ND	2.27	AGEEV, VICTOR
3RD	4.22	BONACIC, OZREN	3RD	4.22	SEMIONOV, VLADIMIR
4TH	2.40	BONACIC, OZREN			

WATER POLO \* \* \* WATER POLO  
FINAL LEAGUE FOR 1—4 PLACES

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	ROSSI, DANTE	*	*	*	*	0	0	0
2	D ALTRUI, GIUSEPPE	*	*	*	*	0	0	0
3	PIZZO, ERALDO	*	*	*	*	0	0	0
4	LONZI, GIANNI	*	*	*	*	0	0	1
5	LAVORATORI, FRANCO	*	*	*		0	0	0
6	BARDI, DANIO					0	0	0
7	PARMEGIANI, ROSARIO	*	*	*	*	0	0	1
8	CEVASCO, MARIO	*	*	*	*	0	0	0
9	SPINOLA, ALBERTO				*	1	0	0
10	GUERRINI, GIANCARLO					0	0	0
11	MERELLO, EUGENIO					0	0	0
TOTAL						1	0	0

ITALY	1		
0	0	0	1
1	1	0	0
YUGOSLAVIA	2		

REFEREE —DIRNWEBER, J. AUSTRIA  
GOAL JUDGE —SAID, H. U. A. R.  
—MANGUILLOT, M. SPAIN  
TIME KEEPER —DE KOK, H. G. NETHLAND

1	MUSKATIROVIC, MILAN	*	*	*	*	0	0	0
2	TRUMBIC, IVO	*	*	*	*	0	0	1
3	ROSIO, VINKO	*	*			0	0	0
4	SIMENC, ZLATKO	*	*	*		0	0	0
5	STANISIC, BOZIDAR	*				0	0	0
6	NARDERI, ANTE				*	0	0	0
7	JANKOVIC, ZORAN	*	*	*	*	1	0	1
8	SANDIC, MIRKO	*	*	*	*	1	0	1
9	NONKOVIC, FRANE					0	0	0
10	BONACIC, OZREN					0	0	0
11	STIPANIC, KARLO					0	0	0
TOTAL						2	0	3

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
4TH	4.52	SPINOLA, ALBERTO	1ST	2.52	JANKOVIC, ZORAN
			2ND	2.25	SANDIC, MIRKO
PLAYER ORDERED FROM WATER					
2ND	2.04	LONZI, GIANNI	2ND	4.48	JANKOVIC, ZORAN
	4.48	PARMEGIANI, ROSARIO	4TH	2.12	TRUMBIC, IVO
				4.58	SANDIC, MIRKO



WATER POLO \* \* \* WATER POLO

FINAL LEAGUE FOR 5-8 PLACES

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	STEFANESCU, MIRCEA	*	*	*	*	0	0	0
2	GRINTESCU, ANATOLIE	*	*	*	*	1	0	0
3	ZAHN, AUREL					0	0	0
4	SZABO, ALEXANDRU	*	*	*	*	0	0	4
5	KRONER, STEFAN	*	*	*		0	1	0
6	FIROIU, NICOLAE	*	*	*	*	1	0	1
7	NOVAC, GRUIA				*	0	0	0
8	MARCULESCU, CORNEL	*	*	*	*	1	0	0
9	KULINIAC, IOSIF	*	*	*	*	0	0	1
10	LITA, COSMA					0	0	0
11	MURESANU, EMIL					0	0	0
TOTAL						3	1	6

RUMANIA

3			
0	1	0	2
1	1	1	2

BELGIUM

5

REFEREE -SEGURA, M. J.

ARGENTIN

GOAL JUDGE -CHAN, KAM FUI

HONGKONG

-FANGERO, W.

GERMANY

TIME KEEPER -NATORI, M.

JAPAN

1	DE HESSELLE, BRUND	*	*	*	*	0	0	0
2	D OOSTERLINCK, FRANK	*	*	*	*	0	0	0
3	DE WILDE, ROGER	*	*	*	*	0	0	0
4	CAUFRIER, JACQUES	*	*	*	*	0	0	3
5	LAURENT, ANDRE	*		*		1	0	0
6	DE VIS, KAREL		*			1	0	1
7	DUMONT, JOSE	*	*		*	2	1	1
8	VAN DEN STEEN, JOHAN		*	*	*	0	0	2
9	PICKERS, LEON	*		*	*	1	0	0
10	STAPPERS, JOSEPH					0	0	0
TOTAL						5	1	7

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
2ND	3.56	MARCULESCU, CORNEL	1ST	0.32	DUMONT, JOSE
4TH	0.50	GRINTESCU, ANATOLIE	2ND	2.33	DE VIS, KAREL
	2.08	FIROIU, NICOLAE	3RD	0.56	LAURENT, ANDRE
			4TH	1.26	PICKERS, LEON
				2.35	DUMONT, JOSE

PLAYER ORDERED FROM WATER

1ST	2.12	KULINIAC, IOSIF	1ST	0.58	CAUFRIER, JACQUES
	2.43	SZABO, ALEXANDRU	2ND	3.41	DUMONT, JOSE
2ND	3.47	FIROIU, NICOLAE		3.49	DE VIS, KAREL
	4.35	SZABO, ALEXANDRU	3RD	2.25	CAUFRIER, JACQUES
3RD	3.31	SZABO, ALEXANDRU		2.25	DUMONT, JOSE
			4TH	1.56	VAN DEN STEEN, JOHAN

TOKYO METRO. INDOOR SWIMMING POOL

OCT. 18, 1964

MATCH NO. 39

TIME 14.40

WEATHER—RAINY

I. TEMP.—22.0 C

W. TEMP.—24.4 C

## WATER POLO \* \* \* WATER POLO

## FINAL LEAGUE FOR 5-8 PLACES

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P.T.	M.F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	SCHMIDT, PETER	*	*	*	*	0	0	0
2	HOHNE, HUBERT	*	*	*	*	0	0	0
3	BALLERSTEDT, SIEGFRIED	*	*	*	*	0	0	0
4	THIELE, EDGAR	*	*	*	*	0	0	1
5	SCHULZE, KLAUS	*	*	*	*	1	0	0
6	THIEL, JURGEN	*	*	*	*	0	0	0
7	SCHLENKRICH, KLAUS	*	*	*	*	1	0	0
8	VOHS, DIETER	*	*	*	*	3	0	0
9	KLUGE, JURGEN	*	*	*	*	0	0	2
11	MADER, HEINZ	*	*	*	*	0	0	0
TOTAL						5	0	3

GERMANY

5

0	2	0	3
1	0	1	2

NETHERLANDS

4

REFEREE —PROSTIAKOV, N.

U. S. S. R.

GOAL JUDGE —SEGURA, M. J.

ARGENTIN

—KIM, YOUNG-HO

KOREA

TIME KEEPER —EL DIN, Y. E.

U. A. R.

1	HERMSEN, HENDRIK, WILLEM	*	*	*	*	0	0	0
2	LEENARDS, ABRAHAM C. W.	*	*	*	*	1	0	1
3	VAN SPINGELEN, WILLEM	*	*	*	*	0	0	0
4	WORMGOOR, GERARDUS H.	*	*	*	*	0	0	0
5	VAN DORP, ALFRED CAREL	*	*	*	*	0	0	0
6	VRIEND, HENRI GERARD	*	*	*	*	0	0	0
7	VAN DER VOET, NICOLAAS M.	*	*	*	*	2	0	1
8	VRIEND, WILLEM JAN F.	*	*	*	*	1	0	2
9	MULLER, JOHAN ARNOLDUS	*	*	*	*	0	0	0
10	BULTMAN, JAN AREND	*	*	*	*	0	0	0
11	KNIEST, LAMBERTUS G.	*	*	*	*	0	0	0
TOTAL						4	0	4

## GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
2ND	0.30	SCHLENKRICH, KLAUS	1ST	2.26	VRIEND, WILLEM JAN F.
	4.18	VOHS, DIETER	3RD	2.05	VAN DER VOET, NICOLAAS M.
4TH	1.00	VOHS, DIETER	4TH	1.30	LEENARDS, ABRAHAM C. W.
	1.44	SCHULZE, KLAUS		4.23	VAN DER VOET, NICOLAAS M.
	2.42	VOHS, DIETER			

## PLAYER ORDERED FROM WATER

1ST	1.21	KLUGE, JURGEN	1ST	1.21	LEENARDS, ABRAHAM C. W.
3RD	1.40	KLUGE, JURGEN		3.38	VRIEND, WILLEM JAN F.
4TH	3.08	THIELE, EDGAR	3RD	3.58	VRIEND, WILLEM JAN F.
			4TH	2.11	VAN DER VOET, NICOLAAS M.

YOYOGI NATIONAL GYM.

OCT. 18, 1964

MATCH NO. 40

TIME 16.00

WEATHER—RAINY

I. TEMP.—24.0 C

W. TEMP.—24.5 C

WATER POLO \* \* \* WATER POLO

FINAL LEAGUE FOR 1—4 PLACES

CAP NO.	NAME	PERIOD				GOALS	P. T.	M. F.
		(1)	(2)	(3)	(4)			
1	GRABOVSKY, IGOR	*	*	*	*	0	0	0
2	KUZNETSOV, VLADIMIR	*	*		*	0	0	0
3	GRISHIN, BORIS		*	*	*	0	0	0
4	POPOV, BORIS	*	*	*	*	0	0	2
5	KALASHNIKOV, NIKOLAY	*	*	*		1	0	2
6	BORTKEVICH, ZENON	*		*		0	0	0
7	KUZNETSOV, NICOLAY	*		*	*	0	0	1
8	SEMIONOV, VLADIMIR					0	0	0
9	AGEEV, VICTOR		*	*	*	1	0	1
10	OSIPOV, LEONID	*	*		*	0	0	1
11	YEGOROV, EDUARD					0	0	0
TOTAL						2	0	7

U. S. S. R.

2			
0	2	0	0
1	0	1	3

HUNGARY

5

REFEREE —BATALLE, T.

GOAL JUDGE —ANGERHAUSEN, CH.

—BAUWENS, J.

TIME KEEPER —FUCHS, A.

SPAIN

BELGIUM

BELGIUM

BELGIUM

1	AMBRUS, MIKLOS	*	*	*	*	0	0	0
2	FELKAI, LASZLO	*	*	*	*	2	0	0
3	KONRAD II., JANOS	*	*	*	*	0	0	1
4	DOMOTOR, ZOLTAN	*	*	*	*	2	1	1
5	KANIZSA, TIVADAR	*	*		*	0	0	1
6	RUSORAN, PETER	*	*	*	*	1	1	0
7	KARPATI, GYORGY	*	*	*		0	0	1
8	GYARMATI, DEZSO					0	0	0
9	POCSIK, DENES					0	0	0
10	MAYER, MIHALY					0	0	0
11	BODNAR, ANDRAS			*	*	0	0	0
TOTAL						5	2	4

GOAL GETTERS

PERIOD	TIME	NAME	PERIOD	TIME	NAME
2ND	2.54	AGEEV, VICTOR	1ST	2.18	RUSORAN, PETER
	3.47	KALASHNIKOV, NIKOLAY	3RD	2.38	FELKAI, LASZLO
			4TH	1.05	FELKAI, LASZLO
				3.06	DOMOTOR, ZOLTAN
				3.33	DOMOTOR, ZOLTAN

PLAYER ORDERED FROM WATER

3RD	2.19	KALASHNIKOV, NIKOLAY	1ST	3.42	DOMOTOR, ZOLTAN
	4.50	POPOV, BORIS	2ND	3.36	KARPATI, GYORGY
4TH	2.42	OSIPOV, LEONID	4TH	2.42	KONRAD II., JANOS
	3.12	POPOV, BORIS		3.49	KANIZSA, TIVADAR
	3.49	KUZNETSOV, NICOLAY			

WATER POLO \* \* \* WATER POLO

SEMI-FINAL AND FINAL LEAGUE

SEMI-FINAL A, B GROUP	ITALY	RUMANIA	U. S. S. R.	GERMANY	GAMES	WON	TIED	LOST	DISQ	GOALS	OPPOSITE GOALS	MATCH POINTS	PLACE
ITALY	*	(4 — 3)	0 — 2	2 — 1	3	2	0	1	0	6	6	4	2
RUMANIA	(3 — 4)	*	2 — 2	5 — 4	3	1	1	1	0	10	10	3	3
U. S. S. R.	2 — 0	2 — 2	*	(3 — 2)	3	2	1	0	0	7	4	5	1
GERMANY	1 — 2	4 — 5	(2 — 3)	*	3	0	0	3	0	7	10	0	4

SEMI-FINAL C, D GROUP	YUGOSLAV	NETHLAND	HUNGARY	BELGIUM	GAMES	WON	TIED	LOST	DISQ	GOALS	OPPOSITE GOALS	MATCH POINTS	PLACE
YUGOSLAV	*	(7 — 2)	4 — 4	6 — 2	3	2	1	0	0	17	8	5	1
NETHLAND	(2 — 7)	*	5 — 6	7 — 5	3	1	0	2	0	14	18	2	3
HUNGARY	4 — 4	6 — 5	*	(5 — 0)	3	2	1	0	0	15	9	5	2
BELGIUM	2 — 6	5 — 7	(0 — 5)	*	3	0	0	3	0	7	18	0	4

1—4 PLACES GROUP	U. S. S. R.	ITALY	YUGOSLAV	HUNGARY	GAMES	WON	TIED	LOST	DISQ	GOALS	OPPOSITE GOALS	MATCH POINTS	PLACE
U. S. S. R.	*	(2 — 0)	0 — 2	2 — 5	3	1	0	2	0	4	7	2	3
ITALY	(0 — 2)	*	1 — 2	1 — 3	3	0	0	3	0	2	7	0	4
YUGOSLAV	2 — 0	2 — 1	*	(4 — 4)	3	2	1	0	0	8	5	5	2
HUNGARY	5 — 2	3 — 1	(4 — 4)	*	3	2	1	0	0	12	7	5	1

5—8 PLACES GROUP	RUMANIA	GERMANY	NETHLAND	BELGIUM	GAMES	WON	TIED	LOST	DISQ	GOALS	OPPOSITE GOALS	MATCH POINTS	PLACE
RUMANIA	*	(5 — 4)	6 — 1	3 — 5	3	2	0	1	0	14	10	4	5
GERMANY	(4 — 5)	*	5 — 4	5 — 3	3	2	0	1	0	14	12	4	6
NETHLAND	1 — 6	4 — 5	*	(7 — 5)	3	1	0	2	0	12	16	2	8
BELGIUM	5 — 3	3 — 5	(5 — 7)	*	3	1	0	2	0	13	15	2	7

OLYMPIC SWIMMERS' AGE

M E N

NATION	ENTRIES	AGE															AVERAGE	
		14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	32		48
U. S. A.	27			1	2	3	6	3	8	3	1							-19.8
AUSTRAL	19			2	3	2	4	3	2	2	1							19.2
GERMANY	24			2		2	1	2	4	5		5		2	1			21.7
U. S. S. R.	13				1	4	1	1	2	1	2			1				20.3
JAPAN	25			1	2	1	2	2	4	3	4	4	2					21.6
BRITAIN	9			1	1		3	1	1			2						19.9
HUNGARY	11				1	2		1	2	3	1			1				20.9
FRANCE	8				1		1	1	1	2	1			1				21.3
ITALY	11				1	1	3	1	1	3			1					20.4
SWEDEN	10				1		1	1	3	2	1	1						21.0
NETHLAND	11					2	1	1	1	3		2		1				21.5
MEXICO	6		1	1		3			1									17.7
SPAIN	9					6	1	1				1						19.0
FINLAND	5			1			1	1	2									19.4
ARGENTIN	6					1		1	3	1								20.5
CANADA	4			2		2												17.0
PERU	5				1		2	1	1									19.2
THAILAND	4							1			1		1				1	29.0
MALAYSIA	4			1	1	1	1											17.5
BRAZIL	4								1	1	2							22.3
AUSTRIA	4							2			1	1						21.8
CZECHSLV	3								1	1	1							22.0
P. RICO	3			1	1												1	21.7
VIET-NAM	3		1									1	1					21.3
PORTUGAL	3					2			1									19.0
BELGUIUM	2				1			1										18.5
SWITZ	2				1						1							20.0
YUGOSLAV	2				1						1							20.0
HONGKONG	2				1	1												17.5
N. RHODES	2		1	1														15.5
PHILPINS	2		1				1											17.0
ISRAEL	2							1	1									20.5
KOREA	2					1					1							20.0
NZEALAND	1						1											19.0
DENMARK	1							1										20.0
LUXEMBRG	1							1										20.0
VENEZULA	1						1											19.0
IRAN	1					1												18.0
BURMA	1								1									22.0
COLUMBIA	1	1																14.0
ICELAND	1										1							23.0
TOTAL	255	1	4	14	20	35	31	28	40	32	19	17	5	6	1	1	1	20.4

OLYMPIC SWIMMERS' AGE

W O M E N

NATION	ENTRIES	AGE																AVERAGE
		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	25	26	27		
U S. A.	22			3	4	5	4	6									16.3	
AUSTRAL	14			1		3	6	2	1							1	17.6	
NETHLAND	15						3	2	2	5	2	1					19.3	
BRITAIN	16				1	1	5	2	4	1		1	1				18.3	
JAPAN	14					2	4	2	3	2		1					18.2	
GERMANY	20				1	1	1	3	5	1	2	1	2	1	1	1	20.3	
U. S. S. R.	8					3	3		1	1							17.3	
SWEDEN	7			2	1	2		2									15.9	
HUNGARY	8					1		1	1		4	1					19.9	
CANADA	8		1		2	1	1	3									16.3	
FRANCE	3					1	1		1								17.3	
ITALY	6				2			1	2		1						17.8	
AUSTRIA	3					1	1			1							17.7	
SPAIN	3					1		1	1								17.7	
MALAYSIA	3	1		1		1											14.0	
DENMARK	2									1	1						20.5	
N. RHODES	2					2											16.0	
P. RICO	2				1	1											15.5	
KOREA	2					1		1									17.0	
MEXICO	2								1		1						20.0	
FINLAND	1							1									18.0	
ARGENTIN	1							1									18.0	
VENEZULA	1										1						21.0	
PERU	1				1												15.0	
NZEALAND	1								1								19.0	
HONGKONG	1					1											16.0	
ICELAND	1										1						21.0	
TOTAL	167	1	1	7	13	28	29	28	23	12	13	5	3	1	1	2	17.9	



はげしい動きも思いのまま!


- 立体的なカット
- すぐれた伸縮性
- 軽く、しかも乾きが早い
- いつまでも色あせしない  
美しい色調
- 丈夫さも抜群
- 泳ぎやすく、記録が伸びる
- サイズも豊富

総発売元

株式会社 **ゴールド ウィン**



トホウ  
**ベスロン**<sup>®</sup>  
テイジン  
**ナイロン**

 日本水泳連盟公認  
東邦レーヨン・テイジン

**A.G.**  
**エイジグループ**  
**水着**



学校教材用 <パイレン100%>



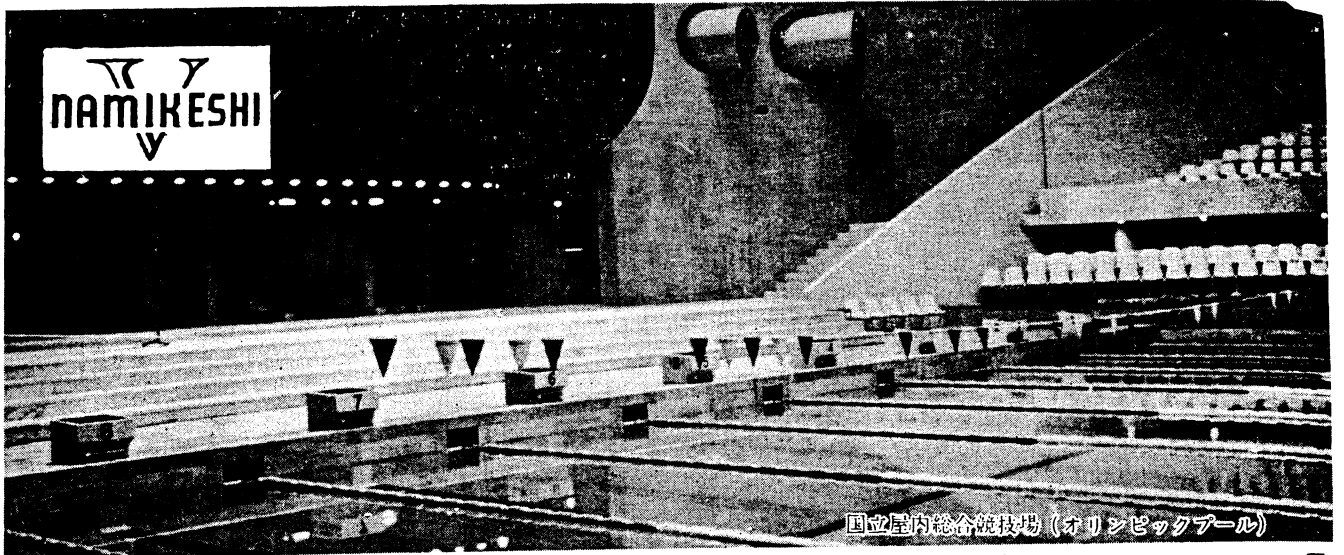
**美津濃**

**メルマン**

**水着** 日本水泳連盟公認  
各水泳団体ご推せん

東レナイロン 100% (男) アイゲンニット  
東レパイレン 100% (男女) ジャージ  
全国有名スポーツ品店 ・ 各デパートで販売

NAMIKESHI



国立屋内総合競技場(オリンピックプール)

オリンピック東京大会で使用、好評のコースロープ!

# NAMIKESHI VUOY

## WAVELESS FLOAT

■特許出願中

■意匠登録済

### ■CHARACTERISTICS

- 1 Breaking teh waves (波を消す)
- 2 Easiness of operation (取扱が容易)
- 3 A rigid structure (こわれない)
- 4 Stesdiness of color (変色しない)
- 5 Low price (値段が安い)

### ■ターンバックルカバー

、新製品ターンバックルカバー(合成樹脂製)を発売致しました。危険防止のためぜひご使用下さい。

### ■主な納品先

国立屋内総合競技場  
(オリンピックプール)

国立競技場室内プール  
東京体育館屋内水泳場  
神宮プール

東京大学室内プール  
大阪市営扇町プール  
埼玉県川口市営プール

宮城県仙台市営プール  
愛知県豊橋市営プール

広島県営室内プール

岐阜市営プール

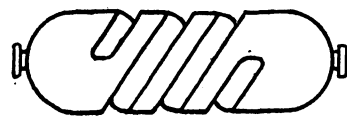
富山市民プール

山梨県総合運動場プール

愛知県立体育館プール

名古屋スポーツガーデン

競技会用 80<sup>m</sup>φ×250<sup>m</sup>



普及用 60<sup>m</sup>φ×200<sup>m</sup>



群馬県前橋市営プール  
高知市営プール

豊橋スポーツセンター

神奈川県総合運動場プール

各大学プール

各高等学校・中学校プール

フランス I.N.S.

東南アジア諸国

## TOKYO SANSHO CO., LTD.

No. 7, 4, 6-Chome, Sotokanda, Chiyoda-ku, TOKYO Tel. TOKYO (831)1847.0929

総 発 売 元

## 東京産商株式会社

東京都千代田区外神田6丁目4番地7号 電話 (831) 1847 0929

\*カタログご希望の方、又はご注文は直接総発売元へお申込み下さい。